

## 基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ヤマグチダイガク 国立大学法人 山口大学									
フリガナ大学の名称	ヤマグチダイガクダイガクイン 山口大学大学院 (Graduate Schools of Yamaguchi University)									
大学本部の位置	山口県山口市吉田1677番地1									
大学の目的	本大学院は、學術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。（山口大学大学院学則第2条 抜粋）									
新設研究科等の目的	人間性に対する深い洞察力と現代社会に対する的確な分析力を兼ね備えた人間社会科学の研究を基礎として、地域社会や個人が直面する課題に積極的に取り組み、持続可能な共生社会の実現に寄与する力を身に付けた研究者及び専門性を必要とする業務に従事する人材を養成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 人文学部 教育学部 経済学部 国際総合科学部  14条特例の実施
	人間社会科学研究科 [Graduate School of Humanities and Economic Sciences]									
	人文学専攻 [Division of Humanities]	2	7	—	14	修士(文学) [Master of Arts]	文学関係	令和7年4月 第1年次	山口県山口市 吉田1677番地1	
	臨床心理学専攻 [Division of Clinical Psychology]	2	6	—	12	修士(心理学) [Master of Psychology]	文学関係	令和7年4月 第1年次	山口県山口市 吉田1677番地1	
	経済学・経営学専攻 [Division of Economics and Management]	2	22	—	44	修士(経済学) [Master of Economics]	経済学関係	令和7年4月 第1年次	山口県山口市 吉田1677番地1	
共創科学専攻 [Division of Co-creation Sciences]	2	6	—	12	修士(学術) [Master of Arts]	文学関係、 理学関係	令和7年4月 第1年次	山口県山口市 吉田1677番地1		
計		41	—	82						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	ひと・まち未来共創学環 [学部等連係課程実施基本組織の設置] 【40】 (令和6年9月届出予定)  国際総合科学部 国際総合科学科 [定員増] (25) (令和7年4月)  教育学部 学校教育教員養成課程「定員減」 (△25) (令和7年4月)  人文学研究科 人文学専攻 [廃止] (△8) (令和7年4月学生募集停止) 教育学研究科 学校臨床心理学専攻 [廃止] (△7) (令和7年4月学生募集停止) 経済学研究科 経済学専攻 [廃止] (△16) (令和7年4月学生募集停止) 企業経営専攻 [廃止] (△10) (令和7年4月学生募集停止)									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	人間社会科学研究科 人文学専攻	44科目	89科目	0科目	133科目	30単位				
	人間社会科学研究科 臨床心理学専攻	23科目	4科目	4科目	31科目	30単位				
	人間社会科学研究科 経済学・経営学専攻	127科目	36科目	0科目	163科目	30単位				
人間社会科学研究科 共創科学専攻	44科目	9科目	0科目	53科目	30単位					

研究科等の名称	専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
	教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	人間社会科学研究科 人文科学専攻	18人 (18)	15人 (15)	5人 (5)	0人 (0)	38人 (38)	0人 (0)	10人 (10)
	臨床心理学専攻	2 (2)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)
	経済学・経営学専攻	24 (24)	20 (20)	5 (5)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	24 (24)
	共創科学専攻	18 (18)	11 (11)	11 (11)	1 (1)	41 (41)	0 (0)	6 (6)
	計	62 (62)	49 (49)	23 (23)	1 (1)	135 (135)	0 (0)	- (-)
既設分	教育学研究科 教職実践高度化専攻	21 (21)	13 (13)	3 (3)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	3 (3)
	医学系研究科 (一貫制博士課程) 医学専攻	38 (38)	22 (22)	26 (26)	49 (49)	135 (135)	0 (0)	86 (86)
	(博士前期課程) 保健学専攻	19 (19)	8 (8)	9 (9)	17 (17)	53 (53)	0 (0)	13 (13)
	(博士後期課程) 保健学専攻	19 (19)	8 (8)	9 (9)	17 (17)	53 (53)	0 (0)	1 (1)
	創成科学研究科 (修士課程) 山口大学・カセサート大学 国際連携農学生命科学専攻	16 (16)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	30 (30)	0 (0)	11 (11)
	(博士前期課程) 基盤科学系専攻	17 (17)	12 (12)	7 (7)	2 (2)	38 (38)	0 (0)	8 (8)
	地球圏生命物質科学系専攻	15 (15)	11 (11)	4 (4)	5 (5)	35 (35)	0 (0)	8 (8)
	機械工学系専攻	12 (12)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	23 (23)
	建設環境系専攻	19 (19)	15 (15)	2 (2)	4 (4)	40 (40)	0 (0)	27 (27)
	化学系専攻	16 (16)	13 (13)	3 (3)	2 (2)	34 (34)	0 (0)	21 (21)
	電気電子情報系専攻	19 (19)	19 (19)	2 (2)	9 (9)	49 (49)	0 (0)	25 (25)
	農学系専攻	15 (15)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	29 (29)	0 (0)	25 (25)
	(博士後期課程) 自然科学系専攻	25 (25)	17 (17)	9 (9)	5 (5)	56 (56)	0 (0)	7 (7)
	システム・デザイン 工学系専攻	20 (20)	22 (22)	2 (2)	5 (5)	49 (49)	0 (0)	22 (22)
	環境共生系専攻	27 (27)	21 (21)	3 (3)	4 (4)	55 (55)	0 (0)	23 (23)
	物質工学系専攻	14 (14)	12 (12)	3 (3)	5 (5)	34 (34)	0 (0)	22 (22)
	ライフサイエンス系専攻	23 (23)	13 (13)	2 (2)	6 (6)	44 (44)	0 (0)	29 (29)
	東アジア研究科 東アジア専攻	29 (29)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	6 (6)
	技術経営研究科 技術経営専攻	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	7 (7)
	共同獣医学研究科 獣医学専攻	21 (21)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	1 (1)
	計	223 (223)	150 (150)	57 (57)	91 (91)	521 (521)	0 (0)	- (-)
	合計	285 (285)	199 (199)	80 (80)	92 (92)	656 (656)	0 (0)	- (-)
	職種	専属			その他		計	
事務職員	442 (442)人			398 (398)人		840 (840)人		
技術職員	1,236 (1,236)			189 (189)		1,425 (1425)		
図書館職員	9 (9)			0 (0)		9 (9)		
その他の職員	144 (144)			108 (108)		252 (252)		
指導補助者	0 (0)			0 (0)		0 (0)		
計	1,831 (1,831)			695 (695)		2,526 (2,526)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	514,630㎡	0㎡	0㎡	514,630㎡					
	そ の 他	458,103㎡	0㎡	0㎡	458,103㎡					
	合 計	972,733㎡	0㎡	0㎡	972,733㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		216,256㎡ ( 216,256 ㎡)	0㎡ ( 0 ㎡)	0㎡ ( 0 ㎡)	216,256㎡ ( 216,256 ㎡)					
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室		大学全体			
		114 室	928 室	723 室	135室					
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での 特定不能なため、 大学全体の 数		
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	人間社会科学研究科	1,649,556 [467,483] (1,649,556 [467,483])	4,431 [2,569] (4,431 [2,569])	37,280[13,297] (37,280[13,297])	4,548 [2,924] (4,548 [2,924])	110 (110)	0 ( 0)			
計	1,649,556 [467,483] (1,649,556 [467,483])	4,431 [2,569] (4,431 [2,569])	37,280[13,297] (37,280[13,297])	4,548 [2,924] (4,548 [2,924])	110 (110)	0 ( 0)				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費 (運営費 交付金)	
		教員1人当り研究費等		千円	千円	千円	千円	千円		
		共同研究費等		千円	千円	千円	千円	千円		
		図書購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	設備購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次			
			千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
大 学 等 の 名 称	大 学 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	【 学 部 】 人文学部		年	人	年次	人		倍		山口県山口市吉田 1677番地1
	人文学科		4	185	—	740	学士(文学)	1.07 《1.03》	平成28年度	
	教育学部									山口県山口市吉田 1677番地1
	学校教育教員養成課程		4	180	—	720	学士(教育学)	1.06 《1.04》	平成10年度	
	経済学部									山口県山口市吉田 1677番地1
	経済学科、経営学 科、観光政策学科(1年 次)		4	345	—	345	学士(経済学)	1.04 《1.00》		
	経済学科 (2~4年次)		4	130	—	390	学士(経済学)	1.00		
	経営学科 (2~4年次)		4	165	—	495	学士(経済学)	1.07 《0.99》	昭和24年度	
	観光政策学科 (2~4年次)		4	50	—	150	学士(経済学)	1.03 《1.01》	昭和24年度	
	理学部									山口県山口市吉田 1677番地1
	数理学科		4	50	—	200	学士(理学)	1.11 《0.98》	平成17年度	
物理・情報科学科		4	60	—	240	学士(理学)	1.04 《0.99》	平成7年度		
		4					1.07 《1.00》	平成18年度		

既設 大学等 の 状 況	化学科	4	40	—	160	学士(理学)	0.99	令和3年度		
	生物学科	4	40	—	160	学士(理学)	0.99	令和3年度		
	地球圏システム科学科	4	30	—	120	学士(理学)	1.08 《0.99》	平成18年度		
	医学部						1.01 《0.99》		山口県宇部市 南小串1丁目 1番1号	※令和6年度入学定 員増(19人) (医学部医学科)
	医学科	6	109	2年次 10	696	学士(医学)	1.02 《0.99》	昭和39年度		
	保健学科	4	120	—	480	学士(看護学、 保健学)	1.01 《0.99》	平成12年度		
	工学部						1.08 《1.02》		山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号	
	機械工学科	4	90	3年次 5	370	学士(工学)	1.12 《1.05》	平成2年度		
	社会建設工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.06 《1.03》	平成2年度		
	応用化学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.09 《1.00》	平成19年度		
	電気電子工学科	4	80	3年次 5	330	学士(工学)	1.07 《1.02》	平成2年度		
	知能情報工学科	4	80	3年次 10	340	学士(工学)	1.01 《0.97》	平成19年度		
	感性デザイン工学科	4	55	—	220	学士(工学)	1.13 《1.05》	平成8年度		
	循環環境工学科	4	55	—	220	学士(工学)	1.13 《1.07》	平成19年度		
	農学部						1.04 《1.02》		山口県山口市吉田 1677番地1	
	生物資源環境科学科	4	50	—	200	学士(農学)	1.05 《1.02》	平成13年度		
	生物機能科学科	4	50	—	200	学士(農学)	1.04 《1.03》	平成13年度		
	共同獣医学部						1.07 《1.05》		山口県山口市吉田 1677番地1	
	獣医学科	6	—	—	150	学士(獣医学)	1.08 《1.05》	平成24年度		※令和6年度より 学生募集停止 (共同獣医学部獣医 学科)
	共同獣医学科	6	30	—	30	学士(獣医学)	1.03	令和6年度		
国際総合科学部						1.10 《1.05》		山口県山口市吉田 1677番地1		
国際総合科学科	4	100	—	400	学士(学術)	1.10 《1.05》	平成27年度			

【 大 学 院 】								
人文科学研究科								
人文科学専攻	2	8	—	16	修士(文学)	1.18	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
教育学研究科								
学校臨床心理学専攻	2	7	—	14	修士(教育学)	0.78	令和元年度	山口県山口市吉田 1677番地1
教職実践高度化専攻	2	28	—	56	教職修士 (専門職)	0.58	令和元年度	
経済学研究科								
経済学専攻	2	16	—	32	修士(経済学)	1.37	昭和50年度	山口県山口市吉田 1677番地1
企業経営専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.50	平成7年度	
医学系研究科								
(一貫制博士課程)								
医学専攻	4	33	—	132	博士(医学)	1.09	平成28年度	山口県宇部市 南小串 1丁目1番1号
(博士前期課程)								
保健学専攻	2	12	—	24	修士(保健学)	1.04	平成17年度	
(博士後期課程)								
保健学専攻	3	5	—	15	博士(保健学)	1.26	平成19年度	
創成科学研究科								
(修士課程)								
山口大学・カセサート大学 国際連携農学生命科学専攻	2	6	—	12	修士(農学、 生命科学)	0.58	令和2年度	山口県山口市吉田 1677番地1
(博士前期課程)						0.99		
基盤科学系専攻	2	38	—	76	修士(理学)	0.96	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
地球圏生命物質科学系専攻	2	42	—	84	修士(理学)	0.92	平成28年度	
機械工学系専攻	2	60	—	120	修士(工学)	0.95	平成28年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号
建設環境系専攻	2	74	—	148	修士(工学、 学術)	0.94	平成28年度	
化学系専攻	2	83	—	166	修士(工学、 学術)	0.98	平成28年度	
電気電子情報系専攻	2	107	—	214	修士(工学)	1.08	平成28年度	
農学系専攻	2	36	—	72	修士(農学、 生命科学)	1.02	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
(博士後期課程)						0.97		
自然科学系専攻	3	7	—	21	博士(理学、 学術)	0.57	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
システム・デザイン工学系専攻	3	10	—	30	博士(工学、 学術)	1.50	平成28年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号
環境共生系専攻	3	12	—	36	博士(工学、 学術)	1.11	平成28年度	
物質工学系専攻	3	8	—	24	博士(工学、 学術)	0.54	平成28年度	
ライフサイエンス系専攻	3	7	—	21	博士(医工学、生命 科学、学術)	0.90	平成28年度	
東アジア研究科								
東アジア専攻	3	10	—	30	博士(学術)	1.23	平成13年度	山口県山口市吉田 1677番地1
技術経営研究科								
技術経営専攻	2	15	—	30	技術経営修士 (専門職)	1.16	平成17年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号
共同獣医学研究科								
獣医学専攻	4	6	—	24	博士(獣医学)	2.20	平成30年度	山口大学 山口県山口市吉田 1677番地1  鹿児島大学 鹿児島県鹿児島市 郡元1丁目21番24号

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：図書館 所在地：山口市吉田1677番地1、宇部市南小串1丁目1番地1、宇部市常盤台2丁目16番地1 規模等：12,835㎡ 設置年月：昭和24年5月1日 目的：本学の理念に基づいた教育研究に必要な図書館資料を収集、整理及び提供するとともに、必要とする学術情報を提供し、主として本学の学生及び職員の利用に供することを目的とする。</p> <p>名称：附属学校 目的：学校教育法（昭和22年法律第26号）その他関係法令に規定する教育又は保育を施し、かつ、教育学部の教育計画に従い、教育の理論及び実践に関する研究、実証並びに学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>○教育学部附属山口小学校 所在地：山口市白石3丁目1番地1 規模等：4,513㎡ 設置年月：昭和24年5月31日</p> <p>○教育学部附属光小学校 所在地：光市室積8丁目4番地1 規模等：5,341㎡ 設置年月：昭和24年5月31日</p> <p>○教育学部附属山口中学校 所在地：山口市白石1丁目9番地1 規模等：6,011㎡ 設置年月：昭和24年5月31日</p> <p>○教育学部附属光中学校 所在地：光市室積8丁目4番地1 規模等：5,013㎡ 設置年月：昭和24年5月31日</p> <p>○教育学部附属特別支援学校 所在地：山口市吉田3003 規模等：3,539㎡ 設置年月：昭和54年4月1日</p> <p>○教育学部附属幼稚園 所在地：山口市白石3丁目1番地2 規模等：884㎡ 設置年月：昭和41年4月1日</p> <p>名称：医学部附属病院 所在地：山口県宇部市南小串1丁目1番1号 規模等：99,144㎡ 設置年月：昭和42年6月1日 目的：患者の診療を通じて、医学の教育及び研究を行うことを目的とする。</p> <p>名称：工学部附属ものづくり創成センター 所在地：宇部市常盤台2丁目16番地1 規模等：1,032㎡ 設置年月：平成15年4月1日 目的：ものづくりを通じて感性の涵養、創造性、独創性及び問題解決能力を育成するため、創成工学教育に関する教育プログラムの開発・実践を行うとともに、ものづくり基盤を推進するための技術教育を行うことを目的とする。</p> <p>名称：農学部附属農場 所在地：山口市吉田1677番地1 規模等：3,108㎡ 設置年月：昭和24年11月1日 目的：農学に関する実証的な研究及び学生の実験、実習に資することを目的とする。</p> <p>名称：共同獣医学部附属動物医療センター 所在地：山口市吉田1677番地1 規模等：2,115㎡ 設置年月：昭和28年7月1日 目的：獣医学の臨床教育及び学術研究の目的をもって動物の診療を行う。</p>	
----------------	--	--

## 国立大学法人山口大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山口大学				山口大学				
人文学部				人文学部				
人文学科	185		740	人文学科	185		740	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	180		720	学校教育教員養成課程	<u>155</u>		<u>620</u>	定員変更 (△25)
経済学部				経済学部				
経済学科	130		520	経済学科	130		520	ひと・まち未来共創学 環の内数[5]
経営学科	165		660	経営学科	165		660	
観光政策学科	50		200	観光政策学科	50		200	ひと・まち未来共創学 環の内数[10]
理学部				理学部				
数理科学科	50		200	数理科学科	50		200	
物理・情報科学科	60		240	物理・情報科学科	60		240	
化学科	40		160	化学科	40		160	
生物学科	40		160	生物学科	40		160	
地球圏システム科学科	30		120	地球圏システム科学科	30		120	
医学部				医学部				
医学科	109	2年次 10	696	医学科	<u>90</u>	2年次 10	<u>590</u>	定員変更 (△19)
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
工学部				工学部				
機械工学科	90	3年次 5	370	機械工学科	90	3年次 5	370	
社会建設工学科	80		320	社会建設工学科	80		320	
応用化学科	90		360	応用化学科	90		360	
電気電子工学科	80	3年次 5	330	電気電子工学科	80	3年次 5	330	
知能情報工学科	80	3年次 10	340	知能情報工学科	80	3年次 10	340	
感性デザイン工学科	55		220	感性デザイン工学科	55		220	
循環環境工学科	55		220	循環環境工学科	55		220	
農学部				農学部				
生物資源環境科学科	50		200	生物資源環境科学科	50		200	
生物機能科学科	50		200	生物機能科学科	50		200	
共同獣医学部				共同獣医学部				
共同獣医学科	30		180	共同獣医学科	30		180	
国際総合科学部				国際総合科学部				
国際総合科学科	100		400	国際総合科学科	<u>125</u>		<u>500</u>	定員変更 (25) ひと・まち未来共創学 環の内数[25]
				ひと・まち未来共創学環	<u>[40]</u>		<u>[160]</u>	学部等連係課程実施基 本組織の設置 (認可又 は届出)
計	1,919	2年次 10 3年次 20	8,036	計	<u>1,900</u>	2年次 10 3年次 20	<u>7,930</u>	

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山口大学大学院				山口大学大学院				
人文科学研究科				人文科学研究科				
人文科学専攻	8		16	人文科学専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
教育学研究科				教育学研究科				
学校臨床心理学専攻	7		14	学校臨床心理学専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
教職実践高度化専攻	28		56	教職実践高度化専攻	28		56	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	16		32	経済学専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
企業経営専攻	10		20	企業経営専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
人間社会科学研究科				人間社会科学研究科				研究科の設置（届出）
人文科学専攻				人文科学専攻	7		14	
臨床心理学専攻				臨床心理学専攻	6		12	
経済学・経営学専攻				経済学・経営学専攻	22		44	
共創科学専攻				共創科学専攻	6		12	
医学系研究科				医学系研究科				
（一貫制博士課程）				（一貫制博士課程）				
医学専攻	33		132	医学専攻	33		132	
（博士前期課程）				（博士前期課程）				
保健学専攻	12		24	保健学専攻	12		24	
（博士後期課程）				（博士後期課程）				
保健学専攻	5		15	保健学専攻	5		15	
創成科学研究科				創成科学研究科				
（修士課程）				（修士課程）				
山口大学・カセサート大学				山口大学・カセサート大学				
国際連携農学生命科学専攻	6		12	国際連携農学生命科学専攻	6		12	
（博士前期課程）				（博士前期課程）				
基盤科学系専攻	38		76	基盤科学系専攻	38		76	
地球圏生命物質科学系専攻	42		84	地球圏生命物質科学系専攻	42		84	
化学系専攻	83		166	化学系専攻	83		166	
電気電子情報系専攻	107		214	電気電子情報系専攻	107		214	
機械工学系専攻	60		120	機械工学系専攻	60		120	
建設環境系専攻	74		148	建設環境系専攻	74		148	
農学系専攻	36		72	農学系専攻	36		72	
（博士後期課程）				（博士後期課程）				
自然科学系専攻	7		21	自然科学系専攻	7		21	
物質工学系専攻	8		24	物質工学系専攻	8		24	
システム・デザイン工学系専攻	10		30	システム・デザイン工学系専攻	10		30	
環境共生系専攻	12		36	環境共生系専攻	12		36	
ライフサイエンス系専攻	7		21	ライフサイエンス系専攻	7		21	
東アジア研究科				東アジア研究科				
東アジア専攻	10		30	東アジア専攻	10		30	
技術経営研究科				技術経営研究科				
技術経営専攻	15		30	技術経営専攻	15		30	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
獣医学専攻	6		24	獣医学専攻	6		24	
計	640	-	1,417	計	640	-	1,417	



教育課程等の概要															
(人間社会科学研究科 人文科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究科共通科目	研究者行動規範特論	1前	—	1			○							1	オムニバス オムニバス
	知的財産特論	1前	—	1			○							1	
	データサイエンス特論	1後	—		1		○							4	
	プレゼンテーション特論	1後	—		1		○							3	
	キャリア教育	1後	—		1		○							1	
	小計(5科目)	—		2	3			—		0	0	0	0	10	
専攻共通科目	人文科学総論	1前	—	1			○			4	2	1			オムニバス
	小計(1科目)	—		1				—		4	2	1	0	0	
専門科目	思想研究プログラム	1前	—		2		○			1					
	西洋哲学思想論(哲学)	1後	—		2		○				1				
	西洋哲学思想論(倫理学)	1前	—		2		○			1					
	日本思想論(古代中世)	1後	—		2		○				1				
	日本思想論(近世)	1前	—		2		○					1			
	中国哲学思想論	1前	—		2		○						1		
	芸術論(美学)	1前	—		2		○			1					
	芸術論(美術史)	1後	—		2		○			1					
	宗教心理学論	1前	—		2		○			1					
	西洋哲学思想論演習(哲学の歴史)	1前	—		2			○		1					
	西洋哲学思想論演習(哲学の理論)	1後	—		2			○		1					
	西洋哲学思想論演習(倫理学の歴史)	1前	—		2			○			1				
	西洋哲学思想論演習(倫理学の理論)	1後	—		2			○			1				
	日本思想論演習(古代中世・信仰)	1前	—		2			○		1					
	日本思想論演習(古代中世・文芸)	1後	—		2			○		1					
	日本思想論演習(近世・学問)	1前	—		2			○			1				
	日本思想論演習(近世・文芸)	1後	—		2			○			1				
	中国哲学思想論演習(古代中世)	1前	—		2			○				1			
	中国哲学思想論演習(近世)	1後	—		2			○				1			
	芸術論演習(近代美学)	1前	—		2			○		1					
	芸術論演習(現代美学)	1後	—		2			○		1					
	芸術論演習(近代美術史)	1前	—		2			○		1					
	芸術論演習(現代美術史)	1後	—		2			○		1					
	宗教心理学演習(精神分析)	1前	—		2			○		1					
	宗教心理学演習(認知科学)	1後	—		2			○		1					
	思想研究演習	2前	—	2				○		5	2	1			
思想研究演習	2後	—	2				○		5	2	1				
	小計(26科目)	—		4	48			—		5	2	1	0	0	
歴史研究コース	日本歴史論(古代)	1後	—		2		○				1				
	日本歴史論(中世)	1前	—		2		○			1					
	日本歴史論(近世)	1前	—		2		○				1				
	日本歴史論(近現代)	1後	—		2		○				1				
	西洋歴史論(古代・中世)	1前	—		2		○			1					
	西洋歴史論(近世・近代)	1前	—		2		○					1			
	比較考古論(政治・社会)	1前	—		2		○					1			
	先史考古論(遺物・遺構)	1後	—		2		○					1			
	日本歴史論演習(古代の政治)	1前	—		2			○				1			
	日本歴史論演習(古代の社会)	1後	—		2			○				1			
	日本歴史論演習(中世の政治)	1前	—		2			○		1					
	日本歴史論演習(中世の社会)	1後	—		2			○		1					
	日本歴史論演習(近世の政治)	1前	—		2			○				1			
	日本歴史論演習(近世の社会)	1後	—		2			○				1			

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
	日本歴史論演習(近現代の政治)	1前	—		2			○			1						
	日本歴史論演習(近現代の社会)	1後	—		2			○			1						
	西洋歴史論演習(古代・中世の政治)	1前	—		2			○			1						
	西洋歴史論演習(古代・中世の社会)	1後	—		2			○			1						
	西洋歴史論演習(近世・近代の政治)	1前	—		2			○			1						
	西洋歴史論演習(近世・近代の社会)	1後	—		2			○			1						
	比較考古論演習(政治)	1後	—		2			○					1				
	比較考古論演習(社会)	1後	—		2			○					1				
	先史考古論演習(遺物)	1前	—		2			○				1					
	先史考古論演習(遺構)	1前	—		2			○				1					
	歴史研究演習	2前	—	2				○			2	5	1				
	歴史研究演習	2後	—	2				○			2	5	1				
	小計(26科目)	—		4	48			—			2	5	1	0		0	
現代 社会 研究 コー ス	地域福祉社会学特論	1前	—		2			○			1						
	道徳心理学特論	1前	—		2			○			1						
	医療社会学特論	1前	—		2			○				1					
	現代民俗学特論	1前	—		2			○			1						
	社会人類学特論	1前	—		2			○				1					
	文化人類学特論	1前	—		2			○				1					
	社会調査法演習(質的調査法)	1後	—		2				○			1					
	地域福祉社会学専門演習(コミュニティと福祉)	1前	—		2				○			1					
	地域福祉社会学専門演習(社会変動と福祉)	1後	—		2				○			1					
	社会調査法演習(多変量解析)	1後	—		2				○			1					
	道徳心理学専門演習(理論)	1前	—		2				○			1					
	道徳心理学専門演習(データ解析)	1後	—		2				○			1					
	社会調査法演習(調査企画・設計)	1後	—		2				○			1					
	医療社会学専門演習(理論)	1前	—		2				○				1				
	医療社会学専門演習(データ解析)	1後	—		2				○				1				
	現代民俗学専門演習(儀礼論)	1前	—		2				○			1					
	現代民俗学専門演習(祭礼論)	1後	—		2				○			1					
	社会人類学専門演習(民族誌)	1前	—		2				○				1				
	社会人類学専門演習(フィールドワーク)	1後	—		2				○				1				
	文化人類学専門演習(理論)	1前	—		2				○				1				
文化人類学専門演習(民族誌)	1後	—		2				○				1					
現代社会研究演習	2前	—	2					○			3	3					
現代社会研究演習	2後	—	2					○			3	3					
	小計(23科目)	—		4	42			—			3	3	0	0		0	
日本・中国 言語 文学 研究 コー ス	日本語論(古代語)	1前	—		2			○				1					
	日本語論(現代語)	1後	—		2			○			1						
	日本文学論(中古)	1前	—		2			○				1					
	日本文学論(近世)	1前	—		2			○				1					
	日本文学論(近代)	1後	—		2			○			1						
	日本文学論(近現代)	1後	—		2			○					1				
	中国語論(中国の諸言語)	1前	—		2			○				1					
	比較文学・文化論	1前	—		2			○				1					
	日本語論演習(古代語研究)	1後	—		2				○				1				
	日本語論演習(古代語文献講読)	1前	—		2				○				1				
	日本語論演習(現代語研究)	1前	—		2				○		1						
	日本語論演習(現代語文献講読)	1後	—		2				○		1						
	日本文学論演習(中古文学研究)	1後	—		2				○		1						
	日本文学論演習(中古文学講読)	1前	—		2				○		1						
	日本文学論演習(近世文学研究)	1後	—		2				○			1					
日本文学論演習(近世文学講読)	1前	—		2				○				1					
日本文学論演習(近代文学研究)	1前	—		2				○		1							
日本文学論演習(近代文学講読)	1後	—		2				○		1							

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教員 以外 の 教員
	日本文学論演習(近現代文学研究)	1前	—	2			○					1				
	日本文学論演習(近現代文学講読)	1後	—	2			○					1				
	中国語論演習(中国諸言語研究)	1前	—	2			○					1				
	中国語論演習(中国諸言語文献講読)	1後	—	2			○					1				
	比較文学・文化演習(研究)	1前	—	2			○					1				
	比較文学・文化演習(講読)	1後	—	2			○					1				
	日本・中国言語文学研究演習	2前	—	2			○				3	4	1			
	日本・中国言語文学研究演習	2後	—	2			○				3	4	1			
	小計(26科目)	—		4	48		—				3	4	1	0		0
欧米 言語 文学 研究 コース	英語学論(統語論)	1前	—	2			○				1					
	英文学論(イギリス)	1後	—	2			○				1					
	英文学論(アメリカ)	1前	—	2			○				1					
	英語学論(意味論)	1後	—	2			○						1			
	比較文化学論	1前	—	2			○						1			
	欧州語比較・対照言語論(仏語系)	1前	—	2			○				1					
	欧州文学・比較文学論(仏語系)	1前	—	2			○				1					
	言語論(言語構造)	1後	—	2			○					1				
	英語学演習(統語理論)	1前	—	2				○				1				
	英語学演習(構文研究)	1後	—	2				○				1				
	英語学演習(意味論)	1前	—	2				○						1		
	英語学演習(言語獲得論)	1後	—	2				○						1		
	英文学論演習(イギリス・19世紀以前)	1前	—	2				○				1				
	英文学論演習(イギリス・20世紀以後)	1後	—	2				○				1				
	英文学論演習(アメリカ・19世紀以前)	1前	—	2				○				1				
	英文学論演習(アメリカ・20世紀以後)	1後	—	2				○				1				
	比較文化論演習(文芸)	1前	—	2				○						1		
	比較文化論演習(異文化理解)	1後	—	2				○						1		
	欧州語比較・対照言語論演習(仏英語)	1前	—	2				○				1				
	欧州語比較・対照言語論演習(ロマンス諸語)	1後	—	2				○				1				
	欧州文学・比較文学論演習(仏語系文学)	1前	—	2				○				1				
	欧州文学・比較文学論演習(仏語系文化)	1後	—	2				○				1				
	言語論演習(言語構造)	1後	—	2				○					1			
	言語論演習(言語類型)	1前	—	2				○					1			
	欧米言語文学研究演習	2前	—	2				○				5	1	2		
	欧米言語文学研究演習	2後	—	2				○				5	1	2		
	小計(26科目)	—		4	48		—				5	1	2	0		0
合計(133科目)		—		23	237		—				18	15	5	0		10
学位又は称号	修士(文学)			学位又は学科の分野		文学関係										
卒業要件及び履修方法										授業期間等						
各科目区分の必要単位数及び必修科目の単位を含め30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格する。 <b>【人文科学専攻】</b> 研究科共通科目から2単位(必修)及び1単位(選択必修)、専攻共通科目1単位(必修)、自研究コースの必修科目4単位(前期修士論文演習及び後期修士論文演習)、指導教員の指定した演習科目4単位を含む自研究コースの授業科目18単位以上及び他研究コースの授業科目4単位以上、計30単位以上を修得すること。他研究コースの授業科目4単位には、他研究科及び他専攻の専門科目を含むことができる。										1学年の学期区分			2期			
										1学期の授業期間			15週			
										1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要																	
(人間社会科学部 臨床心理学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
研究科共通科目	研究者行動規範特論	1前	—	1			○								1	オムニバス オムニバス	
	知的財産特論	1前	—	1			○								1		
	データサイエンス特論	1後	—		1		○								4		
	プレゼンテーション特論	1後	—		1		○								3		
	キャリア教育	1後	—		1		○								1		
	小計(5科目)	—		2	3		—								10		
専門科目	臨床心理学 臨床心理学プログラム	心理学研究法特論	1前	—		2		○				1					
		心理統計法特論演習	1前	—		2			○				1				
		教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	1前	—		2		○				1					
		発達心理学特論	1後	—		2		○					1				
		学習・認知心理学特論	1後	—		2		○					2				
		社会心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	1後	—		2		○						1			
		犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2前	—		2		○								1	
		健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)	1前	—		2		○						1			
		家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2前	—		2		○						1			
		障害児(者)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1前	—		2		○								1	
		産業カウンセリング特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2前	—		2		○								1	
		臨床心理学特論Ⅰ	1前	—		2		○				1					
		臨床心理学特論Ⅱ	1後	—		2		○				1					
		臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1前	—		2				○				1			
		臨床心理査定演習Ⅱ	1後	—		2				○			1				
		臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1後	—		2		○						1			
		臨床心理面接特論Ⅱ	2前	—		2		○				1					
		臨床心理地域援助特論	1後	—		2		○					1				
		精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1後	—		2		○								1	隔年
		心身医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1後	—		2		○								1	隔年
		力動的心理療法特論	1後	—		2		○					1				
		臨床心理基礎実習	1通	—		2					○		1		1		
		臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習A)	1~2通	—		8					○		2	1			
		臨床心理実習Ⅱ	2後	—		1					○		2	1	1		
		心理実践実習B	1~2通	—		2					○		1	1			
	小計(25科目)	—			55		—				2	3	2		4		
課題研究	課題研究	1~2通	—	4					○		2	3	2				
	小計(1科目)	—		4			—				2	3	2				
合計(31科目)		—		6	58		—				2	3	2		14		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 臨床心理学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	修士 (心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
各科目区分の必要単位数及び必修科目の単位を含め30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格する。  <b>【臨床心理学専攻】</b> 研究科共通科目から2単位 (必修) 及び1単位 (選択必修)、臨床心理学専攻の専門科目から27単位以上 (課題研究4単位を含む。) 修得し、30単位以上修得すること。							1 学年の学期区分			2 期					
							1 学期の授業期間			1 5 週					
							1 時限の授業時間			9 0 分					

教育課程等の概要																	
(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)の教員	
研究科共通科目	研究者行動規範特論(Code of Conduct Principles for Researchers)	1前	—	1			○								1		
	知的財産特論(Advanced Intellectual Property)	1前	—	1			○								1		
	データサイエンス特論(Special Lecture on Data Science)	1後	—	1			○								4	オムニバス	
	プレゼンテーション特論(Advanced Presentation Skills)	1後	—	1			○								3	オムニバス	
	キャリア教育(Career Education)	1後	—	1			○								1		
小計(5科目)		—		2	3			—							10		
専攻基盤科目	外国文献研究	1前	—		2		○				1					経済社会政策コースの次の入試の入学のみコース必修 一般・推薦・学部3年生を対象とする入試 他のコースでは専門科目として受講する	
	Economic Statistics	1後	—		2		○								1	公共管理コース必修・兼任	
	Academic Writing	1後	—		1		○				1					公共管理コース必修	
	Economics	1後	—		2		○				1					公共管理コース必修	
	企業経営基礎研究	1後	—		2		○				2	4	1			オムニバス 中山間地マネジメントコース必修	
	医療経営研究	1前	—		2		○								1	医療・福祉経営コース必修	
	福祉経営研究	1後	—		2		○								1	医療・福祉経営コース必修	
	税法研究Ⅰ	1後	—		2		○				1					税法コース必修 他のコースでは専門科目として受講する	
	税法研究Ⅱ	1後	—		2		○				1					税法コース必修 他のコースでは専門科目として受講する	
小計(9科目)		—			17			—			5	5	1		3		
専門科目	経済学プログラム 経済社会政策コース 推奨科目	社会政策・労働経済研究	1前	—		2		○				1					
		金融経済理論研究	1前	—		2		○				1					
		地域経済論研究	1後	—		2		○					1				
		地域社会福祉論研究	1後	—		2		○				1					
		観光経済研究	1後	—		2		○					1				
		環境経済学研究	1後	—		2		○					1				
		経済統計研究	1後	—		2		○					1				
		理論経済学研究	1前	—		2		○					1				
		開発経済論研究	1前	—		2		○					1				
		公共経済研究	1前	—		2		○					1	1			隔年交代
		計量経済学研究	1後	—		2		○					1				
		現代経済学研究	1前	—		2		○				1					
	小計(12科目)		—			24			—			4	8	1			
その他の専門科目	日本経済史研究	1前	—		2		○				1						
	欧米経済史研究	1後	—		2		○				1						
	時間論研究	1後	—		2		○				1						
	アジア環境政策研究	1前	—		2		○				1						
	現代アジア経済	1前	—		2		○					1					
中国経済研究	1前	—		2		○				1							
国際関係学研究	1後	—		2		○					1						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員  ( <small>助手を除く</small> )		
	政治理論研究	1前	—	2		○			1								隔年交代
	行政法研究	1前	—	2		○			1								
	刑事法研究	1後	—	2		○			1								
	文化心理学研究	1後	—	2		○			1								
	実証国際マクロ時系列分析	1前	—	2		○			1	1							
	国際観光政策	1後	—	2		○			1		1						
	現代会計論研究	1後	—	2		○			1								
	税法研究Ⅰ	1後	—	2		○			1								
	税法研究Ⅱ	1後	—	2		○			1								
	民事法研究	1前	—	2		○			1								
	財産法研究	1前	—	2		○				1							
	メディア法とメディア論	1前	—	2		○								1			
	経済政策原理の研究	1前	—	2		○											
小計 (20科目)	—			40		—			13	4	2	1			1		
演習科目	演習ⅠA (経済社会)	1前	—	2				○	16	11	2						
	演習ⅠB (経済社会)	1後	—	2				○	16	11	2						
	演習ⅡA (経済社会)	2前	—	2				○	16	11	2						
	演習ⅡB (経済社会)	2後	—	2				○	16	11	2						
	第二演習ⅠA (経済社会)	1前	—	2				○	16	11	2						
	第二演習ⅠB (経済社会)	1後	—	2				○	16	11	2						
	第二演習ⅡA (経済社会)	2前	—	2				○	16	11	2						
	第二演習ⅡB (経済社会)	2後	—	2				○	16	11	2						
小計 (8科目)	—			8	8		—	16	11	2							
経済学プログラム 公共管理コース 推奨科目	Public Economics	1後	—	2				○	1								隔年交代
	Development Economics	1後	—	2				○	1								
	Public Administration	1後	—	2				○	1								
	Public Finance	1後	—	2				○		1	1						
	Program Evaluation	1前	—	2				○							1		
	International Economics	1前	—	2				○		1							
	Administrative Law	1休	—	2				○							1		
小計 (7科目)	—			14		—		3	2	1				2			
その他の 専門科目	Academic English	1前	—	1				○	1								隔年交代
	Research Methodology	1前	—	1				○							1		
	Mathematics for Economics	1後	—	1				○		1							
	International Cooperation Studies	1後	—	2				○							1		
	Media and Society	1前	—	2				○							1		
	Southeast Asian Economy	1後	—	2				○							1		
	Environmental Policy	1前	—	2				○	1								
	Social Policy Studies	1後	—	2				○							1		
	Regional Economics	1前	—	2				○		1							
	Public Debt Management	1前	—	2				○							1		
	Cost Benefit Analysis	1前	—	2				○							1		
	International Framework for Environmental Protection	1後	—	2				○							1		
	Public Policy	1後	—	2				○			1						
	Cultural Psychology of Administration	1後	—	2				○	1								
	Monetary Economics	1前	—	2				○	1								
	Economic Policy	1前	—	2				○		1							
	Tourism Policy	1前	—	2				○	1		1						
	Strategic Management	1前	—	2				○		1							
	Industrial Policy	1後	—	2				○		1							
	Advanced Data Analysis	1前	—	2				○	1								
	Advanced Public Administration Studies I	1後	—	2				○							1		
	Advanced Public Administration Studies II	2後	—	2				○							1		
小計 (22科目)	—			41		—		4	3	2				6			

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員  ( <small>助手を除く</small> )				
																	7	7	2
経営学 プログラム	演習科目	Seminar I A	1前	—	2				○			7	7	2					
		Seminar I B	1後	—	2				○			7	7	2					
		Seminar II A (Thesis Instruction)	2前	—	2				○			7	7	2					
		Seminar II B (Thesis Instruction)	2後	—	2				○			7	7	2					
		小計 (4科目)	—		8				—			7	7	2					
	中山間地 マネジメント コース	推奨科目	流通システム研究	1前	—	2				○				1					
			国際経営研究	1後	—	2				○			1						
			経営戦略研究	1後	—	2				○				1					
			現代商品論研究	1後	—	2				○				1					
			リスクマネジメント研究	1前	—	2				○				1					
			地域経済論研究	1後	—	2				○					1				
			観光経済研究	1後	—	2				○					1				
地域社会福祉論研究			1後	—	2				○			1							
地域フードシステム研究			1前	—	2				○				1						
文化心理学研究			1後	—	2				○					1					
外国文献研究			1前	—	2				○					1					
現代マーケティング研究			1後	—	2				○					1					
	小計 (12科目)	—		24				—			5	7							
その 他の 専門 科目	その他の 専門科目	経営数理システム研究	1後	—	2				○			1							
		経営数理計画研究	1前	—	2				○			1							
		応用ゲーム理論 (組織の経済学) 研究	1前	—	2				○				1						
		金融経済理論研究	1前	—	2				○				1						
		社会政策・労働経済研究	1前	—	2				○				1						
		中国経済研究	1前	—	2				○				1						
	小計 (6科目)	—		12				—			4	1							
演習科目	演習科目	演習 I A (中山間地)	1前	—	2				○			5	7	1					
		演習 I B (中山間地)	1後	—	2				○			5	7	1					
		演習 II A (中山間地)	2前	—	2				○			5	7	1					
		演習 II B (中山間地)	2後	—	2				○			5	7	1					
		第二演習 I A (中山間地)	1前	—	2				○			5	7	1					
		第二演習 I B (中山間地)	1後	—	2				○			5	7	1					
		第二演習 II A (中山間地)	2前	—	2				○			5	7	1					
		第二演習 II B (中山間地)	2後	—	2				○			5	7	1					
	小計 (8科目)	—		8	8			—			5	7	1						
経営学 プログラム	医療・福祉 経営 コース	推奨科目	医療福祉複合体経営研究	1前	—	2				○								1	
			医療経済研究	1前	—	2				○			1						
			医療保険制度研究	1後	—	2				○				1					
			医療制度研究	1後	—	2				○					1				
			中国医療システム研究	1後	—	2				○					1				
			医療原価管理研究	1後	—	2				○									1
			医療簿記会計研究	1前	—	2				○									1
			社会福祉政策研究	1後	—	2				○				1					
			社会政策・労働経済研究	1前	—	2				○				1					
			地域経済論研究	1後	—	2				○					1				
			医療・福祉施設の経営分析研究	1後	—	2				○									1
			医療・福祉施設の人的資源管理研究	1前	—	2				○					1				
			医療・福祉法制度研究	1後	—	2				○									1
			医療・福祉経営特別研究 A	1後	—	2				○									1
			医療・福祉経営特別研究 B	1前	—	2				○									1
			医療特別研究 A	1後	—	2				○									1
			医療特別研究 B	1前	—	2				○									1
			外国文献研究	1前	—	2				○				1					
	小計 (18科目)	—		36				—			4	4					6		
演習科目	演習科目	演習 I A (医療・福祉)	1前	—	2				○			1	3					2	
		演習 I B (医療・福祉)	1後	—	2				○			1	3					2	
		演習 II A (医療・福祉)	2前	—	2				○			1	3					2	



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
経営学プログラム	推薦科目	演習ⅡB (医療・福祉)	2後	—	2			○			1	3					2
		第二演習ⅠA (医療・福祉)	1前	—	2			○			1	3					2
		第二演習ⅠB (医療・福祉)	1後	—	2			○			1	3					2
		第二演習ⅡA (医療・福祉)	2前	—	2			○			1	3					2
		第二演習ⅡB (医療・福祉)	2後	—	2			○			1	3					2
	小計 (8科目)		—		8	8		—			1	3					2
	税務コース	現代会計論研究	1後	—	2			○			1						
		会計政策論研究	1前	—	2			○								1	兼任
		実証会計研究	1前	—	2			○				1					
		資本市場の財務情報の役割研究	1後	—	2			○								1	兼任
戦略的管理会計研究		1前	—	2			○					1					
情報伝達と財務会計研究		1前	—	2			○								1		
意思決定と財務会計研究		1前	—	2			○								1		
民法法研究		1前	—	2			○			1							
財産法研究		1前	—	2			○				1						
小計 (9科目)		—		18			—			2	2	1				2	
その他の専門科目	外国文献研究	1前	—	2			○			1							
	経営数理システム研究	1後	—	2			○			1							
	経営数理計画研究	1前	—	2			○			1							
	応用ゲーム理論 (組織の経済学) 研究	1前	—	2			○				1						
	金融経済理論研究	1前	—	2			○			1							
	社会政策・労働経済研究	1前	—	2			○			1							
中国経済研究	1前	—	2			○			1								
小計 (7科目)		—		14			—			6	1						
演習科目	演習ⅠA (税務)	1前	—	2			○			1							
	演習ⅠB (税務)	1後	—	2			○			1							
	演習ⅡA (税務)	2前	—	2			○			1							
	演習ⅡB (税務)	2後	—	2			○			1							
	第二演習ⅠA (税務)	1前	—	2			○			1							
	第二演習ⅠB (税務)	1後	—	2			○			1							
	第二演習ⅡA (税務)	2前	—	2			○			1							
	第二演習ⅡB (税務)	2後	—	2			○			1							
小計 (8科目)		—		8	8		—			1							
合計 (163科目)		—		42	275		—			24	20	5				24	

学位又は称号	修士 (経済学)	学位又は学科の分野	経済学関係
--------	----------	-----------	-------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>各科目区分の必要単位数及び必修科目の単位を含め30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格する。</p> <p>【経済学・経営学専攻:経済社会政策コース】 研究科共通科目から2単位 (必修) 及び1単位 (選択必修)、専攻基盤科目から「外国文献研究」2単位 (一般入試、学部3年生を対象とする入試、推薦入試を通して入学した者のみ)、演習科目から8単位、推薦科目から6単位以上 (ただし、一般入試、学部3年生を対象とする入試、推薦入試以外の入試を通して入学した者は8単位以上) 及び自コースの科目11単位以上、計30単位以上を修得すること。自コースの科目11単位には、自専攻他コースの科目、また、指導教員が履修を認めた他専攻の科目2単位までを含むことができる。なお、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p> <p>【経済学・経営学専攻:公共管理コース】 研究科共通科目から2単位 (必修) 及び1単位 (選択必修)、専攻基盤科目から5単位、演習科目から8単位、推薦科目から8単位以上及び自コースの科目6単位以上、計30単位以上を修得すること。自コースの科目6単位には、自専攻他コースの科目、また、指導教員が履修を認めた他専攻の科目2単位までを含むことができる。なお、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p>	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<p><b>【経済学・経営学専攻:中山間地マネジメントコース】</b>                      研究科共通科目から2単位(必修)及び1単位(選択必修)、専攻基盤科目から「企業経営基礎研究」2単位(学術交流協定の渡日前入試を通して入学した者のみ)、演習科目から8単位、推奨科目から6単位以上及び自コースの科目13単位以上(学術交流協定の渡日前入試を通して入学した者は11単位以上)、計30単位以上を修得すること。自コースの科目13単位(学術交流協定の渡日前入試を通して入学した者は11単位以上)には、自専攻他コースの科目、また、指導教員が履修を認めた他専攻の科目2単位までを含むことができる。なお、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p> <p><b>【経済学・経営学専攻:医療・福祉経営コース】</b>                      研究科共通科目から2単位(必修)及び1単位(選択必修)、専攻基盤科目から4単位、演習科目から8単位、推奨科目から6単位以上及び自コースの科目9単位以上、計30単位以上を修得すること。自コースの科目9単位には、自専攻他コースの科目、また、指導教員が履修を認めた他専攻の科目2単位までを含むことができる。なお、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p> <p><b>【経済学・経営学専攻:税務コース】</b>                      研究科共通科目から2単位(必修)及び1単位(選択必修)、専攻基盤科目から4単位、演習科目から8単位、推奨科目から6単位以上及び自コースの科目9単位以上、計30単位以上を修得すること。自コースの科目9単位には、自専攻他コースの科目、また、指導教員が履修を認めた他専攻の科目2単位までを含むことができる。なお、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p>															

教育課程等の概要																	
(人間社会科学部 共創科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員		
研究科共通科目	研究者行動規範特論	1前	—	1			○								1	オムニバス オムニバス	
	知的財産特論	1前	—	1			○								1		
	データサイエンス特論	1後	—		1		○			4							
	プレゼンテーション特論	1後	—		1		○			2							
	キャリア教育	1後	—		1		○								1		
	小計(5科目)	—		2	3					6					4		
専攻共通科目	人間文化・社会創造概説	1前	—	1			○			3	3	2				オムニバス	
	小計(1科目)	—		1						3	3	2					
専門科目	人間文化創造プログラム	多文化共生コース	1前	—	2		○	※								演習	
		文明と宗教特論	1前	—	2		○	※		1							演習
		英語圏文化研究	1前	—	2		○	※					1				演習
		教育思想史特論	1前	—	2		○	※					1				演習
		人間教育学特論	1後	—	2		○	※					1				演習
		高等教育特論	1前	—	2		○	※					1				演習
		ロボット哲学	1前	—	2		○					1					
		生態人類学特論	1後	—	2		○				1						
		地域言語システム特論	1前	—	2		○				1						
		日本語コミュニケーション特論	1前	—	2		○	※				1					演習
		応用日本語学特論	1後	—	2		○	※					1				演習
		複言語教育特論	1後	—	2		○					1					
		社会言語学特論	1前	—	2		○	※				1					演習
		第二言語習得特論	1後	—	2		○	※						1			演習
		日本文学特論(現代)	1後	—	2		○							1			
		中国思想史特論(古代)	1後	—	2		○					1					
		異文化間心理学特論	1後	—	2		○							1			
	小計(16科目)	—		32						3	5	7	1				
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	実践的現代アート特論	1前	—	2		※	○		1						講義	
		彫刻文化特論	1後	—	2		※	○		1						講義	
		表象文化特論	1前	—	2		○	※		1						演習	
		工芸文化特論	1後	—	2		※	○			1					講義	
		歌唱表現特論	1前	—	2		○	※					1			演習	
		インタラクティブデザイン特論	1前	—	2		※	○				1				講義	
		インクルーシブデザイン特論	1後	—	2		○						1				
	小計(7科目)	—		14						3	2	2					
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	データ情報表現法特論	1前	—	2		○	※		1						演習	
		データベース特論	1後	—	2		○	※		1						演習	
		データ解析情報学特論	1前	—	2		○	※		1						演習	
		数理モデル構成特論	1後	—	2		○	※		1						演習	
		デジタル情報モデル特論	1前	—	2		○			1							
		画像データ活用特論	1後	—	2		○	※		1						演習	
		情報処理特論	1前	—	2		○	※			1					演習	
		テキストマイニング特論	1後	—	2		○	※					1			演習	
	小計(8科目)	—		16						6	1	1					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
人間社会・環境コース	メディアシステム特論	1前	—	2			○	※		1							演習
	科学技術社会論特論	1後	—	2			○			1							演習
	環境経済学特論	1後	—	2			○	※		1						1	演習・兼任
	エネルギー環境特論	1前	—	2			○	※									
	健康環境学特論	1後	—	2			○			1							
	自然環境特論	1前	—	2			○			1							
	住環境学特論	1後	—	2			○										1
	地域コミュニティ政策特論	1前	—	2			○	※			1						
	現代法特論	1後	—	2			○	※		1							
	人間環境科学特論	1前	—	2			○					1					
	教育社会学特論	1前	—	2			○				1						
	実践人類学特論	1後	—	2			○				1						
小計 (12科目)				—		24			—	6	3	1				2	
課題解決科目	課題解決特論	1前	—	2			○			18	11	11	1			2	
	課題解決能力特別演習	1後	—	2			○			18	11	11	1			2	
	課題解決演習前期	2前	—	2			○			18	11	11	1			2	
	課題解決演習後期	2後	—	2			○			18	11	11	1			2	
小計 (4科目)				—		8			—	18	11	11	1			2	
合計 (53科目)				—		11	89		—	18	11	11	1			6	
学位又は称号		修士 (学術)		学位又は学科の分野			文学関係、理学関係										
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
<p>各科目区分の必要単位数及び必修科目の単位を含め30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格する。</p> <p><b>【共創科学専攻】</b>                      研究科共通科目から2単位 (必修) 及び1単位 (選択必修)、専攻共通科目から1単位、専門科目 (課題解決科目) 8単位並びに専門科目 (選択) 18単位以上、計30単位以上を修得すること。                      なお、専門科目 (選択) のうち、10単位以上は自研究プログラムから修得すること。また、専門科目 (選択) の単位には、他研究科及び他専攻の専門科目を8単位まで含むことができる。</p>										1 学年の学期区分			2 期				
										1 学期の授業期間			1 5 週				
										1 時限の授業時間			9 0 分				

教育課程等の概要																		
(人文学部人文学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員		
教養コア	基礎セミナー	1前		2			○			5		1				4	オムニバス	
	データ科学と社会Ⅰ	1前①		1			○									1	共同	
	データ科学と社会Ⅱ	1前②		1			○				1					1	共同	
	知的財産入門	1後②		1			○									1		
	運動健康科学	1前①		1			○									1		
	山口と世界	1後③		1			○									1		
	知の広場	1前		1			○									1		
	キャリア教育	3前		1			○									1		
小計(8科目)			-	9	0	0	-			5	1	1	0	0	0	10	-	
英語	英語Ⅰa	1前			2		○									1		
	英語Ⅱa	1前			2		○									1		
	英語Ⅰb	1後			2		○									1		
	英語Ⅱb	1後			2		○									1		
	英語会話Ⅰa	1前			1			○								1		
	英語会話Ⅱa	1前			1			○								1		
	英語会話Ⅰb	1後			1				○							1		
英語会話Ⅱb	1後			1				○							1			
小計(8科目)				0	12	0	-			0	0	0	0	0	0	8	-	
一般教養	人文教養	哲学	1前①	○	1			○			4	3					1	オムニバス
		歴史学	1前②	○	1			○			2	5	2				1	オムニバス
		社会学	1前①	○	1			○			4	3					1	オムニバス
	社会教養	経済と法1	1後③			3	0	0			10	11	2	0	0	0	3	-
		経済と法2	1前②			1			○								1	
		経済と法3	1前①			1			○								1	
	小計(3科目)				3	0	0	-		0	0	0	0	0	0	3	-	
	自然教養	自然科学1	1後③			1			○								1	
		自然科学2	1後③			1			○								1	
	小計(2科目)				2	0	0	-		0	0	0	0	0	0	2	-	
	学際的教養	人間の発達と育成1	1前①			1			○								1	
		人間の発達と育成2	1前②			1			○								1	
		文化の継承と創造1	1前①/後①			1			○								1	
		文化の継承と創造2	1前②/後②			1			○								1	
		社会と医療	1前②			1			○								1	
環境と人間		1後③			1			○								1		
食と生命		1前②			1			○								1		
小計(7科目)				7	0	0	-		0	0	0	0	0	0	7	-		
教養展開	展国 開	国際展開科目A2	1前			2		○								1		
		国際展開科目B2	1前			2		○								1		
	地域 展 開	地域展開科目A1	2通			1			○							1	※実習	
		地域展開科目A2	2通			2			○							1	※実習	
		地域展開科目B1	2通			1			○							1	※実習	
		地域展開科目B2	2通			2			○							1	※実習	
	知財 展 開	知財展開科目A1	2前			1			○							1		
		知財展開科目A2	2前			2			○							1		
		知財展開科目B1	2後			1			○							1		
		知財展開科目B2	2後			2			○							1		
	ルコ デニ バ ザイ ンサ 展 開	ユニバーサルデザイン展開科目A1	2前			1			○							1		
		ユニバーサルデザイン展開科目A2	2前			2			○							1		
		ユニバーサルデザイン展開科目B1	2前			1			○							1		
		ユニバーサルデザイン展開科目B2	2前			2			○							1		
総合 展 開	総合科目A1	2前			1			○							1			
	総合科目A2	2前			2			○							1			
	総合科目B1	2後			1			○							1			
	総合科目B2	2後			2			○							1			
Yu-DX	DX概論	2前			2			○							1			
	地域学	2前			2			○							1			
	DXPBL	2前			2			○							1			
小計(21科目)				0	34	0	-		0	0	0	0	0	0	21	-		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
専門科目 人文コア科目	入門講義	文学	○	1			○			3		2			1		
		言語学	○	1			○			5	2				1		
		小計(2科目)	—	2	0	0				8	2	2	0	0	2	—	
	リテラシー科目群	外国語系	ドイツ語初級前期	○	4			○				1				1	
			ドイツ語初級後期	○	4			○				1				1	
			ドイツ語中級Ⅰ	○	2			○								1	
			ドイツ語中級Ⅱ	○	2			○								1	
			ドイツ語中級Ⅲ	○	2			○								1	
			フランス語初級前期	○	4			○			2						
			フランス語初級後期	○	4			○			2						
フランス語中級Ⅰ			○	2			○			1							
フランス語中級Ⅱ			○	2			○									1	
フランス語中級Ⅲ			○	2			○									1	
中国語初級前期			○	4			○			1		1				1	
中国語初級後期			○	4			○			1		1				1	
中国語中級Ⅰ			○	2			○									1	
中国語中級Ⅱ			○	2			○									1	
中国語中級Ⅲ			○	2			○									1	
英会話Ⅰ			○	2			○					1					
英会話Ⅱ			○	2			○					1					
英作文			○	2			○			1		1					
時事英語	○	2			○			1									
英米事情	○	2			○			1									
	小計(20科目)	—	0	52	0				6	1	2	0	0	5	—		
講読系	講読系	必読名著	○	2			○				2						
		英語専門文献読解	○	2			○			1							
		ドイツ語文献読解(基礎)	○	2			○				1				1		
		ドイツ語文献読解(展開)	○	2			○										
		フランス語文献読解(歴史)	○	2			○			1							
		フランス語文献読解(文化)	○	2			○			1							
		くずし字(変体仮名)	○	2			○				1						
		くずし字(基礎)	○	2			○				1						
		くずし字(展開)	○	2			○				1						
		古文	○	2			○				1				1		
		明治文学講読	○	2			○			1							
		アジア・アフリカ・オセアニア民族誌講読	○	2			○				1						
		中国漢文(基礎)	○	2			○			1							
		中国漢文(展開)	○	2			○				1						
		変体漢文(基礎)	○	2			○					1					
		変体漢文(展開)	○	2			○			1							
ラテン語(基礎)	○	2			○				1								
ラテン語(展開)	○	2			○				1								
ギリシア語(基礎)	○	2			○			1									
ギリシア語(展開)	○	2			○			1									
課題の発見と検証	○	2			○				1								
	小計(21科目)	—	0	42	0				7	11	1	0	0	2	—		
実習系	実習系	量的調査データ解析法入門	○	2			○			1							
		量的調査データ解析法基礎	○	2			○				1						
		質的調査データ解析法	○	2			○			1							
		図学	○	2			○				1						
		音声学	○	2			○				1						
		論理	○	2			○			1							
		情報処理(言語情報)	○	2			○				1						
		スピリチュアリティ	○	2			○			1							
		図書館概論	○	2			○				1						
	小計(9科目)	—	0	18	0				4	4	0	0	0	0	—		
PBL系	PBL系	感性と表現(伝承文化の解説)	○	2			○				1						
		感性と表現(現代文化の解説)	○	2			○			2	1						
		野外調査	○	2			○			1	3	2					
		言語と人間	○	2			○				1						
		哲学と人間	○	2			○			1	3						
		宗教と人間	○	2			○			1							
		民俗と人間	○	2			○			1							
		インターンシップ	○	1			○			1							
インターンシップ	○	2			○			1									
	小計(9科目)	—	0	17	0				5	8	2	0	0	0	—		









演習	現代社会学基礎演習(コミュニティ論)	3 前	○	2	○	1								
	現代社会学発展演習(コミュニティ論)	3 後	○	2	○	1								
	現代社会学基礎演習(地域福祉論)	3 前	○	2	○	1								
	現代社会学発展演習(地域福祉論)	3 後	○	2	○	1								
	社会心理学基礎演習(コミュニケーション論)	3 前	○	2	○	1								
	社会心理学発展演習(コミュニケーション論)	3 後	○	2	○	1								
	社会心理学基礎演習(社会問題論)	3 前	○	2	○			1						
	社会心理学発展演習(社会問題論)	3 後	○	2	○			1						
	民俗学・文化人類学基礎演習(現代民俗論)	3 前	○	2	○	1								
	民俗学・文化人類学発展演習(現代民俗論)	3 後	○	2	○	1								
	民俗学・文化人類学基礎演習(生活文化論)	3 前	○	2	○				1					
	民俗学・文化人類学発展演習(生活文化論)	3 後	○	2	○				1					
	民俗学・文化人類学基礎演習(現代民族論)	3 前	○	2	○				1					
	民俗学・文化人類学発展演習(現代民族論)	3 後	○	2	○				1					
	現代社会学卒論基礎演習(コミュニティ論)	4 前	○	2	○	1								
	現代社会学卒論発展演習(コミュニティ論)	4 後	○	2	○	1								
	現代社会学卒論基礎演習(地域福祉論)	4 前	○	2	○	1								
	現代社会学卒論発展演習(地域福祉論)	4 後	○	2	○	1								
	社会心理学卒論基礎演習(コミュニケーション論)	4 前	○	2	○	1								
	社会心理学卒論発展演習(コミュニケーション論)	4 後	○	2	○	1								
	社会心理学卒論基礎演習(社会問題論)	4 前	○	2	○				1					
	社会心理学卒論発展演習(社会問題論)	4 後	○	2	○				1					
	民俗学・文化人類学卒論基礎演習(現代民俗論)	4 前	○	2	○	1								
	民俗学・文化人類学卒論発展演習(現代民俗論)	4 後	○	2	○	1								
	民俗学・文化人類学卒論基礎演習(生活文化論)	4 前	○	2	○					1				
	民俗学・文化人類学卒論発展演習(生活文化論)	4 後	○	2	○					1				
	民俗学・文化人類学卒論基礎演習(現代民族論)	4 前	○	2	○					1				
	民俗学・文化人類学卒論発展演習(現代民族論)	4 後	○	2	○					1				
	卒業論文	現代社会学卒業論文	4 通	○	8	○	1						1	
		社会心理学卒業論文	4 通	○	8	○	1	1						
民俗学・文化人類学卒業論文		4 通	○	8	○	1	2							
特殊講義	日本語特殊講義(古代語)	3 前	○	2	○				1					
	日本語特殊講義(現代語)	2 後	○	2	○				1					
	日本文学特殊講義(中古)	3 前	○	2	○							1		
	日本文学特殊講義(近世)	3 前	○	2	○					1				
	日本文学特殊講義(近代)	3 前	○	2	○									
	日本文学特殊講義(近現代)	2 後	○	2	○	1					1			
	中国語特殊講義(中国の諸言語)	2 後	○	2	○								1	
	中国文学特殊講義	3 前	○	2	○									
講義	日本語基礎講義(古代語)	3 前	○	2	○					1				
	日本語発展講義(古代語)	3 後	○	2	○					1				
	日本語基礎講義(現代語)	2 後	○	2	○				1					
	日本語発展講義(現代語)	3 前	○	2	○				1					
	日本文学基礎講義(中古)	3 前	○	2	○								1	
	日本文学発展講義(中古)	3 後	○	2	○								1	
	日本文学基礎講義(近世)	3 前	○	2	○						1			
	日本文学発展講義(近世)	3 後	○	2	○						1			
	日本文学基礎講義(近代)	2 後	○	2	○				1					
	日本文学発展講義(近代)	3 前	○	2	○				1					
	日本文学基礎講義(近現代)	2 後	○	2	○							1		
	日本文学発展講義(近現代)	3 前	○	2	○							1		
	中国語講義(音声)	3 前	○	2	○								1	
	中国文学講義	3 前	○	2	○				1					
演習	日本語演習(古代語)	3 後	○	2	○					1				
	日本語演習(現代語)	3 後	○	2	○					1				
	日本文学演習(中古)	3 後	○	2	○				1					
	日本文学演習(近世)	3 後	○	2	○						1			
	日本文学演習(近代)	3 後	○	2	○				1					
	日本文学演習(近現代)	3 後	○	2	○							1		
	中国語演習	3 後	○	2	○								1	
	中国文学演習	3 後	○	2	○				1					
	日本語卒論基礎演習	4 前	○	2	○	1				1				
	日本語卒論発展演習	4 後	○	2	○	1				1				
	日本文学卒論基礎演習	4 前	○	2	○	2				1				
	日本文学卒論発展演習	4 後	○	2	○	2				1				
	中国語卒論基礎演習	4 前	○	2	○								1	
	中国語卒論発展演習	4 後	○	2	○								1	
中国文学卒論基礎演習	4 前	○	2	○				1						
中国文学卒論発展演習	4 後	○	2	○				1						
卒業論文	日本語卒業論文	4 通	○	8	○	1	1							
	日本文学卒業論文	4 通	○	8	○	2	1		1					
	中国語卒業論文	4 通	○	8	○	1								
	中国文学卒業論文	4 通	○	8	○	1								

欧米 言語 文学 コース	特殊 講義	英語学特殊講義(統語論)	3 前	○	2	○	1												
		英語学特殊講義(形態・音韻論)	3 後	○	2	○	1												
		英語学特殊講義(意味論)	3 前	○	2	○	1												
		英文学特殊講義(イギリス)	3 後	○	2	○	1												
		英文学特殊講義(アメリカ)	3 前	○	2	○	1												
		比較文化特殊講義	3 前	○	2	○	1			1									
		欧州語比較・対照言語学特殊講義(独語系)	2 後	○	2	○	1												
		欧州語比較・対照言語学特殊講義(仏語系)	2 後	○	2	○	1												
		欧州文学・比較文学特殊講義(仏語系)	2 後	○	2	○	1												
		言語学特殊講義(言語学)	3 前	○	2	○	1				1								
	言語学特殊講義(言語情報学)	2 後	○	2	○	1				1									
	講 読	英語学講読(統語論)	2 後	○	2	○	1												
		英語学講読(形態・音韻論)	3 前	○	2	○	1												
		英語学講読(意味論)	3 後	○	2	○	1												
		英文学講読(イギリス)	3 前	○	2	○	1												
		英文学講読(アメリカ)	2 後	○	2	○	1												
		比較文化講読	2 後	○	2	○	1			1									
		欧州文学・比較文学講読(独語系)	2 後	○	2	○	1											1	
	欧州文学・比較文学講読(仏語系)	3 前	○	2	○	1													
演 習	英語学演習(統語論)	3 前	○	2	○	1													
	英語学演習(形態・音韻論)	3 後	○	2	○	1													
	英語学演習(意味論)	3 前	○	2	○	1							1						
	英文学演習(イギリス)	2 後	○	2	○	1													
	英文学演習(アメリカ)	3 前	○	2	○	1													
	比較文化演習	3 前	○	2	○	1								1					
	欧州語比較・対照言語学演習(独英語)	3 前	○	2	○	1							1						
	欧州語比較・対照言語学演習(ゲルマン諸語)	3 後	○	2	○	1							1						
	欧州語比較・対照言語学演習(仏英語)	3 前	○	2	○	1													
	欧州語比較・対照言語学演習(ロマンス諸語)	3 後	○	2	○	1													
	欧州文学・比較文学演習(仏語系)	3 後	○	2	○	1													
	欧州文学・比較文学演習(仏語系・古典文学)	3 前	○	2	○	1													
	欧州文学・比較文学演習(仏語系・近現代文学)	3 前	○	2	○	1													
	言語学演習(フィールド言語学)	3 後	○	2	○	1								1					
	言語学演習(言語類型論)	3 前	○	2	○	1								1					
	言語学演習(形態論)	3 前	○	2	○	1								1					
	言語学演習(統語論)	3 前	○	2	○	1								1					
	言語学演習(音声学・音韻論)	3 後	○	2	○	1								1					
	言語学演習(意味論)	3 後	○	2	○	1								1					
	言語学演習(言語情報学)	2 後	○	2	○	1								1					
	英語学卒論基礎演習	4 前	○	2	○	3													
	英語学卒論発展演習	4 後	○	2	○	3								1					
	英文学卒論基礎演習	4 前	○	2	○	2								1					
	英文学卒論発展演習	4 後	○	2	○	2								1					
	欧州語比較・対照言語学卒論基礎演習	4 前	○	2	○	1													
	欧州語比較・対照言語学卒論発展演習	4 後	○	2	○	1													
	欧州文学・比較文学卒論基礎演習	4 前	○	2	○	1													
欧州文学・比較文学卒論発展演習	4 後	○	2	○	1														
言語学卒論基礎演習	4 前	○	2	○	1								1						
言語学卒論発展演習	4 後	○	2	○	1								1						
卒 業 論 文	英語学卒業論文	4 通	○	8	○	1							1						
	英文学卒業論文	4 通	○	8	○	2			1										
	欧州語比較・対照言語学卒業論文	4 通	○	8	○	1			1										
	欧州文学・比較文学卒業論文	4 通	○	8	○	1													
言語学卒業論文	4 通	○	8	○	1				1										
小計(270科目)	—		0	664	0				13	13	5	0	0	0			—		



(4) コース別専門科目 28 単位以上  
 2 年次に履修する授業科目を除いて、指導大学教育職員が指定する授業科目を修得  
 (哲学コース)  
 ・特殊講義 4～8 単位  
 ・講読 4～8 単位  
 ・演習 8～12 単位  
 ・卒業論文 8 単位  
 (歴史学コース)  
 ・特殊講義 4～8 単位  
 ・講読及び実習 6～10 単位  
 ・演習 6～10 単位  
 ・卒業論文 8 単位  
 (社会学コース)  
 ・特殊講義及び講読 4～12 単位  
 ・実習及び演習 8～16 単位  
 ・卒業論文 8 単位  
 (日本・中国言語文学コース / 欧米言語文学コース)  
 ・特殊講義 6～14 単位  
 ・講読及び演習 6～14 単位  
 ・卒業論文 8 単位

(5) 自由選択科目 26 単位以上  
 自由選択科目となる授業科目及び単位数  
 ・上記(2)～(4)の指定単位を超過して修得した単位数  
 ・資格取得に必要な授業科目のうち、進級及び卒業に必要な単位数に算入できる単位数  
 ・他学部開講の授業科目のうち、指定した授業科目及び単位数  
 ・他大学、他機関等で修得した授業科目のうち、本学部で「認定科目(専門)」として認定された単位数

[3 年次進級要件]  
 2 年次終了までに、希望する専門分野の分野入門から、1 科目 2 単位修得したうえ、共通教育科目及び専門科目から、58 単位以上を修得する。

1 時限の授業の標準時間	90 分
--------------	------

教 育 課 程 等 の 概 要

教育学部 学校教育教員養成課程

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
教 養 コ ア	基礎セミナー	1前		2			○			31	21	15				※演習 オムニバス	
	データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○								1		
	データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○								1		
	知的財産入門	1前		1			○								1		
	運動健康科学	1前		1			○								1		
	山口と世界	1後		1			○								1		
	知の広場	1前		1			○								1		
	キャリア教育	1後		1				○		3	2	3				※講義 共同	
小計（8科目）	—	—	—	9	0	0	—	—	31	22	15	0		6			
英 語	英語Ⅰa	1前			2		○								1		
	英語Ⅱa	1前			2		○								1		
	英語Ⅰb	1後			2		○								1		
	英語Ⅱb	1後			2		○								1		
	英語会話Ⅰa	1前			1		○								1		
	英語会話Ⅱa	1前			1		○								1		
	英語会話Ⅰb	1後			1		○								1		
	英語会話Ⅱb	1後			1		○								1		
小計（8科目）	—	—	—	0	12	0	—	—	0	0	0	0		2			
一 般 教 養	人 文 教 養	哲学	1後		1		○								1		
		歴史学	1後		1		○								1		
		社会学	1前		1		○								1		
		小計（3科目）	—	—	—	3	0	0	—	—	0	0	0	0	3		
	社 会 教 養	経済と法1	1前		1			○								1	
		経済と法2	1後		1			○								1	
		経済と法3	1後		1			○								1	
	小計（3科目）	—	—	—	3	0	0	—	—	0	0	0	0	3			
	自 然 教 養	自然科学1	1前		1			○								1	
		自然科学2	1前		1			○								1	
	小計（2科目）	—	—	—	2	0	0	—	—	0	0	0	0	2			
	学 際 的 教 養	人間の発達と育成1	1前		1			○			1						
		文化の継承と創造1	1前		1			○			1						
		社会と医療	1後		1			○								1	
		環境と人間	1前		1			○								1	
食と生命		1前		1			○								1		
小計（5科目）	—	—	—	5	0	0	—	—	2	0	0	0	3				
専 門 基 礎	理 系 基 礎	数学Ⅰ	1前			2		○									
		数学Ⅱ	1後			2		○			1						
	小計（2科目）	—	—	—	0	4	0	—	—	1	1	0	0				
教 職 基 礎	日本国憲法	1前		2			○			1							
	スポーツ運動実習	1後		1				○		1							
小計（2科目）	—	—	—	3	0	0	—	—	2	0	0	0					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹(助 手以 外の 教員)		
専門科目	教科に関する専門的事項(小)	初等科国語	2後	○		2		○			1	1	1				オムニバス	
		初等科社会	1後	○		2		○			2	2	2				2クラス	
		初等科数学	2前	○		2		○			2	1					オムニバス	
		初等科理科	2前	○		2		○			1						オムニバス	
		初等科生活	3前	○		2			○			1			1		2クラス	
		初等科音楽	2後	○		2			○		2						2クラス	
		小学校歌唱伴奏法	4前	○		2				○			1		2		オムニバス	
		初等科図画工作	2前	○		2			○		3	1					オムニバス	
		初等科体育	2前	○		2				○	2				2		共同	
		初等科家庭	2前	○		2				○	1	2					2クラス	
		初等科英語	3後	○		2				○	2	1					オムニバス	
小計(11科目)	—	—	0	22	0			—	16	9	4	0		5				
各教科の指導法(小)	教科教育法国語	2後	○		2			○						1		2クラス		
	教科教育法社会	2後	○		2			○			1					2クラス		
	教科教育法算数	3前	○		2			○		1								
	教科教育法理科	3前	○		2			○		4	1					オムニバス		
	教科教育法生活	3前	○		2			○			1					2クラス		
	教科教育法音楽	3前	○		2				○	1								
	教科教育法図画工作	2後	○		2				○	1						2クラス		
	教科教育法体育	2後	○		2				○		1	1				2クラス		
	教科教育法家庭	2後	○		2				○			1				2クラス		
	教科教育法英語	3前	○		2				○		1					共同		
	小計(10科目)	—	—	0	20	0			—	7	5	2	0		1		2クラス	
教科及び教科の指導法に関する専門的事項(中・高)	国語学	国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)	2前	○		2		○			1							
		国語史	2後	○		2		○			1							
		国語学特講	4前	○		2					1							
		国語学演習	3後	○		2				○	1							
		国語特演Ⅰ	2前	○		2				○	1	1	1				3クラス	
		国語特演Ⅱ	2後	○		2				○	1	1	1				3クラス	
		国語特論Ⅰ	4前	○		2				○	1	1	1				3クラス	
		国語特論Ⅱ	4後	○		2				○	1	1	1				3クラス	
	小計(8科目)	—	—	0	16	0			—	1	1	1	0		0			
	国文学	国文学基礎講読	1前	○		2			○							1		
		国文学概論(国文学史を含む。)	2前	○		2			○				1					
		国文学講読Ⅰ	2後	○		2			○				1					
		国文学講読Ⅱ	3前	○		2			○				1					
		国文学演習Ⅰ	3後	○		2				○			1					
		国文学演習Ⅱ	2後	○		2				○					1			
	小計(6科目)	—	—	0	12	0			—	1	0	1	0		1			
	漢文学	漢文学講読	1後	○		2			○			1						
		漢文学概論	2前	○		2			○			1						
		漢文学演習	3前	○		2				○		1						
	小計(3科目)	—	—	0	6	0			—	0	1	0	0	0				
	書道	書道Ⅰ	1前	○		1					1							
		書道Ⅱ	1後	○		1					1							
		小計(2科目)	—	—	0	2	0			—	1	0	0	0	0			
	日本史・外国史	日本史Ⅰ	2前	○		2			○			1						
		日本史Ⅱ	2後	○		2			○			1						
		日本史演習	3前	○		2					1							
		社会科学特別研究AⅠ	3後	○		2				○		1	2					
		外国史Ⅰ	2前	○		2			○				1					
外国史Ⅱ		2後	○		2			○				1						
外国史演習		3前	○		2				○			1						
小計(7科目)	—	—	0	14	0			—	2	1	2	0						
地理学	自然地理学	2後	○		2			○			1							
	人文地理学	2前	○		2			○						1				
	地理学演習	3前	○		2				○		1							
	地理学実習	3前	○		1					1								
	地理学巡検	3後	○		1					1								
	地域人文地理学	2後	○		2				○		1							
	地理学概論	2前	○		2				○		1							
	社会科学特別研究AⅡ	4前	○		2				○		2	2						
小計(8科目)	—	—	0	14	0			—	2	1	2	0		1				
法学、政治学	日本国憲法	2後	○		2			○			1							
	現代法(国際法を含む。)	2前	○		2			○			1							
	法学演習	3前	○		2				○		1							
	社会科学特別研究BⅡ	4前	○		2				○		2	1	2					
	小計(4科目)	—	—	0	8	0			—	3	1	2	0		0			

社会学、 経済学	社会学	2前	○		2		○	○							1						
	社会調査論	2後	○		2										1						
	経済概論	2前	○		2		○								1						
	経済政策（国際経済を含む。）	2後	○		2		○								1						
	社会科基礎演習	1後	○		2			○							2	1	2				
小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2	2	0			1	
哲学、 宗教学、 倫理学	哲学倫理学Ⅰ	1前	○		2		○														
	哲学倫理学Ⅱ	2後	○		2		○														
	哲学倫理学演習	3前	○		2																
	社会科特別研究BⅠ	3後	○		2			○							2	1	2				
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	2	0			0
代数学	代数学Ⅰ	2前	○		2		○								1						
	代数学Ⅱ	2後	○		2		○								1						
	代数学Ⅲ	3前4前	○		2		○								1						
	数学講究Ⅰ	1後	○		2		○								1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	0	0			0
幾何学	幾何学Ⅰ	2前	○		2		○														
	幾何学Ⅱ	2後	○		2		○								1						
	幾何学Ⅲ	3前4前	○		2		○								1						
	集合論Ⅰ	1前	○		2		○								1						
	集合論Ⅱ	1後	○		2		○								1						
小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0	0	0			1	
解析学	解析学Ⅰ	2前	○		2		○								1						
	解析学Ⅱ	2後	○		2		○								1						
	解析学Ⅲ	3後4後	○		2		○								1						
	数学講究Ⅱ	2後	○		2		○								1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	0			0
確率論、 統計学	確率・統計学	3前	○		2		○									1					
	数学講究Ⅲ	3後	○		2		○								1						
小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	0	0			0	
コンピ ュー タ	計算機概論	1前	○		2		○								1						
	計算機数学Ⅰ	3後4後	○		2		○								1						
	計算機数学Ⅱ	3前4前	○		2		○									1					
	計算機数学Ⅲ	3後4後	○		2		○								1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1	0	0			0
物理学	物理学概論Ⅰ	1前	○		2		○								1						
	物理学概論Ⅱ	2前	○		2		○								1						
	物理学演習	3後	○		2				○						1						
	物理学実験	2後	○		1					○					2						
	小計（4科目）	—	—	0	7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0	0	0			0
化学	化学概論Ⅰ	1後	○		2		○								1						
	化学概論Ⅱ	2前	○		2		○								1						
	化学演習	3後	○		2				○						1						
	化学実験	2後	○		1					○					1						2
	小計（4科目）	—	—	0	7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0	0	0			2
生物学	生物学概論	1後	○		2		○								1	1					
	生化学	2後	○		2		○								1						
	発生生物学	3前	○		2		○									1					
	環境生物学	3前	○		2		○								1						
	生物学演習	3後	○		2				○						1	1					
	生物学実験	2前	○		1					○					1	1					
	小計（6科目）	—	—	0	11	0	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	0	0			0
地学	地学概論Ⅰ	2前	○		2		○														
	地学概論Ⅱ	3後	○		2		○														
	地学演習	2後	○		2				○												
	地学実験	2前	○		1					○											
	小計（4科目）	—	—	0	7	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0			1
ソ ル フ ェ ー ジ ュ	ソルフェージュ	1後	○		2										1	1					
	小計（1科目）	—	—	0	2	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	1	1	0			0
声 楽	独唱Ⅰ	1前	○		1																
	独唱Ⅱ	1後	○		2																
	独唱Ⅲ	2前	○		2																
	独唱Ⅳ	2後	○		2																
	合唱Ⅰ（日本の伝統的な歌唱を含む。）	1後	○		2																
	合唱Ⅱ	2後	○		2																
	合唱Ⅲ	4後	○		2																
小計（7科目）	—	—	0	13	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0			0	





材料加工	製図	1後	○		2			○	○	1		1						共同 隔年 隔年 共同 ※講義 オムニバス オムニバス	
	材料加工Ⅰ（実習を含む。）	2前	○		2					1									
	木材加工演習	2後3後	○		2			○		1									
	総合技術Ⅰ	2後3後	○		2			○		1	1								
	金属材料学	2前	○		2			○		1			1						
	材料加工Ⅱ（実習を含む。）	3前	○		2				○	2	1	1							
小計（6科目）	—	—	0	12	0			—	2	1	1	0				0			
機械・電気	機械工学Ⅰ	2前	○		2			○		1								隔年 共同 ※講義	
	機械工学Ⅱ	2後	○		2			○		1									
	応用機械（実習を含む。）	3前	○		2					1									
	総合技術Ⅱ	3後4後	○		2			○		1	1								
	電子回路学	2後	○		2			○					1						
	電気回路学	2前	○		2			○					1						
応用電気（実習を含む。）	3前	○		2				○				1							
小計（7科目）	—	—	0	14	0			—	1	1	1	0				0			
生物育成	生物育成（実習を含む。）	2前	○		2												2	オムニバス	
	農業環境論	3前	○		2			○									1		
	小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	0	0	0	0				3		
情報とコミュニケーション	情報処理論（実習を含む。）	1前	○		2					1								隔年	
	情報基礎Ⅰ	1後	○		2			○		1									
	情報基礎Ⅱ	2前3前	○		2				○	1									
小計（3科目）	—	—	0	6	0			—	1	0	0	0				0			
家庭経営学	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	1前	○		2			○				1						※演習	
	生活科学論	2後	○		2			○			1								
	小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	0	1	1	0				0		
被服学	衣生活環境論	1前	○		2			○		1							※1	※実習	
	衣料素材論Ⅰ	2前	○		2			○		1									
	衣料素材論Ⅱ	2後	○		2			○		1									
	被服造形論（被服実習を含む。）	2前	○		2			○								1			
	被服学実験	3前	○		1					1									
	小計（5科目）	—	—	0	9	0			—	1	0	0	0				1		
食物学	食文化論	1前	○		2			○									1	※1	隔年 ※実習 隔年 ※実習 隔年 隔年
	食品衛生学	1後2後	○		2			○			1								
	栄養学Ⅰ	2前	○		2			○			1							※1	
	栄養学Ⅱ	2後3後	○		2			○			1								
	調理学実習Ⅰ	1後	○		1						1								
	調理学実習Ⅱ	2前3前	○		1						1								
	食品科学	2後	○		2			○								1			
	食品栄養学実験	2前3前	○		1						1								
	小計（8科目）	—	—	0	13	0			—	0	1	0	0				1		
住居学	住生活科学概論	1後	○		2			○			1							※1	
	住居学（製図を含む。）	2前	○		2					1									
	小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	0	1	0	0				0		
保育学	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	2後	○		2			○		2								※1	オムニバス ※実習
	保育学演習	3前	○		2			○									1	※1	
	小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	2	0	0	0				1		
英語学	実践英語音声学	1前	○		2			○				1						隔年 隔年	
	言語学概論Ⅰ	2前	○		2			○				1							
	言語学概論Ⅱ	2後	○		2			○				1							
	英語史Ⅰ	2前3前	○		2			○				1							
	英語史Ⅱ	2後3後	○		2			○				1							
	英文法演習	2後	○		2				○			1							
	英語学演習	4前	○		2			○				1							
小計（7科目）	—	—	0	14	0			—	0	0	1	0				0			
英語文学	英語文学概論	2前	○		2			○		1									
	英語文学講義	2後	○		2			○		1									
	英語文学の地域と文化	1後	○		2			○		1									
	英語文学演習	3前	○		2				○	1									
	小計（4科目）	—	—	0	8	0			—	1	0	0	0				0		
英語コミュニケーション	実践総合英語Ⅰ	1後	○		2			○				1						2クラス 2クラス	
	実践総合英語Ⅱ	2前	○		2			○				1							
	実践総合英語Ⅲ	2後	○		2			○				1							
	英語表現Ⅰ	2前	○		2			○				1							
	英語表現Ⅱ	2後	○		2			○				1							
	小計（5科目）	—	—	0	10	0			—	0	0	1	0				0		
異文化理解	日本語の文化と英語の文化	1後	○		2			○		1									
	英語文化と言語	3後	○		2			○		1									
	小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	1	0	0	0				0		

情報社会を含む 職業に 関する 情報学	情報社会概論 (情報倫理を含む。)	3後	○		2	○									1	
	情報職業論	2前	○		2	○									1	
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0		2	
コン ピュー ター 理 論	情報科学概論 (実習を含む。)	2前	○		2	○				1						※実習
	情報処理論 I (実習を含む。)	2前	○		4	○				1						※実習
	計算機アルゴリズム (実習を含む。)	3前	○		2	○					1					※実習
	教育情報処理論 (実習を含む。)	2後	○		2	○				1						※実習
	小計 (4科目)	—	—	0	10	0	—			2	1	0	0		0	
情報 システ ム	データベース概論 (実習を含む。)	3前	○		2	○				1						※実習
	教育情報システム論	2後	○		2	○				1						
	情報処理演習	2後	○		2	○		○				1				
	小計 (3科目)	—	—	0	6	0	—			2	0	1	0		0	
情 報 通 信 網 絡	情報通信ネットワーク論 (実習を含む。)	1後	○		2	○					1					※実習
	グラフ・ネットワーク論	3後	○		2	○					1					
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—			0	1	0	0		0	
マ ル チ メ デ ィ ア 表 現	マルチメディア概論 (実習を含む。)	2前	○		2	○				1						※実習
	情報処理論 II (実習を含む。)	2後	○		4	○				1						※実習
	視覚伝達デザイン	3後	○		2	○				1						
	小計 (3科目)	—	—	0	8	0	—			2	0	0	0		0	
中 学 校 指 導 法 ( 中 ・ 高)	国 語	国語科教育法 I	2後	○		2	○								1	
		国語科教育法 II	3前	○		2	○								1	
		国語科教育法 III	3前	○		2	○								1	
		国語科教育法 IV	3後	○		2	○								1	
		小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	0	0	0		1
	社 会	中等地理歴史教育論 I	2後	○		2	○								1	
		中等公民教育論 I	2前	○		2	○				1					
		中等地理歴史教育論 II	3後	○		2	○								1	
		中等公民教育論 II	3後	○		2	○				1					
		小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	1	0	0		1
	数 学	数学科教育法 I	2前	○		2	○								1	
		数学科教育法 II	2後	○		2	○								1	
数学科教育法 III		3前	○		2	○								1		
数学科教育法 IV		3後	○		2	○								1		
小計 (4科目)		—	—	0	8	0	—			0	0	0	0		1	
理 科	理科教育法 I	2前	○		2	○				1						オ ム ニ バ ス
	理科教育法 II	2後	○		2	○				3	1					
	理科教育法 III	3前	○		2	○				1						
	理科教育法 IV	3後	○		2	○				1						
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			4	1	0	0		0	
音 楽	音楽科教育法 I	2後	○		2	○				1						
	音楽科教育法 II	3前	○		2	○				1						
	音楽科教育法 III	3後	○		2	○				1						
	音楽科教育法 IV	4前	○		2	○				1						
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			1	0	0	0		0	
美 術	美術科教育法 I	3前	○		2	○				1						
	美術科教育法 II	3前	○		2	○				1						
	美術科教育法 III	3後	○		2	○				1						
	美術科教育法 IV	3後	○		2	○				1						
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			1	0	0	0		0	
保 健 体 育	保健体育科教育法 I	2前	○		2	○						1				
	保健体育科教育法 II	2後	○		2	○						1				
	保健体育科教育法 III	3前	○		2	○				1						
	保健体育科教育法 IV	3後	○		2	○						1				
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	1	1	0		0	
技 術	技術科教育法 I	2後	○		2	○					1	1				共同 ※講義
	技術科教育法 II	3前	○		2	○					1	1				共同 ※講義
	技術科教育法 III	3前	○		2	○					1					※講義
	技術科教育法 IV	3後	○		2	○					1					※講義
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	1	1	0		0	
家 庭	家庭科教育法 I	2前	○		2	○						1				※演習
	家庭科教育法 II	2後	○		2	○						1				※演習
	家庭科教育法 III	3前	○		2	○						1				※演習
	家庭科教育法 IV	3後	○		2	○					1					※演習
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			0	1	1	0		0	
英 語	英語科教育概論	2後	○		2	○					1					
	実践英語科教育法	3前	○		2	○				1						
	英語科教育法 I	3前	○		2	○				1						
	英語科教育法 II	3後	○		2	○				1						
	英語科教育法 III	4前	○		2	○					1					
	小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—			1	1	0	0		0	

	情報	情報科教育法Ⅰ	2後	○		2		○			1						メディア	
		情報科教育法Ⅱ	3前	○		2		○			1					2	メディア	
		小計(2科目)	—	—	0	4	0	—			1	0	0	0		2	オムニバス	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と健康	2前	○		1		○					1				※演習	
		幼児と人間関係	1後	○		1		○			2						オムニバス	
		幼児と環境	1後	○		1		○			1		1				※演習	
		幼児と言葉	2前	○		1		○			1						共同	
		幼児と表現	1後③	○		1		○			1	1					※演習	
	保育内容の指導法	保育内容総論	1後	○		2		○			1							※演習
		保育内容人間関係	2前	○		2		○			1							※演習
		保育内容環境	2前	○		2		○			1							※演習
		保育内容健康	2後	○		2		○				1						※演習
		保育内容言葉	2後	○		2		○			1							※演習
表現指導法Ⅰ(音楽表現)	3前	○		2		○	○			1						※演習		
表現指導法Ⅱ(造形表現)	2後	○		2		○	○			1						※演習		
総合表現指導法(身体表現を含む)	2前	○		2		○	○			1						※演習		
小計(5科目)	—	—	0	5	0	—				4	1	2	0		0			
特別支援教育に関する科目	特別支援教育総論	特別支援教育総論	2前	○		2		○			2	1	0	0		0		
		障害者福祉総論	1後	○		2		○				1						
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—			0	1	0	0		0			
	特別支援教育領域に関する科目	知的障害心理学	2後③	○		1		○			1							オムニバス
		知的障害生理・病理学	1後④	○		1		○				1				4	隔年	
		運動障害心理・生理・病理学	1前2前	○		2		○								1	メディア	
		病弱心理・生理・病理学	1前2前	○		2		○								1	隔年	
		特別支援教育の心理アセスメント	2後	○		2		○				1					共同	
		特別支援教育心理学演習	2後	○		2		○	○		1							
		特別支援教育研究法	3後	○		2		○			1	1						
		知的障害教育	3前	○		2		○				1						
		運動障害教育	1前2前	○		2		○								1	隔年	
		病弱教育	1前2前	○		2		○								1	隔年	
	自立活動指導論	3後	○		2		○					1				メディア		
	特別支援教育実践論	4前	○		2		○				1							
小計(12科目)	—	—	0	22	0	—			1	2	0	0		7				
教員免許状に領域となる定め以外の特別支援領域に関する科目	視覚障害教育総論	1後2後	○		1		○								1	隔年		
	聴覚障害教育総論	1後2後	○		1		○								1	隔年		
	重複障害教育総論	3前①	○		1		○			1								
	L D等教育総論	3前	○		2		○			1								
	発達障害の臨床心理	4前	○		2		○				1							
小計(5科目)	—	—	0	7	0	—			1	1	0	0		2				
実教育	教育実習	3前	○		3		○		1									
小計(1科目)	—	—	0	3	0	—			1	0	0	0		0				
教育の基礎的理解に関する科目等	幼・小・中	教育原論	1前	○		2		○							1		2クラス	
		教育哲学	1後	○		2		○					1					
		教育の思想と歴史	2後	○		2		○							1			
		教職概論	1前	○	2		○			1	3	3					2クラス	
		教育社会学	2前	○		2		○					1				オムニバス・共同	
		教育制度	2後	○		2		○			1						※演習	
		教育法規	2前	○		2		○			1							
		社会教育	2前	○		2		○							1			
		国際理解教育概説	2後	○		2		○			1							
		教育場面の心理学	2前①②	○	1		○					2	1				2クラス	
	特別支援教育	2前①②	○	1		○					1					共同		
	教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)	2前	○		2		○							1		2クラス		
	小計(12科目)	—	—	4	18	0	—			3	6	5	0		3			
	幼	幼児教育課程論	3前	○		2		○			1							
		小計(1科目)	—	—	0	2	0	—			1	0	0	0		0		
小・中	道徳教育	3前	○		2		○					1					2クラス	
	総合的な学習の時間指導法	3後④	○		1		○				1							
	特別活動	2後③	○		1		○							1				
	教育方法学	2前	○		1		○					1						
	授業におけるICT活用	2前	○		1		○			1								
	教育方法の研究	3前	○		1		○					1						
	ICT活用の理論と実践	3前	○		1		○			1								
	生徒指導概論	2前	○		2		○					1						
	教育相談・進路指導	3前	○		2		○			1	1				1			
	小計(9科目)	—	—	0	12	0	—			2	2	2	0		2			
幼	幼児教育方法技術	3前	○		2		○			1	1							
	幼児心理学	1後	○		2		○			1								
	保育カウンセリング	3前	○		2		○			1						※演習		
小計(3科目)	—	—	0	6	0	—			1	1	0	0		0				



教育学	教育学基礎	教育学研究法Ⅰ	1後	○		2		○				3			1	共同 ※演習 2クラス 共同 2クラス 共同	
		教育学研究法Ⅱ	4後	○		2			○				3				
		教職のための教育学Ⅰ	2前	○		2				○			3				
		教職のための教育学Ⅱ	3前	○		2				○			3				
		小計(4科目)	—	—	0	8	0		—			0	0	3	0		1
	教育パラダイム系	教育哲学演習Ⅰ	2前	○		2			○				1				
		教育哲学演習Ⅱ	3後	○		2				○			1				
		教育史演習Ⅰ	3前	○		2				○					1		
		教育史演習Ⅱ	3後	○		2				○					1		
		小計(4科目)	—	—	0	8	0		—			0	0	1	0	1	
	学校臨床教育学系	教育社会学演習Ⅰ	2後	○		2			○				1				
		教育社会学演習Ⅱ	3後	○		2				○			1				
		教育方法学演習Ⅰ	3前	○		2				○			1				
		教育方法学演習Ⅱ	3後	○		2				○			1				
		教育調査法	3前	○		2		○					1				
小計(5科目)	—	—	0	10	0		—			0	0	2	0	0			
国際理解	国際理解教育論	異文化体験実習	1後	○		1						1				隔年 共同	
		アジアの持続可能な開発	2後	○		2			○			1					
		国際体験実習	2後3後	○		1					○	1	1	1			
		国際理解教育論Ⅱ	3前	○		2			○			1					
		国際理解教育演習	3後	○		2				○		1					
	小計(5科目)	—	—	0	8	0		—			1	1	1	0	0		
	異文化理解	異文化学習論	2前	○		2			○			1					オムニバス
		インターカルチュラル・スタディーズⅠ	1後	○		2			○				1				
		インターカルチュラル・スタディーズⅡ	2前	○		2				○			1	1			
		異文化学習演習	2後	○		2				○			1				
小計(4科目)	—	—	0	8	0		—			1	1	1	0	0			
外国語演習	英語コミュニケーション	1前	○		2			○				1				共同	
	語学教授法演習	3後	○		2						1	1					
小計(2科目)	—	—	0	4	0		—			0	1	1	0	0			
情報	コース指定	情報科授業実践基礎演習	3前	○		2			○		4	1				オムニバス・ 共同	
		教育コンテンツデザイン	3前	○		2			○		1						
小計(2科目)	—	—	0	4	0		—			4	1	0	0	0			
その他の科目	共通	小学校歌唱伴奏法(入門)	2前後	○		2									2	6クラス ※演習 ※演習 2クラス 2クラス 2クラス	
		初習外国語Ⅰ(中国語)	1前	○		2			○			1					
		初習外国語Ⅱ(中国語)	1後	○		2				○		1					
		標準英語A	2前後	○		2				○			1				
		標準英語B	2前後	○		2				○			1				
		標準英語C	2前後	○		2				○			1				
		教育現場における知的財産入門	2前	○		1			○					1			
	小計(7科目)	—	—	0	13	0		—		0	1	0	0	3			
	幼	初等科歌唱伴奏法入門	1後	○		2				○					1	※講義	
		臨床心理学概論	1後	○		2				○		1					
	小計(2科目)	—	—	0	4	0		—		0	1	0	0	1			
	理科	自然科学特論	4後	○		2				○		3	1			オムニバス	
		小計(1科目)	—	—	0	2	0		—		3	1	0	0	0		
	音楽	合唱指導法Ⅰ(演奏マネージメントを含む。)	2前	○		2					○	1				共同 共同	
		合唱指導法Ⅱ(演奏マネージメントを含む。)	3前	○		2					○	1	1				
合唱指導法Ⅲ(演奏マネージメントを含む。)		4前	○		2					○	2						
小計(3科目)		—	—	0	6	0		—		2	1	0	0	0			
研究	卒業研究	4前後	○		5						1						
	小計(1科目)	—	—	—	—	—		—		0	1	0	0	0			
合計(473科目)		—	—					—			32	23	15	0	64		
学位又は称号		学士(教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
(履修科目の登録の上限:各学期30単位(4年次を除く))										1学年の学期区分		2期					
										1学期の授業期間		15週					
										1時限の授業の標準時間		90分					

◎小学校教育コース 小学校総合選修

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と選修で指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から97単位、合計128単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教職実践演習（小）、大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、国際理解教育論I、人権教育、選修指定科目のうち小学校総合の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から97単位（小学校総合選修の必修科目87単位及び選択必修科目6単位を含む。）以上を修得する。

(小学校総合選修の必修科目87単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目20単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教職実践演習（小）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習1単位
- ・選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子ども理解演習、学校心理学、特別支援実践演習、学校課題理解演習、教材・指導法開発演習、協働実践基礎、教職協働実践I、地域教育実践演習、教職協働実践III18単位
- ・卒業研究5単位

(小学校総合選修の選択必修科目6単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上
- ・選修指定科目の小学校総合の授業科目（子どもと健康、学習メディア活用演習、総合学習開発演習）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目								卒業要件総単位数	
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	選 修 指定科目 * 1	その他の 科目・ 自由選択 科目 * 2		卒業 研究
	教科に関する 専門的 事項	各教科 の指導 法	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総合 的な学習の 時間等の指 導法及び生 徒指導、教 育相談等に 関する科目	教育実 践に関 する科 目					
	20 以上	20	10 以上	10 以上	7	1 以上	20 以上	0 以上	5	97

\* 1 「選修指定科目」：選修指定科目のうち小学校総合の授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎小学校教育コース 教育学選修

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と選修で指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から97単位、合計128単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列 (人文教養分野) 3 単位
- ・一般教養系列 (社会教養分野) 3 単位
- ・一般教養系列 (自然教養分野) 2 単位
- ・一般教養系列 (学際的教養分野) 5 単位
- ・教職基礎系列 (教職基礎分野) 3 単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教職実践演習(小)、大学が独自に設定する科目のうち共通の授業科目、選修指定科目のうち教育学の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から97単位(教育学選修の必修科目87単位及び選択必修科目8単位を含む。)以上を修得する。



(教育学選修の必修科目87単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目20単位
- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(初等)Ⅰ, 教職実践演習(小)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究3単位
- ・選修指定科目の教育学の授業科目のうち教育学研究法Ⅰ, 教育学研究法Ⅱ, 教職のための教育学Ⅰ, 教職のための教育学Ⅱ, 教育哲学演習Ⅰ, 教育史演習Ⅰ, 教育社会学演習Ⅰ, 教育方法学演習Ⅰ16単位
- ・卒業研究5単位

(教育学選修の選択必修科目8単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上
- ・選修指定科目の教育学の授業科目(教育哲学演習Ⅱ, 教育史演習Ⅱ, 教育社会学演習Ⅱ, 教育方法学演習Ⅱ, 教育調査法)から4単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目									卒業要件 総単位数
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	選 修 指定科目 * 1	その他の 科目・ 自由選択 科目 * 2	卒業 研究	
	教科に関する専門的事項	各教科の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
	20 以上	20	12 以上	10 以上	7	3 以上	20 以上	0 以上	5	97

\* 1 「選修指定科目」: 選修指定科目のうち教育学の授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」: 学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部, 協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合, 教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎小学校教育コース 国際理解教育選修

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と選修で指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から97単位、合計128単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教職実践演習（小）、大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、国際理解教育論 I、人権教育、選修指定科目のうち国際理解の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）の英語コミュニケーションのうち実践総合英語 I、実践総合英語 II、英語表現 I、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から97単位（国際理解教育選修の必修科目84単位及び選択必修科目10単位を含む。）以上を修得する。

(国際理解教育選修の必修科目84単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目20単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、国際理解教育概説、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）8単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教職実践演習（小）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究3単位
- ・選修指定科目の国際理解の授業科目のうち異文化体験実習、アジアの持続可能な開発、異文化学習論、インターカルチュラル・スタディーズ I、英語コミュニケーション、語学教授法演習11単位
- ・卒業研究5単位

(国際理解教育選修の選択必修科目10単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上
- ・大学が独自に設定する科目及び選修指定科目の国際理解の授業科目（国際体験実習、国際理解教育論 I、国際理解教育論 II、国際理解教育演習）から2単位以上
- ・選修指定科目の国際理解の授業科目（インターカルチュラル・スタディーズ II、異文化学習演習）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）の英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語 I、実践総合英語 II、英語表現 I）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目									卒業要件 総単 位数
	教科及び教科の指 導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独 自に設定 する科目	選 修 指定科目 * 1	その他の 科目 ・ 自由選択 科目 * 2	卒業 研究	
	教科に 関する 専門的 事項	各教科 の指導 法	教育の基 礎的理解 に関する 科目	道徳、総合 的な学習の 時間等の指 導法及び生 徒指導、教 育相談等に 関する科目	教育実 践に関 する科 目					
	92 以上									
	20 以上	20	12 以上	10 以上	7	3 以上	17 以上	0 以上	5	97

\* 1 「選修指定科目」：選修指定科目のうち国際理解の授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ◎幼児教育コース

幼稚園教諭一種免許状を取得するために必要な単位とコースで指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から96単位、合計127単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列 (人文教養分野) 3 単位
- ・一般教養系列 (社会教養分野) 3 単位
- ・一般教養系列 (自然教養分野) 2 単位
- ・一般教養系列 (学際的教養分野) 5 単位
- ・教職基礎系列 (教職基礎分野) 3 単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については、領域及び保育内容の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教育実習(初等)Ⅱ、教職実践演習(幼)、大学が独自に設定する科目のうち共通、幼の授業科目、教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教科に関する専門的事項(中・高)のうち※1の授業科目、特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち障害者福祉総論、選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち発達心理学、その他の科目のうち小学校歌唱伴奏法(入門)を除く共通の授業科目、幼の授業科目、自由選択科目、卒業研究から96単位(幼児教育コースの必修科目52単位及び選択必修科目7単位を含む。)以上を修得する。

(幼児教育コースの必修科目52単位 内訳)

- ・保育内容の指導法の授業科目18単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、幼児教育課程論6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリング6単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教育実習(初等)Ⅱ、教職実践演習(幼)9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち地域教育実践研究、幼児教育基礎実習、幼児教育概論、保育実践論8単位
- ・卒業研究5単位

(幼児教育コースの選択必修科目7単位 内訳)

- ・領域に関する専門的事項の授業科目(幼児と健康、幼児と人間関係、幼児と環境、幼児と言葉、幼児と表現)から3単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目								卒業要件 総単位数	
	領域及び保育内容の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	関連科目 *1	その他の科目・自由選択科目 *2		卒業研究
	領域に関する専門的事項	保育内容の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
	91 以上								5	96
	59 以上					14 以上				
	3 以上	18	10 以上	6	9	8 以上	14 以上	0 以上		

\*1「関連科目」：教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目授業科目、副免許状として小学校教諭免許状を取得するための教育実践に関する科目の教育実習(初等)Ⅱ、教科に関する専門的事項(中・高)のうち※1の授業科目、特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち障害者福祉総論、選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち発達心理学、その他の科目の幼の授業科目のうち臨床心理学概論

\*2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎特別支援教育コース

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から107単位、合計138単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目 6単位 内訳)

・英語系列から 6単位

英語 I a, 英語 II aからいずれか 2単位

英語 I b, 英語 II bからいずれか 2単位

英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか 1単位

英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか 1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教職実践演習(小)、特別支援教育に関する科目、大学が独自に設定する科目の共通のうち地域教育実践研究、国際理解教育論Ⅰ、人権教育、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から107単位(特別支援教育コース(小学校基礎)の必修科目77単位及び選択必修科目14単位を含む。)以上を修得する。

(特別支援教育コース(小学校基礎)の必修科目77単位 内訳)

・各教科の指導法(小)の授業科目20単位

・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位

・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位

・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教職実践演習(小)7単位

・特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち特別支援教育総論2単位

・特別支援教育領域に関する科目のうち知的障害心理学、知的障害生理・病理学、運動障害心理・生理・病理学、病弱心理・生理・病理学、特別支援教育の心理アセスメント、特別支援教育心理学演習、知的障害教育、運動障害教育、病弱教育16単位

・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目のうち視覚障害教育総論、聴覚障害教育総論、重複障害教育総論、LD等教育総論5単位

・特別支援教育に関する科目のうち教育実習3単位

・大学が独自に設定する科目のうち地域教育実践研究、人権教育3単位

・卒業研究5単位

(特別支援教育コース(小学校基礎)の選択必修科目14単位 内訳)

・教科に関する専門的事項(小)のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から10単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区 分	専 門 科 目							卒業要件総単位数		
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	その他の科目・自由選択科目*		特別支援教育に関する科目	卒業研究
	教科に関する専門的事項	各教科の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
小学校教諭免許状を基礎資格とする者	76 以上							26 以上	5	107
	10 以上	20	10 以上	10 以上	7	3 以上	0 以上			

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から107単位、合計138単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科に関する専門的事項(中・高)及び中学校指導法(中・高)から1教科を選択、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(中)、教職実践演習(中・高)、特別支援教育に関する科目、大学が独自に設定する科目の共通のうち地域教育実践研究、国際理解教育論 I、人権教育、その他の科目の共通のうち小学校歌唱伴奏法(入門)を除く授業科目、自由選択科目、卒業研究から107単位(特別支援教育コース(中学校基礎)の必修科目及び選択必修科目を含む。)以上を修得する。

(特別支援教育コース(中学校基礎)の必修科目 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)及び中学校指導法(中・高)から1教科を選択

国語

教科に関する専門的事項(中・高)のうち国語学の国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)、国文学の国文学概論(国文学史を含む。)  
4単位  
中学校指導法(中・高)のうち国語の授業科目8単位

社会

教科に関する専門的事項(中・高)のうち日本史・外国史の日本史 I、外国史 I、地理学の地理学概論、「法律学、政治学」の現代法(国際法を含む。)  
8単位

中学校指導法(中・高)のうち社会の授業科目8単位

数学

教科に関する専門的事項(中・高)のうち代数学の代数学 I、幾何学の幾何学 I、解析学の解析学 I、「確率論、統計学」の確率・統計学、コンピュータの計算機概論10単位

中学校指導法(中・高)のうち数学の授業科目8単位

理科

教科に関する専門的事項(中・高)のうち物理学の物理学実験、化学の化学概論 I、化学実験、生物学の生物学概論、生物学実験、地学の地学概論 I、地学実験10単位

中学校指導法(中・高)のうち理科の授業科目8単位

音楽

教科に関する専門的事項(中・高)のうちソルフェージュのソルフェージュ、声楽の独唱 I、合唱 I(日本の伝統的な歌唱を含む。)、器楽のピアノ I、伴奏法、合奏 I(和楽器を含む。)、指揮法の指揮法演習、音楽理論・作曲法・音楽史の音楽理論、作・編曲法 I、音楽史概論(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)  
16単位

中学校指導法(中・高)のうち音楽の授業科目8単位

美術

教科に関する専門的事項(中・高)のうち絵画の絵画 II(映像メディア表現を含む。)、彫刻の彫刻 I、デザインのデザイン II(映像メディア表現を含む。)、工芸の工芸 I、工芸 III、美術理論・美術史の美術理論、美術史 II(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)  
14単位

中学校指導法(中・高)のうち美術の授業科目8単位

保健体育

教科に関する専門的事項(中・高)のうち「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学の運動学(運動方法学を含む。)、生理学の生理学(運動生理学を含む。)、衛生学・公衆衛生学の公衆衛生学、学校保健の学校保健(小児保健、精神保健、学校安全、救急処置を含む。)  
8単位

中学校指導法(中・高)のうち保健体育の授業科目8単位

技術

教科に関する専門的事項(中・高)のうち材料加工の製図、材料加工 I(実習を含む。)、材料加工 II(実習を含む。)、機械・電気の応用機械(実習を含む。)、応用電気(実習を含む。)、生物育成の生物育成(実習を含む。)、情報とコンピュータの情報処理論(実習を含む。)  
14単位

中学校指導法(中・高)のうち技術の授業科目8単位

家庭

教科に関する専門的事項(中・高)のうち家庭経営学の家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)、被服学の被服造形論(被服実習を含む。)、食物学の栄養学 I、調理学実習 I、食品科学、住居学の住居学(製図を含む。)、保育学の保育学(実習及び家庭看護を含む。)  
13単位

中学校指導法(中・高)のうち家庭の授業科目8単位

英語

中学校指導法(中・高)の英語のうち英語科教育概論、実践英語科教育法、英語科教育法 I、英語科教育法 II 8単位

- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち特別支援教育総論2単位
- ・特別支援教育領域に関する科目のうち知的障害心理学，知的障害生理・病理学，運動障害心理・生理・病理学，病弱心理・生理・病理学，特別支援教育の心理アセスメント，特別支援教育心理学演習，知的障害教育，運動障害教育，病弱教育16単位
- ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目のうち視覚障害教育総論，聴覚障害教育総論，重複障害教育総論，LD等教育総論5単位
- ・特別支援教育に関する科目のうち教育実習3単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち地域教育実践研究，人権教育3単位
- ・卒業研究5単位

（特別支援教育コース（中学校基礎）の選択必修科目 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）から1教科を選択
  - 国語
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち漢文学の授業科目（漢文学講読，漢文学概論，漢文学演習）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち書道の授業科目（書道Ⅰ，書道Ⅱ）から1単位以上
  - 社会
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち「社会学，経済学」の授業科目（社会学，経済概論，経済政策（国際経済を含む。））から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち「哲学，倫理学，宗教学」の授業科目（哲学倫理学Ⅰ，哲学倫理学Ⅱ）から2単位以上
  - 理科
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の授業科目（物理学概論Ⅰ，物理学概論Ⅱ）から2単位以上
  - 保健体育
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技の授業科目から1単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学の授業科目（体育原論，体育心理学，体育社会学，体育史，体育経営学，健康・体力トレーニング論）から2単位以上
  - 英語
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の授業科目（実践英語音声学，言語学概論Ⅰ，言語学概論Ⅱ，英語史Ⅰ，英語史Ⅱ）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語文学の授業科目（英語文学概論，英語文学講義，英語文学演習，英語文学の地域と文化）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語Ⅰ，実践総合英語Ⅱ，実践総合英語Ⅲ）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち異文化理解の授業科目（日本語の文化と英語の文化，異文化学習論，英語文化と言語）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

区 分	専 門 科 目							卒業要件総単位数		
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	その他の科目・自由選択科目*		特別支援教育に関する科目	卒業研究
	教科に関する専門的事項	各教科の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
中学校教諭免許状を基礎資格とする者	76 以上							26 以上	5	107
	60 以上					0 以上				
	20 以上	8 以上	10 以上	10 以上	7	3 以上	0 以上			

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

## ◎情報教育コース

○高等学校・中学校基礎

高等学校教諭一種免許状（情報）と中学校教諭二種免許状（数学）を取得するために必要な単位と当該コースが指定する単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から35単位、専門科目から91単位、合計126単位を修得する。

### I 共通教育科目

必修科目25単位、専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ、数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め、35単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（情報教育コースの必修科目4単位 内訳）

- ・専門基礎系列（理系基礎分野）4単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

### II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータ、情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理、コンピュータ・情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち数学、情報の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（中）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通の授業科目、コース指定科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から91単位（情報教育コース（高等学校・中学校基礎）の必修科目87単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

（情報教育コース（高等学校・中学校基礎）の必修科目87単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学の代数学Ⅰ、幾何学の幾何学Ⅰ、集合論Ⅰ、集合論Ⅱ、解析学の解析学Ⅰ、「確率論、統計学」の確率・統計学、コンピュータの計算機概論、情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理の授業科目、コンピュータ・情報処理の授業科目、情報システムのデータベース概論（実習を含む。）、教育情報システム論、情報通信ネットワークの授業科目、マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目44単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち数学の数学科教育法Ⅰ、情報の情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ6単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究3単位
- ・コース指定科目6単位
- ・卒業研究5単位

（情報教育コースの選択必修科目4単位 内訳）

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上



(卒業に必要な単位の履修要件)

			高等学校・中学校基礎	小学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	0 以上	10 以上
		中学校 (数学)	14 以上	4 以上
		高校 (情報)	30 以上	16 以上
	各教科の指導法	小学校	0 以上	20
		中学校 (数学)	6 以上	0 以上
		高校 (情報)		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上		
	教育実践に関する科目	7 以上		
大学が独自に設定する科目		3 以上		
コース指定科目 * 1		6		
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上		
卒業研究		5		
卒業要件総単位数		91	91	

\* 1 「コース指定科目」：コースが開設・指定する授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○小学校基礎

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と当該コースが指定する単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から35単位、専門科目から91単位、合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位、専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ、数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め、35単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列（人文教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（社会教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（自然教養分野） 2 単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野） 5 単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野） 3 単位

(情報教育コースの必修科目 4 単位 内訳)

- ・専門基礎系列（理系基礎分野） 4 単位

(選択必修科目 6 単位 内訳)

- ・英語系列から 6 単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか 2 単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか 2 単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか 1 単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか 1 単位

#### II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータ、情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理、コンピュータ・情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち数学、情報の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（中）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通の授業科目、コース指定科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から91単位（情報教育コース（小学校基礎）の必修科目75単位及び選択必修科目16単位を含む。）以上を修得する。

(情報教育コースの必修科目75単位 内訳)

- ・ 教科に関する専門的事項(中・高)のうち幾何学の集合論Ⅰ, コンピュータの計算機概論, 情報社会(職業に関する内容を含む。), 情報倫理の授業科目, コンピュータ・情報処理の情報科学概論(実習を含む。), 情報処理言語Ⅰ(実習を含む。), 情報通信ネットワークの情報通信ネットワーク論(実習を含む。), マルチメディア表現・マルチメディア技術のマルチメディア概論(実習を含む。), 18単位
- ・ 各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・ 教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。), 6単位
- ・ 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
- ・ 教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(初等)Ⅰ, 教職実践演習(小)7単位
- ・ 大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究3単位
- ・ コース指定科目6単位
- ・ 卒業研究5単位

(情報教育コースの選択必修科目16単位 内訳)

- ・ 教科に関する専門的事項(小)のうち初等科数学, 小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から10単位以上
- ・ 教科に関する専門的事項(中・高)のうちコンピュータ・情報処理, 情報システム, 情報通信ネットワーク, マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目(教育情報処理論(実習を含む。), データベース概論(実習を含む。), 教育情報システム論, 情報処理演習, グラフ・ネットワーク論, 視覚伝達デザイン)から2単位以上
- ・ 教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・ 教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		高等学校・中学校基礎		小学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	0以上	10以上
		中学校(数学)	14以上	4以上
		高校(情報)	30以上	16以上
	各教科の指導法	小学校	0以上	20
		中学校(数学)	6以上	0以上
		高校(情報)		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	
	教育実践に関する科目		7以上	
大学が独自に設定する科目		3以上		
コース指定科目 *1		6		
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上		
卒業研究		5		
卒業要件総単位数		91	91	

\*1「コース指定科目」: コースが開設・指定する科目

\*2「その他の科目・自由選択科目」: 学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 国語教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状(入学の際に許可された各選修(教科))を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位, 専門科目から95単位, 合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め, 31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・ 教養コア系列9単位
- ・ 一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・ 一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・ 一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・ 一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・ 教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目 6 単位 内訳)

・英語系列から 6 単位

英語 I a, 英語 II a からいずれか 2 単位

英語 I b, 英語 II b からいずれか 2 単位

英語会話 I a, 英語会話 II a からいずれか 1 単位

英語会話 I b, 英語会話 II b からいずれか 1 単位

II 専門科目

専門科目については、初等科国語を除く教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教科に関する専門的事項(中・高)のうち国語学、国文学、漢文学、書道の授業科目、中学校指導法(中・高)のうち国語の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等) I, 教育実習(初等) II, 教育実習(中), 教育実習(高), 教職実践演習(小), 教職実践演習(中・高), 大学が独自に設定する科目のうち共通、国語の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位(国語教育選修(小学校基礎)の必修科目65単位及び選択必修科目23単位を含む。)以上を修得する。

(国語教育選修(小学校基礎)の必修科目65単位 内訳)

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち国語学の国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。), 国文学の国文学概論(国文学史を含む。) 4 単位

・各教科の指導法(小)の授業科目20単位

・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。) 6 単位

・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位

・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(初等) I, 教育実習(高), 教職実践演習(小) 9 単位

・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究, 国語科授業実践基礎演習, 国語科内容開発研究 7 単位

・その他の科目のうち初習外国語 I (中国語), 初習外国語 II (中国語) 4 単位

・卒業研究 5 単位

(国語教育選修(小学校基礎)の選択必修科目23単位 内訳)

・教科に関する専門的事項(小)のうち初等科国語, 小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち漢文学の授業科目(漢文学講読, 漢文学概論, 漢文学演習)から2単位以上

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち書道の授業科目(書道 I, 書道 II)から1単位以上

・中学校指導法(中・高)のうち国語の授業科目(国語科教育法 I, 国語科教育法 III)から2単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	14 以上	30 以上
	小計		28 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
	小計		22 以上	8 以上
合計			50 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
その他の科目・自由選択科目 *			4 以上	18 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語 I」「初習外国語 II」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科国語を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち国語学，国文学，漢文学，書道の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち国語の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，国語の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（国語教育選修（中学校基礎）の必修科目51単位及び選択必修科目7単位を含む。）以上を修得する。

（国語教育選修（中学校基礎）の必修科目51単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち国語学の国語学概論（音声言語及び文章表現を含む。），国文学の国文学概論（国文学史を含む。）4単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち国語の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，国語科授業実践基礎演習，国語科内容開発研究7単位
- ・その他の科目のうち初習外国語Ⅰ（中国語），初習外国語Ⅱ（中国語）4単位
- ・卒業研究5単位

（国語教育選修（中学校基礎）の選択必修科目7単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち漢文学の授業科目（漢文学講読，漢文学概論，漢文学演習）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち書道の授業科目（書道Ⅰ，書道Ⅱ）から1単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の	教科に関する	小学校	14 以上	0 以上
	専門的事項	中学校	14 以上	30 以上
指導法に関する	小計		28 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
	小計		22 以上	8 以上
合計			50 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
その他の科目・自由選択科目 *			4 以上	18 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 社会科教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科社会を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち日本史・外国史，地理学，「法律学，政治学」，「社会学，経済学」，「哲学，倫理学，宗教学」の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち社会の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（初等）II，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，社会の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（社会科教育選修（小学校基礎）の必修科目67単位及び選択必修科目26単位を含む。）以上を修得する。

（社会科教育選修（小学校基礎）の必修科目67単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち日本史・外国史の日本史 I，外国史 I，地理学の地理学概論，「法律学，政治学」の日本国憲法，現代法（国際法を含む。）10単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，社会科授業実践基礎演習，社会科内容開発研究 I，社会科内容開発研究 II 7単位
- ・卒業研究5単位

（社会科教育選修（小学校基礎）の選択必修科目26単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科社会，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち地理学の授業科目（自然地理学，人文地理学）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち「社会学，経済学」の授業科目（社会学，経済概論，経済政策（国際経済を含む。））から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち「哲学，倫理学，宗教学」の授業科目（哲学倫理学 I，哲学倫理学 II）から2単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち社会の授業科目（中等地理歴史教育論 I，中等公民教育論 I）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
		小計	32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
		小計	22 以上	8 以上
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
その他の科目・自由選択科目 *			0 以上	18 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目のことです。

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列（人文教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（社会教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（自然教養分野） 2 単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野） 5 単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野） 3 単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から 6 単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については、初等科社会を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち日本史・外国史、地理学、「法学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち社会の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、社会の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（社会科教育選修（中学校基礎）の必修科目53単位及び選択必修科目10単位を含む。）以上を修得する。

(社会科教育選修(中学校基礎)の必修科目53単位 内訳)

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち日本史・外国史の日本史Ⅰ, 外国史Ⅰ, 地理学の地理学概論, 「法律学、政治学」の日本国憲法, 現代法(国際法を含む。) 10単位

・中学校指導法(中・高)のうち社会の授業科目8単位

・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。) 6単位

・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位

・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(中), 教職実践演習(中・高) 7単位

・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究, 社会科授業実践基礎演習, 社会科内容開発研究Ⅰ, 社会科内容開発研究Ⅱ 7単位

・卒業研究 5単位

(社会科教育選修(中学校基礎)の選択必修科目10単位 内訳)

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち地理学の授業科目(自然地理学, 人文地理学)から2単位以上

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち「社会学, 経済学」の授業科目(社会学, 経済概論, 経済政策(国際経済を含む。))から2単位以上

・教科に関する専門的事項(中・高)のうち「哲学, 倫理学, 宗教学」の授業科目(哲学倫理学Ⅰ, 哲学倫理学Ⅱ)から2単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計		54 以上	38 以上	
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上	
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上	
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
その他の科目・自由選択科目 *		0 以上	18 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 数学教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から35単位，専門科目から91単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位，専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ，数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め，35単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列 9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（数学教育選修の必修科目4単位 内訳）

- ・専門基礎系列（理系基礎分野）4単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科数学を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学，幾何学，解析学，「確率論，統計学」，コンピューターの授業科目，中学校指導法（中・高）のうち数学の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，数学の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ，化学の化学概論Ⅰ，生物学の生物学概論，地学の地学概論Ⅰ，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から91単位（数学教育選修（小学校基礎）の必修科目69単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

（数学教育選修（小学校基礎）の必修科目69単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学の代数学Ⅰ，幾何学の幾何学Ⅰ，集合論Ⅰ，解析学の解析学Ⅰ，「確率論，統計学」の確率・統計学，コンピューターの計算機概論12単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，算数・数学科授業実践基礎演習，算数・数学科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

（数学教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科数学，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち数学の授業科目（数学科教育法Ⅰ，数学科教育法Ⅲ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上



(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校 14 以上	0 以上
		中学校 14 以上	30 以上
小計		28 以上	30 以上
科目	各教科の指導法	小学校 20	0 以上
		中学校 2 以上	8
小計		22 以上	8 以上
合計		50 以上	38 以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
関連科目 * 1		0 以上	2 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	12 以上
卒業研究		5	5
総合計		91	91

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ，化学の化学概論Ⅰ，生物学の生物学概論，地学の地学概論Ⅰ

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から35単位，専門科目から91単位，合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位，専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ，数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め，35単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列（人文教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（社会教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（自然教養分野） 2 単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野） 5 単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野） 3 単位

(数学教育選修の必修科目 4 単位 内訳)

- ・専門基礎系列（理系基礎分野） 4 単位

(選択必修科目 6 単位 内訳)

- ・英語系列から 6 単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか 2 単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか 2 単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか 1 単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか 1 単位

#### II 専門科目

専門科目については，初等科教学を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学，幾何学，解析学，「確率論，統計学」，コンピューターの授業科目，中学校指導法（中・高）のうち数学の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，数学の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ，化学の化学概論Ⅰ，生物学の生物学概論，地学の地学概論Ⅰ，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から91単位（数学教育選修（中学校基礎）の必修科目61単位及び選択必修科目6単位を含む。）以上を修得する。

(数学教育選修(中学校基礎)の必修科目61単位 内訳)

- ・ 教科に関する専門的事項(中・高)のうち代数学の代数学Ⅰ, 数学講究Ⅰ, 幾何学の幾何学Ⅰ, 集合論Ⅰ, 解析学の解析学Ⅰ, 数学講究Ⅱ, 「確率論, 統計学」の確率・統計学, 数学講究Ⅲ, コンピュータの計算機概論18単位
- ・ 中学校指導法(中・高)のうち数学の授業科目8単位
- ・ 教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・ 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
- ・ 教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(中), 教職実践演習(中・高)7単位
- ・ 大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究, 算数・数学科授業実践基礎演習, 算数・数学科内容開発研究7単位
- ・ 卒業研究5単位

(数学教育選修(中学校基礎)の選択必修科目6単位 内訳)

- ・ 教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・ 教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上
- ・ 教科に関する専門的事項(中・高)の物理学, 化学, 生物学, 地学の授業科目(物理学概論Ⅰ, 化学概論Ⅰ, 生物学概論, 地学概論Ⅰ)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校 14以上	中学校 0以上
	小計	14以上	30以上
小計		28以上	30以上
各教科の指導法	小学校	20	0以上
	中学校	2以上	8
小計		22以上	8以上
合計		50以上	38以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10以上	10以上
	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導, 教育相談等に関する科目	10以上	10以上
	教育実践に関する科目	9以上	7以上
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上
関連科目 *1		0以上	2以上
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上	12以上
卒業研究		5	5
総合計		91	91

\*1「関連科目」: 教科に関する専門的事項(中・高)のうち物理学の物理学概論Ⅰ, 化学の化学概論Ⅰ, 生物学の生物学概論, 地学の地学概論Ⅰ

\*2「その他の科目・自由選択科目」: 学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・ 自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・ 外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 理科教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科理科を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学、化学、生物、地学の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、理科の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論、その他の科目のうち共通、理科の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（理科教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位及び選択必修科目22単位を含む。）以上を修得する。

(理科教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論 I、物理学実験、化学の化学概論 I、化学実験、生物学の生物学概論、生物学実験、地学の地学概論 I、地学実験12単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、理科授業実践基礎演習、理科内容開発研究7単位
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論2単位
- ・卒業研究5単位

(理科教育選修（小学校基礎）の選択必修科目22単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科理科、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）の物理学、化学、生物学、地学の授業科目（物理学演習、化学演習、生物学演習、地学演習）から2単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目（理科教育法 I、理科教育法 II）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校 14 以上	中学校基礎 0 以上
		中学校 16 以上	30 以上
	小計	30 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校 20	0 以上
		中学校 2 以上	8
	小計	22 以上	8 以上
合計		52 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
関連科目 * 1		2	2
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上
卒業研究		5	5
総合計		95	95

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

## II 専門科目

専門科目については、初等科理科を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学、化学、生物、地学の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、理科の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論、その他の科目のうち共通、理科の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（理科教育選修（中学校基礎）の必修科目63単位及び選択必修科目8単位を含む。）以上を修得する。

（理科教育選修（中学校基礎）の必修科目63単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、物理学実験、化学の化学概論Ⅰ、化学概論Ⅱ、化学実験、生物学の生物学概論、生物学実験、地学の地学概論Ⅰ、地学概論Ⅱ、地学実験18単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、理科授業実践基礎演習、理科内容開発研究7単位
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論2単位
- ・卒業研究5単位

（理科教育選修（中学校基礎）の選択必修科目8単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち生物学の授業科目（生化学、発生生物学、環境生物学）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）の物理学、化学、生物学、地学の授業科目（物理学演習、化学演習、生物学演習、地学演習）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	16 以上	30 以上
	小計		30 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計		52 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
関連科目 * 1		2	2	18 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 音楽教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科音楽を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうちソルフェージュ，声楽，器楽，指揮法，音楽理論・作曲法・音楽史の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち音楽の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（初等）II，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，音楽の授業科目，保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法I（音楽表現），その他の科目のうち共通，音楽の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（音楽教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(音楽教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうちソルフェージュのソルフェージュ，声楽の独唱I，合唱I（日本の伝統的な歌唱を含む。），器楽のピアノI，伴奏法，合奏I（和楽器を含む。），指揮法の指揮法演習，音楽理論・作曲法・音楽史の音楽理論，作・編曲法I，音楽史概論（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）16単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，音楽科授業実践基礎演習，音楽科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(音楽教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科音楽，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち音楽の授業科目（音楽科教育法III，音楽科教育法IV）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1 「関連科目」：保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法Ⅰ（音楽表現）

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合があります。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科音楽を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうちソルフェージュ，声楽，器楽，指揮法，音楽理論・作曲法・音楽史の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち音楽の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，音楽の授業科目，保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法Ⅰ（音楽表現），その他の科目のうち共通，音楽の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（音楽教育選修（中学校基礎）の必修科目62単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

(音楽教育選修(中学校基礎)の必修科目62単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうちソルフェージュのソルフェージュ、声楽の独唱Ⅰ、独唱Ⅱ、合唱Ⅰ(日本の伝統的な歌唱を含む。)、器楽のピアノⅠ、伴奏法、管楽器Ⅰ、合奏Ⅰ(和楽器を含む。)、指揮法の指揮法演習、音楽理論・作曲法・音楽史の音楽理論、作・編曲法Ⅰ、音楽史概論(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)19単位
- ・中学校指導法(中・高)のうち音楽の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(中)、教職実践演習(中・高)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、音楽科授業実践基礎演習、音楽科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(音楽教育選修(中学校基礎)の選択必修科目4単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	0以上	
	専門的事項	中学校	30以上	
	小計		32以上	30以上
	各教科の指導法	小学校	20	0以上
		中学校	2以上	8
小計		22以上	8以上	
合計		54以上	38以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上
	教育実践に関する科目		9以上	7以上
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上	
関連科目 *1		0以上	0以上	
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上	0以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*1「関連科目」:保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法Ⅰ(音楽表現)

\*2「その他の科目・自由選択科目」:学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。



◎教科教育コース 美術教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科図画工作を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画，彫刻，デザイン，工芸，美術理論・美術史の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，美術の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（美術教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(美術教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画の絵画Ⅱ（映像メディア表現を含む。），彫刻の彫刻Ⅰ，デザインのデザインⅠ，デザインⅡ（映像メディア表現を含む。），工芸の工芸Ⅰ，工芸Ⅲ，美術理論・美術史の美術理論，美術史Ⅱ（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）16単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，美術授業実践基礎演習，美術内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(美術教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科図画工作，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目（美術科教育法Ⅲ，美術科教育法Ⅳ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	0 以上
	専門的事項	中学校	30 以上
	小計	32 以上	30 以上
各教科の指導法	小学校	20	0 以上
	中学校	2 以上	8
	小計	22 以上	8 以上
合計		54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
その他の科目・自由選択科目 *		0 以上	18 以上
卒業研究		5	5
総合計		95	95

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科図画工作を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画，彫刻，デザイン，工芸，美術理論・美術史の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，美術の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（美術教育選修（中学校基礎）の必修科目61単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

(美術教育選修（中学校基礎）の必修科目61単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画の絵画Ⅱ（映像メディア表現を含む。），彫刻の彫刻Ⅰ，デザインのデザインⅠ，デザインⅡ（映像メディア表現を含む。），工芸の工芸Ⅰ，工芸Ⅲ，美術理論・美術史の美術理論，美術史Ⅰ，美術史Ⅱ（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）18単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，美術授業実践基礎演習，美術内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(美術教育選修（中学校基礎）の選択必修科目4単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	14以上
	専門的事項	中学校	18以上
	小計		32以上
教育の基礎的理解に関する科目	各教科の指導法	小学校	20
		中学校	2以上
	小計		22以上
合計			54以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上
	教育実践に関する科目		9以上
大学が独自に設定する科目			7以上
その他の科目・自由選択科目 *			0以上
卒業研究			5
総合計			95

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 保健体育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科体育を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技，「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学，生理学，衛生学・公衆衛生学，学校保健の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（初等）II，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，保健体育の授業科目，選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（保健体育選修（小学校基礎）の必修科目67単位及び選択必修科目24単位を含む。）以上を修得する。

(保健体育選修（小学校基礎）の必修科目67単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学の体育心理学，運動学（運動方法学を含む。），生理学の生理学（運動生理学を含む。），衛生学・公衆衛生学の公衆衛生学，学校保健の学校保健（小児保健，精神保健，学校安全，救急処置を含む。）10単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，保健体育科授業実践基礎演習，保健体育科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(保健体育選修（小学校基礎）の選択必修科目24単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科体育，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技の授業科目から4単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目（保健体育科教育法II，保健体育科教育法III）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
	小計		22 以上	8 以上
合計		54 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上	
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上	
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
関連科目 * 1		0 以上	0 以上	
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列（人文教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（社会教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（自然教養分野） 2 単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野） 5 単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野） 3 単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科体育を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学、生理学、衛生学・公衆衛生学、学校保健の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、保健体育の授業科目、選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（保健体育選修（中学校基礎）の必修科目63単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

（保健体育選修（中学校基礎）の必修科目62単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技の陸上競技、水泳、野外運動特習、体操・器械運動、球技Ⅰ、球技Ⅱ、武道、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学の体育心理学、運動学（運動方法学を含む。）、生理学の生理学（運動生理学を含む。）、運動生理学演習、衛生学・公衆衛生学の公衆衛生学、学校保健の学校保健（小児保健、精神保健、学校安全、救急処置を含む。）19単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、保健体育科授業実践基礎演習、保健体育科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

（保健体育選修（中学校基礎）の選択必修科目4単位 内訳）

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

		小学校基礎		中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14以上	0以上	
		中学校	18以上	30以上	
	小計		32以上	30以上	
	各教科の指導法	小学校	20	0以上	
		中学校	2以上	8	
小計		22以上	8以上		
合計		54以上	38以上		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上	
	教育実践に関する科目		9以上	7以上	
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上		
関連科目 *1		0以上	0以上	18以上	
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上	0以上		
卒業研究		5	5		
総合計		95	95		

\*1 「関連科目」：選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康

\*2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 技術教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち材料加工、機械・電気、生物育成、情報とコンピュータの授業科目、中学校指導法（中・高）のうち技術の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、技術の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）の物理学の授業科目のうち物理学概論I、物理学概論II、化学の授業科目のうち化学概論II、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学（製図を含む。）、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（技術教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位及び選択必修科目22単位を含む。）以上を修得する。

(技術教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち材料加工の製図、材料加工I（実習を含む。）、材料加工II（実習を含む。）、機械・電気の応用機械（実習を含む。）、応用電気（実習を含む。）、生物育成の生物育成（実習を含む。）、情報とコンピュータの情報処理論（実習を含む。）14単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、技術科・ものづくり授業実践基礎演習、技術科ものづくり内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(技術教育選修（小学校基礎）の選択必修科目22単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から16単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち技術の授業科目（技術科教育法I、技術科教育法III）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する 専門的事項	小学校	16 以上	0 以上
		中学校	16 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ，物理学概論Ⅱ，化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ，生物学の授業科目のうち生物学概論，家庭経営学の授業科目のうち生活科学論，住居学の授業科目のうち住居学（製図を含む。），コンピュータの授業科目のうち計算機概論，情報システムの授業科目のうち教育情報システム論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

#### 〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

#### （必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列（人文教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（社会教養分野） 3 単位
- ・一般教養系列（自然教養分野） 2 単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野） 5 単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野） 3 単位

#### （選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から 6 単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか 2 単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか 2 単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか 1 単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか 1 単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教科に関する専門的事項(中・高)のうち材料加工、機械・電気、生物育成、情報とコンピュータの授業科目、中学校指導法(中・高)のうち技術の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教育実習(初等)Ⅱ、教育実習(中)、教育実習(高)、教職実践演習(小)、教職実践演習(中・高)、大学が独自に設定する科目のうち共通、技術の授業科目、教科に関する専門的事項(中・高)の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学(製図を含む。)、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位(技術教育選修(中学校基礎)の必修科目67単位及び選択必修科目4単位を含む。)以上を修得する。

(技術教育選修(中学校基礎)の必修科目67単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち材料加工の製図、材料加工Ⅰ(実習を含む。)、金属材料学、材料加工Ⅱ(実習を含む。)、機械・電気の機械工学Ⅰ、応用機械(実習を含む。)、電気回路学、応用電気(実習を含む。)、生物育成の生物育成(実習を含む。)、農業環境論、情報とコンピュータの情報処理論(実習を含む。)、情報基礎Ⅰ24単位
- ・中学校指導法(中・高)のうち技術の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(中)、教職実践演習(中・高)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、技術科・ものづくり授業実践基礎演習、技術科・ものづくり内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(技術教育選修(中学校基礎)の選択必修科目4単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	0以上	
	専門的事項	中学校	30以上	
	小計		32以上	30以上
	各教科の指導法	小学校	20	0以上
		中学校	2以上	8
小計		22以上	8以上	
合計		54以上	38以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10以上	10以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10以上	10以上	
	教育実践に関する科目	9以上	7以上	
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上	
関連科目 *1		0以上	0以上	
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上	0以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*1「関連科目」：教科に関する専門的事項(中・高)の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学(製図を含む。)、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論

\*2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。



◎教科教育コース 家政教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科家庭を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学、被服学、食物学、住居学、保育学の授業科目、デザインの授業科目のうちデザイン I、材料加工の授業科目のうち材料加工 I（実習を含む。）、中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、家庭の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（家政教育選修（小学校基礎）の必修科目72単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(家政教育選修（小学校基礎）の必修科目72単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学の家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）、被服学の衣料素材論 I、被服造形論（被服実習を含む。）、食物学の栄養学 I、調理学実習 I、食品科学、住居学の住居学（製図を含む。）、保育学の保育学（実習及び家庭看護を含む。）15単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、家庭科授業実践基礎演習、家庭科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(家政教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科家庭、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目（家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	15 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\*1「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のデザインの授業科目のうちデザインⅠ，材料加工の授業科目のうち材料加工Ⅰ（実習を含む。），道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児心理学

\*2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については，初等科家庭を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学，被服学，食物学，住居学，保育学の授業科目，デザインの授業科目のうちデザインⅠ，材料加工の授業科目のうち材料加工Ⅰ（実習を含む。），中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，家庭の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（家政教育選修（中学校基礎）の必修科目58単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

(家政教育選修（中学校基礎）の必修科目58単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学の家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。），被服学の衣料素材論Ⅰ，被服造形論（被服実習を含む。），食物学の栄養学Ⅰ，調理学実習Ⅰ，食品科学，住居学の住居学（製図を含む。），保育学の保育学（実習及び家庭看護を含む。）15単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，家庭科授業実践基礎演習，家庭科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

- (家庭教育選修(中学校基礎)の選択必修科目4単位 内訳)
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
  - ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指 導法に関する科目	教科に関する	小学校	14以上	0以上
	専門的事項	中学校	15以上	30以上
	小計		32以上	30以上
	各教科の指導法	小学校	20	0以上
		中学校	2以上	8
小計		22以上	8以上	
合計		54以上	38以上	
教育の基礎的理解に 関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上
	教育実践に関する科目		9以上	7以上
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上	
関連科目 *1		0以上	0以上	18以上
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上	0以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*1「関連科目」：教科に関する専門的事項(中・高)のデザインの授業科目のうちデザインⅠ, 材料加工の授業科目のうち材料加工Ⅰ(実習を含む。), 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち幼児心理学

\*2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ◎教科教育コース 英語教育選修

##### ○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状(入学の際に許可された各選修(教科))を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位, 専門科目から95単位, 合計126単位を修得する。

##### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め, 31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

## II 専門科目

専門科目については、初等科英語を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち英語の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、英語の授業科目、選修指定科目の国際理解の授業科目のうち異文化学習論、語学教授法演習、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（英語教育選修（小学校基礎）の必修科目61単位及び選択必修科目30単位を含む。）以上を修得する。

（英語教育選修（小学校基礎）の必修科目61単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の実践英語音声学、英語文学の英語文学概論 4 単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。） 6 単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（高）、教職実践演習（小） 9 単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、英語科授業実践基礎演習、英語科内容開発研究 7 単位
- ・卒業研究 5 単位

（英語教育選修（小学校基礎）の選択必修科目30単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち小学校歌唱伴奏法、初等科英語を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の授業科目（言語学概論Ⅰ、英文法演習）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語文学の授業科目（英語文学講義、英語文学の地域と文化、英語文学演習）から 2 単位以上
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語Ⅰ、実践総合英語Ⅱ、実践総合英語Ⅲ）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち異文化理解の授業科目（日本語の文化と英語の文化、英語文化と言語）及び選修指定科目の国際理解の授業科目（異文化学習論）から 2 単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち英語の授業科目（英語科教育概論、実践英語科教育法）から 2 単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から 2 単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から 2 単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8 以上
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の国際理解の授業科目のうち語学教授法演習

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科英語を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学，英語文学，英語コミュニケーション，異文化理解の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち英語の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，英語の授業科目，選修指定科目の国際理解の授業科目のうち異文化学習論，語学教授法演習，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（英語教育選修（中学校基礎）の必修科目47単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(英語教育選修（中学校基礎）の必修科目47単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の実践英語音声学，英語文学の英語文学概論4単位
- ・中学校指導法（中・高）の英語のうち英語科教育概論，実践英語科教育法，英語科教育法Ⅰ，英語科教育法Ⅱ8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，英語科授業実践基礎演習，英語科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(英語教育選修（中学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の授業科目（言語学概論Ⅰ，言語学概論Ⅱ，英語史Ⅰ，英語史Ⅱ，英文法演習，英語学演習）から4単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語文学の授業科目（英語文学講義，英語文学の地域と文化，英語文学演習）から4単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語Ⅰ，実践総合英語Ⅱ，実践総合英語Ⅲ）から4単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち異文化理解の授業科目（日本語の文化と英語の文化，英語文化と言語）及び選修指定科目の国際理解の授業科目（異文化学習論）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8 以上
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の国際理解の授業科目のうち語学教授法演習

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
経済学部 経済学科																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
教養 コア	基礎セミナー	1前	○	2			○			2	5	2			7		
	データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○								1		
	データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○								1		
	知的財産入門	1後		1			○								1		
	運動健康科学	1前		1			○								1		
	山口と世界	1後		1			○								1		
	知の広場	1前		1			○								1		
	キャリア教育	3前		1			○								1		
	小計（8科目）			9						2	5	2			13		-
	英 語	英語Ⅰa	1前		2			○								1	
英語Ⅱa		1前		2			○								1		
英語Ⅰb		1後		2			○								1		
英語Ⅱb		1後		2			○								1		
英語会話Ⅰa		1前		1			○								1		
英語会話Ⅱa		1前		1			○								1		
英語会話Ⅰb		1後		1			○								1		
英語会話Ⅱb		1後		1			○								1		
小計（8科目）			12											2		-	
一 般 教 養	人 文 教 養	哲学	1前		1			○							1		
		歴史学	1前		1			○							1		
		社会学	1後		1			○							1		
		小計（3科目）			3										3		-
	社 会 教 養	経済と法1	1後	○	1			○			4	1	1			3	
		経済と法2	1後	○	1			○								9	
		経済と法3	1前	○	1			○			1					7	
		小計（3科目）			3						5	1	1			19	
	自 然 教 養	自然科学1	1後		1			○								1	
		自然科学2	1後		1			○								1	
小計（2科目）				2											2		-
学 際 的 教 養	人間の発達と育成1	1前		1			○								1		
	人間の発達と育成2	1後		1			○								1		
	文化の継承と創造1	1後		1			○								1		
	文化の継承と創造2	1後		1			○								1		
	社会と医療	1後		1			○								1		
	環境と人間	1前		1			○								1		
	食と生命	1前		1			○								1		
小計（7科目）			7											6		-	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員			
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1前	○	4			○				1							
		マクロ経済学Ⅰ	1後	○	2			○				1							
		簿記	1前	○	2			○									1		
		法学Ⅰ	1前	○	2			○									1		
		法学Ⅱ	1後	○	2			○									2		
		小計(5科目)			12	0	0				2						5		
経済学系列	理論経済	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4後		2			○			1							※1, ※4, ※6	
		マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○			1							※1, ※4, ※6	
		政治経済学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○				1						※1, ※4, ※6	
		政治経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○										※1, ※5, ※6	
		経済学の歴史	1・2・3・4後		2			○				1						※1, ※5, ※6	
	計量経済	経済統計学Ⅰ	1・2・3・4前		2			○				1						※1, ※4, ※6	
		経済統計学Ⅱ	2・3・4後		2			○				1						※1, ※5, ※6	
		計量経済学	2・3・4後		2			○				1						隔年※1, ※5, ※6	
	経済数理	経済数学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○										1	※1, ※5, ※6
		数理経済学	2・3・4前		2			○										1	※1, ※5, ※6
		産業連関論	2・3・4後		2			○				1							※1, ※5, ※6
	経済動学	景気循環論	2・3・4後		2			○										1	※1, ※5, ※6
		経済成長論	2・3・4前		2			○										1	※1, ※5, ※6
	経済政策	経済政策総論	1・2・3・4後	○	2			○										1	
	経済金融	金融経済論	1・2・3・4前		4			○				1							※1, ※4, ※6
		金融システム論	2・3・4後		2			○				1							※1, ※5, ※6
	経済公共	財政学	1・2・3・4後		4			○				1							※1, ※4, ※6
		国際公共管理論	1・2・3・4前	○	2			○										1	※1, ※4
		公共政策論	2・3・4前		2			○					1						※1, ※5, ※6
		公共管理論	2・3・4前	○	2			○				1							※3, ※4
		公共経営論	2・3・4後		2			○				1							※3, ※4, ※6
	経済地域	地域経済論	1・2・3・4前		2			○					1						※1, ※5, ※6
		地方財政論	2・3・4後		2			○					1						※1, ※5, ※6
		地域福祉社会学	2・3・4前		2			○				1							※1, ※5, ※6
	社会経済	社会政策論	1・2・3・4前		4			○				1							※1, ※5, ※6
		労働経済論	2・3・4前		2			○				1							隔年※1, ※4, ※6
		ジェンダー論	2・3・4後		2			○				1							※1, ※5, ※6
医療福祉経済論		2・3・4前		2			○				1							※1, ※5, ※6	
医療福祉事情と経済		2・3・4後		2			○				1							※1, ※5, ※6	
情報法Ⅰ		2・3・4前		2			○										1	※1, ※5, ※6	
情報法Ⅱ		2・3・4後		2			○										1	※1, ※5, ※6	
経済政治	政治学	1・2・3・4後		2			○				1							※1, ※4, ※6	
経済史	日本経済史総論	1・2・3・4前		2			○				1							※1, ※5, ※6	
	西洋経済史総論	1・2・3・4後		2			○				1							※1, ※4, ※6	
	日本経済史各論	2・3・4後		2			○				1							※1, ※5, ※6	
	西洋経済史各論	2・3・4後		2			○				1							※1, ※5, ※6	
国際経済学	国際経済学	1・2・3・4後	○	2			○				1								
	国際マクロ経済学	1・2・3・4前	○	2			○				1								
国際金融	国際政治経済学	1・2・3・4前		2			○				1							※1, ※4, ※6	
	貿易論	2・3・4前		2			○				1							※3, ※4, ※8	
国際関係	国際金融論	1・2・3・4後		2			○				1							※1, ※4, ※6	
	国際関係論	1・2・3・4後		2			○				1							※1, ※4, ※6	
	現代世界経済論	1・2・3・4前		2			○										1	※1, ※4, ※6	
	アメリカ経済論	2・3・4後		2			○										1	※1, ※4, ※6	
協力国際	ヨーロッパ経済論	2・3・4後		2			○				1							※1, ※4, ※6	
	国際協力論	1・2・3・4後		2			○										1	※1, ※4, ※6	
	国際地域統合論	2・3・4前		2			○				1							※3, ※4, ※8	
発展経済	国際人権法	2・3・4前		2			○										1	※1, ※5, ※6	
	経済発展論	1・2・3・4前		2			○					1						※1, ※4, ※6	
	国際環境保全論	2・3・4前		2			○										1	隔年※3, ※4, ※6	
経済東アジア	開発とジェンダー	2・3・4後		2			○										1	※3, ※4, ※6	
	日本経済論	2・3・4後		2			○				1							隔年※1, ※4, ※6	
	東アジア経済論	1・2・3・4後		2			○										1	※1, ※4, ※6	
経済社会	アジア社会経済論	2・3・4後		2			○					1						※3, ※4, ※6	
	中国経済論	1・2・3・4前		2			○				1							※1, ※4, ※6	
	中国経済史	2・3・4後		2			○										1	※1, ※4, ※6	
経済社会	中国経済事情	2・3・4後		2			○				1							※3, ※4, ※6	



経営学系列	経営管理	経営学総論	1・2・3・4前		2		○										1	※1, ※4, ※6	
		経営組織論	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※5, ※6
		経営管理論	1・2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6
		労務管理論	2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6
		財務管理論	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※5, ※6
		生産管理論	2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6
		国際経営論	1・2・3・4後		2		○											1	※1, ※4, ※6
		経営戦略論	2・3・4前		2		○											1	※1, ※5, ※6
		投資論	2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6
		地域企業経営論	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※5, ※6
	中小企業経営論	2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6	
	行企 動業	企業論	1・2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6
		多国籍企業論	1・2・3・4前		2		○											1	※3, ※4, ※6
	教経 理営	経営数学	1・2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※8
		経営統計学	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8
	財務 会計	会計学1	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※5, ※8
		会計学2	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8
		財務会計論	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8
財務諸表分析		2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
会計監査		2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
会計学特論		2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
簿記	応用簿記	1・2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	株式会社簿記	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	企業結合会計論	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	商業簿記特論	2・3・4前		4		○											2	共同、メディア※3, ※5, ※8	
	財務会計特論	2・3・4後		4		○											2	共同、メディア※3, ※5, ※8	
	税法特論	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	法人税法1	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
法人税法2	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8		
管理 会計	工業簿記	1・2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	原価計算論	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	管理会計論	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	管理会計特論	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	医療マネジメント	2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
流通	流通論Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※4, ※6	
	流通論Ⅱ	1・2・3・4後		2		○											1	※1, ※5, ※6	
テ ー マ ー ン グ	マーケティング論	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※4, ※6	
	マーケティング戦略論	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
商 品	商品学	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※4, ※6	
	商品開発論	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
保 険	保険論Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※1, ※5, ※6	
	保険論Ⅱ	2・3・4後		2		○											1	隔年※3, ※5, ※8	
	医療リスクマネジメント	2・3・4後		2		○											1	隔年※3, ※5, ※8	
経 済 基 本 法	法理学	1・2・3・4前		2		○					1							※2, ※5, ※7	
	憲法Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	憲法Ⅱ	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	民法Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	民法Ⅱ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	民法Ⅲ	2・3・4後		2		○											1	隔年※2, ※5, ※7	
	民法Ⅳ	1・2・3・4前		2		○											1	隔年※2, ※5, ※7	
	民法Ⅴ	1・2・3・4後		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	刑法総論	1・2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	刑法各論	1・2・3・4後		2		○											1	隔年※3, ※5, ※8	
刑事訴訟法	2・3・4後		2		○											1	隔年※3, ※5, ※8		
現 代 企 業 法	商法Ⅰ	1・2・3・4後		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	商法Ⅱ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	商法Ⅳ	2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	経済法	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	知的財産権法	2・3・4後		2		○											3	オムニバス、※2, ※5, ※7	
活 社 生 法	社会法Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	社会法Ⅱ	1・2・3・4前		2		○											1	※3, ※5, ※8	
	民事訴訟法	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	
行 政 シ ス テ ム 法	行政法Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	行政法Ⅱ	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※7	
	税法Ⅰ	1・2・3・4前		2		○											1	※2, ※5, ※7	
	税法Ⅱ	2・3・4後		2		○											1	※3, ※5, ※8	

観光政策学系列	観光経済	観光政策概論	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		観光経済学	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		観光統計学	2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		観光地域経済論	2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		観光政策評価論	2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8	
	観光ビジネス	観光産業総論	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※4, ※6	
		観光マーケティング論	2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		ヘルスツーリズム論	2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8	
		ホスピタリティマネジメント	2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8	
		旅行契約と約款	2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8	
観光と環境	環境経済学	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※4, ※6		
	エコ・ツーリズム論	2・3・4前		2		○						1	隔年※3, ※5, ※8		
	観光地理学	2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	地理学概論	2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8		
観光文化交流	観光コミュニケーション	1・2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6		
	異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前		2		○						2	共同※1, ※4, ※6		
	国際メディア論	1・2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	観光文化心理学	1・2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	日本文化・宗教論	2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	山口の歴史と文化	2・3・4前		2		○			1				※1, ※5, ※8		
	民俗学・文化人類学特殊講義(現代民俗)	2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	民俗学・文化人類学特殊講義(生活文化)	2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	宗教学概論	2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8		
	食文化論	2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8		
美術史Ⅱ (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8			
英語	観光英語	1・2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8		
通学科目共	外国書講読	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6		
	特殊講義Ⅰ	1・2・3・4前後		2		○			1			2	※1, ※5, ※6		
	課題解決型インターンシップ	1・2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※7, ※10		
学部共通科目(外国語)	英語	リーディング	1・2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8	
		ライティング	1・2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※8	
		リスニング	1・2・3・4前後		2		○						1	※3, ※5, ※8	
		英文法	1・2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※8	
		英会話	1・2・3・4前後		2		○						2	※3, ※5, ※6	
		ビジネス英語	1・2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※6	
		ビジネス英語会話	1・2・3・4前		2		○						1	※3, ※5, ※6	
		ビジネス・ライティング	1・2・3・4後		2		○						1	※3, ※5, ※6	
		TOEIC標準コース	1・2・3・4前後		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		TOEIC発展コース	1・2・3・4前後		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		TOEFL STUDY	1・2・3・4前後		2		○						1	メディア※1, ※5, ※6	
		時事英語	1・2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		韓国語	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6
			韓国語Ⅱ	1・2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6
	韓国語会話Ⅰ		1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
	韓国語会話Ⅱ		1・2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6	
	ビジネス韓国語Ⅰ		1・2・3・4前		2		○						1	隔年※1, ※5, ※6	
	ビジネス韓国語Ⅱ		1・2・3・4後		2		○						1	隔年※1, ※5, ※6	
	中国語	中国語(口語Ⅰ)	1・2・3・4前		2		○						1	メディア※1, ※5, ※6	
		中国語(口語Ⅱ)	1・2・3・4後		2		○						1	メディア※1, ※5, ※6	
		中国語(読読Ⅰ)	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		中国語(読読Ⅱ)	1・2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6	
		中国語(聴力Ⅰ)	1・2・3・4前		2		○						1	隔年※1, ※5, ※6	
		中国語(聴力Ⅱ)	1・2・3・4後		2		○						1	隔年※1, ※5, ※6	
		中国語(作文Ⅰ)	1・2・3・4前		2		○						1	隔年※1, ※4, ※6	
		中国語(作文Ⅱ)	1・2・3・4後		2		○						1	隔年※1, ※4, ※6	
		ビジネス中国語Ⅰ	1・2・3・4前		2		○						1	※1, ※5, ※6	
ビジネス中国語Ⅱ		1・2・3・4後		2		○						1	※1, ※5, ※6		
時事中国語Ⅰ		1・2・3・4前		2		○						1	隔年※1, ※5, ※6		
時事中国語Ⅱ	1・2・3・4後		2		○						1	隔年※1, ※5, ※6			
小計(181科目)				6	368	0			10	8	3		72	-	
目等科(演習)	通学科目共(演習)	演習Ⅰ	2通	○	4				8	3			19		
		演習Ⅱ	3通	○	4				8	6	3		20		
		卒業論文演習	4通	○	4				8	5			17		
	小計(3科目)				12	0	0			10	7	3		26	-
合計(220科目)				54	380	0			10	8	3		90		

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>〔卒業要件〕            共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。            （履修科目の登録の上限：52単位（年間））</p> <p>I 共通教育科目            必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。</p> <p>（必修科目24単位 内訳）            ・教養コア系列 9単位            ・一般教養系列（人文教養分野） 3単位            ・一般教養系列（社会教養分野） 3単位            ・一般教養系列（自然教養分野） 2単位            ・一般教養系列（学際的教養分野） 7単位</p> <p>（選択必修科目6単位 内訳）            ・英語系列から6単位</p> <p>II 専門科目            ○経済学科 本科 経済履修            経済学科本科経済履修の専門科目から94単位（必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。）以上を修得する。            （必修科目30単位 内訳）            ・基盤科目 12単位            ・経済政策総論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位            ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位            （選択必修科目64単位 内訳）            ・A科目（※1）の科目の中から46単位            （その内、科目区分が経済学系列の科目から12単位以上修得すること。）            ・B科目（※2）の科目の中から4単位            ・自由科目（※3）の科目の中から14単位            （A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。）</p> <p>○経済学科 本科 国際経済履修            経済学科本科国際経済履修の専門科目から94単位（必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。）以上を修得する。            （必修科目30単位 内訳）            ・基盤科目12単位            ・経済政策総論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位            ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位            （選択必修科目64単位 内訳）            ・A科目（※4）の科目の中から38単位            （その内、科目区分が経済学系列の理論経済、計量経済、数理経済、動学経済、経済政策、金融経済、公共経済、地域経済、社会経済、政治経済、経済史の分野の科目から8単位以上、かつ国際経済学、国際金融、国際関係、国際協力、経済発展、東アジア経済社会、中国経済社会の分野の科目から12単位以上修得すること。）            ・自由科目（※5）の科目の中から26単位            （A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。）</p> <p>○経済学科 公共管理コース            経済学科公共管理コースの専門科目から94単位（必修科目34単位及び選択必修科目60単位を含む。）以上を修得する。            （必修科目34単位 内訳）            ・基盤科目12単位            ・経済政策総論 2単位、国際公共管理論 2単位、公共管理論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位            ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位            （選択必修科目60単位 内訳）            ・A科目（※6）の科目の中から44単位            （その内、科目区分が経済学系列の科目から12単位以上修得すること。）            ・B科目（※7）の科目の中から4単位            ・自由科目（※8）の科目の中から12単位            （A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。）</p> <p>III TOEICスコア            ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。</p>		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

経済学部 経営学科

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 （ 助 手 を 除 く ） 以 外 の 教 員		
共通 教育 科目	教養 コア	基礎セミナー	1前	○	2			○				1					15	
		データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○									1	
		データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○									1	
		知的財産入門	1後		1			○									1	
		運動健康科学	1前		1			○									1	
		山口と世界	1後		1			○									1	
		知の広場	1前		1			○									1	
		キャリア教育	3前		1			○									1	
		小計（8科目）				9	0	0					1					21
	英語	英語Ⅰa	1前			2			○									1
英語Ⅱa		1前			2			○									1	
英語Ⅰb		1後			2			○									1	
英語Ⅱb		1後			2			○									1	
英語会話Ⅰa		1前			1			○									1	
英語会話Ⅱa		1前			1			○									1	
英語会話Ⅰb		1後			1			○									1	
英語会話Ⅱb		1後			1			○									1	
小計（8科目）					0	12	0										2	-
一般 教養	人文 教養	哲学	1前		1			○									1	
		歴史学	1前		1			○									1	
		社会学	1後		1			○									1	
		小計（3科目）				3	0	0									3	-
	社会 教養	経済と法1	1後	○	1			○									9	
		経済と法2	1後	○	1			○				2	6				1	
		経済と法3	1前	○	1			○				3	1				4	
		小計（3科目）				3	0	0				5	7				15	-
	自然 教養	自然科学1	1後		1			○									1	
		自然科学2	1後		1			○									1	
小計（2科目）					2	0	0									2	-	
学 際 的 教 養	人間の発達と育成1	1前		1			○									1		
	人間の発達と育成2	1後		1			○									1		
	文化の継承と創造1	1後		1			○									1		
	文化の継承と創造2	1後		1			○									1		
	社会と医療	1後		1			○									1		
	環境と人間	1前		1			○									1		
	食と生命	1前		1			○									1		
小計（7科目）				7	0	0									6	-		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員	
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1前	○	4			○								1	
		マクロ経済学Ⅰ	1後	○	2			○								1	
		簿記	1前	○	2			○								1	
		法学Ⅰ	1前	○	2			○				1					
		法学Ⅱ	1後	○	2			○				1	1				
		小計(5科目)			12	0	0					2	1			3	-
経済学系列	理論経済	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
		マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
	政治経済学	政治経済学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※8
		政治経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
	経済の歴史	経済学の歴史	1・2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
		経済統計学Ⅰ	1・2・3・4前		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
	経済計量	経済統計学Ⅱ	2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※10
		計量経済学	2・3・4後		2			○								1	隔年※3, ※5, ※7, ※10
	経済数理	経済数学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
		数理経済学	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
	産業連関論	産業連関論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
		景気循環論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
	経済成長論	経済成長論	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
		経済政策総論	1・2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
	金融経済学	金融経済論	1・2・3・4前		4			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
		金融システム論	2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
	経公共	財政学	1・2・3・4後		4			○								1	※1, ※5, ※7, ※8
		国際公共管理論	1・2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
		公共政策論	2・3・4前		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
		公共管理論	2・3・4前		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
	地域経済	公共経営論	2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
		地域経済論	1・2・3・4前		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
	地方財政論	地方財政論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
		地域福祉社会学	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10
	社会経済	社会政策論	1・2・3・4前		4			○								1	※1, ※5, ※7, ※8
		労働経済論	2・3・4前		2			○								1	隔年※1, ※5, ※7, ※8
		ジェンダー論	2・3・4後		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※8
		医療福祉経済論	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※8
		医療福祉事情と経済	2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
		情報法Ⅰ	2・3・4前		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8
	情報法Ⅱ	情報法Ⅱ	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※8
		政治学	1・2・3・4後		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※8
経済史	日本経済史総論	1・2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
	西洋経済史総論	1・2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
	日本経済史各論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
	西洋経済史各論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
国際経済学	国際経済学	1・2・3・4後		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※8	
	国際マクロ経済学	1・2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※8	
	国際政治経済学	1・2・3・4前		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※8	
	貿易論	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
国際金融論	1・2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8		
国際関係	国際関係論	1・2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※8	
	現代世界経済論	1・2・3・4前		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※8	
	アメリカ経済論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
	ヨーロッパ経済論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
協国力際	国際協力論	1・2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※8	
	国際地域統合論	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
	国際人権法	2・3・4前		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※8	
発展経済	経済発展論	1・2・3・4前		2			○								1	※1, ※5, ※7, ※10	
	国際環境保全論	2・3・4前		2			○								1	隔年※3, ※5, ※7, ※10	
	開発とジェンダー	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	
東アジア経	日本経済論	2・3・4後		2			○								1	隔年※1, ※4, ※6, ※8	
	東アジア経済論	1・2・3・4後		2			○								1	※1, ※4, ※6, ※8	
	アジア社会経済論	2・3・4後		2			○								1	※3, ※5, ※7, ※10	

済 中国 社会 経	中国経済論	1・2・3・4前			2	○							1	※1, ※5, ※7, ※8	
	中国経済史	2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※7, ※10	
	中国経済事情	2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※7, ※10	
経営学 系列	経営管理	経営学総論	1・2・3・4前	○	2					1			1	※1, ※4, ※6, ※8	
		経営組織論	1・2・3・4前	○	2								1	※1, ※5, ※7, ※8	
		経営管理論	1・2・3・4後			2					1			1	※1, ※4, ※6, ※8
		労務管理論	2・3・4後			2								1	※1, ※4, ※6, ※8
		財務管理論	1・2・3・4前			2								1	※1, ※4, ※6, ※8
		生産管理論	2・3・4後			2				1				1	※1, ※5, ※7, ※8
		国際経営論	1・2・3・4後			2				1				1	※1, ※4, ※6, ※8
		経営戦略論	2・3・4前			2					1			1	※1, ※4, ※6, ※8
		投資論	2・3・4後			2								1	※1, ※4, ※6, ※8
		地域企業経営論	1・2・3・4前			2					1			1	※1, ※4, ※6, ※8
	中小企業経営論	2・3・4後			2						1		1	※1, ※4, ※6, ※8	
	行 企 動 業	企業論	1・2・3・4後			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		多国籍企業論	1・2・3・4前			2	○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8
数 理 管 理	経営数学	1・2・3・4後			2	○			1					※1, ※4, ※6, ※8	
	経営統計学	2・3・4前			2	○			1					※1, ※4, ※6, ※8	
財 務 会 計	会計学1	1・2・3・4前			2	○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8	
	会計学2	2・3・4前			2	○				1			1	※1, ※4, ※6, ※8	
	財務会計論	2・3・4前			2	○					1		1	※1, ※4, ※6, ※8	
	財務諸表分析	2・3・4後			2	○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8	
	会計監査	2・3・4後			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
簿 記	会計学特論	2・3・4前	○		2	○			1				1	※1, ※8	
	応用簿記	1・2・3・4前			2	○				1			1	※1, ※4, ※6, ※8	
	株式会社簿記	2・3・4後			2	○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8	
	企業結合会計論	2・3・4前			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
	商業簿記特論	2・3・4前			4	○							2	共同、メディア※1, ※4, ※6, ※8	
	財務会計特論	2・3・4後			4	○							2	共同、メディア※1, ※4, ※6, ※8	
管 理 会 計	税法特論	2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※6, ※10	
	法人税法1	2・3・4後			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
	法人税法2	2・3・4後			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
	工業簿記	1・2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※8	
流 通	原価計算論	2・3・4前			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
	管理会計論	2・3・4前			2	○				1			1	※1, ※4, ※6, ※8	
	管理会計特論	2・3・4後	○		2	○							1	※1, ※8	
	医療マネジメント	2・3・4前			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
マ ー ケ ー テ ィ ン グ 論	流通論Ⅰ	1・2・3・4前			2	○			1					※1, ※4, ※6, ※8	
	流通論Ⅱ	1・2・3・4後			2	○			1					※1, ※5, ※7, ※8	
商 品	マーケティング論	1・2・3・4前	○		2	○				1				※4, ※6, ※8	
	マーケティング戦略論	2・3・4後			2	○				1				※1, ※5, ※7, ※8	
保 険	商品学	1・2・3・4前			2	○				1				※1, ※4, ※6, ※8	
	商品開発論	2・3・4後			2	○				1				※1, ※5, ※7, ※8	
経 済 基 本 法	保険論Ⅰ	1・2・3・4前			2	○				1				※1, ※4, ※6, ※8	
	保険論Ⅱ	2・3・4後			2	○				1				隔年※1, ※5, ※7, ※8	
	医療リスクマネジメント	2・3・4後			2	○				1				隔年※1, ※4, ※6, ※8	
	法理学	1・2・3・4前			2	○							1	※2, ※5, ※7, ※9	
	憲法Ⅰ	1・2・3・4前	○		2	○					1			※2, ※5, ※7	
	憲法Ⅱ	2・3・4後			2	○					1			※3, ※5, ※7, ※9	
	民法Ⅰ	1・2・3・4前	○		2	○			1				1	※2, ※4, ※6,	
	民法Ⅱ	1・2・3・4前			2	○								※2, ※4, ※6, ※9	
	民法Ⅲ	2・3・4後			2	○				1				隔年※3, ※5, ※7, ※9	
	民法Ⅳ	1・2・3・4前			2	○				1				隔年※3, ※5, ※7, ※9	
現 代 企 業 法	民法Ⅴ	1・2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※7, ※9	
	刑法総論	1・2・3・4前			2	○			1					※3, ※5, ※7, ※9	
	刑法各論	1・2・3・4後			2	○			1					隔年※3, ※5, ※7, ※9	
	刑事訴訟法	2・3・4後			2	○			1					隔年※3, ※5, ※7, ※9	
	商法Ⅰ	1・2・3・4後			2	○							1	※2, ※4, ※6, ※9	
商法Ⅱ	1・2・3・4前			2	○							1	※2, ※4, ※6, ※9		
商法Ⅳ	2・3・4前			2	○							1	※3, ※5, ※7, ※9		
経済法	1・2・3・4前			2	○							1	※2, ※5, ※7, ※9		
知的財産権法	2・3・4後			2	○							3	オムニバス、※2, ※5, ※7		

活法 社会生	社会法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○						1	※2, ※5, ※7, ※9	
	社会法Ⅱ	1・2・3・4前		2	○						1	※2, ※5, ※7, ※9	
	民事訴訟法	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※9	
	行政法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○				1			※3, ※5, ※7, ※9	
テム 行政シ ス	行政法Ⅱ	2・3・4後		2	○				1			※3, ※5, ※7, ※9	
	税法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○				1			※2, ※4, ※6, ※9	
	税法Ⅱ	2・3・4後		2	○				1			※2, ※5, ※7, ※9	
	観光政策概論	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
観光 政策学 系列	観光経済学	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
	観光統計学	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	観光地域経済論	2・3・4後		2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
	観光政策評価論	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	観光産業総論	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
	観光マーケティング論	2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
	ヘルスツーリズム論	2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
	ホスピタリティマネジメント	2・3・4前		2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
	旅行契約と約款	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8	
	観光と環境	環境経済学	1・2・3・4前		2	○					1	※3, ※5, ※7, ※10	
	エコ・ツーリズム論	2・3・4前		2	○					1	隔年※3, ※5, ※7, ※10		
	観光地理学	2・3・4後		2	○					1	※1, ※5, ※7, ※10		
	地理学概論	2・3・4前		2	○					1	※3, ※5, ※7, ※10		
観光 文化交 流	観光コミュニケーション	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前		2	○						2	共同※3, ※5, ※7, ※10	
	国際メディア論	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	観光文化心理学	1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※7, ※10	
	日本文化・宗教論	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	山口の歴史と文化	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	民俗学・文化人類学特殊講義 (現代民俗)	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	民俗学・文化人類学特殊講義 (生活文化)	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	宗教学概論	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
	食文化論	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
美術史Ⅱ (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10		
英語	観光英語	1・2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
通学 科目共	外国書講読	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
	特殊講義Ⅰ	1・2・3・4前		2	○				1		2	※1, ※5, ※7, ※8	
	課題解決型インターンシップ	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
学部 共通科 目(外国 語)	英語	リーディング	1・2・3・4前	2	○						1	※3, ※5, ※7, ※8	
		ライティング	1・2・3・4後	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
		リスニング	1・2・3・4前	2	○						1	※3, ※5, ※7, ※8	
		英文法	1・2・3・4前	2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
		英会話	1・2・3・4前	2	○						2	※1, ※4, ※6, ※8	
		ビジネス英語	1・2・3・4後	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
		ビジネス英語会話	1・2・3・4前	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
		ビジネス・ライティング	1・2・3・4後	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
		TOEIC標準コース	1・2・3・4前	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
		TOEIC発展コース	1・2・3・4前	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
	TOEFL STUDY	1・2・3・4前	2	○						1	メディア※1, ※4, ※6, ※8		
	時事英語	1・2・3・4後	2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8		
	韓国 語	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前	2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
		韓国語Ⅱ	1・2・3・4後	2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
		韓国語会話Ⅰ	1・2・3・4前	2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
		韓国語会話Ⅱ	1・2・3・4後	2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8	
		ビジネス韓国語Ⅰ	1・2・3・4前	2	○						1	隔年※1, ※5, ※7, ※8	
		ビジネス韓国語Ⅱ	1・2・3・4後	2	○						1	隔年※1, ※5, ※7, ※8	
	中国 語	中国語(口語Ⅰ)	1・2・3・4前	2	○							1	メディア※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(口語Ⅱ)	1・2・3・4後	2	○							1	メディア※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(閱讀Ⅰ)	1・2・3・4前	2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(閱讀Ⅱ)	1・2・3・4後	2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(聴力Ⅰ)	1・2・3・4前	2	○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(聴力Ⅱ)	1・2・3・4後	2	○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(作文Ⅰ)	1・2・3・4前	2	○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(作文Ⅱ)	1・2・3・4後	2	○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		ビジネス中国語Ⅰ	1・2・3・4前	2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		ビジネス中国語Ⅱ	1・2・3・4後	2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
時事中国語Ⅰ		1・2・3・4前	2	○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8	
時事中国語Ⅱ		1・2・3・4後	2	○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8	
小計(181科目)				4	370	0			8	8	2	74	-

目等 科目	演習 I	2通	○	4				○		8	3			19	
	演習 II	3通	○	4				○		4	7	1		25	
	卒業論文演習	4通	○	4				○		5	5	1		19	
	小計 (3科目)			12	0	0				8	7	1		30	-
合計 (220科目)		-	-	52	382	0		-		8	8	2		93	
学位又は称号		学士 (経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
<p>[卒業要件] 共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。 (履修科目の登録の上限：52単位 (年間))</p> <p>I 共通教育科目 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。 (必修科目24単位 内訳) ・教養コア系列 9単位 ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位 ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位 ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位 ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位 (選択必修科目6単位 内訳) ・英語系列から6単位</p> <p>II 専門科目 ○経営学科本科 経営学科本科の専門科目から94単位 (必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。) 以上を修得する。 (必修科目30単位 内訳) ・基盤科目 12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、マーケティング論 2単位 ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目64単位 内訳) ・A科目 (※1) の科目の中から40単位 (その内、科目区分が経営学系列の科目から24単位以上修得すること。) ・B科目 (※2) の科目の中から4単位 ・自由科目 (※3) の科目の中から20単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経営学科職業会計人コース (会計専攻) 経営学科職業会計人コース (会計専攻) の専門科目から94単位 (必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。) 以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、会計学特論 2単位、管理会計特論 2単位 ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目 (※4) の科目の中から40単位 ・自由科目 (※5) の科目の中から22単位 (A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経営学科職業会計人コース (税務専攻) 経営学科職業会計人コース (税務専攻) の専門科目から94単位 (必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。) 以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、会計学特論 2単位、管理会計特論 2単位 ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目 (※6) の科目の中から40単位 ・自由科目 (※7) の科目の中から22単位 (A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経営学科企業法務コース 経営学科企業法務コースの専門科目から94単位 (必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。) 以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、憲法 I 2単位、民法 I 2単位 ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目 (※8) の科目の中から20単位 (その内、科目区分が経営学系列の科目から8単位以上修得すること。) ・B科目 (※9) の科目の中から20単位 ・自由科目 (※10) の科目の中から22単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>III TOEICスコア ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。</p>								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業の標準時間				90分			



教 育 課 程 等 の 概 要																		
経済学部 観光政策学科																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		基幹・ 教 助 手 以 外 の 教 員		
共通 教育 科目	教養 コア	基礎セミナー	1前	○	2			○				2	3	1			10	
		データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○									1	
		データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○									1	
		知的財産入門	1後		1			○									1	
		運動健康科学	1前		1			○									1	
		山口と世界	1後		1			○									1	
		知の広場	1前		1			○									1	
		キャリア教育	3前		1			○									1	
	小計（8科目）			9	0	0						2	3	1			16	-
	英 語	英語Ⅰa	1前			2			○								1	
		英語Ⅱa	1前			2			○								1	
		英語Ⅰb	1後			2			○								1	
		英語Ⅱb	1後			2			○								1	
		英語会話Ⅰa	1前			1			○								1	
		英語会話Ⅱa	1前			1			○								1	
		英語会話Ⅰb	1後			1			○								1	
		英語会話Ⅱb	1後			1			○								1	
	小計（8科目）			0	12	0										2		
	人 文 教 養	哲学	1前			1			○								1	
		歴史学	1前			1			○								1	
		社会学	1後			1			○								1	
	小計（3科目）				3	0	0									3		
	社 会 教 養	経済と法1	1後	○		1			○								9	
		経済と法2	1後	○		1			○			1					8	
		経済と法3	1前	○		1			○				1				7	
	小計（3科目）				3	0	0					1	1			24		
	自 然 教 養	自然科学1	1後			1			○								1	
		自然科学2	1後			1			○								1	
小計（2科目）				2	0	0									2			
学 際 的 教 養	人間の発達と育成1	1前			1			○								1		
	人間の発達と育成2	1後			1			○								1		
	文化の継承と創造1	1後			1			○								1		
	文化の継承と創造2	1後			1			○								1		
	社会と医療	1後			1			○								1		
	環境と人間	1前			1			○								1		
	食と生命	1前			1			○								1		
小計（7科目）				7	0	0									6			

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹へ 助手を 除く 教員	
																	12
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1前	○	4				○							1	
		マクロ経済学Ⅰ	1後	○	2				○							1	
		簿記	1前	○	2				○							1	
		法学Ⅰ	1前	○	2				○							1	
		法学Ⅱ	1後	○	2				○							2	
	小計(5科目)			12	0	0									6	-	
経済学系列	理論経済	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		政治経済学Ⅰ	1・2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※7
		政治経済学Ⅱ	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		経済学の歴史	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済計量	経済統計学Ⅰ	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※7
		経済統計学Ⅱ	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		計量経済学	2・3・4後			2			○							1	隔年※1, ※4, ※9
	経数理	経済数学Ⅰ	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
		数理経済学	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済動	産業連関論	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		景気循環論	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済学	経済成長論	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		経済政策総論	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済金融	金融経済論	1・2・3・4前			4			○							1	※1, ※4, ※9
		金融システム論	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済公共	財政学	1・2・3・4後			4			○							1	※1, ※4, ※9
		国際公共管理論	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※7
		公共政策論	2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※9
		公共管理論	2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※7
		公共経営論	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済地域	地域経済論	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※9
		地方財政論	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		地域福祉社会学	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
	社会経済	社会政策論	1・2・3・4前			4			○							1	※3, ※6, ※9
		労働経済論	2・3・4前			2			○							1	隔年※3, ※6, ※9
		ジェンダー論	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
		医療福祉経済論	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		医療福祉事情と経済	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		情報法Ⅰ	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
	政治学	情報法Ⅱ	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
		政治学	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済史	日本経済史総論	1・2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		西洋経済史総論	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
		日本経済史各論	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
		西洋経済史各論	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※7
	国際経済学	国際経済学	1・2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		国際マクロ経済学	1・2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		国際政治経済学	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※7
		貿易論	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
	国際金融	国際金融論	1・2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		国際関係論	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
		現代世界経済論	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※9
		アメリカ経済論	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
	国際関係	ヨーロッパ経済論	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※9
		国際協力論	1・2・3・4後			2			○							1	※1, ※6, ※7
		国際地域統合論	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
		国際人権法	2・3・4前			2			○							1	※3, ※6, ※9
	発展経済	経済発展論	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※9
		国際環境保全論	2・3・4前			2			○							1	隔年※1, ※4, ※7
		開発とジェンダー	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9
	経済アジア	日本経済論	2・3・4後			2			○							1	隔年※3, ※6, ※9
東アジア経済論		1・2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※7	
アジア社会経済論		2・3・4後			2			○							1	※1, ※6, ※7	
中国経済	中国経済論	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※7	
	中国経済史	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9	
	中国経済事情	2・3・4後			2			○							1	※3, ※6, ※9	

経営学系列	経営管理	経営学総論	1・2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※7
		経営組織論	1・2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※7
		経営管理論	1・2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		労務管理論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		財務管理論	1・2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※9
		生産管理論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		国際経営論	1・2・3・4後		2	○								1	※1, ※4, ※7
		経営戦略論	2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
		投資論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		地域企業経営論	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※4, ※9
	中小企業経営論	2・3・4後		2	○								1	※1, ※4, ※7	
	行企動業	企業論	1・2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		多国籍企業論	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
	数経理営	経営数学	1・2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		経営統計学	2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
	財務会計	会计学 1	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※4, ※9
		会计学 2	2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
		財務会計論	2・3・4前		2	○								1	※3, ※4, ※9
		財務諸表分析	2・3・4後		2	○								1	※3, ※4, ※9
		会計監査	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		会计学特論	2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
	簿記	応用簿記	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
		株式会社簿記	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
		企業結合会計論	2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9
		商業簿記特論	2・3・4前		4	○								2	共同、メディア※3, ※6, ※9
		財務会計特論	2・3・4後		4	○								2	共同、メディア※3, ※6, ※9
		税法特論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9
	法人税法 1	2・3・4後		2	○								1	※3, ※4, ※9	
法人税法 2	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9		
管理会計	工業簿記	1・2・3・4後		2	○								1	※3, ※5, ※8	
	原価計算論	2・3・4前後		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	管理会計論	2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※7	
	管理会計特論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※4, ※9	
	医療マネジメント	2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※9	
流通	流通論 I	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	流通論 II	1・2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9	
マーケティング	マーケティング論	1・2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※7	
	マーケティング戦略論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9	
商品	商品学	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	商品開発論	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9	
保険	保険論 I	1・2・3・4前		2	○								1	※1, ※4, ※9	
	保険論 II	2・3・4後		2	○								1	隔年※3, ※6, ※9	
	医療リスクマネジメント	2・3・4後		2	○								1	隔年※1, ※4, ※9	
経済基本法	法理学	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	憲法 I	1・2・3・4前		2	○								1	※2, ※5, ※8	
	憲法 II	2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	民法 I	1・2・3・4前		2	○								1	※2, ※5, ※8	
	民法 II	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	民法 III	2・3・4後		2	○								1	隔年※3, ※6, ※9	
	民法 IV	1・2・3・4前		2	○								1	隔年※2, ※5, ※8	
	民法 V	1・2・3・4後		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	刑法総論	1・2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	刑法各論	1・2・3・4後		2	○								1	隔年※3, ※6, ※9	
刑事訴訟法	2・3・4後		2	○								1	隔年※3, ※6, ※9		
現代企業法	商法 I	1・2・3・4後		2	○								1	※2, ※5, ※8	
	商法 II	1・2・3・4前		2	○								1	※2, ※5, ※8	
	商法 IV	2・3・4前		2	○								1	※3, ※6, ※9	
	経済法	1・2・3・4前		2	○								1	※2, ※5, ※8	
	知的財産権法	2・3・4後		2	○								3	オムニバス、※2, ※5, ※7	

社会生	社会法Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※3, ※6, ※9			
	社会法Ⅱ	1・2・3・4前			2	○						1	※3, ※6, ※9			
	民事訴訟法	2・3・4後			2	○						1	※3, ※6, ※9			
	行政法Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※2, ※5, ※8			
行政シ	行政法Ⅱ	2・3・4後			2	○						1	※3, ※6, ※9			
	税法Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※3, ※6, ※9			
	税法Ⅱ	2・3・4後			2	○						1	※3, ※6, ※9			
	観光政策概論	1・2・3・4前	○		2	○						1				
観光経済	観光経済学	1・2・3・4前	○		2	○										
	観光統計学	2・3・4前			2	○				1						
	観光地域経済論	2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	観光政策評価論	2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	観光産業総論	1・2・3・4前	○		2	○				1			※1, ※7			
観光ビジネ	観光マーケティング論	2・3・4前			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	ヘルスツーリズム論	2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	ホスピタリティマネジメント	2・3・4前			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	旅行契約と約款	2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※8			
	環境経済学	1・2・3・4前	○		2	○				1	1		※1, ※7			
観光と環境	エコ・ツーリズム論	2・3・4前			2	○				1			隔年※1, ※4, ※7			
	観光地理学	2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	地理学概論	2・3・4前			2	○					1		※1, ※4, ※7			
観光文化交流	観光コミュニケーション	1・2・3・4後	○	2	2	○										
	異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前	○	2	2	○				2			共同			
	国際メディア論	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	観光文化心理学	1・2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	海外プロジェクト演習Ⅰa	2・3・4前後	○	1	1	○				2	1	1	※3, ※4			
	海外プロジェクト演習Ⅰb	2・3・4前後	○	1	1	○				2	1	1	※3, ※4			
	海外プロジェクト演習Ⅱa	2・3・4前後		1	1	○				2	1	1	※3, ※4, ※7			
	海外プロジェクト演習Ⅱb	2・3・4前後		1	1	○				2	1	1	※3, ※4, ※7			
	日本文化・宗教論	2・3・4前			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	山口の歴史と文化	2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	民俗学・文化人類学特殊講義 (現代民俗)	2・3・4前			2	○						1	※1, ※6, ※7			
	民俗学・文化人類学特殊講義 (生活文化)	2・3・4後			2	○						1	※1, ※6, ※7			
	宗教学概論	2・3・4後			2	○						1	※1, ※6, ※7			
食文化論	2・3・4前			2	○						1	※1, ※6, ※7				
美術史Ⅱ (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	2・3・4後			2	○						1	※1, ※6, ※7				
英語	観光英語	1・2・3・4前	○		2	○				1			※1, ※4			
	プロジェクト演習Ⅰa	2・3・4前後	○		1		○			1	2		※3			
	プロジェクト演習Ⅰb	2・3・4前後	○		1		○			1	2		※3			
	プロジェクト演習Ⅱa	2・3・4前後		1	1		○			1	2		※3, ※4, ※7			
プロジェクト演習Ⅱb	2・3・4前後		1	1		○			1	2		※3, ※4, ※7				
通学科目共	外国書講読	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	特殊講義Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						3	※1, ※4, ※7			
	課題解決型インターンシップ	1・2・3・4後			2	○				1			※3, ※5, ※7, ※10			
学部共通科目(外国語)	リーディング	1・2・3・4前			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	ライティング	1・2・3・4後			2	○					1		※1, ※4, ※7			
	リスニング	1・2・3・4前後			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	英文法	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	英会話	1・2・3・4前後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	ビジネス英語	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	ビジネス英語会話	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	ビジネス・ライティング	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	TOEIC標準コース	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※6, ※9			
	TOEIC発展コース	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	TOEFL STUDY	1・2・3・4前			2	○						1	メディア※1, ※4, ※7			
	時事英語	1・2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	韓国語	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7		
		韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※7		
		韓国語会話Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7		
韓国語会話Ⅱ		1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※7			
ビジネス韓国語Ⅰ		1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
ビジネス韓国語Ⅱ		1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
中国語	中国語(口語Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	メディア※1, ※4, ※7			
	中国語(口語Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	メディア※1, ※4, ※7			
	中国語(読読Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	中国語(読読Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○				1			※1, ※4, ※7			
	中国語(聴力Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
	中国語(聴力Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
	中国語(作文Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
	中国語(作文Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
	ビジネス中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	ビジネス中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※7			
	時事中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7			
時事中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※7				
小計(189科目)					8	374	0			5	4	1	0	0	82	-

目等 科目	通学	演習Ⅰ	2通	○	4				○		4	3	1			22	
	演習部	演習Ⅱ	3通	○	4				○		4	3	1			29	
	科目共	卒業論文演習	4通	○	4				○		3	3				24	
		小計(3科目)				12	0	0			5	4	1			36	-
合計(228科目)						56	386	0			5	4	1			101	
学位又は称号		学士(経済学)		学位又は学科の分野				経済学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
<p>[卒業要件] 共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。 (履修科目の登録の上限：52単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。 (必修科目24単位 内訳) ・教養コア系列 9単位 ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位 ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位 ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位 ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位 (選択必修科目6単位 内訳) ・英語系列から6単位</p> <p>II 専門科目 ○観光政策学科 本科 観光政策学科本科の専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基礎科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目(※1)の科目の中から48単位 (その内、科目区分が観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目(※2)の科目の中から2単位 ・自由科目(※3)の科目の中から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○観光政策学科 観光経済分析コース 観光政策学科観光経済分析コースの専門科目から94単位(必修科目38単位及び選択必修科目56単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目38単位 内訳) ・基礎科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光産業総論 2単位、環境経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位、プロジェクト演習Ⅰa 1単位、プロジェクト演習Ⅰb 1単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目56単位 内訳) ・A科目(※4)の科目の中から42単位 (その内、科目区分が観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目(※5)の科目の中から2単位 ・自由科目(※6)の科目の中から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。) ・語学評価認定を取得すること。</p> <p>○観光政策学科 観光コミュニケーションコース 観光政策学科観光コミュニケーションコースの専門科目から94単位(必修科目38単位及び選択必修科目56単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目38単位 内訳) ・基礎科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位、海外プロジェクト演習Ⅰa 1単位、海外プロジェクト演習Ⅰb 1単位、観光英語 2単位、プロジェクト演習Ⅰa 1単位、プロジェクト演習Ⅰb 1単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目56単位 内訳) ・A科目(※7)の科目の中から42単位 (その内、科目区分が観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目(※8)の科目の中から2単位 ・自由科目(※9)の科目の中から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。) ・語学評価認定を取得すること。</p> <p>III TOEICスコア ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。</p>										1学年の学期区分	2期						
										1学期の授業期間	15週						
										1時限の授業の標準時間	90分						

教育課程等の概要															
国際総合科学部 国際総合科学科															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤科目	国際総合科学総論	1前①	○	1			○			2	3	2			オムニバス
	STEAM総論	1前①	○	1			○			1	1				
	コミュニケーション総論	1前①	○	1			○			1	5	1	1		オムニバス
	ダイバーシティ総論	1前①	○	1			○			6	1	1			オムニバス
	アカデミック・スキル入門	1前①②	○	2			○	○		10	5	4			
	アカデミック・ツールとしての数学	1前①②	○	2			○				1		1		※演習
	データサイエンスと社会 I	1前②	○	1			○			1					
	データサイエンスと社会 II	1後③	○	1			○			1					
	ロジカル&クリティカルシンキング	1前①②	○	2			○			1	1	1			※演習
	日本語論述の理論と実践	1前②	○	1			○			1	1				※演習
	哲学思考	1前②	○	1			○			1					
	統計学入門 I	1後③	○	1			○						1		※演習
	統計学入門 II	1後④	○	1			○						1		※演習
	統計学演習 I	1後③	○	1			○						1		※演習
	統計学演習 II	1後④	○	1			○						1		※演習
	社会調査法 I (質的調査)	1後③	○	1			○			1	1				※演習
	社会調査法 II (量的調査)	1後④	○	1			○					1			※演習
	ICT演習 I	1後④	○	1			○			2					※演習
	ICT演習 II	2前①	○	1			○			2					※演習
	AI・ビッグデータ系科目	3後③	○	2			○				1				※演習
	科学技術史	1後③	○	1			○			1					
	科学技術哲学	1後④	○	1			○					1			
	科学技術と社会	2前①	○	1			○				1				
	食と生命	1前②	○	1			○							1	
	社会と医療	1前①	○	1			○							7	メディア・オムニバス
	運動健康科学	1後③	○	1			○								
	物質・エネルギー・環境 I	2前①	○	1			○			1					
	物質・エネルギー・環境 II	2前②	○	1			○			1					
	バイオテクノロジー	2前①	○	1			○			1					
	生物多様性	2前②	○	1			○			1					
	デザイン概論	1後③④	○	2			○				1	2			
	デザイン演習	2前①②	○		2		○				1	2			オムニバス
	知的財産入門	1前①	○	1			○				1				オムニバス
	知的財産法	2前②	○	1			○				1				
	グローバル・ヒストリー概論	1前①	○	1			○			1					
	法学概論	1前①	○	1			○				1				
	文化人類学概論	2前①	○	1			○			1					
	経済学概論	1後④	○	1			○				1				
	宗教学概論	2前②	○	1			○				1				
	社会学概論	1後③	○	1			○				1				
	言語学概論	2前④	○	1			○			1					
	経営学概論	2前②	○	1			○				1				
	表象文化論概論	2前①	○	1			○			1					
	文学概論	1前③	○	1			○				1				
小計 (44科目)				48	2	0				10	10	6	2	0	8
展開科目	科学技術論演習 I	2後③					○			2	1	1			
	科学技術論演習 II	2後④				○			2		1	1			
	科学技術論演習 III	3前①				○			1	1	1			1	
	科学技術論演習 IV	3前②				○				1					
	サービスデザイン	3後②				○				1					※演習
	インクルーシブデザイン	3後④				○					1				※演習
	ビジュアルコミュニケーションデザイン	3後④				○					1				※演習
	著作権法 I	3前				○				1					
	特許法	3前				○								1	
	種苗法	3前				○								1	
	技術経営と知的財産	3前				○								1	
	農業と知的財産	2後				○								1	
	情報法と知的財産	2後				○								1	
	商標法	2後				○								1	
	標準化と知的財産	2後				○								2	
	意匠法	2後				○								1	
	不正競争防止法	2後				○								1	
	知的財産管理論	2後				○								1	
	著作権法 II	2後				○								1	
	文化社会論演習 I	2後③				○				2	1	2			
	文化社会論演習 II	2後④				○				5					
	文化社会論演習 III	3前①				○				1	1				
文化社会論演習 IV	3前②				○				4	1					
小計 (23科目)				0	34	0				10	6	6	1	0	5

コミュニケーション 科目	コミュニケーション概論	1後③	○	1			○		1					※演習	
	異文化コミュニケーション論	2前④		1			○		1					※演習	
	多文化コミュニケーションセミナー	2前①	○	1			○		6	2				※演習	
	プレゼンテーションの理論と実践	2前①		1					1					※演習	
	多文化共生	3～4後③		1			○		1					※演習	
	Elementary English Speaking	1前①		1					1					※演習	
	Elementary English Listening	1前①		1							1			※演習	
	Elementary English Reading	1前②		1					1					※演習	
	Elementary English Writing	1前②		1								1		※演習	
	Pre-Intermediate English Speaking	1前①		1								1		※演習	
	Pre-Intermediate English Listening	1前①		1					1					※演習	
	Pre-Intermediate English Writing	1前②		1								1		※演習	
	Pre-Intermediate English Reading	1前②		1					1					※演習	
	Intermediate English Speaking	1後③		1					1					※演習	
	Intermediate English Listening	1後③		1					1					※演習	
	Intermediate English Reading	1後④		1								1		※演習	
	Intermediate English Writing	1後④		1					1					※演習	
	Upper-Intermediate English Speaking	2～4前①		1								1		※演習	
	Upper-Intermediate English Listening	2～4前①		1					1					※演習	
	Upper-Intermediate English Reading	2～4前②		1					1					※演習	
	Upper-Intermediate English Writing	2～4前②		1					1					※演習	
	English Academic Writing I	1後③		1								1		※演習	
	English Academic Writing II	1後④		1					1					※演習	
	English Academic Reading	2前③		1					1					※演習	
	English Presentation	1～4後④		1					1					※演習	
	English in Culture and Society I	2～4前①		1					1					※演習	
	English in Culture and Society II	3～4後④		1					1					※演習	
	English for Design and Technology I	2～4前②		1					1					※演習	
	English for Design and Technology II	3～4前①		1					1					※演習	
	Research English	3～4後③		1								1		※演習	
	Business English	3～4前②		1					1					※演習	
	Essential English	1前①		1					1					※演習	
	TOEIC(L&R600+) I	1前①		1					1					※演習	
	TOEIC(L&R600+) II	1前②		1					1					※演習	
	TOEIC(L&R600+) III	1後③		1						2				※演習	
TOEIC(L&R600+) IV	1後④		1					1					※演習		
TOEIC(L&R700+) I	3～4後③		1					1					※演習		
TOEIC(L&R700+) II	3～4前①		1					1					※演習		
TOEIC(S&W280+) I	3～4後④		1					1					※演習		
TOEIC(S&W280+) II	3～4前②		1					1					※演習		
IELTS5.0+ I	1前②		1					1					※演習		
IELTS5.0+ II	1後③		1					1					※演習		
IELTS5.5+ I	1前①		1					1					※演習		
IELTS5.5+ II	1前②		1					1					※演習		
IELTS6.0+ I	1後③		1					1					※演習		
言語学習の理論と実践 I	1前②	○	1					1					※演習		
言語学習の理論と実践 II	1後③		1					1			○		※演習		
言語と社会 I	3～4後③		1					1					※演習		
言語と社会 II	3～4後④		1					1					※演習		
言語の自律学習	3～4後③		1					1			○		※演習		
中国語 I	1後④		1									1	※演習		
中国語 II	2前①		1									1	※演習		
中国語 III	2前②		1									1	※演習		
韓国語 I	1後④		1									1	※演習		
韓国語 II	2前①		1									1	※演習		
韓国語 III	2前②		1									1	※演習		
Translation	2～4後③		1					1					※演習		
Interpretation	2～4後③		1					1					※演習		
グローバル・コミュニケーション演習 I	2後③		2					1					※演習		
グローバル・コミュニケーション演習 II	2後④		2					1					※演習		
グローバル・コミュニケーション演習 III	3前①		2					1					※演習		
グローバル・コミュニケーション演習 IV	3前②		2					1					※演習		
小計 (62科目)			3	63	0			2	6	2	1	0	2		
創造支援 科目	ユーザエクスペリエンス (UX)	1前①		1			○		1						
	ワークショップデザイン	1前②		1			○		1						
	スペースデザイン	1後④		1			○		1						
	デザイン基礎 (スケッチ・ダイアグラム)	1後③		1			○		1						
	コンピュータグラフィックス	1前①		1			○				1				
	デザイン基礎 (エディトリアルデザイン)	1前②		1			○				1				
	写真撮影技術	1後③		1			○				1				
	動画撮影技術	1後④		1			○				1				
	デジタルファブリケーション 1 (レーザー加工/CNC)	1前①		1			○				1				
	デザイン基礎 (立体構成)	1前③		1			○				1				
	デジタルファブリケーション 2 (3DCAD/3Dプリンティング)	1前②		1			○				1				
	ファブリケーション技術	1後④		1			○				1				
	小計 (12科目)			0	12	0			1	1	2	0	0	0	
	イア ン・キ ャリ 目 目 目	キャリア・デザイン入門	3後③④	○	2			○		1					
実践キャリア・デザイン		3後③④	○	1			○						1		
小計 (2科目)				3					1	0	0	0	0	1	
課 題 解 決 科 目	山口と世界	1後④	○	1			○		3	4					
	グローバルイヤー準備	2前②	○	1			○		10	5	4				
	グローバルイヤーまとめ	3後③	○	1			○		10	5	4				
	プロジェクト型課題解決入門	3後④	○	1			○		9	10	6	2			
	プロジェクト型課題解決研究	4通	○	8			○		9	10	6	2			
	プロジェクト型課題解決特論	4後④	○	1			○		9	10	6	2			
	小計 (6科目)			13	0	0			10	10	6	2	0	0	
合計 (149科目)		-	-	67	111	0	-	10	10	6	2	0	16		

学位又は称号	学士(学術)	学位又は学科の分野	学際領域
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[卒業要件] 以下の必修科目、選択科目の条件を満たし124単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限：28単位(1年次～3年次各学期)、4年次制限なし)</p> <p>1 基盤科目 48単位必修 2 展開科目 8単位選択必修(内訳は下記のとおり)</p> <p>(1) 下記の科目から4単位以上修得すること。 科学技術論演習Ⅰ, 科学技術論演習Ⅱ, 科学技術論演習Ⅲ, 科学技術論演習Ⅳ</p> <p>(2) 下記の科目から4単位以上修得すること。 文化社会論演習Ⅰ, 文化社会論演習Ⅱ, 文化社会論演習Ⅲ, 文化社会論演習Ⅳ</p> <p>3 コミュニケーション科目 3単位必修</p> <p>9単位選択必修(内訳は下記のとおり)</p> <p>(1) 下記の科目のうち、Elementary, Pre-Intermediate, いずれかのレベルから4単位以上修得すること。 (Elementaryレベル) Elementary English Speaking, Elementary English Listening, Elementary English Reading, Elementary English Writing, (Pre-Intermediateレベル) Pre-Intermediate English Speaking, Pre-Intermediate English Listening, Pre-Intermediate English Writing, Pre-Intermediate English Reading</p> <p>(2) 下記の科目から4単位以上修得すること。 Intermediate English Speaking, Intermediate English Listening, Intermediate English Reading, Intermediate English Writing, Upper-Intermediate English Speaking, Upper-Intermediate English Listening, Upper-Intermediate English Reading, Upper-Intermediate English Writing, English Academic Writing I, English Academic Writing II, English Academic Reading, English Presentation, English in Culture and Society I, English in Culture and Society II, English for Design and Technology I, English for Design and Technology II, Research English, Business English</p> <p>(3) 下記の科目から1単位以上修得すること。 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, 中国語Ⅲ, 韓国語Ⅰ, 韓国語Ⅱ, 韓国語Ⅲ</p> <p>4 キャリア・デザイン科目 3単位必修 5 課題解決科目 13単位必修</p>		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分



教育課程等の概要																		
(人文科学研究科人文科学専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員		
専門科目	人文科学総論	1 前	/	2			○			8	4	1				オムニバス		
	知的財産特論	1 前②		1			○											
	研究者行動規範特論	1 前①		1			○									1		
	小計(3科目)			-	4	0	0	-	-	-	8	4	1			2	-	
思想研究コース	西洋哲学思想論(哲学)	1 後	/		2		○			1								
	西洋哲学思想論演習(哲学の歴史)	1 前			2			○		1								
	西洋哲学思想論演習(哲学の理論)	1 後				2			○		1							
	西洋哲学思想論(倫理学)	1 後				2		○				1						
	西洋哲学思想論演習(倫理学の歴史)	1 前				2			○			1						
	西洋哲学思想論演習(倫理学の理論)	1 後				2			○			1						
	中国哲学思想論	1 後				2		○					1					
	中国哲学思想論演習(古代中世)	1 前				2			○				1					
	中国哲学思想論演習(近世)	1 後				2			○				1					
	日本思想論(古代中世)	1 前				2		○			1							
	日本思想論演習(古代中世・信仰)	1 前				2			○		1							
	日本思想論演習(古代中世・文芸)	1 後				2			○		1							
	日本思想論(近世)	1 後				2		○					1					
	日本思想論演習(近世・学問)	1 前				2			○				1					
	日本思想論演習(近世・文芸)	1 後				2			○				1					
	宗教思想論	1 後				2		○			1							
	宗教思想論演習(理論)	1 前				2			○		1							
	宗教思想論演習(応用)	1 後				2			○		1							
	芸術論(美学)	1 前				2		○			1							
	芸術論演習(近代美学)	1 前				2			○		1							
	芸術論演習(現代美学)	1 後				2			○		1							
	芸術論(美術史)	1 後				2		○			1							
	芸術論演習(近代美術史)	1 前				2			○		1							
	芸術論演習(現代美術史)	1 後				2			○		1							
	思想研究演習(前期)	2 前				2			○		5	2	1					
	思想研究演習(後期)	2 後				2			○		5	2	1					
小計(26科目)			-	4	48	0				5	2	1	0	0	0	-		
歴史研究コース	日本歴史論(古代)	1 後	/		2		○					1						
	日本歴史論(中世)	1 前			2		○			1								
	日本歴史論(近世)	1 前				2		○				1						
	日本歴史論(近現代)	1 後				2		○				1						
	日本歴史論演習(古代の政治)	1 後				2			○			1					隔年	
	日本歴史論演習(古代の社会)	1 前				2			○			1					隔年	
	日本歴史論演習(中世の政治)	1 後				2			○		1							
	日本歴史論演習(中世の社会)	1 後				2			○		1							
	日本歴史論演習(近世の政治)	1 前				2			○			1						
	日本歴史論演習(近世の社会)	1 後				2			○			1						
	日本歴史論演習(近現代の政治)	1 前				2			○			1					隔年	
	日本歴史論演習(近現代の社会)	1 前				2			○			1					隔年	
	中国歴史論	1 前				2		○				1						
	中国歴史論演習(政治)	1 前				2			○			1						
	中国歴史論演習(社会)	1 後				2			○			1						
	西洋歴史論(古代・中世)	1 前				2		○				1						
	西洋歴史論(近世・近代)	1 前				2		○			1							
	西洋歴史論演習(古代・中世の政治)	1 後				2			○			1					隔年	
	西洋歴史論演習(古代・中世の社会)	1 後				2			○			1					隔年	
	西洋歴史論演習(近世・近代の政治)	1 後				2			○		1						隔年	
	西洋歴史論演習(近世・近代の社会)	1 後				2			○		1						隔年	
	先史考古論(遺物・遺構)	1 後				2			○			1						
比較考古論(政治・社会)	1 前			2			○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
	先史考古論演習(遺物)	1 後			2				○			1					隔年
	先史考古論演習(遺構)	1 後			2				○			1					隔年
	比較考古論演習(政治)	1 後			2				○				1				隔年
	比較考古論演習(社会)	1 後			2				○				1				隔年
	歴史研究演習(前期)	2 前		2					○		2	6	1				
	歴史研究演習(後期)	2 後		2					○		2	6	1				
	小計(29科目)		-	4	54	0					2	6	1	0	0	0	-
現代社会研究コース	現代社会変動論(地域社会学)	1 前			2				○			1					隔年
	現代社会変動論(災害社会学)	1 前			2				○			1					隔年
	地域社会計画論(福祉社会学)	1 前			2				○			1					隔年
	地域社会計画論(地域福祉)	1 前			2				○			1					隔年
	現代コミュニケーション論(道徳性)	1 前			2				○			1					隔年
	現代コミュニケーション論(ネットワーク)	1 前			2				○			1					隔年
	現代社会意識論(社会問題)	1 前			2				○				1				隔年
	現代社会意識論(逸脱)	1 前			2				○				1				隔年
	社会生活伝承論(社会生活伝承)	1 前			2				○		1						隔年
	社会生活伝承論(現代民俗伝承)	1 前			2				○		1						隔年
	造形伝承論(物質文化)	1 前			2				○			1					隔年
	造形伝承論(造形伝承)	1 前			2				○			1					隔年
	現代民族論(東アジア)	1 前			2				○			1					隔年
	現代民族論(社会組織)	1 前			2				○			1					隔年
	現代社会分析論演習(地域社会学研究)	1 後			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(災害社会学研究)	1 前			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(福祉社会学研究)	1 後			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(地域福祉研究)	1 前			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(コミュニケーション研究)	1 後			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(道徳性研究)	1 後			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(社会問題研究)	1 後			2				○			1					隔年
	現代社会分析論演習(逸脱研究)	1 後			2				○			1					隔年
	現代社会分析論演習(社会生活伝承研究)	1 後			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(現代民俗伝承研究)	1 後			2				○		1						隔年
	現代社会分析論演習(物質文化研究)	1 後			2				○			1					隔年
	現代社会分析論演習(造形伝承研究)	1 後			2				○			1					隔年
	現代社会分析論演習(東アジア研究)	1 後			2				○			1					隔年
	現代社会分析論演習(社会組織研究)	1 後			2				○			1					隔年
社会調査法演習(調査企画・設計)	1 後			2				○		1							
社会調査法演習(多変量解析)	1 前			2				○		1							
社会調査法演習(質的調査法)	1 前			2				○		1							
現代社会研究演習(前期)	2 前		2					○		4	3						
現代社会研究演習(後期)	2 後		2					○		4	3						
小計(33科目)		-	4	62	0					4	3	0	0	0	0	-	
日本・中国言語文学研究コース	日本語論(古代語)	1 前			2				○			1					
	日本語論(現代語)	1 後			2				○		1						
	日本語論演習(古代語研究)	1 後			2				○			1					
	日本語論演習(古代語文献講読)	1 前			2				○			1					
	日本語論演習(現代語研究)	1 前			2				○		1						
	日本語論演習(現代語文献講読)	1 後			2				○		1						
	日本文学論(中古)	1 前			2				○		1						
	日本文学論(近世)	1 前			2				○			1					
	日本文学論(近代)	1 後			2				○		1						
	日本文学論(近現代)	1 後			2				○				1				
	日本文学論演習(中古文学研究)	1 後			2				○		1						
	日本文学論演習(中古文学講読)	1 前			2				○		1						
	日本文学論演習(近世文学研究)	1 後			2				○			1					
	日本文学論演習(近世文学講読)	1 前			2				○			1					
	日本文学論演習(近代文学研究)	1 前			2				○		1						
	日本文学論演習(近代文学講読)	1 後			2				○		1						
日本文学論演習(近現代文学研究)	1 前			2				○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員			
	日本文学論演習(近現代文学講読)	1 後			2			○										
	中国語論(中国の諸言語)	1 前			2			○					1					
	中国語論演習(中国諸言語研究)	1 前			2			○					1					
	中国語論演習(中国諸言語文献講読)	1 後			2			○					1					
	中国文学論	1 前			2			○			1							
	中国文学論演習(中国文学研究)	1 前			2			○			1							
	中国文学論演習(中国文学講読)	1 後			2			○			1							
	日本・中国言語文学演習(前期)	2 前		2				○			3	3	1					
	日本・中国言語文学演習(後期)	2 後		2				○			3	3	1					
	小計(26科目)			—	4	48	0				3	3	1	0	0	0		—
欧米言語文学研究コース	英米語論(総論)	1 前			2			○			1							
	英米語論(形態・音韻論)	1 後			2			○			1							
	英米語論(意味論)	1 後			2			○					1					
	英米語論演習(構文研究)	1 後			2			○			1							
	英米語論演習(統語理論)	1 前			2			○			1							
	英米語論演習(形態・音韻論)	1 前			2			○			1							
	英米語論演習(日英比較音韻論)	1 後			2			○			1							
	英米語論演習(意味論)	1 前			2			○					1					
	英米語論演習(言語獲得論)	1 後			2			○					1					
	英米文学論(イギリス)	1 後			2			○			1							
	英米文学論(アメリカ)	1 前			2			○			1							
	比較文化論	1 前			2			○					1					
	英米文学論演習(イギリス・19世紀以前)	1 前			2			○			1							
	英米文学論演習(イギリス・20世紀以後)	1 後			2			○			1							
	英米文学論演習(アメリカ・19世紀以前)	1 前			2			○			1							
	英米文学論演習(アメリカ・20世紀以後)	1 後			2			○			1							
	比較文化論演習(文芸)	1 前			2			○					1					
	比較文化論演習(異文化理解)	1 後			2			○					1					
	欧州語比較・対照言語論(独語系)	1 前			2			○				1						
	欧州語比較・対照言語論(仏語系)	1 前			2			○			1							
	欧州語比較・対照言語論演習(独英語)	1 前			2			○				1						
	欧州語比較・対照言語論演習(ゲルマン諸語)	1 後			2			○				1						
	欧州語比較・対照言語論演習(仏英語)	1 前			2			○			1							
	欧州語比較・対照言語論演習(ロマンス諸語)	1 後			2			○			1							
	欧州文学・比較文学論(仏語系)	1 後			2			○			1							
欧州文学・比較文学論演習(仏語系文学)	1 前			2			○			1								
欧州文学・比較文学論演習(仏語系文化)	1 後			2			○			1								
言語論(言語構造論)	1 後			2			○				1							
言語論演習(言語構造)	1 前			2			○				1							
言語論演習(言語類型)	1 後			2			○				1							
欧米言語文学演習(前期)	2 前		2				○			6	2	2						
欧米言語文学演習(後期)	2 後		2				○			6	2	2						
小計(32科目)			—	4	60	0				6	2	2					—	
合計(149科目)			—	24	272	0				17	16	5	0	0	0			
学位又は称号	修士(文学)			学位又は学科の分野			文学関係											
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等											
〔修了要件〕 共通必修授業科目4単位、自研究コースの必修授業科目4単位、指導教員の指定した演習科目4単位を含む自研究コースの授業科目18単位以上及び他研究コースの授業科目4単位以上、計30単位以上を修得し、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。							1学年の学期区分			2期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業の標準時間			90分								

教育課程等の概要															
(教育学研究科学校臨床心理学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	学校教育総合研究 I	1前	/	2			○			2	3				オムニバス
	学校教育総合研究 II	1後		2			○			2	3				オムニバス
	学校教育実践研究	2前		2			○			2	1				オムニバス
	小計(3科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	2	3	0	0	0	
	教育哲学特論	1前	/		2		○					1			
	教育史特論	1前			2		○			1					
	教育方法学特論	1後			2		○					1			
	教育社会学特論	1後			2		○					1			
	国際理解教育特論	1前			2		○			1					
	教育心理学特論	1後			2		○				1				
	教育心理学特論演習	1後			2			○							1
	小計(7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	1	1	3	0		2
発達心理学特論	1後	/		2		○				1					
人格心理学特論	1前			2		○								1	
社会心理学特論	1後			2		○					1				
心理学研究法特論	1前			2		○				1					
心理統計法演習	1前			2			○					1			
家族心理学特論	2前			2		○					1				
小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	0	2	1	0		1	
特別支援教育コーディネーター校内実践論	2前	/		2		○									3
精神医学特論	1後			2		○									1
心理療法特論	1後			2		○				1					
臨床心理地域援助特論	1後			2		○					1				
臨床心理学特論 I	1前			2		○				1					
臨床心理学特論 II	1後			2		○				1					
臨床心理査定演習 I	1前			2			○			1					
臨床心理査定演習 II	1後			2			○			1					
臨床心理面接特論 I	1後			2			○			1					
臨床心理面接特論 II	2前			2			○			1					
臨床心理基礎実習	1前			2				○		2	1				共同
臨床心理実習	2前			2				○		2	1				共同
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	2	2	0	0		4	
課題研究	1前~2後	/	4				○		2	2					
小計(1科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	3	2					
合計(29科目)	—	—	10	50	0	—	—	—	4	3	4	0		4	
学位又は称号	修士(教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
〔修了要件〕 必修科目10単位及び選択必修科目20単位を含め、30単位以上を修得する。 修士論文の審査及び最終試験に合格する。							1学年の学期区分				2期				
(必修科目10単位 内訳) ・学校教育と臨床実践に関する科目 6単位 ・課題研究 4単位							1学期の授業期間				15週				
(選択必修科目20単位 内訳) ・学校教育に関する科目、臨床研究に関する科目、臨床実践の基礎に関する科目から20単位以上							1時限の授業の標準時間				90分				

教育課程等の概要																	
（経済学研究科 経済学専攻）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員	
策経済社会学 コース	研究科共通科目	知的財産特論	1前	/		1			○						1	隔年	
		データサイエンス概論	1前①			1			○			1					
		研究倫理概論	1後③			1			○								1
		小計（3科目）	-		-	1	2	0	-			1					2
公管理 コース	研究倫理概論(Introduction to Academic and Research Integrity)	1後	/	1				○							1		
	小計（1科目）	-	-	1	0	0	-							1			
策経済社会学 コース	基盤科目	外国文献研究	1前	/	2				○			1					一般入試。学部3年生を対象とする入試及び推薦入試による入学者のみ必修
		小計（1科目）	-	-	2	0	0	-			1						
公管理 コース	Academic Writing	1後	/	1				○			1						
	Economic Statistics	1後	/	2				○						1			
	Economics	1後	/	2				○			1						
	小計（3科目）	-	-	5	0	0	-			1	1			1			
経済社会政策 コース	推奨科目	社会政策・労働経済研究	1前	/		2			○			1				隔年	
		金融経済理論研究	1前			2			○			1					
		地域経済論研究	1後			2			○				1				
		地域社会福祉論研究	1後			2			○			1					
		観光経済研究	1後			2			○				1				
		環境経済学研究	1後			2			○				1				
		経済統計研究	1後			2			○				1				
		理論経済学研究	1前			2			○				1				
		開発経済論研究	1前			2			○				1				
		公共経済研究	1前			2			○				1				
		計量経済学研究	1後			2			○				1				
		現代経済学研究	1前			2			○				1				
	小計（12科目）	-	-		24			-			4	8	1				
専門科目	その他の専門科目	質的データ解析研究	1-2	/		2			○			4	1			隔年	
		日本経済史研究	1前		2			○			1						
		欧米経済史研究	1後		2			○			1						
		時間論研究	1後		2			○			1						
		アジア環境政策研究	1前		2			○			1						
		現代アジア経済	1前		2			○				1					
		東アジア社会経済研究	1前		2			○						1			
		中国経済研究	1前		2			○			1						
		国際関係学研究	1後		2			○				1					
		政治理論研究	1前		2			○			1						
		憲法研究	1後		2			○				1					
		行政法研究	1前		2			○			1						
		行政裁量論研究	1前		2			○				1					
		刑事法研究	1後		2			○			1						
		文化心理学研究	1後		2			○			1						
		国際観光政策	1後		2			○			1						
		社会法研究	1後		2			○						1			
		現代会計論研究	1後		2			○						1			
		税法研究Ⅰ	1後		2			○			1						
		税法研究Ⅱ	1後		2			○			1						
		民法研究	1前		2			○						1			
		民事法研究	1前		2			○			1						
		財産法研究	1前		2			○				1					
	商事法研究	1前		2			○						1				
	企業法研究	1後		2			○			1							
	メディア法とメディア論	1前		2			○			1							

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(経済学研究科 経済学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
	経済政策原理の研究	1前			2		○					1					
	小計 (27科目)	—	—		54		—				14	6	1			5	
演習科目	演習 IA (経済社会)	1前	/	2			○			14	10	1					
	演習 IB (経済社会)	1後		2			○			14	10	1					
	演習 II A (経済社会)	2前		2			○			14	10	1					
	演習 II B (経済社会)	2後		2			○			14	10	1					
	第二演習 IA (経済社会)	1前		2			○			14	10	1					
	第二演習 IB (経済社会)	1後		2			○			14	10	1					
	第二演習 II A (経済社会)	2前		2			○			14	10	1					
	第二演習 II B (経済社会)	2後		2			○			14	10	1					
	演習 (特) A (経済社会)	1後		2			○			14	10	1					
	演習 (特) B (経済社会)	1後		2			○			14	10	1					
	小計 (10科目)	—	—	8	12	0	—			14	10	1					
公共管理コース	推奨科目		/														
	Public Economics	1後		2		○			1								
	Development Economics	1後		2		○			1								
	Public Administration	1後		2		○			1								
	Public Finance	1後		2		○				1							
	Program Evaluation	1前		2		○			1								
	International Economics	1前		2		○				1							
Administrative Law	1前	2		○				1									
	小計 (7科目)	—	—	14			—		4	3							
その他の専門科目	Academic English	1前	/	1			○			1							
	Research Methodology	1前		1			○			1							
	Mathematics for Economics	1後		1			○									1	
	International Cooperation Studies	1後		2			○			1							
	Media and Society	1前		2			○									1	
	Southeast Asian Economy	1後		2			○			1							
	Environmental Policy	1前		2			○			1							
	Social Policy Studies	1後		2			○									1	
	Regional Economics	1前		2			○				1						
	Public Debt Management	1前		2			○					1					1
	Cost Benefit Analysis	1前		2			○					1					1
	Local Government Finance	1前		2			○					1					1
	International Framework for Environmental Protection	1後		2			○									1	
	Public Policy	1後		2			○			1							
	Cultural Psychology of Administration	1後		2			○			1							
	Monetary Economics	1前		2			○			1							
	Economic Policy	1前		2			○				1						
	Tourism Policy	1前		2			○			1							
	Strategic Management	1前		2			○									1	
	Industrial Policy	1後		2			○									1	
	Advanced Data Analysis	1前		2			○									1	
	Advanced Public Administration Studies I A	1後		2			○									1	
	Advanced Public Administration Studies I B	1後		2			○									1	
	Advanced Public Administration Studies II A	1後		2			○									1	
	Advanced Public Administration Studies II B	1後		2			○									1	
	小計 (25科目)	—	—	0	47	0	—		6	2					10		
演習科目	Seminar I A	1前	/	2			○			9	7	1					
	Seminar I B	1後		2			○			9	7	1					
	Seminar II A (Thesis Instruction)	2前		2			○			9	7	1					
	Seminar II B (Thesis Instruction)	2後		2			○			9	7	1					
	小計 (4科目)	—		—	8	0	0	—		9	7	1					
合計 (93科目)		—	—	25	153	0	—		18	12	1				10		
学位又は称号	修士 (経済学)			学位又は学科の分野				経済学関係									

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(経済学研究科 経済学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
<p>1. 修了要件 各科目区分の必要単位数及び必修科目の単位を含め30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格する。</p> <p>2. 履修方法 (1) 経済社会政策コース                      &lt;必修科目&gt;                      ・研究科共通科目から1単位                      ・演習科目から8単位                      ・基盤科目から「外国文献研究」2単位（一般入試、学部3年生を対象とする入試、推薦入試を通して入学した者のみ）                      &lt;選択科目&gt;                      ・推奨科目から6単位以上（ただし、学術交流協定の渡日前入試、外国人留学生入試、社会人入試を通して入学した者においては、8単位以上）                      ・前出の科目を除く未修得の自コースの科目、他コースまたは他専攻の科目から13単位以上                      (2) 公共管理コース                      &lt;必修科目&gt;                      ・研究科共通科目から1単位                      ・基盤科目から5単位                      ・演習科目から8単位                      &lt;選択科目&gt;                      ・推奨科目から8単位以上                      ・前出の科目を除く未修得の自コース科目、他コースまたは他専攻の科目から8単位以上                      ※(1)(2)いずれのコースにおいても、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p>							1 学年の学期区分		2 期						
							1 学期の授業期間		15 週						
							1 時限の授業の標準時間		90 分						

教育課程等の概要																
(経済学研究科 企業経営専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員
研究科共通	知的財産特論	1前	-		1		○								1	
	データサイエンス概論	1前①			1		○								1	
	研究倫理概論	1後③		1			○			1						
	小計(3科目)	-	-	1	2	0	-	-	-	1						2
中山間地マネジメント	企業経営基礎研究	1後			2		○			2	4	1				1
	Business Administration Basic (Strategy, Marketing and Management)	1後		2			○									1
	Business Administration Basic (Finance, Accounting and Law)	1後		2			○									1
	小計(3科目)	-	-	6	0	0	-	-	-	2	4	1				2
医療・福祉経	医療経営研究	1前		2			○									1
	福祉経営研究	1後		2			○									1
	小計(2科目)	-	-	4	0	0	-	-	-							2
税務コース	税法研究 I	1後			2		○			1						
	税法研究 II	1後			2		○			1						
	企業経営基礎研究	1後			2		○			2	4	1				1
	Business Administration Basic (Strategy, Marketing and Management)	1後		2			○									1
	Business Administration Basic (Finance, Accounting and Law)	1後		2			○									1
小計(5科目)	-	-	10	0	0	-	-	-	3	4	1				2	
中山間地マネジメントコース	推奨科目															
	現代マーケティング研究	1後	-		2		○									1
	流通システム研究	1前	-		2		○				1					
	人的資源管理の基礎研究	1前	-		2		○			1						
	国際経営研究	1後	-		2		○									
	経営戦略研究	1後	-		2		○				1					
	現代商品論研究	1後	-		2		○				1					
	リスクマネジメント研究	1前	-		2		○				1					
	地域経済論研究	1後	-		2		○									1
	観光経済研究	1後	-		2		○									1
	地域社会福祉論研究	1後	-		2		○									1
	地域フードシステム研究	1前	-		2		○			1						
	文化心理学研究	1後	-		2		○									1
外国文献研究	1前	-		2		○									1	
小計(13科目)	-	-	0	26	0	-	-	-	3	4					6	
その他の専門科目	経営数理システム研究	1後	-		2		○			1						
	経営数理計画研究	1前	-		2		○			1						
	応用ゲーム理論(組織の経済学)研究	1前	-		2		○				1					
	情報学研究	1前	-		2		○									
	企業法研究	1後	-		2		○									1
	経営史の基礎研究	1後	-		2		○									1
	社会法研究	1後	-		2		○									1
金融経済理論研究	1前	-		2		○									1	



専門科目		社会政策・労働経済研究	1前	—	2	○													1	
		中国経済研究	1前	—	2	○														1
		中国経済経営研究	1前		2	○														1
		スポーツツーリズム研究	1後		2	○														1
		小計(12科目)		—	0	24	0	—			2	1								8
	演習科目	演習ⅠA(中山間地)	1前		2		○				5	7	1							
		演習ⅠB(中山間地)	1後		2		○				5	7	1							
		演習ⅡA(中山間地)	2前		2		○				5	7	1							
		演習ⅡB(中山間地)	2後		2		○				5	7	1							
		第二演習ⅠA(中山間地)	1前		2		○				5	7	1							
		第二演習ⅠB(中山間地)	1後		2		○				5	7	1							
		第二演習ⅡA(中山間地)	2前		2		○				5	7	1							
		第二演習ⅡB(中山間地)	2後		2		○				5	7	1							
		演習(特)A(中山間地)	1後		2		○				5	7	1							
		演習(特)B(中山間地)	1後		2		○				5	7	1							
		小計(10科目)		—	—	8	12	0	—		5	7	1							
	医療・福祉経営コース	推奨科目	医療福祉複合体経営研究	1前	—	2	○													
			医療経済研究	1前	—	2	○				1									
			医療保険制度研究	1後	—	2	○					1								
			医療制度研究	1後	—	2	○				1									
		中国医療システム研究	1後	—	2	○						1								
		医療原価管理研究	1後	—	2	○													1	
		医療簿記会計研究	1前	—	2	○						1								
		社会福祉政策研究	1後	—	2	○													1	
		医療・福祉施設の経営分析研究	1後	—	2	○													1	
		医療・福祉施設の人的資源管理研究	1前	—	2	○						1								
		医療情報研究	1前	—	2	○				1										
		医療・福祉法制度研究	1後	—	2	○													1	
		医療・福祉経営特別研究A	1後	—	2	○													1	
		医療・福祉経営特別研究B	1前	—	2	○													1	
		医療特別研究A	1後	—	2	○													1	
		医療特別研究B	1前	—	2	○													1	
		医療特別研究C	1前	—	2	○													1	
		外国文献研究	1前	—	2	○													1	
		小計(18科目)		—	—	36		—		2	4								10	
演習科目	演習ⅠA(医療・福祉)	1前		2		○				1	3								1	
	演習ⅠB(医療・福祉)	1後		2		○				1	3								1	
	演習ⅡA(医療・福祉)	2前		2		○				1	3								1	
	演習ⅡB(医療・福祉)	2後		2		○				1	3								1	
	第二演習ⅠA(医療・福祉)	1前		2		○				1	3								1	
	第二演習ⅠB(医療・福祉)	1後		2		○				1	3								1	
	第二演習ⅡA(医療・福祉)	2前		2		○				1	3								1	
	第二演習ⅡB(医療・福祉)	2後		2		○				1	3								1	
	演習(特)A(医療・福祉)	1後		2		○				1	3								1	
	演習(特)B(医療・福祉)	1後		2		○				1	3								1	
	小計(10科目)		—	—	8	12		—		1	3								1	
税務コース	推奨科目	現代会計論研究	1後	—	2	○				1										
		会計政策論研究	1前	—	2	○													1	
		実証会計研究	1前	—	2	○					1									
		資本市場の財務情報の役割研究	1後	—	2	○													1	
		戦略的管理会計研究	1前	—	2	○						1								
		情報伝達と財務会計研究	1前	—	2	○					1									
		意思決定と財務会計研究	1前	—	2	○					1									
		民事法研究	1前	—	2	○													1	
		財産法研究	1前	—	2	○													1	
		商事法研究	1前	—	2	○													1	
		小計(10科目)		—	—	0	20		—	1	2	1							4	
その他の専門科目	外国文献研究	1前	—	2		○													1	
	経営数理システム研究	1後	—	2		○				1										
	経営数理計画研究	1前	—	2		○				1										
	応用ゲーム理論(組織の経済学)研究	1前	—	2		○					1									
	情報学研究	1前	—	2		○				1			1							
	経営史の基礎研究	1後	—	2		○													1	
	金融経済理論研究	1前	—	2		○													1	

隔年

	社会政策・労働経済研究	1前	-	2		○									1
	中国経済研究	1前	-	2		○									1
	スポーツツーリズム研究	1後		2		○									1
	小計 (10科目)	-	-	0	20			-			2	1			6
演習科目	演習ⅠA (税務)	1前		2			○				1				
	演習ⅠB (税務)	1後		2			○				1				
	演習ⅡA (税務)	2前		2			○				1				
	演習ⅡB (税務)	2後		2			○				1				
	第二演習ⅠA (税務)	1前		2			○				1				
	第二演習ⅠB (税務)	1後		2			○				1				
	第二演習ⅡA (税務)	2前		2			○				1				
	第二演習ⅡB (税務)	2後		2			○				1				
	演習 (特) A (税務)	1後		2			○				1				
	演習 (特) B (税務)	1後		2			○				1				
小計 (10科目)	-	-	8	12				-			1				
合計 (106科目)		-	-	45	164	0					10	7	1		

学位又は称号	修士 (経済学)	学位又は学科の分野	経済学関係
--------	----------	-----------	-------

卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
---------------	--	-------	--

1. 修了要件 各科目区分の必要単位数及び必修科目の単位を含め30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

<p>2. 履修方法</p> <p>(1) 中山間地マネジメントコース</p> <p>&lt;必修科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科共通科目から1単位</li> <li>・演習科目から8単位</li> <li>・基盤科目から「企業経営基礎研究」 2単位 (学術交流協定の渡日前入試を通して入学した者 (日本語)のみ)</li> <li>・基盤科目から「Business Administration Basic (Strategy, Marketing and Management)」 2単位, 「Business Administration Basic (Finance, Accounting and Law)」 2単位, (学術交流協定の渡日前入試 (英語)を通して入学した者のみ)</li> </ul> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨科目から6単位以上</li> <li>・前出の科目を除く未修得の自コースの科目, 他コースまたは他専攻の科目から15単位以上、ただし、学術交流協定の渡日前入試 (日本語)を通して入学した者は13単位以上、学術交流協定の渡日前入試 (英語)を通して入学した者は、11単位以上</li> </ul> <p>(2) 医療・福祉経営コース</p> <p>&lt;必修科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科共通科目から1単位</li> <li>・基盤科目から4単位</li> <li>・演習科目から8単位</li> </ul> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨科目から6単位以上</li> <li>・前出の科目を除く未修得の自コース科目, 他コースまたは他専攻の科目から11単位以上</li> </ul> <p>(3) 税務コース</p> <p>&lt;必修科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科共通科目から1単位</li> <li>・基盤科目から4単位なお、学術交流協定の渡日前入試 (日本語)を通して入学した者は「企業経営基礎研究」 2単位を含む6単位を、学術交流協定の渡日前入試 (英語)を通して入学した者は「Business Administration Basic ( Strategy, Marketing and Management )」 2単位, 「Business Administration Basic ( Finance, Accounting and Law )」 2単位を含む8単位</li> </ul> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推奨科目から6単位以上</li> <li>・前出の科目を除く未修得の自コースの科目, 他コースまたは他専攻の科目から11単位以上、ただし、学術交流協定の渡日前入試 (日本語)を通して入学した者は9単位以上、学術交流協定の渡日前入試 (英語)を通して入学した者は、7単位以上</li> </ul> <p>※(1)~(3)いずれのコースにおいても、同一科目名の科目を重複して履修することはできない。</p>
---

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学研究科 人文科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科共通科目	研究者行動規範特論		研究者の使命は真理の探究にあり、公共の福祉と利益への貢献にある。研究者はいかなる学問領域にあっても個人の利益のみを追求してはならず、自らの立場を絶えず確認し、社会の付託に応えるために研究者としてのモラルから逸脱してはならない。研究者としての一般的な素養として必要な、研究者倫理、行動規範について学び、また責任ある研究行為、研究活動における不正行為について理解を深め、研究者として倫理的な判断力と行動力とを身につける。	
研究科共通科目	知的財産特論		本講義は、知的財産権の概要を事例に基づいて講述するとともに、実社会で見られる事例をもとに知財の観点から問題があるか（気づき）、法的に違法性があるか（見つける）、どのように対応したらよいか（見極める）等、知的財産の総合的な観点からの演習等を行う。また特許制度について詳しく解説すると共に、特許情報へのアクセスと調査・分析についても紹介し、受講者が行っている自身の研究テーマに関して特許情報の調査・分析を行う。論文情報だけでなく、特許情報を調べることは、受講者自身の大学院での研究活動にプラスになる。また研究倫理と知的財産の関係について考え、特に著作権法の観点からみた研究倫理について概説する。	
研究科共通科目	データサイエンス特論		多様なデータが大量に溢れる今日の社会において、データサイエンスの利活用は益々重要視されるようになってきている。データサイエンスは、多種多様なデータを集め、処理・分析することで、社会の諸課題を解決するための手法であり、現代社会において幅広く活用されている。本講義はデータサイエンスの応用力を養うことを目的とする。本講義では、社会の様々な分野におけるデータサイエンスの役割を踏まえつつ、データ分析に必要な知識、機械学習を含むデータサイエンスの手法およびその応用事例等について論じる。 （オムニバス方式/全8回） （41 葛崎偉/1回） データサイエンスの役割とデータ分析の基礎について講義する。 （42 野村厚志/2回） データ分析に用いる基本的な手法について講義する。 （39 中田充/2回） コンピュータを用いたデータ分析について講義する。 （40 北本卓也/3回） データ分析の手法に基づいた実践を通して、データサイエンスの応用について講義する。	オムニバス方式 ・共同

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学研究科 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	プレゼンテーション特論		<p>プレゼンとは何か、効果的なプレゼンの方法、プレゼン資料の作成法などの観点から解説する。プレゼンの意義や効果の理解をはじめ、過去の事例に学びながら効果的にプレゼンを進めるための技法を考察する。また、ビジュアルデザインの手法を取り入れたプレゼン資料の作成方法等を解説しつつ、IT技術のプレゼンへの活用法などを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (全教員2回)</p> <p>第1回 イン트로ダクション 各回の解説内容の紹介、解説する観点の違い、および評価方法の説明等</p> <p>第8回 総括まとめ (44 川崎 勝/2回)</p> <p>プレゼンテーションと聴衆1 プレゼンテーションと聴衆2 (45 小川 仁志/2回)</p> <p>プレゼンテーションの本質1 プレゼンテーションの本質2 (43 杉井 学/2回)</p> <p>プレゼン資料とIT機器 ビジュアルデザインを考慮したプレゼン資料作成</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
研究科 共通科目	キャリア教育		<p>現代日本の雇用環境や経済・社会の変化とともに、大学院生の採用手法の実態と多様化の背景を解説します。また、個人にとっても社会にとっても重要なキャリアの理論と応用を学びます。受講生自身の就職活動とキャリア形成に役立つように、ワークをとりいれながら授業を進めていきます。</p>	
専攻 共通科目	人文科学総論		<p>本授業の目的は、人文科学専攻のそれぞれのコース・分野がどのような学問的探求を行なっているのかについてその概要を理解し、人文科学の諸分野が取り組んでいる問題を複眼的、多角的に見る視点を養うことを目的とする。</p> <p>人文科学専攻の各コースの教員がオムニバス形式で講義する。各コースに属する諸分野のテーマが毎回紹介される。哲学、歴史学、社会学、言語学、文学を専門とする教員が各専門分野の視点から理論の整理、研究の実践、諸テーマの掘り下げについて講義し、人文諸科学の現代的・学問的意義を提示する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>【日英翻訳に見る異文化】 (36 KATERYNA OLHA/1回) 【古代ギリシアの音楽理論】 (1 脇條 靖弘/1回) 【西洋史研究の最前線】 (7 竹中幸史/1回) 【日本古代史の諸問題】 (31 黒羽亮太/1回) 【現代社会研究】 (27 桑畑 洋一郎/2回) 【『源氏物語』の伝承性】 (17 森野 正弘/1回) 【文学における管理・支配について】 (12 野坂 昭雄/1回)</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 人文科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	西洋哲学思想論(哲学)		プラトンの中期から後期にかけての二つの著作「テアイテトス」、「ソピステス」を検討する。この二つは、プラトンの認識論、存在論を提示した重要な著作である。内容的にも、対話編としての場面設定としても二つの著作には連続している面が多い。この二つの著作で、プラトンが存在と知識に関する自らの思想をどのように深めていったかをたどる。彼の試みがどのような問題意識、どのような背景をもってなされたのかを理解すると同時に、プラトンの思想が現代の認識論、存在論に対する持つ意義を評価する。	
専門科目	西洋哲学思想論(倫理学)		この授業では倫理と宗教に関わる諸問題を講義する。特に「ゆるし」と「正義」の問題について現代の英米圏の論文を紹介しつつ、批判的に検討する。また、取り扱われる文献はキリスト教の聖典である福音書のテキスト解釈を「ゆるし」の元型としてとりあげているため、典拠となったテキストについても解説・解釈を試みる時間を設ける。重要な根拠解釈謝罪を前提としない「無償の」ゆるしは倫理的に正しいものと見なされるべきなのかという論点を取り上げ、人間が傷つけあいなながらも共生するとはどのようなことなのかを考えたい。教員による講義に加えて参加者には適宜、英語文献の読解を課す。	
専門科目	日本思想論(古代中世)		日本倫理思想史研究に必要な素養を修得すべく、基本的研究書・研究論文を読み、根源的な問い・原理を知り理解するとともに、諸テキストに即し具体的・個別的な問いを設定・探究する方法を学ぶ。具体的授業計画は以下の通りである。授業期間の前半週では、たとえば佐藤正英『日本の思想とは何か―現存の倫理学』第一部「現存の根本構造」を、後半週では、同書第二部「伝承としての倫理思想」のいくつかの章を、そこで扱われる古代中世の具体的・個別的テキストとともに読む。受講生は分担して論点整理と自らの検討を発表し、それを踏まえて全員による議論を行う。取り上げる基本的研究書・研究論文は、受講生の関心も考慮し、年度毎に決定する。	
専門科目	日本思想論(近世)		和辻哲郎『日本倫理思想史』（岩波文庫、2011～2012年）をテキストとし、その内容を解説する。ただし扱う範囲は受講生の関心や希望を考慮して決定する。また、受講生の人数が少なく一方的な講義形式になじまない場合は、毎回受講生に読書報告を課し、全員で批評し合いつつ教員が必要な解説を補う、という方式をとる。日本倫理思想史を通覧する業績として古典的な価値をもつ同書を読解・解説することで、近世のみならず、通時的な思想史理解を深めることを、授業の全体目標とする。	
専門科目	中国哲学思想論		中国語で記された論文の読解を行う。中国思想に関する論文は、もちろん日本語だけでなくそれとくらべものにならない量の論文が中国語で数多くものされている。海外で著された論文は、日本のものと研究方法はもちろん、記述の仕方についても同じからざるところがある。中国語で記された論文の読解を通じて、中国研究を行うさいに必要な中国語能力を鍛えるほか、日本と異なる研究方法・記述のしかた、また思考や論証の方法について習得する。なお、主として教員が読解を導いていくが、授業内に学生諸氏に質問をすること、また学生諸氏に質問を求めることを通じて、知識や理解力を高めていきたい。	
専門科目	芸術論(美学)		ナラトロジー(物語論)をはじめとする文芸理論(たとえば、ジェラルド・ジュネットやケーテ・ハンブルガーらの一連の仕事)や、分析哲学(たとえば、ジョン・サールの言語行為論的視座やデイヴィッド・ルイスの可能世界論)・分析美学(たとえば、ケンダル・ウォルトンの「ごっこ遊び」説)など、20世紀後半以降の理論的取組みを主として参照しつつ、フィクションについて、わけても、フィクションの受容とは如何なる振舞いなのかについて、考察する。講義形式の授業。	
専門科目	芸術論(美術史)		ヴァーノン・ハイド・マイナー『美術史の歴史』、ブリュッケ、2003年(総図2号館4F 702.01/M45)をテキストとして、美術史学の歴史的発展と方法論の多様性、現代的課題について学ぶ。美術アカデミーの歴史に始まり、古代から17世紀までの美術史学「前史」、そして18世紀以降の美術史学の成立まで、体系的な基礎知識を身につける。必要に応じて、ヴェルフリン『美術史の基礎概念』や、パノフスキー『イコノロジー研究』等、美術史学史の代表的著作も副読本として活用する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	思想研究コース 宗教心理学論	/	《宗教》の基本は「聖と俗の関係（聖俗循環）」であるという前提理解のもと、「聖なるもの」を社会的事象としてではなく、個々の生命間のネットワークを通して模倣・伝播・感染する／される人間的事象である、というアプローチと探究方法を試みる。古典的理論としては主に「ジャック・ラカンによる精神分析」「ガブリエル・タルドによる模倣論・モナド論」「ブリュノ・ラトゥールによるアクターネットワーク理論」「ダン・スペルベルによる表象疫学理論」を取り上げ、またライブニッツとハイデガーの哲学にも部分的に触れる。授業の内容の半分は、現代日本における種々の“宗教的”または“聖俗循環的”な人間関係的事象の分析を試みる。	
専門科目	思想研究コース 西洋哲学思想論演習(哲学の歴史)	/	古代ギリシアの哲学のうち、いわゆる「ソクラテス以前の哲学者」（タレスからデモクリトスに至る哲学者たち）について現代の研究状況を把握する。これらの哲学者については一時資料としては断片が残っていない。その断片資料を踏まえた上で、重要な二次文献を検討することで、これらの哲学者たちの持っていた問題意識について理解を深める。断片資料については、原典と翻訳（日本語、英語など）を併用し、ひととおり通観する。さらに、重要な二次文献については、受講生がレジュメを作成し内容のまとめを発表した上で、批判的に検討する。	
専門科目	思想研究コース 西洋哲学思想論演習(哲学の理論)	/	哲学の理論のうち、特に認識論についての理解と知識を得る。テーマは四つである。一つ目は、知識を定義する試み、二つ目は、知識の正当化の問題、三つ目は知覚の位置づけ、四つ目は懐疑論の問題である。それぞれについてその理論化の可能性と問題点を理解する。四つのテーマのそれぞれについての主要な著書、論文を読み、そのポイントをまとめる。さらに、それぞれの理論化の立場の利点と問題点を整理し、望ましい理論の形をとらえる。それらをレジュメにまとめ、担当者が発表し、それについてディスカッションを行う。	
専門科目	思想研究コース 西洋哲学思想論演習(倫理学の歴史)	/	この授業では、西洋の幸福論・人生の意味をめぐる議論の古典であるアリストテレスの『ニコマコス倫理学』第1巻を、トマス・アクィナスの『注解』と対比しつつ読解する。第1巻と第10巻での幸福論の再論との関係について、またキリスト教徒に特有な問題である地上における幸福と天上の至福の関係について、トマスがどのようにアリストテレスを読み込んでいるのか、丁寧に読み勧めたい。アリストテレスについては邦訳で、トマスについては英訳で検討する。参加者はテキストの論理を丁寧に追跡し、適切な要約説明を行うことが求められる。また、内容についての議論に参加することが必要とされる。	
専門科目	思想研究コース 西洋哲学思想論演習(倫理学の理論)	/	この授業ではインマヌエル・カントの『道徳形而上学の基礎づけ』を読解する。この著作は西洋近代倫理思想を学ぶ際の基礎教養であるのみならず、現代の義務論をはじめ様々な思想潮流の出発点である。演習参加者の希望に合わせて、思想史的な観点と、現代倫理学の諸問題に関連づける観点とのどちらかに重点を置くかを決め、それぞれ必要な資料を提示してテキストを精読したい。両方の参加者はテキストの論理を丁寧に追跡し、適切な要約説明を行うことが求められる。また、内容についての議論に参加することが必要とされる。ドイツ語、または英・仏訳を主として用いるが、適宜邦訳を参照する。	
専門科目	思想研究コース 日本思想論演習(古代中世・信仰)	/	主に日本倫理思想史研究を志す大学院生を対象として、各自の研究を指導する。受講生は教員と相談のうえ、広い意味で自らの研究にかかわる（自らの修士論文のテーマに直結しないとしても、少なくとも学問的関心をもちうる）古代中世の信仰関連文献（テキスト、研究論文）を選び、精読・検討して、担当回に報告する。担当者以外の受講生も、あらかじめその文献を読んで授業に臨み、報告後の議論を全員で行う。必要に応じ、仏教学・民俗学・宗教学等、隣接他分野の基本的研究論文も参照し、知識の拡大、日本倫理思想史の問い・方法論についての理解の深化をめざす。	
専門科目	思想研究コース 日本思想論演習(古代中世・文芸)	/	主に日本倫理思想史研究を志す大学院生を対象として、各自の研究を指導する。受講生は教員と相談のうえ、広い意味で自らの研究にかかわる（自らの修士論文のテーマに直結しないとしても、少なくとも学問的関心をもちうる）古代中世の文芸関連文献（テキスト、研究論文）を選び、精読・検討して、担当回に報告する。担当者以外の受講生も、あらかじめその文献を読んで授業に臨み、報告後の議論を全員で行う。必要に応じ、文学・神話学・歴史学等、隣接他分野の基本的研究論文も参照し、知識の拡大、日本倫理思想史の問い・方法論についての理解の深化をめざす。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	思想 研究 コース  日本思想論演習（近世・学 問）	/	丸山眞男『忠誠と反逆—転形期日本の精神史的位相』（ちくま学芸文庫、1998年）をテキストとし、表題論文をはじめとする所収の論考を、演習形式で講読する。参加者には輪番での口頭発表、および事前のレジュメ作成・提出を課すとともに、授業内での積極的な議論・発言を課す。政治思想史としてだけでなく、倫理的にも大いに示唆的な丸山眞男の代表的論考を読解することにより、日本倫理思想史に関する各自の知見を広め、思索を深めることを、授業の全体目標とする。	
専門 科目	思想 研究 コース  日本思想論演習（近世・文 芸）	/	井原西鶴による浮世草子『日本永代蔵』を、おもに倫理思想的観点から、演習形式で講読する。具体的には、その回で扱われる篇に関するレポーターの口頭発表を踏まえ、全員で討議を行う。ただし授業の進度（一回ごとに扱う篇数等）については、参加者の感触や希望に従って適宜調整する。作品の中に表現された、金銭をめぐる町人たちの生きざま、社会的な規範意識、神仏に対する信仰の内面などについて、自らの見解を論理的に表現できるようになることを、授業の全体目標とする。	
専門 科目	思想 研究 コース  中国哲学思想論演習（古代 中世）	/	中国の学問は、本文に対して注釈を付けることにより、その注釈の中で本文をいかに理解するかを通じてさまざまな思想を表現してきた。本講義では、儒家の經典のひとつである五経を、注と疏を通じて、輪読して読解する。あわせて注だけではなく、その注に対する注釈とも言える疏も合わせて読解することで、解釈がどのように展開していったかについても考える。	
専門 科目	思想 研究 コース  中国哲学思想論演習（近世）	/	清朝考証学者の著作を読む。清朝考証学は清代に発達した学問であり、博引旁証して問題を解決していく。その博引旁証の跡を輪読して辿ることにより考証学者がどのような思考をしていたのかを知る。	
専門 科目	思想 研究 コース  芸術論演習（近代美学）	/	18世紀頃から20世紀中盤までの、西洋の近代美学上の重要文献を複数点、批判的に輪読する（大部のものは、重要な個所のみを部分的に取りあげる）。そのことをつうじて、古典主義的芸術観、ならびに、モダニズムの芸術思潮についての知見を深める。どのテキストを取りあげるかは、受講者の興味・関心も考慮して決める。各回の担当者にテキストの概要を報告してもらったうえで（その他の受講者にも、かならず該当箇所を事前に読んでおいてもらう）、全員による討論を行う。	
専門 科目	思想 研究 コース  芸術論演習（現代美学）	/	20世紀後半以降の現代美学上の重要文献を複数点、批判的に輪読する（大部のものは、重要な個所のみを部分的に取りあげる）。そのことをつうじて、分析美学をはじめとする、現代美学上の主要なトレンドについての知見を深める。どのテキストを取りあげるかは、受講者の興味・関心も考慮して決める。各回の担当者にテキストの概要を報告してもらったうえで（その他の受講者にも、かならず該当箇所を事前に読んでおいてもらう）、全員による討論を行う。	
専門 科目	思想 研究 コース  芸術論演習（近代美術史）	/	テーマは近代の美術史言説の批判的な読み直し。主にフェミニズムの観点とポスト植民地主義的観点から、白人男性中心主義的な西洋美術史を読み直す。また、非欧米圏における美術史学の制度的受容に関しても検証し、近代美術史の「学びほぐし」を目指す。履修生は近代美術史の批判的読解を経て、自らの「美術史観」を再構築する。初回オリエンテーション時に履修生の関心を勘案して、テキストを選定し、以降は発表担当者を決めて、レジュメに基づく発表と参加者全員による討議により進める。	
専門 科目	思想 研究 コース  芸術論演習（現代美術史）	/	テーマはグローバル化を背景とした新しい美術史の構築。国際美術展のキュレーションや問題提起的なアート作品の分析を通じて、アートと社会の新たな関係性について理解を深め、多文化主義的な美術史記述のあり方について討議する。展覧会図録やレビュー記事、インタビュー記事、国際美術展に関する研究論文を演習の題材とする。履修生は1つ以上の国際美術展や芸術祭を実際に見ていることが望ましい。初回オリエンテーション時に全体の進め方を協議する。関連資料の収集と共有は発表担当者が行うこととする。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学研究科 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	思想 研究 コース	宗教心理学演習 (精神分析)	履修生が修士論文に向けて研究したい、または関心のある宗教的・宗教心理学的な(あるいは関連性のある)事象を取り上げ、宗教学・宗教心理学的な考察と分析を行う。宗教学・宗教心理学の領域範囲内の自由発表方式をとるが、宗教学・宗教心理学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または毎回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。宗教や宗教的/聖俗循環的なものが人間の生と社会生活の中に深く浸透し、また不可避免的に伴うものになっていることをしっかり自覚・感じ取った上で、宗教が一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているものとして、他方では形骸化に陥ったり社会問題をもたらしたりするものとして、個々の研究テーマを進めながらみなので一緒に探究する。	
専門 科目	思想 研究 コース	宗教心理学演習 (認知科学)	履修生が修士論文に向けて研究したい、または関心のある宗教的・認知宗教学的な(あるいは関連性のある)事象を取り上げ、宗教学・認知宗教学的な考察と分析を行う。宗教学・認知宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または毎回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。宗教や宗教的/聖俗循環的なものが人間の生と社会生活の中に深く浸透し、また不可避免的に伴うものになっていることをしっかり自覚・感じ取った上で、宗教が一方では人間生活にとって根源的な役割を果たしているものとして、他方では形骸化に陥ったり社会問題をもたらしたりするものとして、個々の研究テーマを進めながらみなので一緒に探究する。	
専門 科目	思想 研究 コース	思想研究演習	修士論文の執筆を支援・指導するための、演習形式の授業。各回の担当者には、いわゆる先行研究をはじめとした、修士論文の構想に関連する文献を批判的に紹介してもらおう。また、執筆作業の進展におうじて適宜、修士論文の構想の報告や、修士論文草稿の一部の発表を行ってもらおう。そして、担当者によるプレゼンテーションをうけて、全員で討論を行う。それらの作業をつうじて、広義における哲学の修士論文を執筆するために必要な知識、技能、技法の習得を図る。 (1 脇條靖弘) 西洋哲学に関する研究について指導する。 (19 横田藏人) 西洋倫理学に関する研究について指導する。 (3 柏木寧子) 日本倫理思想史(古代中世)に関する研究について指導する。 (20 栗原剛) 日本倫理思想史(近世以降)に関する研究について指導する。 (34 伊藤裕水) 中国哲学に関する研究について指導する。 (5 村上龍) 芸術学(美学)に関する研究について指導する。 (4 藤川哲) 芸術学(美術史)に関する研究について指導する。 (2 DJUMALI ALAM) 宗教心理学に関する研究について指導する。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	思想 研 究 コ ー ス	思想研究演習	<p>修士論文の執筆を支援・指導するための、演習形式の授業。各回の担当者には、修士論文草稿の一部の発表や、修士論文の構想の報告を行ってもらおう。また、必要におうじて適宜、いわゆる先行研究をはじめとした、修士論文の構想に関連する文献も批判的に紹介してもらおう。そして、担当者によるプレゼンテーションをうけて、全員で討論を行う。それらの作業をつうじて、広義における哲学の修士論文を執筆するために必要な知識、技能、技法の習得を図る。</p> <p>(1 脇條靖弘) 西洋哲学に関する研究について指導する。 (19 横田蔵人) 西洋倫理学に関する研究について指導する。 (3 柏木寧子) 日本倫理思想史 (古代中世) に関する研究について指導する。 (20 栗原剛) 日本倫理思想史 (近世以降) に関する研究について指導する。 (34 伊藤裕水) 中国哲学に関する研究について指導する。 (5 村上龍) 芸術学 (美学) に関する研究について指導する。 (4 藤川哲) 芸術学 (美術史) に関する研究について指導する。 (2 DJUMALI ALAM) 宗教心理学に関する研究について指導する。</p>	
専 門 科 目	歴 史 研 究 コ ー ス	日本歴史論(古代)	<p>この授業は「講義」形式で実施する。講義では日本古代～中世の政務・儀礼・祭祀とそれに関する諸問題、とりわけその変容に着目することで、日本古代の国家や社会が転換する様相を具体的に論じていく。授業は教員が用意するレジメをもとに進めていくが、レジメには史料を複数掲出する予定であり、「講義」形式の授業ではあるが、それらの史料については受講生にも一緒に検討してもらおう。この授業を通し、受講生が日本古代史の実像について理解を深めるとともに、日本古代史分野における個別研究の実例を通じて、歴史学の発想、研究方法と論文作成の過程を学び、論文作成能力を高めることを目標とする。</p>	
専 門 科 目	歴 史 研 究 コ ー ス	日本歴史論(中世)	<p>日本中世史に関して、具体的な研究事例を踏まえた講義をおこなう。講義内容を通じて、日本中世史に関する理解を深めながら、既存の中世史像を捉え直す視点を提示する。また、具体的な検討を通じて、研究動向の現状や課題の捉えかた、史料批判・史料解釈・推論、歴史的諸事象との関連づけ、構造や変化の捉えかた、歴史的意義の再検討、といった歴史学の研究方法の一端を紹介することにもなる。以上を通じて、各自の研究や論文執筆に必要な諸能力の涵養をはかる。</p>	
専 門 科 目	歴 史 研 究 コ ー ス	日本歴史論(近世)	<p>近世の武家社会においては、政治・儀礼の場である表、主君の日常生活の場である中奥、女中の生活の場である奥(大奥)は空間的に区切られ、女性は奥の空間に閉じ込められていたと考えられていた。しかし近年、史料の発見・再発見により奥の研究が進み、その政治的・儀礼的役割が改めて注目されている。本講義では、表・奥の政治史や女性史の分野において研究を牽引してきた諸氏の著作・論文を改めて読み込み解説し、日本近世史研究におけるその研究史的意義を明らかにする。適宜意見を求めるので、受講生は当然ながら講義中に指示された先行研究を前もって読んでおくことが求められる。</p>	
専 門 科 目	歴 史 研 究 コ ー ス	日本歴史論(近現代)	<p>日本近現代史の主題に即して講義を行う。ただし教員が語るだけの一方的な講義ではなく、受講生が史料を読み、教員と議論を行いながら授業を行う形式を進める。講義を通じて、学生が日本史とりわけ日本近現代史について理解を深め、既存の歴史的知識を捉え直せるような柔軟な思考力を養うよう促す。また、日本近現代史分野における個別研究の実例を通じて、歴史学の研究方法を伝える。学生は配布史料を事前に読み、史料から何が読み取れるのかを論じるなど、積極的に参加する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	歴史 研究 コース	西洋歴史論(古代・中世)	西洋史学特論(古代・中世)では、西洋古代史及び西洋中世史の領域から研究上の論点となりうる特定のトピックを取り上げ、当該のトピックに関連した欧米学界における古典的ないしは最新の優れた研究成果を精読を行なう。そして、その内容について、史料の根拠と学説史的展開の双方に目配りしつつ、受講者全員により丁寧な検討を行なうことを通じて、研究対象に対する学術的なアプローチの方法を学ぶとともに、関連する史資料の読解力をも向上させることを目指す。	
専門 科目	歴史 研究 コース	西洋歴史論(近世・近代)	近年のフランス革命研究においては、政治史・経済史的アプローチよりも、人々の日常生活、政治文化や心性に注目した研究が盛んである。こうした分野の一つに社会的結合関係(ソシアビリテ)の歴史がある。ソシアビリテとは人々が結び結ぶ社交関係のことで、例えば政治結社や読書協会、宗教団体といったものから居酒屋や祭典まで様々な存在する。では人々の日常生活の根幹を形成するソシアビリテは革命の前後でいかに変化したのか? 革命にどのように寄与したのか? 革命はどのようなソシアビリテを創り出そうとしたのか? そして我々が生きている近代社会はどのようなソシアビリテの上に成り立っているのか? 以上の問題を、できるだけ具体例に即して講義する予定である。	
専門 科目	歴史 研究 コース	比較考古論(政治・社会)	古代中国社会、とくに殷周社会の形成を研究する際、青銅彝器をはじめとする各種青銅器の果たした役割は見逃すことができない。考古資料を主な手がかりとして、それぞれの時代・地域における青銅器の形態的特徴、使用方法、埋納方法などの事例を示し、またこれらと比較していくことにより、古代中国、ひいては古代の東アジア世界がどのように形成されてきたのかを考察する。また、その際生産という観点から、近年注目される鑄造技術研究にも焦点を当て、最新の研究動向に触れる。なお、本授業は講義形式で行う。	
専門 科目	歴史 研究 コース	先史考古論(遺物・遺構)	縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に鉄器に注目し、弥生社会の形成過程を考察する。具体的には、日本列島内における鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について、研究史の整理、基礎的な知識の整理、考古学と冶金学の成果を整理し、個別の鉄器について詳説する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を個別の鉄器の技術発達史的側面に注目しながら描き出す。	
専門 科目	歴史 研究 コース	日本歴史論演習(古代の政治)	この授業は「演習」形式で実施する。日本古代史分野の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、日本古代政治史をめぐる諸問題について、関連する輪読史料・先行研究(論文)を取り上げて検討し、研究報告・質疑応答をおこないながら理解を深め、各自の研究テーマの意義を広い視点から捉え直す。以上を通じて、受講生が日本古代政治史の様々な論点を掘り下げ、この時代の実像についての理解を深めるとともに、研究方法について実践的に学び、日本古代史料の読解力・先行研究の正確な読み取りのレベルアップをはかることを目標とする。	
専門 科目	歴史 研究 コース	日本歴史論演習(古代の社会)	この授業は「演習」形式で実施する。日本古代史分野の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、日本古代の社会像をめぐる諸論点について、関連する輪読史料・先行研究(論文)を取り上げて検討し、研究報告・質疑応答をおこないながら理解を深め、各自の研究テーマの意義を広い視点から捉え直す。以上を通じて、受講生が日本古代社会の様々な論点を掘り下げ、この時代の実像についての理解を深めるとともに、研究方法について実践的に学び、日本古代史料の読解力・先行研究の正確な読み取りのレベルアップをはかることを目標とする。	
専門 科目	歴史 研究 コース	日本歴史論演習(中世の政治)	日本中世史分野の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、日本中世の政治史に関連する史料をテキストとして選び、輪読形式で講読をおこないつつ、関連論文を読み、質疑応答をおこないながら、日本中世史の研究手法を実践的に学ぶ。そのいっぽうで、各自の研究テーマに関する研究報告をおこない、質疑応答をおこなうことを通じて、各自の研究の深化を目指す。以上を通じて日本中世史に関する理解を深めながら、論文執筆に必要となる諸能力の涵養をはかる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	歴史研究コース 日本歴史論演習(中世の社会)		日本中世史分野の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、日本中世の社会像に関連する史料をテキストとして選び、輪読形式で講読をおこないつつ、関連論文を読み、質疑応答をおこないながら、日本中世史の研究方法を実践的に学ぶ。そのいっぽうで、各自の研究テーマに関する研究報告をおこない、質疑応答をおこなうことを通じて、各自の研究の深化を目指す。以上を通じて日本中世史に関する理解を深めながら、論文執筆に必要な諸能力の涵養をはかる。	
専門科目	歴史研究コース 日本歴史論演習(近世の政治)		日本近世史を専攻する大学院生を主たる対象とする。『岩波講座日本歴史 近世1～3』(岩波書店、2014年)所収の政治史関係の論文をテキストとして用いる。受講生は担当の論文を精読し、さらに引用されている文献や史料をあわせて読み込んで分析し、その論文の研究史上の位置づけや意義、疑問点などを報告する。そのあと、参加者全員で討論を行い、議論を深める。発表する受講生はもちろん、他の受講生も十分な予習・復習が必須である。	
専門科目	歴史研究コース 日本歴史論演習(近世の社会)		日本近世史を専攻する大学院生を主たる対象とする。『岩波講座日本歴史 近世1～3』(岩波書店、2014年)所収の近世社会に関する論文をテキストとして用いる。受講生は担当の論文を精読し、さらに引用されている文献や史料をあわせて読み込んで分析し、その論文の研究史上の位置づけや意義、疑問点などを報告する。そのあと、参加者全員で討論を行い、議論を深める。発表する受講生はもちろん、他の受講生も十分な予習・復習が必須である。	
専門科目	歴史研究コース 日本歴史論演習(近現代の政治)		日本近現代史分野の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、研究指導を行う。受講生は各自が設定する研究テーマに基づいて研究報告を行い、参加者で質疑応答を行う。また、近現代の政治史を中心に史料・論文・書籍を選び、参加者で報告・議論をする。受講生各自が研究テーマを自ら見つけ、検討を重ねることを通じて、日本近現代史の実像や歴史学の方法について実践的に学ぶとともに、日本近現代史料の読解力のレベルアップをはかる。	
専門科目	歴史研究コース 日本歴史論演習(近現代の社会)		日本近現代史分野の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、研究指導を行う。受講生は各自が設定する研究テーマに基づいて研究報告を行い、参加者で質疑応答を行う。また、近現代の社会史を中心に史料・論文・書籍を選び、参加者で報告・議論をする。受講生各自が研究テーマを自ら見つけ、検討を重ねることを通じて、日本近現代史の実像や歴史学の方法について実践的に学ぶとともに、日本近現代史料の読解力のレベルアップをはかる。	
専門科目	歴史研究コース 西洋歴史論演習(古代・中世の政治)		西洋史学専門演習(古代・中世の政治)では、西洋古代史及び西洋中世史における政治とそれに関連する事項を扱った欧米学界における優れた研究成果の摂取を通じて、受講者が自分自身の力によって自らが関心を持つ課題にかんする研究を推進していくことを可能とするために、関連学説の検討を踏まえた問題設定及び課題を解決するための史料批判を的確に行う力を涵養し、また、史資料の読解力を向上させるとともに、日本語による表現力をも彫琢することを旨とする。	
専門科目	歴史研究コース 西洋歴史論演習(古代・中世の社会)		西洋史学専門演習(古代・中世の社会)では、西洋古代史及び西洋中世史における社会とそれに関連する事項を扱った欧米学界における優れた研究成果の摂取を通じて、受講者が自分自身の力によって自らが関心を持つ課題にかんする研究を推進していくことを可能とするために、関連学説の検討を踏まえた問題設定及び課題を解決するための史料批判を的確に行う力を涵養し、また、史資料の読解力を向上させるとともに、日本語による表現力をも彫琢することを旨とする。	
専門科目	歴史研究コース 西洋歴史論演習(近世・近代の政治)		本授業は、西洋近世・近代の政治・文化に関する文献の精読を下記のように行う。 ①近世・近代ヨーロッパおよびアメリカを1つの環大西洋地域と捉えて、歴史の展開を考察する。具体的にはフランス革命とその衝撃に関して概略を説明する。②革命期・帝政期のフランス史の展開をさぐるため、テキストを輪読する(主に政治文化史の分析を行う)。各章を精読する授業と、内容に関する解説と議論を通じた研究指導の授業を交互に行い、西洋近現代史の総体的把握に努める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	歴史 研究 コース	西洋歴史論演習(近世・近代の社会)	本授業は、西洋近世・近代の社会に関する文献の精読を下記のように行う。 ①近世・近代ヨーロッパおよびアメリカを1つの環大西洋地域と捉えて、歴史の展開を考察する。具体的にはフランス革命とその衝撃に関して概略を説明する。②18・19世紀のアメリカ、ハイチなどの諸革命の動向をさぐるため、テキストを輪読する(主に経済史・社会史を扱う)。各章を精読する授業と、内容に関する解説と議論を通じた研究指導の授業を交互に行い、西洋近現代史の総体的把握に努める。	
専門 科目	歴史 研究 コース	比較考古論演習(政治)	東アジア考古学の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、研究指導を行う。受講生は各自が設定する研究テーマに基づいて、関連資料の収集及び考古学的な分析を行い、担当日には研究報告を行う。報告者以外の受講生もまた、報告に対する質疑応答の形で演習へ参加する。考古資料の基礎的な分析方法のケーススタディーとして、政治性の高い「モノ」の移動を取り上げ、移動によって生じるさまざまな政治的関係について受講生とともに考え、研究方法及び研究内容の深化をはかる。	
専門 科目	歴史 研究 コース	比較考古論演習(社会)	東アジア考古学の研究を希望する大学院生を主たる対象とし、研究指導を行う。受講生は各自が設定する研究テーマに基づいて、関連資料の収集及び考古学的な分析を行い、担当日には研究報告を行う。報告者以外の受講生もまた、報告に対する質疑応答の形で演習へ参加する。考古資料の基礎的な分析方法のケーススタディーとして、受講者各自が関心をもつ地域・時代に即した考古資料を取り上げ、古代社会を復元する手法を学び、自身の研究テーマ及び研究方法についての理解を深める。	
専門 科目	歴史 研究 コース	先史考古論演習(遺物)	受講生は、各自が設定する研究テーマに関連する対象資料(遺物)を選定し、教員の助言の下、この資料の調査と検討を進め、この成果を授業の中で報告する。 報告者は、対象資料(遺物)の基本的な性格を検討することに重点を置き、形態のバリエーションや分布についてその時間的な変化といった基礎的な整理を行う。 一方、報告者以外は対象資料(遺物)に関する諸論点について、質疑応答を行いながら理解を高め、各自の研究テーマの意義を広い視点から捉え直す。このようにして、対象資料(遺物)の本質への理解を深め、対象資料(遺物)解釈のための基礎力を増進する。	
専門 科目	歴史 研究 コース	先史考古論演習(遺構)	受講生は、各自が設定する研究テーマに関連する対象資料(遺構)を選定し、教員の助言の下、この資料の調査と検討を進め、この成果を授業の中で報告する。 報告者は、対象資料(遺構)の基本的な性格を検討することに重点を置き、形態のバリエーションや分布についてその時間的な変化といった基礎的な整理を行う。 一方、報告者以外は対象資料(遺構)に関する諸論点について、質疑応答を行いながら理解を高め、各自の研究テーマの意義を広い視点から捉え直す。このようにして、対象資料(遺構)の本質への理解を深め、対象資料(遺構)解釈のための基礎力を増進する。	
専門 科目	歴史 研究 コース	歴史研究演習	本授業では、受講する大学院生がそれぞれの研究の成果を報告し、教員や他の学生と議論を行う。修士論文に関連するテーマや新しい研究動向などを報告し、特定の時代と地域を越えて歴史学研究的議論の機会を提供することが重要である。また教員と院生全員が参加して議論することにより、集団的、客観的な研究指導を行う場としての意味を持つ。具体的には、遺物・遺構、一次史料ならびに二次文献を分析することによって、歴史的事象や学界における代表的論点を学び、歴史的課題を主体的に設定し、これを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と建設的議論を行う技能の獲得も目指す。各受講生は、この演習での経験を批判的にフィードバックし、各自の研究の深化を図る。 (31 黒羽亮太) 日本古代史に関する研究について指導する。 (6 真木隆行) 日本中世史に関する研究について指導する。 (23 石田俊) 日本近世史に関する研究について指導する。 (22 池田勇太) 日本近現代史に関する研究について指導する。 (24 南雲泰輔) 西洋古代・中世史に関する研究について指導する。 (7 竹中幸史) 西洋近世・近代史に関する研究について指導する。 (21 村田裕一) 先史考古学に関する研究について指導する。 (35 鈴木舞) 比較考古学に関する研究について指導する。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	歴史研究コース 歴史研究演習		<p>本授業では、修士論文執筆を控えた大学院生がそれぞれ設定した研究課題について報告し、教員や他の学生と議論を行う。論文執筆に必要な調査法、分析、議論などに関する能力を向上させながら、論文を完成させることを目的とする。報告と議論を通じて、受講者全員の大学院における研究の発展に資するとともに、様々な時代・地域にかかわるテーマ、研究の視角や手法、史資料の特徴とその利用の方法に関して、学術論文の水準を相互に理解する場とする。研究報告は実質的に修士論文作成の中間報告となる。執筆中の修士論文草稿をもとにして発表し、議論と批判を重ねながら、適切な問題提起、構成、分析、結論と新たな課題設定など論文執筆の技法を学ぶ。これに加えて各教員は添削指導を行う。</p> <p>(31 黒羽亮太) 日本古代史に関する研究について指導する。                      (6 真木隆行) 日本中世史に関する研究について指導する。                      (23 石田俊) 日本近世史に関する研究について指導する。                      (22 池田勇太) 日本近現代史に関する研究について指導する。                      (24 南雲泰輔) 西洋古代・中世史に関する研究について指導する。                      (7 竹中幸史) 西洋近世・近代史に関する研究について指導する。                      (21 村田裕一) 先史考古学に関する研究について指導する。                      (35 鈴木舞) 比較考古学に関する研究について指導する。</p>	
専門科目	現代社会研究コース 地域福祉社会学特論		<p>現代の地域社会は、従来のように農村／都市といった単純な二分法ではとらえられない複雑な様相を呈している。これまでの地域社会学の知見をふまえて、グローバリゼーションの進展が直接日本の地域社会のあり方に与える影響とそれによる地域社会生活の構造化が多様な地域生活の経験を生み出していることを具体的な事象を通じて理解することを目的とする。社会学における生活構造論を中心に、現代日本の地域社会を「混住化社会」という視点からとらえ、その福祉的課題について考察する。</p>	
専門科目	現代社会研究コース 道徳心理学特論		<p>講義形式で、道徳心理学における主要な理論や概念について概説するとともに、現代社会における道徳的問題に当てはめることでその射程を検討する。道徳心理学の研究が、経験説に依拠した文化伝達アプローチから、相互作用説に依拠した認知発達のアプローチを経て、進化心理学的アプローチへと転換されていく経緯について学ぶ。基本は講義形式ではあるが、受講生の要望次第によっては、道徳心理学的な主題に関する受講生からの報告とそれに基づく議論を行うこともある。</p>	
専門科目	現代社会研究コース 医療社会学特論		<p>講義形式の授業である。この講義では、主に医療社会学における主要な理論や概念、対象を概説し、現代における具体的な医療社会学的事象に当てはめることでその射程を検討する。基本は講義形式ではあるが、受講生の要望次第によっては、受講生各自の研究テーマと関連する医療社会学的な主題に関する受講生からの報告とそれに基づく議論を行うこともある。したがって、講義形式ではあるものの、積極的な意見の表明を行ってほしい。</p>	
専門科目	現代社会研究コース 現代民俗学特論		<p>本講義では、福田アジオの2冊の著書（『日本の民俗学』および『現代日本の民俗学』）を講読していくことで、民俗学の特徴や学史についての理解を深める。また、現代日本の文化的・社会的状況を明らかにする上で、民俗学はどの程度有効なのかについても議論する。毎回の授業では、発表担当者に担当範囲をまとめ、発表してもらう。その後、履修者全員で議論し、民俗学や現代日本に対する各自の洞察力を高めることで、修士論文執筆のための素養を養う。</p>	
専門科目	現代社会研究コース 社会人類学特論		<p>本授業は現代の東アジア社会、とりわけ中国社会を、社会人類学的な視点から考察することで、地域研究として東アジア一帯の知識を深め、現代における現象を社会人類学的に、あるいは民俗知識のあり方をそれぞれの現地社会のコンテクストに即して理解するものである。授業内容は受講する各院生の研究テーマ、研究対象に応じて適宜変更する。具体的には、社会人類学における基本的な概念（親族、ジェンダー、ケガレなど）や研究史（代表的民族誌など）を背景としながら、それぞれの院生の関心のあるテーマを議論していく。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	現代社会 研究コ ース  文化人類学特論	/	人類社会は、目に見えるものから見えないものまで、様々なモノやサービスなどの交換で成り立っている。私たちは、何をどのようなルールで交換して、社会生活を営んでいるのか。日本社会の身近な事例と、世界の諸民族における交換習俗の理解を通じ、自らを相対化する視点を取得することを目的とする。世界の諸民族における交換習俗、貨幣の在り方を理解するとともに、経済人類学の基本的理論について理解する。講義では、民族誌や写真、映像資料などを交えて各事例の理解を深める。	
専門 科目	現代社会 研究コ ース  社会調査法演習（質的調査法）	/	大学院生を対象に、質的調査の方法について、その特徴とデータの収集・分析を理解することを目的に、社会学の先行研究に目を配りながら理解を深める。質的調査の方法とデータ収集のやり方、質的調査法を用いる意義と役割、テーマの設定のしかた、データの分析方法について理解し、あわせて質的調査の実施に向けて調査のプロセスを習得することを旨とする。基本は講義形式で行うが、受講生の関心や研究テーマに応じて実践的な調査の実施についても行う予定である。また、本授業は専門社会調査士の資格認定のための指定科目である。	
専門 科目	現代社会 研究コ ース  地域福祉社会学専門演習 （コミュニティと福祉）	/	高度経済成長期以降、日本社会の急激な都市化は、伝統的な地域社会を弱体化するとともに様々な地域問題を派生させてきた。近年はグローバル化も伴って、地域間格差や地域社会維持の問題が顕在化している。本授業では、「生活の質」「生活の幸福感や満足度」の視点を参考にしつつ、あるべき地域社会としての福祉コミュニティの可能性について考察する。地域生活空間の望ましさは、誰によってどのように作られるのか、福祉政策・計画の地方分権化などの制度論にも目配りする。	
専門 科目	現代社会 研究コ ース  地域福祉社会学専門演習 （社会変動と福祉）	/	社会学・社会心理学的な都市・地域・福祉問題研究の分野において研究を進めることを希望する大学院生を対象として、地域社会の構造変動に伴うコミュニティの変容と福祉課題について、内外の主要著作や学会掲載の研究論文など、基礎的な学術文献の検討を行う。少子高齢化をテーマの中心として、テキストの読み込みと受講生の希望する研究テーマに関する報告・討論を行うことにより、当該テーマにおける学術的な理解を深めることを目的とする。授業は、受講生による報告と質疑・討論を中心に進める予定である。	
専門 科目	現代社会 研究コ ース  社会調査法演習（多変量解析）	/	量的社会調査において必要となる多変量解析に関する知識と技法・倫理を演習形式で実践的に学習する。具体的な内容としては、重回帰分析やパス解析、ロジスティック回帰分析、因子分析などを中心として、社会調査協会の専門社会調査士カリキュラムのI科目（多変量解析に関する演習科目）に該当する分析手法を学ぶ。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。	
専門 科目	現代社会 研究コ ース  道徳心理学専門演習（理論）	/	演習形式で、主に道徳心理学やその近接領域における理論や概念を主題とした主要論文・文献を講読し、受講者各人の研究テーマにひきつけながら議論を行う。とりわけ、人間の道徳性にみられる奇妙さ（直感的・モジュール性・内集団本位）に着目することで、道徳性を科学的に分析することの意義や重要性について検討していく。また、受講生自身が修士論文を執筆するうえで重要な論文や文献を持ち寄り、皆で講読することも必要に応じて行う。	
専門 科目	現代社会 研究コ ース  道徳心理学専門演習（データ解析）	/	この講義では、演習形式で、主に道徳心理学やその近接領域において、調査や実験から得られたデータへの分析を主題とした主要論文・文献を講読し、受講者各人の研究テーマにひきつけて議論を行う。とりわけ、調査や実験の基本設計や、データの信頼性と妥当性、分析技法や解釈の適切性などに着目しながら、学術論文の執筆に必要なデータ解析のノウハウを習得していく。また、受講生自身の調査データ等を用いた検討も必要に応じて行う。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	現代社会研究コース 社会調査法演習（調査企画・設計）		社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施し、そこから得られた調査データを分析してレポートを取りまとめてもらう予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。なお、調査テーマについては、受講生自身の研究テーマとの関連性も考慮して、相談の上決定する。	
専門科目	現代社会研究コース 医療社会学専門演習（理論）		この講義では、演習形式で、主に医療社会学やその近接領域における主要な理論や概念を提示した歴史的論文・文献を選定の上講読し、受講生各人の研究テーマにひきつけて議論を行う。なお、講読対象とする研究や論文・文献の選定は、受講者の研究テーマを考慮しながら相談の上決定する。また、受講生自身が、修士論文を執筆するうえで参照する必要性のある論文や文献を持ち寄り、担当教員や他の学生と共に講読し議論することも、必要に応じて行う。	
専門科目	現代社会研究コース 医療社会学専門演習（データ解析）		この講義では、演習形式で、主に医療社会学やその近接領域においてこれまで行われてきた、何かしらの調査に依拠した研究や論文・文献を共有した上で講読し、受講生各人の研究テーマにひきつけて議論を行う。なお、講読対象とする研究や論文・文献の選定は、受講者の研究テーマを考慮しながら相談の上決定する。また、受講生自身が調査を通して入手したデータや研究上使用する予定の資料等を用いた検討も必要に応じて行うこととする。	
専門科目	現代社会研究コース 現代民俗学専門演習（儀礼論）		現代日本の民俗宗教を対象とした研究に対し、主に儀礼論の観点から指導を行うことで、修士論文の作成を目指す。具体的には、儀礼の行事構成や儀礼執行者が行う所作に関する理解を深めることにより、当該儀礼の意味あるいは特徴について考察する力を養う。その他、先行研究のまとめ方や、使用方法論の妥当性に関しても指導する。毎回の授業では、発表担当者に、これまでの研究の進捗状況を報告してもらう。その後、履修者全員で議論することで、発表者の研究の精緻化と履修者各自の知識の深化を図る。	
専門科目	現代社会研究コース 現代民俗学専門演習（祭礼論）		現代日本の民俗宗教を対象とした研究に対し、主に祭礼論の観点から指導を行うことで、修士論文の作成を目指す。具体的には、立場の異なる多様な関係者の相互行為や少子高齢化のような社会環境の変動が、当該祭礼（あるいは儀礼）にどのような影響をおよぼすのかについて深く考えていくことを通じて、現代日本の文化的・社会的特徴を明らかにするための洞察力を養う。その他、先行研究のまとめ方や、使用方法論・理論の妥当性に関しても指導する。毎回の授業では、発表担当者に、これまでの研究の進捗状況を報告してもらう。その後、履修者全員で議論することで、発表者の研究の精緻化と履修者各自の知識の深化を図る。	
専門科目	現代社会研究コース 社会人類学専門演習（民族誌）		本演習は、現代社会を分析するうえで重要だと思われる社会人類学的著作を講読し、積極的なディスカッションを行うことを目指す。本年度の文献は、初回の授業時に受講生の関心に合わせて決める。テキストの熟読を通じて、現代社会を分析するうえで社会人類学的視座がどのように貢献するか、ということをも具体的な事例を踏まえながら学ぶ。本演習はあくまで社会人類学的視座から現代社会を考えるために課題書籍を講読するに過ぎない。課題図書は講読後は、参加者各人がそれぞれの関心に沿った社会人類学的著作を選択し、それを講読していくなかで、参加者が社会人類学的な視点で現代社会を分析しうる視座を確立することを目指す。	
専門科目	現代社会研究コース 社会人類学専門演習（フィールドワーク）		前期の大学院修士課程の授業の延長として本授業は行われる。前期において習得した社会人類学的視座に基づき、フィールドワーク（あるいは文献調査）を行い、その成果を授業内で発表する。修士論文の作成に資する情報の共有、議論の精緻化、批判的／建設的フィードバックが得られる場を目指す。また授業内では、自身の研究発表だけではなく、他者の研究発表に対して適切なコメントをすることが求められる。前期の授業とは異なり、後期はより実践的に、授業内容を学術雑誌の「研究ノート」や「書評」として投稿できるような水準を求め、授業のための授業ではなく、アウトプットを意識した研究活動を授業を通して行っていく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	現代 社会 研究 コース  文化人類学専門演習（理 論）		文化人類学の中における物質文化研究分野に関する基本文献を素材として、これを読解、解釈する力を高める。受講生が希望する研究テーマに関する報告を重ねて修士論文を作成するための能力を高める。指定文献の読解と自身の研究テーマについての先行研究の読解、調査・研究内容についての発表を組み合わせる授業を進める。文献内容の発表に対して、質疑応答を行い、内容について理解を深め、また、自身の研究内容についての発表を通じて修士論文の土台を作ることを目指す。文献の内容については、受講生の研究テーマに応じて選定する。	
専門 科目	現代 社会 研究 コース  文化人類学専門演習（民族 誌）		文化人類学の物質文化研究に関連する研究を希望する大学院生を対象として、関連する基本文献の読解を行う。受講生の希望する研究テーマに関する報告と討論により、修士論文執筆の指導助言を行う。指定文献の読解と自身の研究テーマについての先行研究の読解、調査・研究内容についての発表を組み合わせる授業を進める。文献の内容については、受講生の研究テーマに応じて選定する。前期の講義をふまえて修士論文執筆につながるより実践的な内容をめざす。	
専門 科目	現代 社会 研究 コース  現代社会研究演習		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業である。下記の教員それぞれが授業を個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、社会学／社会心理学／人類学／民俗学といった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元にしたディスカッションを行ったり、研究テーマそのものの報告とディスカッションを他の受講生や教員と行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらい姿勢が必要となるし、積極的にディスカッションに参加し、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(10 速水聖子) 地域福祉社会学に関する研究について指導する。 (9 高橋征仁) 道徳心理学に関する研究について指導する。 (27 桑畑洋一郎) 医療社会学に関する研究について指導する。 (8 谷部真吾) 現代民俗学に関する研究について指導する。 (25 小林宏志) 社会人類学に関する研究について指導する。 (26 山口睦) 文化人類学に関する研究について指導する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	現代社会研究コース 現代社会研究演習		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業である。下記の教員それぞれが授業を個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、修士論文で用いる資料や調査結果等を各自持ち寄り、他の受講生や教員も含めたディスカッションを展開しながら、分析・考察の方向性を確定させていくことを目的とする。また、修士論文の草稿検討等も行う。そのため、積極的に報告を担当してもらおう姿勢が必要となるし、積極的にディスカッションに参加し、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。また、受講生自身が調査や資料収集の計画を立て、それを実施に移す積極性や、入手した資料や調査データを適切な方法によって分析する知識と技能も必要となる。</p> <p>(10 速水聖子) 地域福祉社会学に関する研究について指導する。 (9 高橋征仁) 道徳心理学に関する研究について指導する。 (27 桑畑洋一郎) 医療社会学に関する研究について指導する。 (8 谷部真吾) 現代民俗学に関する研究について指導する。 (25 小林宏志) 社会人類学に関する研究について指導する。 (26 山口睦) 文化人類学に関する研究について指導する。</p>	
専門科目	日本語・中国言語文 日本語論（古代語）		<p>日本語学は、現代語を研究対象にする場合もあれば、ことばの表記や音声・語彙・文法などの様々な側面に着目しながら、古代語の実態や日本語の歴史を明らかにするという側面も持つ。そのため本授業では、先行研究や日本語学の概説書をもとに、言語の観察の視点や文献・その他の方法による日本語史研究の方法を概説する。このことにより、文献の扱い方や研究方法を学び、いかにして言語の性質やその歴史を明らかにしていけばよいのかを、受講生と一緒に検討していく。</p>	
専門科目	日本語・中国言語文 日本語論（現代語）		<p>この授業では、現代日本語文法の研究に必要な知識、技法を身につけることを、主な目的とする。また、先行研究をそのまま受け入れるのではなく、批判的に読み解く研究態度と、客観的なデータ収集の方法を習得する。教員は、現代日本語文法の特徴的な現象がどのように論じられて来たのかを講義することを通して、自らの関心領域においてどのような議論がなされているのかを各学生が理解するように促し、また必要に応じて助言を与える。</p>	
専門科目	日本語・中国言語文 日本文学論（中古）		<p>この授業では、日本の中古文学のなかでも特に物語について、その文学史的な展開を見据えつつ、ジャンルとしての特性について講義する。具体的には、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』という三つの作品を取り上げ、適宜本文を示しつつ、成立事情、表現、構造などの点から分析を行う。また、分析を展開するにあたっては、研究史の上で論議されてきた諸問題を紹介し、そこで提案されている視点や思考法の可能性について検討を加える。</p>	
専門科目	日本語・中国言語文 日本文学論（近世）		<p>この授業の目標は、日本の古典文学、とりわけ近世文学を研究するために必要な文献学の知識を修得し、本文批判の能力を養成することである。そのために、まず、日本古典文学研究における文献学の歴史と方法について講述する。次に、近世前期の連歌師西山宗因の自筆紀行文を対象として、諸本間の異同を指摘し、その分析を通して異文生成の理由や背景を考察する。さらに、その結果が、俳文・浮世草子・読本等にも適用できるか討議し、近世文学研究における文献学的方法への理解を深める。</p>	
専門科目	日本語・中国言語文 日本文学論（近代）		<p>この授業では、日本近代文学のなかでも特に近代の詩歌について、その歴史的展開を跡づけ、具体的な詩人の営為にも触れつつ、ジャンルとしての特性について講義する。明治・大正期の代表的な作品を提示し、それらを読み解きながら、海外詩の移入・翻訳、口語自由詩および自然主義、モダニズム等の問題を概観するだけでなく、近代詩を、小説などの他の文学ジャンル、あるいは映画などの他の芸術との関わりにおいて捉える視点も重視しつつ説明する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 文学研究 中国言語	日本文学論 (近現代)	/	本授業では、日本近現代文学の代表的作品とその作者に関して伏在する諸問題を取り上げ、それらについて議論されてきた研究の成果を、個別具体的に講義する。明治から現代までの代表的な文学作品を対象とし、特に、社会的・文化的背景や影響関係を参照しながら、日本近現代文学史における位置付けについて検討を加える。また、文学作品を読解するために必要な知識や技能を習得し、自律的に研究を行うための方法や視点の獲得を目指す。	
専門科目 文学研究 中国言語 文学	中国語論 (中国の諸言語)	/	中国では、古代から現在まで、漢民族の言語である漢語をはじめ、様々な言語が話されている。古代から通訳官が存在し、異言語学習が古くからおこなわれていた。特に元代以降、中国語と他の言語の対訳文献が豊富に残っており、言語学史の資料として特異の位置を占めている。この授業では、歴代の代表的な対訳資料及びその研究概況を紹介していくことを通じて、対訳資料がもつ中国語学的意義を考えるとともに、中国の諸言語の音韻・文法・文字の実態、及び中国の諸言語の間の影響・接触関係について考察する。	
専門科目 文学研究 中国言語	比較文学・文化論	/	この授業では、複数文化圏の文学・芸術交流について講義する。日本近・現代文学テキストを軸にして他文化圏の文学テキスト、あるいは、美術・映画・マンガなど他ジャンルのテキストとの、受容や変容などの相互関係を、テキストの精読を基に、翻訳に関する問題についても確認しながら、検討する。また、越境的読みや横断的な読みの実践を通じて、「日本文学」という境界自体について捉え直す試みに関しても考察をおこなう。	
専門科目 文学研究 中国言語	日本語論演習 (古代語研究)	/	日本語史の分野で修士論文を作成するためには、各自の研究テーマの明確化や、先行研究とその問題点の把握はもちろんのこと、文献を使用したデータの収集と整理、及び日本語学全般の知識が必要である。受講者は自らのテーマをもとに、日本語史を中心とした文献を読み、日本語学を研究するために必要な全般的な知識を得る。また、口頭発表を行うことで、受講者はその成果を整理し、教員はこれに対して指導を行うことで、受講者が研究を進めていくことができるようにする。	
専門科目 文学研究 中国言語	日本語論演習 (古代語文献講読)	/	受講者は、先行研究と関連付けながら、自分の修士論文作成のために収集・整理したデータの分析結果を論述できるようになる必要がある。そのため、調査結果を用例をもとに、あるいは図や表を用いて分かりやすく示した資料を作成し、口頭で発表する。教員はそれに対して助言・指導を行うことで、受講者が研究を進めていくことができるようにする。並行して、日本語学全般、特に日本語史の知識を養うために、日本語学一般の文献を読み、研究の水準の向上を図る。	
専門科目 文学研究 中国言語	日本語論演習 (現代語研究)	/	本授業では、出席者が自分の関心があるトピックについて、主体的にデータ・先行研究について収集し、批判的に検討を加えた上で発表することを通して、現代語を研究するうえで必要な知識・技能を獲得することを目的とする。出席者は、積極的に質問・コメントを加えることで問題をクリアにし、更に、教員のコメントによって発展的な考察を試みる。テーマは、音韻論、統語論、形態論、意味論、さらには方言など、幅広く想定している。	
専門科目 文学研究 中国言語	日本語論演習 (現代語文献講読)	/	本授業は、現代日本語のさまざまな文法現象のうち、各受講者の専門とする現象について、先行研究における議論を理解・整理したうえで、必要なデータを見極め、収集することを主な目的とする。受講者は先行研究を総括し、必要となるデータを収集し、発表をおこなう。教員はそれに対し、コメントやデータの提示をおこなって指導し、各受講生が現代日本語文法の現象について客観的・合理的に理解し、議論できるようになることを目指す。	
専門科目 文学研究 中国言語 文	日本文学論演習 (中古文学研究)	/	日本の中古文学の専門的研究をおこなうための必要なプロセスを、演習形式で実践的に学ぶことを目的とする。受講者は、自らの関心領域に基づいて研究課題を設定し、テキストの正確な解釈や先行研究の成果などを踏まえた考察を展開する。考察にあたっては、問題の所在と問題提起、先行研究の状況調査と検討、用例調査と結果報告、資料の収集と分析、論の構成の検討、発表要旨の作成といった工程を踏むこととし、最終的に研究発表を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	日本・中国言語	日本文学論演習（中古文学講読）		この授業では、日本の中古文学の代表的な作品である『源氏物語』を講読し、古典文学のテキストを研究対象として読むための技能や知識の習得を目指す。講読にあたっては、本文の異同の調査と検討、中世・近世期の諸注釈の調査と検討、関連する先行研究の調査と紹介、関連する古記録等の文献の調査と紹介といった古典文学作品を研究するうえで基礎となる作業の演習を行う。受講者は、これらの演習課題を資料として作成し、報告する。	
専門科目	日本・中国言語	日本文学論演習（近世文学研究）		この授業の目標は、古典籍を取り扱うために必要な技能と、日本の古典文学を研究するために必要な書誌学の知識を実践的に修得することである。和漢の古典籍を対象とした書誌学の基礎について講述したうえで、山口大学図書館所蔵の和本を対象として、その取り扱い方および書誌のとり方を学ぶ。特に、和本の書型・装訂・表紙・表題・奥書・刊記・蔵書印等を観察し、それぞれの位置・意味・特徴を理解したうえで、適切な書誌情報を筆録する方法を修得する。	
専門科目	日本・中国言語文	日本文学論演習（近世文学講読）		この授業の目標は、日本近世の代表的作家である井原西鶴の浮世草子を対象とし、その読解を通して、自立的な古典文学研究の方法を修得することである。受講者は、まず、西鶴作の浮世草子『本朝二十不孝』『日本永代蔵』『武家義理物語』の著名章段について、先行研究の論点を整理し、その問題点を指摘する。次に、当該章段の語釈・通釈によって、先行研究の課題克服を目指す。さらに、論理的で説得力のある問題提起と解釈の方法について、全員の討議を通して模索する。	
専門科目	日本・中国言語文	日本文学論演習（近代文学研究）		本授業では、日本の近代文学の専門的研究をおこなうための必要なプロセスを、演習形式で実践的に学ぶことを目的とする。受講生が自らの関心領域に基づいて設定したテーマに基づき、同時代の動向や先行研究なども見据えて発表し、受講者全員で議論する。文学という領域にとらわれることなく広く関連資料に目を通し、特に同時代の言説を踏まえた研究テーマの深化を目指す。授業内では、そのために有益な参考文献なども講読しながら、研究の方向性および手法を考えていく。	
専門科目	日本・中国言語文	日本文学論演習（近代文学講読）		本授業では、受講生の研究テーマに関連するテキストを講読し、各自の研究を深化させることを目指す。授業では、まず受講生が自らの研究テーマや関心のある領域について報告をして、対象とする作品や関連資料から講読のテキストを選定する。その後の講読では、テキストの内容と研究テーマとの関連性についてディスカッションをおこないながら、どうすれば具体的に研究を進めていけるか、研究の手順・プロセスのイメージを受講生全員で考えていく。	
専門科目	日本・中国言語文	日本文学論演習（近現代文学研究）		本授業では、日本近現代文学の専門的研究をおこなうために必要な知識や方法論について、演習形式で実践的に学ぶことを目的とする。受講生が自らの研究や関心領域に基づいて作品やテーマを提示し、先行研究を踏まえて考察した結果の発表をおとして、受講者全員で議論する。検討する作品やテーマに基づいて、それぞれ必要な論点を見極め、領域横断的に多様な参考資料をを検討し、研究テーマの深化を目指す。授業内では、そのために有益な参考文献なども講読し、研究の方向性と方法の確立を目指す。	
専門科目	日本・中国言語	日本文学論演習（近現代文学講読）		本授業では、受講生の研究テーマに関連する作品や文献資料を講読し、各自の研究を深化させることを目指す。授業では、まず受講生が自らの研究テーマや関心のある領域について報告をし、研究対象とする作品や関連資料から講読する文献を選定する。その後の講読では、作品や文献資料の内容と研究テーマとの関連性についての考察を発表し、受講生全員で議論をおこなう。さらに、研究の目的に沿った方法の選択について、具体的に受講生全員で検討する。	
専門科目	日本・中国言語文	中国語論演習（中国諸言語研究）		中国語と中国の少数民族言語の相互影響関係、あるいは中国語と外国語の相互影響関係について、文献を用いて研究する上での基本的な方法論を実践的に修得する。資料としては、中国語と他の言語との対訳文献資料、日本・朝鮮・ベトナムなどの漢字音、中国の諸言語中の借用語など、中国における言語接触を反映した様々な資料を取り上げる。これらの資料を言語学的に分析するため、転写や音韻体系の対照など、基本的な作業を行うとともに、多文字の文献からある言語の音韻や文法に関する情報を取り出す際に注意すべき点について学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	日本・中国言語学 中国語論演習 (中国諸言語文献講読)		中国語音韻史、及び中国語と他の言語との接触の問題に関して中国語で書かれた論文を講読する。受講者は本授業を通じて、現代中国の論説文体を自力で読み進め、中国語文を正確で流麗な日本語文に翻訳する訓練を行う傍ら、言語学、中国語学、音声学、及び中国語音韻学に関する基礎的概念の理解を深めていく。受講者は、更に、教員と共に、言語の史的変化の原理及び音声と音韻の違いに関する明確な認識に基づいて、中国語音韻史及び中国における言語接触の諸問題について討論を行う。	
専門科目	日本・中国言語学 比較文学・文化演習 (研究)		この授業では、比較文学・比較文化研究の実践を通じて、日本語文学・文化、英語圏文学・文化、フランス語圏文学・文化、中国語圏文学・文化、比較文学・文化など、受講生各自の研究領域についての研究を深化させていくことを目指す。担当の学生が関連資料や参考文献を踏まえた上で、その回のテキストについて発表をおこなった後、それを受けて参加者全員が各自の読みを提示しながら、受講者全体でディスカッションをおこなう。参加者は、担当学生が発表前に提示した関連資料や参考文献に触れることを通じて、自身の研究の幅を広げ、また内容や質を深める多様な視点を養っていく。	
専門科目	日本・中国言語学 比較文学・文化演習 (講読)		この授業では、「日本文学」というカテゴリーの文学作品、「外国文学」というカテゴリーの文学作品、「文学」というカテゴリー以外の作品をテキストとして、越境的な読みや横断的な読みを実践し、各自の研究を深化・発展させることを目指す。授業ではテキストを精読し、参加者全員でテキストについてのディスカッションをおこなう。さらに、関連する論文や資料等にも触れ、それらを適切に分析する能力を養う。	
専門科目	日本・中国言語学 日本・中国言語学 研究演習		本授業では、修士論文の執筆に至る過程で必要となるさまざまな作業を、受講生と、下に記した指導内容の各担当教員が共に考え、議論を重ねることを主な内容とする。具体的には、まず受講生は研究計画の立案、先行研究の整理、問題の提起、作品の精読、資料の調査・分析などの作業をおこない、授業内でその成果を適宜発表および報告していく。また、担当教員は受講生の研究内容と進捗状況を把握したうえで、直面している課題や分析・立論の問題点などについて具体的かつ適切に指導する。加えて、担当教員は重要な参考資料を示して受講生と講読するなど、各受講生の状況に応じて柔軟かつ適切な形で授業を進め、修士論文執筆の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。 (11 和田 学) 現代日本語に関する研究について指導する。 (29 安本真弓) 古代日本語に関する研究について指導する。 (17 森野正弘) 日本の中古文学に関する研究について指導する。 (28 尾崎千佳) 日本の近世文学に関する研究について指導する。 (12 野坂昭雄) 日本の近代文学に関する研究について指導する。 (37 中元さおり) 日本の近現代文学に関する研究について指導する。 (32 更科慎一) 中国語学に関する研究について指導する。 (33 藤原まみ) 比較文学・比較文化に関する研究について指導する。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	日本・中国言語文学研究演習	日本・中国言語文学研究演習	<p>本授業では、修士論文の完成に至る執筆過程で必要となるさまざまな作業を進めながら、受講生と担当教員が論文のテーマ、内容等について共に考え、議論を重ねることを主な内容とする。具体的には、修士論文の計画・内容について頻繁に途中経過を報告させ、資料の分析や具体的調査における問題点、論述の不備、不足している資料などを、受講生との議論を通して見出していく。また、修士論文準備報告会の場で論文の内容をわかりやすく報告するためのスキルを磨き、報告会で実際に発表したうえで、そこで得られた参加者からのフィードバックを基にさらに論文の精度を高めていく。その他、具体的な論述、論文全体の構成や章立て、論文の執筆ルールなどについても議論・指導し、修士論文の完成を目指す。</p> <p>(11 和田 学) 現代日本語に関する研究について指導する。 (29 安本真弓) 古代日本語に関する研究について指導する。 (17 森野正弘) 日本の中古文学に関する研究について指導する。 (28 尾崎千佳) 日本の近世文学に関する研究について指導する。 (12 野坂昭雄) 日本の近代文学に関する研究について指導する。 (37中元さおり) 日本の近現代文学に関する研究について指導する。 (32 更科慎一) 中国語学に関する研究について指導する。 (33 藤原まみ) 比較文学・比較文化に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目	英語学論 (統語論)	英語学論 (統語論)	<p>本科目は、理論言語学(統語論)の入門講義科目である。人間の脳に内在された言語演算システムがどのような規則で形成されているのか、英語の事実を中心に講義する。本科目は、以下の(1)～(4)を目標とする：(1)統語論における基本概念や専門的道具立ておよび自然言語分析へのそれらの適用について英語の事実を通して理解することができる。(2)英語、日本語、その他の言語における典型的な言語学の問題とそれに係る言語事実を知っている。(3)統語論的議論の展開方法を知っている。(4)英語と日本語で専門分野の論文を読むことができる。</p>	
専門 科目	英文学論 (イギリス)	英文学論 (イギリス)	<p>本科目では、イギリス文学の作家や作品について、時代的・社会的背景を念頭に置きつつ、主要なテーマや研究方法等を中心に講義する。配布プリントによりできるだけ作品の原典や各種論考に触れる機会を提供し、また場合によっては視聴覚資料等の使用により多角的な視点を取り入れた講義を行う。本科目は、下の(1)～(3)を目標とする：(1)作家の持つ固有の特質や思想を理解できる。(2)作品の内容や主題を論理的に分析できる。(3)小説を読み解く行為に積極的な関心を抱き、常に問題意識を持って議論に参加できる。</p>	
専門 科目	英文学論 (アメリカ)	英文学論 (アメリカ)	<p>本科目はメルヴィルとホイットマン、アメリカのユーモアと西部の勃興、国籍離脱の作家群、第一次世界大戦後の小説、アメリカ現代文学等のエッセイや批評を読解することで、アメリカ文学への研究姿勢と研究方法を身に付ける。到達目標はアメリカ文学における作家・作品およびテーマの理解を深め、ピューリタリズム、ロマン主義、1930年代のアメリカ文学等の理解とともに、メルヴィル、トウエイン、スタインベック等の作家群を、アメリカ文学研究として位置付けられることである。</p>	
専門 科目	英語学論(意味論)	英語学論(意味論)	<p>本科目は、数学や論理学を用いて自然言語の意味を分析する形式意味論の入門講義である。英語における形式意味論の文献を基に、真理条件、構成性、集合論、一階述語論理および高階述語論理、ラムダ計算といった基本的な概念と手法を紹介する。問題演習を通じて、受講者は論理的思考力を身に付ける。本講義の目標は、受講者が基本的な論理的概念や形式的手法を含む現代の形式意味論研究のアプローチを理解し、専門分野の文献を理解するための基本的なスキルを身に付けることにある。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	欧米言語文学研究 コース 比較文化学論	/	本科目では、構造主義およびポスト構造主義の思想家のエッセイを読解することで、比較文化の知的な枠組みを身に付ける。到達目標は以下のようである。1) 英語で学術論文およびエッセイを読めるようになる。2) 20世期の有名な思想家とその思想の内容を把握する。3) 文学作品の批評と分析への様々なアプローチをできるようになる。4) 文学とその他の分野の関係を確認し、学際的なアプローチを身に付ける。5) 文学批評を読解することで、文学史と文学理論の知識を高める。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 欧州語比較・対照言語論 (仏語系)	/	本科目は、比較言語学および対照言語学の講義科目である。同系統の言語間、異系統の言語間の具体的な事例を取り上げて講義を行う。本科目の目標は以下の4つである：(1) 比較言語学と対照言語学のアプローチを理解することができる。(2) 言語現象について通時的視点と共時的視点から分析ができる。(3) 4つ以上の言語の事例を挙げて、それらの間の共通点と相違点を指摘することができる。(4) 英語のほかフランス語・ドイツ語で書かれた論文も読むことができる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 欧州文学・比較文学論 (仏語系)	/	本科目は、欧州文学・比較文学の入門講義科目である。文学作品をどのように互いに比較すればいいか、19世紀のフランス文学を中心に講義する。本科目は、以下の(1)～(4)を目標とする：(1) 比較文学の分析方法について理解することができる。(2) 比較文学的議論の展開方法を知っている。(3) 19世紀のフランス文学(小説、自伝、戯曲、詩、評論など)についての知識を身につける。(4) フランス語で専門分野の論文を読むことができる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 言語論 (言語構造)	/	本科目は、言語学(言語構造)の入門講義科目である。言語類型論的観点に立って、ヒトの言語構造について講義する。本科目は、以下の(1)～(4)を目標とする：(1) 言語学における基本概念や専門的道具立ておよび世界言語の構造分析へのそれらの適用について理解することができる。(2) 言語類型論的観点による世界言語の言語事実を知ることができる。(3) 言語類型論的議論の展開方法を知ることができる。(4) 世界の諸言語について書かれた外国語文献で専門分野の論文を読むことができる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 英語学演習(統語理論)	/	本科目は、「英語学特論(統語論)」で学んだ統語理論の研究手法が、どのように実際の言語分析に使用され得るのか、英語で書かれた統語理論研究における主要論文を演習形式で読み進めながら、議論する。本科目は、以下の(1)～(4)を目標とする：(1) 提案された統語理論上の概念や技術的道具立てを利用して、英語および対象言語を観察できる。(2) 英語で学術論文を自力で読むことができる。(3) 学術研究の倫理規範のもと、学術論文の書き方を理解できる。(4) 学術的なプレゼンテーションの方法を知っている。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 英語学演習(構文研究)	/	本科目は、特定の言語構造を取り上げ、先行研究で提案された分析に対する賛否を演習形式で議論する。学生は、特定の構文における比較研究を行うことによって、特定の言語からのデータがいかに強力な普遍文法の理論の発展に寄与するかを理解していく。本科目では、以下の(1)～(3)を目標とする：(1) 構文解析の基本的な概念と技術的な道具立てを理解し、それらを英語を含む自然言語解析への応用できる。(2) 英語で書かれた学術論文を正確に読むことができ、要点をまとめることができる。(3) 議論の妥当性を判断でき、根拠を持って第三者にわかりやすく説明することができる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 英語学演習(意味論)	/	本科目では、意味論における特定のトピックに焦点を当て、英語で書かれた文献を基にして言語事実や分析について演習形式で深掘りしていく。本演習の目的は、クラシックな論文から現代の研究までを読むことで、異なる分析やその変遷を把握し、意味論の重要な問いに対する深い洞察や異なる視点・枠組みから研究を見る柔軟性を身につけることにある。本演習を通して、受講者は英語で書かれた論文の要点を適切にまとめ、言語事実や分析の妥当性について論理的に議論できるようになる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 英文学演習(言語獲得論)	/	本科目では、生成文法理論における言語獲得の特定のトピックに焦点を当て、それに関連する英語で書かれた文献を基にして議論を展開する。受講者は論文の要点を把握し、まとめ発表を行う。言語獲得研究の基本となる統語論や意味論における理解を深め、実験で使用されている手法を学ぶ。実験結果に対する問題点や妥当性について多角的に議論し、さらに新たな研究の可能性についても具体的に探究する。これにより、受講者は論理的思考力とその応用力を向上させ、言語獲得研究における深い洞察を身につけることが期待される。	
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 英文学論演習(イギリス・ 19世紀以前)	/	本科目では、19世紀以前のイギリスの作家による作品、および必要に応じてこれに関連する論文を読む。作品に関しては、精読と多読を兼ねた手法により、毎回かなりのペースで原著を読み進める。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。本科目は、下の(1)～(3)を目標とする：(1)作品や論文の内容について深い理解を有している。(2)作品の主題や作者の思想を自分なりの視点で分析できる。(3)小説を読み解く行為に積極的な関心を持ち、常に問題意識を持って議論に参加できる。	
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 英文学論演習(イギリス・ 20世紀以後)	/	本科目では、20世紀以後のイギリスの作家による作品、および必要に応じてこれに関連する論文を読む。作品に関しては、精読と多読を兼ねた手法により、毎回かなりのペースで原著を読み進める。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。本科目は、下の(1)～(3)を目標とする：(1)作品や論文の内容について深い理解を有している。(2)作品の主題や作者の思想を自分なりの視点で分析できる。(3)小説を読み解く行為に積極的な関心を持ち、常に問題意識を持って議論に参加できる。	
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 英文学論演習(アメリカ・ 19世紀以前)	/	本科目は過度期の文学(ベンジャミン・フランクリンやジョナサン・エドワーズ等)、新共和国の文学(チャールズ・ブロックデン・ブラウン等)、文化の多様性と文学の諸形式(ワシントン・アーヴィングや南部の作家たち等)の論考からアメリカ文学に対する批評態度を身に付ける。到達目標はアメリカ(文学史)を理解でき、(文学史)再構築への試みである各種の論考を読解し、19世紀以前のアメリカの作家群・作品群の研究領域を、社会的、政治的、歴史的発展を理解できることである。	
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 英文学論演習(アメリカ・ 20世紀以後)	/	本科目はコンテキストと背景(モダニズム等)、地方主義、民族性とジェンダー(アフリカ系アメリカ人の文学等)、文学批評、アバンギャルドと実験的作品等を、文学史の再構築という視点で追究する。到達目標はアメリカの「文学遺産」に対する一貫性の試みである(文学史)を理解でき、(文学史)再構築への試みである各種の論考を読解し、20世紀以後のアメリカの作家群・作品群の研究領域を、社会的、政治的、歴史的発展の検証を踏まえて理解できることである。	
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 比較文化論演習(文芸)	/	本科目では、いくつかのテーマ(フェミニズム、戦争、伝統と現在等)に関わる文学作品を読み、そのモチーフと上記のテーマの具体的な表現方法について議論する。到達目標は以下の通りである。1)英語で書かれた文学作品を読めるようになる。2)英語圏のコンテンポラリー文学作品を読み、現代の英語圏文学についての知識を高める。3)ナイジェリア、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ等の社会的、政治的、歴史的な問題を把握する。4)比較文学の基礎を身に付け、いくつかの国の文学作品を比較できるようになる。	
専門 科目	欧米 言語 文学 研究 コー ス 比較文化論演習(異文化理 解)	/	本科目では、いくつかの分野(ポストコロニアル研究、ジェンダースタディーズ、大衆文化論)の学術論文とエッセイを読み、演習の形式で議論し合う。到達目標は以下の通りである。1)英語で論文とエッセイを英語で読めるようになる。2)上記の分野の最新研究の状態を把握する。3)文学作品を具体例にし、上記の分野と文学の関係を確認し、学際的なアプローチを身に付ける。4)文学作品を上記の分野の枠で分析できるようになる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	欧米言語文学研究 コース 欧州語比較・対照言語論演習(仏英語)	/	本科目は、とくにフランス語と英語の比較・対照研究の演習科目である。仏英語間の具体的な事例について書かれた論文を読みながら、批判的に分析・考察していく。また、自ら調査し、発表を行ってもらう。本科目の目標は以下の3つである：(1)仏英語間の諸現象を比較・対照することができる。(2)具体的事例を取り上げて分析し、共通点と相違点を指摘することができる。(3)フランス語で書かれた論文も英語で書かれた論文も精読・多読できる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 欧州語比較・対照言語論演習(ロマンス諸語)	/	本科目は、とくにロマンス諸語の比較・対照研究の演習科目である。ロマンス語に関する具体的な事例について書かれた論文を読みながら、批判的に分析・考察していく。また、自ら調査し、発表を行ってもらう。本科目の目標は以下の3つである：(1)ロマンス語における諸現象を比較・対照することができる。(2)具体的事例を取り上げて分析し、共通点と相違点を指摘することができる。(3)主要なロマンス語ならびにラテン語の文法体系を把握する。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 欧州文学・比較文学論演習(仏語系文学)	/	本科目は、「欧州文学・比較文学特論(仏語系)」で学んだ研究方法が、どのように実際の分析に使用され得るのか、19世紀フランスの文学作品を互いに比較しながら議論する。以下の(1)～(4)を目標とする：(1)比較文学の分析方法を利用して、19世紀フランスの文学作品を互いに比較する。(2)フランス語で文学作品を読むことができる。(3)学術論文の書き方を理解することができる。(4)学術的なプレゼンテーションの方法を知っている。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 欧州文学・比較文学論演習(仏語系文化)	/	本科目では、「欧州文学・比較文学専門演習(仏語系文学)」で読んだ文学作品のモチーフやテーマが、どのように絵画、オペラ、映画などのメディアで取り上げられたのか、ということについて議論する。本科目は、以下の(1)～(3)を目標とする：(1)言語表現と映像表現との特徴を理解して、分析することができる。(2)フランス文化についての知識を身につける。(3)フランス語で専門分野における問題について議論することができる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 言語論演習(言語構造)	/	本科目は、「言語学特論(言語構造)」で学んだ言語研究の手法が、どのように実際の言語構造の分析に用いられるか、言語類型論的研究における主要論文を演習形式で読み進めながら、議論する。本科目以下の(1)～(4)を目標とする：(1)言語構造を分析する専門的道具立てを利用して、世界諸言語を観察できる。(2)外国語で学術論文を自力で読むことができる。(3)学術研究の倫理規範のもと、学術論文の書き方を理解できる。(4)学術的なプレゼンテーションの手法を知ることができる。	
専門科目	欧米言語文学研究 コース 言語論演習(言語類型)	/	本科目は、世界言語を類型化するために提案されている専門的道具立てを用いて、実践的にできるだけ多くの言語の言語特徴をデータベース化して議論する。学生は、幅広い言語を考察することを通して、ヒトの言語の多様性と普遍性を理解していく。本科目では、以下の(1)～(4)を目標とする：(1)言語の類型化の方法を理解し、実際の諸言語分析に応用できる。(2)外国語で書かれた論文から必要な言語データや考え方を拾い出し、まとめることができる。(3)学術研究の倫理規範のもと、学術論文の書き方を理解できる。(4)学術的なプレゼンテーションの手法を知ることができる。	



授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 人文科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	欧米言語文学研究コース  欧米言語文学研究演習		<p>前期修士論文演習では、受講者が各自の研究計画に則し、各々の研究分野の作法に従った専門論文を書くためのスキルと方法論および理論的背景を演習形式で実践的に学んでいく。具体的には、資料や作品の精読、データの観察および先行文献の読解と整理を行い、その進捗状況や成果を発表・議論し合うことを通して、修士論文作成に必要な知識および調査・観察、報告、議論に係る基礎的能力を身につける。教員と院生との頻繁な対話の中で、英語、日本語および研究対象言語で書かれた学術専門論文や作品を正確に読み解く作業を重ねながら、本科目修了時には、各自が自身の修士論文に繋がる研究課題を設定することができることを目的とする。</p> <p>(13 上田由紀子) 理論言語学(統語論)に関する研究について指導する。 (15 池園宏) イギリス文学に関する研究について指導する。 (18 外山健二) 英文学(アメリカ文学)に関する研究について指導する。 (36 KATERYNA OLHA) 比較文化に関する研究について指導する。 (16 武本雅嗣) 比較言語学・対照言語学に関する研究について指導する。 (14 DE BOISSIEU MICHEL) 欧州文学・比較文学(仏語系)に関する研究について指導する。 (30 乾秀行) 一般言語学および言語類型論に関する研究について指導する。 (38 藤原慶樹) 意味論・言語獲得論に関する研究について指導する。</p>	
専門科目	欧米言語文学研究コース  欧米言語文学研究演習		<p>後期修士論文演習では、受講者が設定した研究課題に沿って、演習形式で、修士論文作成に必要な調査、分析、議論展開、報告などに関わる能力を一層向上させると共に、最終的に学術論文の完成に必須である研究者倫理も実践的に学ぶ。具体的には、各々の研究分野の作法に従った学術論文の構成、書式、注や引用に関する諸規則など、研究者として遵守すべき知識と意識を修士論文執筆を通して実践的に習得することを目的とする。また、分析の視点や議論の妥当性および収集したデータの信憑性などについての他者からの指摘に対しても耳を傾ける姿勢を持ちつつ、論拠を持ってそれに応答することができ、他者からのコメントを生かして論文を修正し、修士論文を完成することができることを目的とする。</p> <p>(13 上田由紀子) 理論言語学(統語論)に関する研究について指導する。 (15 池園宏) イギリス文学に関する研究について指導する。 (18 外山健二) 英文学(アメリカ文学)に関する研究について指導する。 (36 KATERYNA OLHA) 比較文化に関する研究について指導する。 (16 武本雅嗣) 比較言語学・対照言語学に関する研究について指導する。 (14 DE BOISSIEU MICHEL) 欧州文学・比較文学(仏語系)に関する研究について指導する。 (30 乾秀行) 一般言語学および言語類型論に関する研究について指導する。 (38 藤原慶樹) 意味論・言語獲得論に関する研究について指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 臨床心理学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科共通科目	研究者行動規範特論		研究者の使命は真理の探究にあり、公共の福祉と利益への貢献にある。研究者はいかなる学問領域にあっても個人の利益のみを追求してはならず、自らの立場を絶えず確認し、社会の付託に応えるために研究者としてのモラルから逸脱してはならない。研究者としての一般的な素養として必要な、研究者倫理、行動規範について学び、また責任ある研究行為、研究活動における不正行為について理解を深め、研究者として倫理的な判断力と行動力とを身につける。	
研究科共通科目	知的財産特論		本講義は、知的財産権の概要を事例に基づいて講述するとともに、実社会で見られる事例をもとに知財の観点から問題があるか（気づき）、法的に違法性があるか（見つける）、どのように対応したらよいか（見極める）等、知的財産の総合的な観点からの演習等を行う。また特許制度について詳しく解説すると共に、特許情報へのアクセスと調査・分析についても紹介し、受講者が行っている自身の研究テーマに関して特許情報の調査・分析を行う。論文情報だけでなく、特許情報を調べることは、受講者自身の大学院での研究活動にプラスになる。また研究倫理と知的財産の関係について考え、特に著作権法の観点からみた研究倫理について概説する。	
研究科共通科目	データサイエンス特論		多様なデータが大量に溢れる今日の社会において、データサイエンスの利活用は益々重要視されるようになってきている。データサイエンスは、多種多様なデータを集め、処理・分析することで、社会の諸課題を解決するための手法であり、現代社会において幅広く活用されている。本講義はデータサイエンスの応用力を養うことを目的とする。本講義では、社会の様々な分野におけるデータサイエンスの役割を踏まえつつ、データ分析に必要な知識、機械学習を含むデータサイエンスの手法およびその応用事例等について論じる。 （オムニバス方式/全8回） （10 葛崎偉/1回） データサイエンスの役割とデータ分析の基礎について講義する。 （11 野村 厚志/2回） データ分析に用いる基本的な手法について講義する。 （8 中田 充/2回） コンピュータを用いたデータ分析について講義する。 （9 北本 卓也/3回） データ分析の手法に基づいた実践を通して、データサイエンスの応用について講義する。	オムニバス方式 ・共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 臨床心理学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	プレゼンテーション特 論		<p>プレゼンとは何か、効果的なプレゼンの方法、プレゼン資料の作成法などの観点から解説する。プレゼンの意義や効果の理解をはじめ、過去の事例に学びながら効果的にプレゼンを進めるための技法を考察する。また、ビジュアルデザインの手法を取り入れたプレゼン資料の作成方法等を解説しつつ、IT技術のプレゼンへの活用法などを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (全教員2回)</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 各回の解説内容の紹介、解説する観念の違ひ、および評価方法の説明等</p> <p>第8回 総括まとめ (13 川崎 勝/2回)</p> <p>プレゼンテーションと聴衆1 プレゼンテーションと聴衆2 (14 小川 仁志/2回)</p> <p>プレゼンテーションの本質1 プレゼンテーションの本質2 (12 杉井 学/2回)</p> <p>プレゼン資料とIT機器 ビジュアルデザインを考慮したプレゼン資料作成</p>	オムニバス方 式 ・共同(一部)
研究科 共通科目	キャリア教育		<p>現代日本の雇用環境や経済・社会の変化とともに、大学院生の採用手法の実態と多様化の背景を解説します。また、個人にとっても社会にとっても重要なキャリアの理論と応用を学びます。受講生自身の就職活動とキャリア形成に役立つように、ワークをとりいれながら授業を進めていきます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間社会科学部 臨床心理学専攻)					
科目区分	授業科目の名称		主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 臨床心理学プログラム	臨床心理学	心理学研究法特論		<p>【概要】 心理学における実証的アプローチの中で、量的及び質的データへの迫り方についての理論的背景について論考する。講義の前半では、研究倫理や研究法の基礎を学ぶことで、自身で研究計画を立案できる能力を身に付ける。講義の後半では、実際のデータを用いて、実証的な思考方法や研究発表の方法について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学における科学的な研究方法の考え方を習得する。</li> <li>2. データの取得、分析、解釈に潜む危険性への認識を深める。</li> <li>3. 大学院での研究や修士論文作成に活用できるようにする。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	心理統計法特論演習	<p>【概要】 Rと呼ばれる代表的な統計解析ツールを使用して、心理学で使用される基本的な分析を実際に分析コードを書きながら実施する。また、Rで使用できる多様なパッケージを利用して、不登校やいじめ、暴力行為や虐待、自殺を含む心理的不調やストレスマネジメント、個別の支援が必要な児童生徒、保護者との関わり、教員へのコンサルテーション、危機介入等、多面的な側面について理論と実践を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 記述統計の諸概念を理解し、計算等に習熟し、結果の意味を検討できる。</li> <li>2. 推測統計の諸概念を理解し、計算等に習熟し、結果の意味を検討できる。</li> <li>3. 統計的仮説検定の諸概念を理解し、計算等に習熟し、結果の意味を検討できる。</li> <li>4. 多変量解析の諸概念を理解し、計算等に習熟し、結果の意味を検討できる。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	<p>【概要】 教育分野におけるスクールカウンセラー等の心理職（公認心理師・臨床心理士）の実践について、スクールカウンセラーの心構え、学校における児童生徒への支援やその体制、不登校やいじめ、暴力行為や虐待、自殺を含む心理的不調やストレスマネジメント、個別の支援が必要な児童生徒、保護者との関わり、教員へのコンサルテーション、危機介入等、多面的な側面について理論と実践を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育分野の心理支援の体制を理解する。</li> <li>2. 学校における心理職の倫理を含めた基本的姿勢を理解する。</li> <li>3. 児童生徒の心理社会的発達を理解する。</li> <li>4. 教育分野の心理支援が必要な事柄を理解する。</li> <li>5. 教育分野の心理支援の方法を理解する。</li> <li>6. 学校外の関係機関との連携を理解する。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	発達心理学特論	<p>【概要】 発達心理学の研究は、個体の発達だけではなく、系統としての発達や文化の発達など多様である。また、発達段階に関する諸理論は、教育や人間関係を考えるための手掛かりとなるものである。この授業科目の学習を通して発達心理学に関する資料を読み、議論を通じて現代の発達心理学の諸理論に関する理解を深めることを目指す。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達心理学の研究が、現在社会においてどのように応用されているかについて理解を深める。</li> <li>2. 発達心理学に関する自らの研究課題を見出すことができるようになる。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	学習・認知心理学特論	<p>【概要】 学習心理学および認知心理学は、人間の行動全般の理論的基盤であり、これら理論の深い理解は応用的分野の理解の基盤となる。本講義では、学習心理学および認知心理学の分野でこれまでに報告された様々な研究と、その結果から導出された理論について評論し、討論する。具体的には、心理学研究等の学術誌より、各自が関心のある論文を選び、要約を発表しながら討論する。各自の研究データがある場合は、そのデータについて、要約を発表しながら討論する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習心理学の専門知識の理解を深める。</li> <li>2. 認知心理学の専門知識の理解を深める。</li> <li>3. 学習・認知心理学を通して、人間がどのように世界と関わっているのかを理解する。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	社会心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>【概要】 受講生による社会心理学研究の発表と講義形式の授業を通じて、社会心理学の方法論について理解を深める。社会心理学は態度形成や対人認知、集団と集団の葛藤といったように多様な対象を研究対象とする。社会心理学に共通する考えは、人の考えや行動の原因を他者の存在や周囲を取り巻く環境といった外的な要因に求めることである。本科目を通じて、私たちの考え（認知）や行動がいかんして外的な要因によって影響を受けているのか、実感を伴いながら理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学に関する研究論文を読むためのスキルを身に付ける。</li> <li>2. 社会心理学の知見を把握することで現代社会における諸問題について、客観的な視座をもって理解できるようになる。</li> <li>3. 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、及び相談・助言・指導等への応用について理解できるようになる。</li> <li>4. 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法、及び相談・助言・指導等への応用について理解できるようになる。</li> </ol>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学研究科 臨床心理学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	<p>【概要】 講義では、司法・犯罪心理学の予防的支援と矯正に関する事項の両面について概説する。予防的支援では、非行の背景に多い家庭紛争（離婚、家庭内DVや虐待など）について、矯正に関する事項では、警察署・家庭裁判所・少年鑑別所・少年院・刑務所までの機能について、できるだけ事例を通して問題解決のための支援の進め方について概説する。特に、公認心理師及び臨床心理士として、司法・犯罪分野で生じる問題行動に対する心理的支援の実践についての理解を深める。</p> <p>【目標】 1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件に関する知識を深める。 2. 少年犯罪・非行及び家事事件に関わる関係機関及び法制度について理解を深める。 3. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援について理解を深める。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	<p>【概要】 健康心理学は疾患の治療や予防に限らず、健康な人々がその健康を維持・増進できるようにするための教育的かかわりやシステムづくりなどに関して、心理学的知見を活用しようとする学問領域である。本講義では、心理職が教育を実施することが求められやすい心の健康に関するトピックに関して、研究や法令に基づいた適切な知識を用いた教育をできるようにすることを目指す。</p> <p>【目標】 1. 心の健康教育に関する理論について適切な知識を深める。 2. 心の健康教育の重要性をわかりやすく伝えるための実践的方法を修得する。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>【概要】 家族心理学では、家族や家族関係を人間の社会的システムの基盤として多様な人間関係を心理学的に分析する。家族心理学の専門的な資料の読解を通して、人間関係に関するシステムアプローチなどの心理支援に関する理解を深める。</p> <p>【目標】 1. 家族に関する歴史的課題を学び、現代的課題の動向を分析することができる。 2. 家族や家族関係を中心に、社会システムの基盤となる集団内での人間関係を多面的に理解し、心理支援の理論と方法を理解する。加えて、相談・助言・指導等への応用を理解する。 3. 家族心理学の論文講読を通して、分析手法の理解を深める。 4. 地域社会や集団・組織といった人間関係に関する心理的援助の理論と方法について理解を深める。加えて、相談・助言・指導等への応用を理解する。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	障害児（者）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	<p>【概要】 障害児（者）が、主体的にwell-beingで多様な生き方を目指すことから生じる心理的葛藤の問題を中心に、的確な支援のためのアセスメントの進め方、心理的支援を含めた社会福祉的な支援制度（障害者手帳や社会的扶助制度など）の活用などについて、実際の事例理解を通して理解を深める。事例では、主に発達障害児（者）の生涯発達とそれに伴う支援の進め方に焦点を当てる。</p> <p>【目標】 1. 障害児（者）が抱える心理的葛藤について理解を深める。 2. 福祉分野に係る社会福祉の諸制度について理解し、公認心理師・臨床心理士の実践について理解を深める。 3. 様々な障害児（者）に対する支援の実践力を深める。 4. 様々な臨床領域において障害児（者）の支援の実践力を深める。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	産業カウンセリング特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	<p>【概要】 産業労働分野の関連法規と制度（労働安全衛生法・産業保健活動・ストレスチェック制度等）を理解し、産業保健・EAP（従業員支援プログラム）の公認心理師に求められるコンピテンシーの基礎・実践を修得する。その基礎にうえて、職場のメンタルヘルスケアや復職プログラム等の労働者個人に対する心理的支援、経営者、組織開発、健康経営、メンタルヘルス研修、職場改善等の組織に対する支援、多職種連携（産業医、保健師、弁護士、キャリアコンサルタント）の在り方について理解を深める。</p> <p>【目標】 1. 労働安全衛生施策の全体像と公認心理師の役割の理解を深める。 2. 職業性ストレスに関する理論とストレスチェック制度の運用の在り方の理解を深める。 3. 産業保健スタッフ・人事・労務・経営者との連携について理解を深める。 4. 産業・労働分野（企業）の組織支援について理解し、公認心理師及び臨床心理士の実践について理解を深める。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理学特論 I	<p>【概要】 臨床心理学における基本的な発想や実践の基礎理論や心のモデル、心理療法の効果研究および対象となるさまざまな臨床心理学的問題について学びます。それにより、日本の臨床心理学の特徴、臨床心理実践に必要な面接構造、援助モデル、心理療法の効果研究の重要な知見などについて説明できるようになることが期待されます。</p> <p>【目標】 1. 臨床心理学に関する基礎理論と心のモデルについて理解する。 2. 心理療法の効果研究および臨床心理学的問題について理解する。 3. 臨床心理学に関する重要な知見を説明できるように修得する。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学研究科 臨床心理学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理学特論Ⅱ	<p>&lt;概要&gt; 臨床心理士として求められる基本的知識を学び、臨床心理士が働く幅広い領域について理解を深める。具体的には、臨床心理士としての基本的姿勢、心理的支援の基本、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働といった多様な領域における心理臨床実践について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理士としての倫理を含めた基本的姿勢について理解する。</li> <li>2. インテークやアセスメントを含む心理療法の基本を理解する。</li> <li>3. クライアントの状態に応じた心理療法の基本を理解する。</li> <li>4. 心理療法の過程で生じる諸問題を理解する。</li> <li>5. 様々な領域における心理臨床を理解する。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	<p>【概要】 心理アセスメントにおいてクライアントを理解するために必要な心理査定について概説する。発達検査、知能検査を中心に基礎的理論だけでなく、事例に触れながら、実際の現場での実施と活用についての理解を深める。また、乳幼児期から青年期までの発達段階に応じた心理査定の活用と解釈について理解を深める中で、臨床描画法によるアプローチや新しく開発された心理検査の概要を紹介する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公認心理師及び臨床心理士における心理アセスメントの意義、及び理論と方法を理解し、加えて心理に関する相談・助言・指導等への応用を理解する。</li> <li>2. 臨床実践における心理査定の基本的姿勢を理解する。</li> <li>3. 様々な臨床領域で活用する心理査定の重要性を理解する。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理査定演習Ⅱ	<p>【概要】 臨床心理学的アセスメントの実践上の基本的観点について理解して実施し、その解釈を行う。受講者によるプレゼンテーションを中心に進める。臨床心理面接（以下面接）および臨床心理検査（以下検査）を用いたアセスメントを取り扱う。特に、投影法（バウムテスト、文章完成法、ロールシャッハ法）を中心に演習を行う。それにより、検査と面接を用いたクライアントの総合的理解方法について説明できることが期待される。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理査定の実践上の基本について理解を深める。</li> <li>2. 投影法への理解を深める。</li> <li>3. 検査と面接を用いたクライアントの総合的理解方法について説明できるよう修得する。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	<p>【概要】 様々な臨床領域に必要な心理面接の基本的姿勢について概説する。特に、理論的な側面と合わせて、心理査定の活用や解釈による心理アセスメントなど活用した心理面接の実践的側面や、発達課題に応じた面接場面での対応について理解を深める。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 力動論・行動論・認知論、その他の心理療法の理論と方法、及び心理に関する相談・助言・指導等への応用について理解する。</li> <li>2. 臨床心理面接における理論的側面と実践的側面について理解する。</li> <li>3. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について理解する。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理面接特論Ⅱ	<p>【概要】 本講義では、臨床心理面接の発展的内容を学ぶ。より困難な面接の局面での対応、より臨床心理学的問題の大きなクライアントとの面接について学ぶ。さらに、臨床心理事例研究の進め方についても学ぶ。それにより、臨床心理面接の広がりについて説明でき、より困難な状況での必要な対応を判断でき、そのために長期の研修の必要性についても説明でき、自らの面接について臨床心理事例研究として発表するための基本について省察します。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理面接の発展的内容、特に困難な面接での対応について理解を深める。</li> <li>2. 臨床心理事例研究の進め方について理解を深める。</li> <li>3. 臨床心理事例研究を発表するための基本について理解を深める。</li> </ol>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理地域援助特論	<p>【概要】 臨床心理学の知見やスキルが活かされるのは、面接室の中のような個人を対象とした支援だけではなく、地域やコミュニティなどを対象とした支援においても同様である。本講義では、臨床心理地域援助の実践を支える理論の中でも重要なコミュニティ心理学のパラダイムを基礎とし、多職種との連携、地域の援助資源の理解、コミュニティ・アプローチの理解などを通じて、地域社会の中での心理職の役割を相対的に理解することを目指す。</p> <p>【目標】 コミュニティ心理学およびコミュニティ・アプローチと、従来の臨床心理学的アプローチとの違いを相対的に理解し、それらを臨床心理地域援助の実践に活かすためのスキルを身につけることを目標とする。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 臨床心理学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	<p>【概要】 代表的な精神疾患について、精神疾患の歴史と現状、精神疾患の生物学的基盤、こころの理解、精神障害の概念、精神疾患の成因と分類、代表的な精神科疾患、精神症状と状態像、診断の手順と方法、身体的検査と心理的検査などの理解を深める。さらに、精神科疾患の治療（薬物療法、身体療法、精神療法、精神科リハビリテーション、環境・社会療法）及び精神科医療機関も治療構造、他職種連携、専門病院に関する知識の修得を通して、保健医療分野での公認心理師・臨床心理士としての実践力の基礎を身に付ける。</p> <p>【目標】 1. 精神医学全般に関する知識を深める。 2. 心理に関する支援を要する精神障害者に関する理解を深める。 3. 多職種連携について理解を深める。</p>	隔年
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	<p>【概要】 本講義では、保健医療分野で活動する心理職として求められる、医学知識と、こころとからだの関わりについて講義する。人体の成り立ち、構造と機能についての概説と、こころについての理解を講義したのち、各種疾患についての心身医学的な関わりについて講義する。それにより、保健医療分野での公認心理師・臨床心理士としての実践力の基礎を身に付ける。</p> <p>【目標】 1. 心身医学に関する知識を深める。 2. 心理に関する支援を要する心身医学的な疾患を抱える支援を要する者に関する理解を深める。 3. 多職種連携について理解を深める。</p>	隔年
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	力動的心理学特論	<p>【概要】 本講義では、力動的心理学の基本的概念について学ぶ。特に、力動的心理学の依拠する精神分析学の心のモデルと防衛機制、発達論、及び面接者とクライアントの関係の理解について学ぶ。その結果、力動的心理学を構成する基本概念や、面接者とクライアント関係について説明できること、必要な介入について考えられることが期待される。また、臨床心理事例について、力動的な観点からコメントできることが期待されます。</p> <p>【目標】 1. 力動的心理学の基本的概念について理解する。 2. 精神分析学について理解を深める。 3. 力動的心理学の視点から面接者とクライアント関係が説明できるように修得する。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理基礎実習	<p>【概要】 心理面接における基本的態度、倫理的配慮（個人情報保護などを含む）、実際の心理面接の進め方（面接受付、インテイク面接、記録の書き方など）に関する理解を深めるために、講義や事例検討やロールプレイなどを通して、その後続く臨床心理実習のための基礎的態度和について体験的に理解を深める。様々な臨床分野での実習を進めるために、複数の臨床系の教員により指導を行う。</p> <p>【目標】 1. 心理面接に関する基礎的態度和について理解を深める。 2. 講義だけでなく、事例検討やロールプレイを通して体験的に理解を深める。 3. 臨床心理実習に必要な基礎的態度和、倫理的配慮について理解を深める。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）	<p>【概要】 山口大学大学院の機関である「附属臨床心理センター」を含む学内外における複数の領域に関する機関における実習を行う。大学段階での実習を通じて得た基礎的知識や態度和の上に、心理的支援に必要なコミュニケーション、心理検査、心理面接などの技能を修得すること、事例検討を通じた支援計画の作成、チームアプローチや多職種連携、倫理的配慮などについて、多様な形式のスーパービジョンも含めた実習を行う。</p> <p>【目標】 1. 心理に関する支援を要する者に関する知識及び技能を修得する。 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができる。 3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。 4. 多職種連携及び地域連携ができる。 5. 職業倫理及び法的義務への理解ができる。 6. 心理臨床に必要なアセスメント、心理面接の進め方、記録方法などについて理解を深める。</p>	
専門科目	臨床心理学プログラム	臨床心理学	臨床心理実習Ⅱ	<p>【概要】 「臨床心理実習Ⅱ」主に、山口大学大学院の附属機関である「附属臨床心理センター」で各自が担当する事例についてのケースカンファレンスを行い、臨床心理士に必要なコミュニケーション、心理検査を含む臨床心理アセスメント、臨床心理面接、倫理的配慮、記録方法、多職種連携などについて、多様な形式のスーパービジョンを含めた実習を行う。</p> <p>【目標】 1. 臨床心理士に必要なコミュニケーション能力を深める。 2. 様々な心理臨床領域における倫理的配慮について理解を深める。 3. 心理臨床に必要なアセスメント、臨床心理面接の進め方、記録方法などについて理解を深める。 4. 多職種連携について理解を深める。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 臨床心理学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	臨床心理学プログラム 臨床心理学	心理実践実習B		<p>【概要】 山口大学大学院の機関である「附属臨床心理センター」における受審面接や学外実習についての検討や報告を行う。これにより、心理的支援に必要な知識や技能の修得、心理的支援が必要な者等への理解やニーズの把握、チームアプローチや多職種連携、倫理的配慮などについて実習を行う。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理に関する支援を要する者に関する知識及び技能を修得する。</li> <li>2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握ができる。</li> <li>3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。</li> <li>4. 多職種連携及び地域連携ができる。</li> <li>5. 職業倫理及び法的義務への理解ができる。</li> </ol>	
専門科目	課題研究	課題研究		<p>【概要】</p> <p>修士論文に関連する論文購読や研究デザインについて、以下の示す各指導教員による心理学・臨床心理学に関する専門的な指導を受けながら、主体的に修士論文を作成する姿勢を身に付ける。</p> <p>(1 恒吉 徹三) 臨床心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(2 春日 由美) 臨床心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(3 沖林 洋平) 発達心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(4 小野 史典) 知覚心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(5 佐竹 圭介) 臨床心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(6 長谷 和久) 社会心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(7 田中 亜矢巳) 臨床心理学に関連する研究テーマについて、修士論文の作成を指導する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学研究科 経済学・経営学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科共通科目	研究者行動規範特論 (Code of Conduct Principles for Researchers)		研究者の使命は真理の探究にあり、公共の福祉と利益への貢献にある。研究者はいかなる学問領域にあっても個人の利益のみを追求してはならず、自らの立場を絶えず確認し、社会の付託に応えるために研究者としてのモラルから逸脱してはならない。研究者としての一般的な素養として必要な、研究者倫理、行動規範について学び、また責任ある研究行為、研究活動における不正行為について理解を深め、研究者として倫理的な判断力と行動力とを身につける。	
研究科共通科目	知的財産特論 (Advanced Intellectual Property)		本講義は、知的財産権の概要を事例に基づいて講述するとともに、実社会で見られる事例をもとに知財の観点から問題があるか（気づき）、法的に違法性があるか（見つける）、どのように対応したらよいか（見極める）等、知的財産の総合的な観点からの演習等を行う。また特許制度について詳しく解説すると共に、特許情報へのアクセスと調査・分析についても紹介し、受講者が行っている自身の研究テーマに関して特許情報の調査・分析を行う。論文情報だけでなく、特許情報を調べることは、受講者自身の大学院での研究活動にプラスになる。また研究倫理と知的財産の関係について考え、特に著作権法の観点からみた研究倫理について概説する。	
研究科共通科目	データサイエンス特論 (Special Lecture on Data Science)		多様なデータが大量に溢れる今日の社会において、データサイエンスの利活用は益々重要視されるようになってきている。データサイエンスは、多種多様なデータを集め、処理・分析することで、社会の諸課題を解決するための手法であり、現代社会において幅広く活用されている。本講義はデータサイエンスの応用力を養うことを目的とする。本講義では、社会の様々な分野におけるデータサイエンスの役割を踏まえつつ、データ分析に必要な知識、機械学習を含むデータサイエンスの手法およびその応用事例等について論じる。 (オムニバス方式/全8回) (57 葛崎偉/1回) データサイエンスの役割とデータ分析の基礎について講義する。 (58 野村厚志/2回) データ分析に用いる基本的な手法について講義する。 (55 中田充/2回) コンピュータを用いたデータ分析について講義する。 (56 北本卓也/3回) データ分析の手法に基づいた実践を通して、データサイエンスの応用について講義する。	オムニバス方式 ・共同

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	プレゼンテーション特 論(Advanced Presentation Skills)		<p>プレゼンとは何か、効果的なプレゼンの方法、プレゼン資料の作成法などの観点から解説する。プレゼンの意義や効果の理解をはじめ、過去の事例に学びながら効果的にプレゼンを進めるための技法を考察する。また、ビジュアルデザインの手法を取り入れたプレゼン資料の作成方法等を解説しつつ、IT技術のプレゼンへの活用法などを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (全教員2回)</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 各回の解説内容の紹介、解説する観念の違ひ、および評価方法の説明等</p> <p>第8回 総括まとめ (60 川崎 勝/2回)</p> <p>プレゼンテーションと聴衆1 プレゼンテーションと聴衆2 (61 小川 仁志/2回)</p> <p>プレゼンテーションの本質1 プレゼンテーションの本質2 (59 杉井 学/2回)</p> <p>プレゼン資料とIT機器 ビジュアルデザインを考慮したプレゼン資料作成</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
研究科 共通科目	キャリア教育(Career Education)		現代日本の雇用環境や経済・社会の変化とともに、大学院生の採用手法の実態と多様化の背景を解説します。また、個人にとっても社会にとっても重要なキャリアの理論と応用を学びます。受講生自身の就職活動とキャリア形成に役立つように、ワークをとりいれながら授業を進めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻基盤科目 / 専門科目	外国文献研究		本授業は、英語の読解力をつけながら、異文化と異文化コミュニケーションについての理解を深めていくことを目標としている。授業では、中級レベルの英語で書かれたヨーロッパの社会と文化についての読み物と時事的な内容の英文記事を読み、英語の語彙力と読解力を養っていく。また、異文化コミュニケーション論について書かれた原書を読み、各国での社会の多様性にに応じたコミュニケーションのあり方と異文化コミュニケーションについての知識を深めていく。	経済社会政策コースの次の入試の入学者のみコース必修 「一般・推薦・学部3年生を対象とする入試」 他のコースでは専門科目として受講する
専攻基盤科目	Economic Statistics		This course provides an introduction to statistical analysis of economic data. The characteristics of this course are as follows: (1) Practice first: In this course, participants study the practical use of statistical methods. (2) Flipped classroom: it reverses the traditional learning environment; Participants read the course materials before and after the classes and conduct practice and discussion in the classroom. The data used in this course relates to economic activities, living standards, energy consumption, etc., and through analyzing these data, students will recognize the importance of utilizing economic data in policy planning and evaluation. この授業では、受講生は経済データの統計分析の基礎を学ぶ。この授業の特徴は以下の通りである： (1) 実践本位：この授業では、統計手法の実践的な使用方法を学ぶ。 (2) 反転授業：従来の学習環境を逆転させる。すなわち受講者は授業の前後に教材から知識を得ておき、教室では演習やディスカッションに集中する。 この授業で使用するデータは経済活動、生活水準、エネルギー消費などに関するものであり、受講生はこれらのデータの分析を通じて、政策の立案及び評価における経済データの活用の重要性を認識する。	公共管理コース必修
専攻基盤科目	Academic Writing		Students will be given instruction on the avoidance of plagiarism, general advice on academic writing, citation style and bibliographic style, searching for source texts, and concrete instruction on using information processing, specifically MS Word and Google Docs, the citation management database Zotero, and AI (ChatGPT and Bard) for academic writing. Students will also be given the opportunity to summarise, write and have corrected a short text in the field of economics or consumer behaviour. Emphasis will also be placed on the way in which cultural psychology may encourage Asian scholars to structure their writing based upon family similarity, instead of upon the oppositional dichotomy favoured by social scientific, hypothesis testing research, and students will be given the opportunity to connect their writings to their research hypothesis. 学生には剽窃を避けることの重要性、学術的文章の書き方と論文における出典明記スタイルについての一般的な助言と原文の探し方と、AI (ChatGPTとBard) と出典管理ソフトウェアであるZoteroとMicrosoft WordとGoogle Docsを使った論文執筆の実習をおこなう。 毎回の授業で経済や消費者行動の著書からの抜粋を要約し訂正をおこなう。 また、アジア人の学生が、文化心理学的な理由で、人間科学において推奨される、仮説を中心とした2個対立をもって構造づけることより、家族類似性を論文で使って組み立てる傾向があることに焦点を当て、仮説と執筆を関係させて論じる練習をさせる。	公共管理コース必修

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻基盤科目	Economics		<p>The goal of this lecture is to master the basic concepts and analytical methods of macroeconomics. First, we learn about the definition of GDP and its characteristics. Based on this, we will learn the determination of GDP in the goods market and the interest rate in the money market. Next, we derive an IS-LM model that integrates goods market analysis and money market analysis, and analyze how fiscal policy and monetary policy affect GDP and interest rate. We will further extend our analysis and study the Mundell-Fleming model which deals with open economies, and analyze the effects of fiscal, monetary, and trade policies on the economy.</p> <p>この講義の目標は、マクロ経済学の基本的な概念と分析方法を修得することです。まず、GDPの定義とその特徴について学びます。それをもとに、財市場におけるGDPの決定と貨幣市場における利子率の決定について学習します。それに続いて、財市場の分析と貨幣市場の分析を統合したIS-LMモデルを導出し、財政政策や金融政策がGDPや利子率にどのような影響を与えるのかを分析します。さらに分析を拡張して、開放経済を扱うMundell-Flemingモデルを学び、財政政策、金融政策、貿易政策が経済に与える影響を分析します。</p>	公共管理コース必修
専攻基盤科目	企業経営基礎研究		<p>本講義は、経済学・経営学専攻の「専攻基盤科目」の授業科目の一つに位置付けられ、経営学プログラム中山間地マネジメントコースに学术交流協定の渡日前入試を通して入学した者に対する必修科目となっており、「経営学等の領域における専門的知識を身に付ける」ことをめざし、研究者としての基礎的な知識を提供する。具体的には、本講義において、経営学の基礎知識、研究倫理・研究不正防止、研究方法に関する講義を行う。その結果、受講生が企業経営分野において、情報や知識を複眼的・論理的に分析し、的確に表現するための基礎的な能力の獲得を目指す。</p> <p>また、本講義は、受講生に経営学研究における専門分野の基礎知識を幅広く身に付けてもらうとともに、授業でのディスカッションやレポート作成等を通じて経営学の基礎知識に関するコミュニケーション能力、論理的思考力を養成する。</p> <p>授業計画                      (担当：34 藤田健) 第1回：ガイダンス                      (担当：30 川村一真) 第2回：経営学の基礎知識 (1)：マネジメント分野の基礎知識と研究課題                      (担当：13 新祖隆志郎) 第3回：経営学の基礎知識 (2)：アカウントティング分野の基礎知識と研究課題                      (担当：43 王慧娟) 第4回：経営学の基礎知識 (3)：マーケティング分野の基礎知識と研究課題                      (担当：11 宮井浩志) 第5回：経営学の基礎知識 (4)：中山間地マネジメントの現状と課題                      (担当：34 藤田健) 第6回：研究の基礎知識 (1)：経営学における研究とは何か                      (担当：34 藤田健) 第7回：研究の基礎知識 (2)：概念を用いた思考法                      (担当：34 藤田健) 第8回：研究の基礎知識 (3)：問いの立て方／研究の進め方                      (担当：45 藤田智丈) 第9回：研究の基礎知識 (4)：研究倫理に関する講義／研究者が守るべきルール                      (担当：45 藤田智丈) 第10回：研究の基礎知識 (5)：研究不正を避けるための方法                      (担当：34 藤田健) 第11回：研究方法論 (1)：修士2年間の研究プロセス                      (担当：34 藤田健) 第12回：研究方法論 (2)：文献の集め方・読み方                      (担当：35 柳田卓爾) 第13回：研究方法論 (3)：定量的研究の方法                      (担当：35 柳田卓爾) 第14回：研究方法論 (4)：定性的研究の方法                      (担当：35 柳田卓爾) 第15回：研究方法論 (5)：研究論文の書き方</p>	オムニバス 中山間地マネジメントコース必修

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻基盤科目	医療経営研究		医療経営についての基本知識の習得から始める。すなわち、まず現状における病院の状況を資料から読み取る。次に医療経営の内容について学習する。すなわち、医療経営の領域は、一般企業の経営と同様、人事・製造(診療)・購入(医薬品・診療用材料・設備など)・機器のメンテナンス・資金調達と運用・事務などである。これらすべてを詳細に扱うことはできないので診療領域を中心としてマネジメント・ツールとしてのBSC(Balanced Score-Card)を取り上げたいと考えている。	医療・福祉経営コース必修
専攻基盤科目	福祉経営研究		社会福祉施設が、環境の変化に対応して、住民にとって最適な施設となる努力はしなければならない。だが、その環境変化を的確に捉え、むしろ変化を予測して、その変わりつつある環境に含まれる内容や要素を的確かつ誤りなく分析し、施設の存在意義を高め、施設運営が苦しくなることを経営者としては全力を挙げて回避しなければならない。 その対応する知恵と工夫を生み出すことに少しでも役立つことができることに資する内容となることを希望する。	医療・福祉経営コース必修
専攻基盤科目 / 専門科目	税法研究 I		本講義の概要は、所得税法に関する基本原則及び課税所得計算のルールの概要について講義するほか、主要判例・裁判例を題材として具体的な事例に触れながら租税の位置づけや在り方を学習することである。そして、本講義の到達目標は、①職業会計人として必要な所得税法に関する知識を習得すること、②所得税法の重要な判例・裁判例を用いながら、所得税法に関する思考法・判断の視点を習得すること、③所得税法の学習を通じて、経済全体に興味・関心を持つと共に、問題解決を探る意欲を持つことである。なお、本講義は、国税庁から出向してきている実務家教員が担当する。	税務コース必修 他のコースでは専門科目として受講する
専攻基盤科目 / 専門科目	税法研究 II		本講義の概要は、法人税法に関する基本原則及び課税所得計算のルールの概要について講義するほか、主要判例・裁判例を題材として具体的な事例に触れながら租税の位置づけや在り方を学習することである。そして、到達目標は、①職業会計人として必要な法人税法に関する知識を習得すること、②法人税法の重要な判例・裁判例を用いながら、法人税法に関する思考法・判断の視点を習得すること、③法人税法の学習を通じて、経済全体に興味・関心を持つと共に、問題解決を探る意欲を持つことである。なお、本授業は、国税庁から出向してきている実務家教員が担当する。	税務コース必修 他のコースでは専門科目として受講する

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	経済社会政策コース 社会政策・労働経済研究		<p>修士課程レベルの東アジアの社会政策・労働経済研究を行なう。経済社会政策コースの基盤的な役割も担う。レジュメやパワーポイントの書き方はレポート・論文に繋がる。参考文献一覧と脚注は必須である。修論では先行研究サーベイとオリジナリティが求められるようになる。</p> <p>これまで(厚労省のシンクタンク)労働政策研究研修機構の日本労働経済雑誌等を扱ってきた。例えば、新型コロナ禍に関する論文集等である。昨年度まで新型コロナ禍の国際シンポジウムを主催してきて、今年、共著を出版するので、その議論をするだろう。折角、経済学・経営学専攻に入るのだから、経済学のエッセンスもやろう。ミクロ経済学(例えば、実質賃金=限界生産力)・マクロ経済学(成長会形式: <math>GDP = 労働 + 資本 + 技術進歩の貢献度 * 対数と微分の意義が解かる!</math>)・マルクス経済学(資本論における搾取とは何か: <math>労働力再生産費 = 賃金を超える剰余価値を資本家が取ること</math>)等である。</p>	
専門科目	経済社会政策コース 金融経済理論研究		<p>COVID-19の影響下で停滞していた世界経済は、近年、景気の回復とともに高いインフレ率を経験し、各国の中央銀行による金融政策の動向に大きな注目が集まっています。「金融」が経済にとっていかに重要なテーマであるのかはみなさんもご存知のとおりです。この講義では、「金融」を理解する上で最も重要な金融の基礎理論について学習することを目的としています。「金融とは何か」、「貨幣とは何か」など基本的な理論から金融規制のあり方や金融政策の理論まで幅広く学んでもらいます。特に金融政策の理論については、金融政策の手段、政策目標などが時代とともに変化しています。伝統的な金融政策と非伝統的な金融政策はどこが違うのか、また、どのような理論が背景にあるのかを知っておくことは重要なことです。最新の理論をベースに世界経済の動向に目を向けられるようになることを目標とします。</p>	
専門科目	経済社会政策コース 地域経済論研究		<p>この授業では、地域経済に関連する諸理論・モデルを学び、地域政策や地域活性化の取り組み事例にも触れながら、地域の現代的課題と持続発展について検討する。</p> <p>毎回の授業では、受講生の関心に基づいて収集した地域経済に関する諸理論・モデルや事例を取り扱った文献や、論文、資料をまとめてハンドアウトを作成し、プレゼンテーションや論点提起を行ってもらおう。その後、発表者の文献、論文、資料やプレゼンテーション内容、論点に基づいて、受講者全員で持続的な地域の発展についてディスカッションを行う。</p>	
専門科目	経済社会政策コース 地域社会福祉論研究		<p>「地域」「福祉」「well-being」をキーワードにして、私たちの生活社会のあり方について考える。</p> <p>人口減少が加速する地方で、住民が安心した豊かな暮らしを維持するためには、何が必要だろうか。</p> <p>地域well-beingへのアプローチは、受講者それぞれの問題意識を優先したアプローチが可能であるが、そこで理解すべき社会学的思考を身につける。</p> <p>授業は、演習形式でおこなう。関連する文献を読み合わせ、担当がレジュメを元に報告し、全員で議論する。</p> <p>また、ジェンダー・パースペクティブを有効な方法論として使用する。</p>	
専門科目	経済社会政策コース 観光経済研究		<p>観光分野に関するイベントや政策の経済波及効果を推定するツールとしての地域間産業連関分析を中心に解説していく。具体的には、都道府県、市町村レベルの産業連関表の接続方法、地域間の移出入の推計方法を学んだ上で、地域間産業連関表を作成する方法について解説する。また、国と国の産業連関表を接続した国際産業連関表についての解説、跳ね返り効果の算出方法、さらに、産業連関分析の拡張であるSAM乗数分析や応用一般均衡(CGЕ)分析についても解説を行っていく。</p>	
専門科目	経済社会政策コース 環境経済学研究		<p>環境は市場で取引されることにより価格を持つ市場財とは異なり、価格を持たない非市場財である。そのため環境に影響(改善or劣化)を与える政策の社会厚生への影響を評価するためには、環境経済学の一分野である環境評価という手法の適用が必要となる。この授業ではこの環境評価の分析手法の修得を目指していく。そのためにまず環境評価の理論的背景となるミクロ経済学の消費者理論を理解する必要がある。この授業では消費者理論にもとづく厚生評価を解説する。次にその厚生評価指標を推定するための必要となるデータの収集方法と、そのデータから厚生評価指標を算出するための計量経済学的指標を実習形式で学んでいく。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	経済社会政策コース 経済統計研究		経済や観光等の分野における様々な事柄について定量分析を行う際、仮定した因果関係のもとでその事柄を説明するモデルを構築し、多変量解析や統計的因果推論といった方法を用いて、そのモデルをデータから推定することが一般的です。そこで、この授業では、多変量解析および統計的因果推論による実証分析の方法について学んでいきます。 具体的には、統計計算ソフトウェア「R」等を利用して、各種データに対する多変量解析や統計的因果推論の実証分析を行ったうえで、それらの土台となる統計理論について学びます。	
専門科目	経済社会政策コース 理論経済学研究		経済成長理論の基礎を習得することを目標とする。大学レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、経済数学の理解を前提として、講義を中心に、経済成長理論の基礎を学んでいく。具体的には、技術進歩が存在しない新古典派成長モデルから出発して、資本ストックについての動学的基本方程式を導出し、持続状態の性質、資本蓄積の黄金律と動学的非効率性、移行動学を学ぶ。そして、モデルを技術進歩が存在する場合に拡張し、分析を進める。また、AKモデルなどの初歩的な内生的成長モデルやハロッド＝ドーマー・モデルについても学んでいく。	
専門科目	経済社会政策コース 開発経済論研究		途上国の社会・経済開発に関わる研究領域の基礎的知識を身につけた上で、興味を持った特定分野における現状と対策、改善方法について自らの意見を述べるができることを目標とします。これを達成するために、途上国の社会・経済開発に関わる研究領域の基本文献を輪読することを通じて、この研究領域の基本的知識を身につけてもらい、問題の所在を確認します。そして、参加者各自が興味をもった特定分野に関わる文献を蒐集し、報告を行ってもらいます。	
専門科目	経済社会政策コース 公共経済研究		公共経済学に関するテキストを教材として使用し、日本財政の現状と課題を理解してその解決策の展望を得ることを目標とする。データから日本財政の現状を知るとともに、財政制度について理解を深める。戦後の日本財政の歩みについても取り扱う。履修者は事前に教材を読み込みパワーポイント資料を作成して毎回の授業で報告を行い、それをもとにクラスで議論を行う。財務省や内閣府が公表している白書や統計資料などを教材として使用する場合もある。	
専門科目	経済社会政策コース 計量経済学研究		重回帰分析の理論と応用について解説します。重回帰分析の理解のためには行列演算の知識が必須なので、前半は行列演算の復習を行い、その後行列表記による重回帰分析の解説を行います。後半は重回帰分析の応用について、具体的なデータを用いて解説します。本講義ではデータを用いた「アクティブラーニング手法」(CP)により「情報を収集したり情報を活用したりする技能」(DP)を身につけて「ミクロ経済学、マクロ経済学などの基礎的な経済理論を理解し、計量的な分析によって応用する能力」(DP)を持つ高度な人材を育成する。	
専門科目	経済社会政策コース 現代経済学研究		ミクロ経済学またはマクロ経済学の経済理論に関する修士課程レベルのテキストの輪読、内容発表および討論を行う。ミクロ経済学であれば、制度と進化のミクロ経済理論、マクロ経済学であれば、成長と変動のマクロ経済動学を学ぶことになる。また適宜、関連する論文の輪読、内容発表および討論を行う。受講者は事前の準備が前提となる。テキストおよび関連する論文の輪読と議論を通じて、経済理論を理解し、自身の研究課題に分析手法を応用できるようになることを目的とする。	
専門科目	経済社会政策コース 日本経済史研究		テーマ：日本経済近代化と企業家の役割 明治・大正・昭和にかけての近代日本経済史について、「企業家(entrepreneur)」の活動およびその役割に焦点を絞って取り扱う。19世紀半ば、黒船の来航による西洋文明の衝撃によって近代国家への道を歩み始めた日本が、西洋の先進技術を貪欲に吸収し、種々の産業を興し、工業化を推進し、ついには産業革命を達成するなど、驚異的経済発展を遂げた事実は広く知られている。その発展の要因には様々なものが考えられるが、近年特に注目されているのが「企業家」の果たした役割である。「企業家」活動が経済発展に与える役割の大きさは、シュンペーターによって理論的に指摘されて以来、経済史学・経営史学に多大な影響を与え、多くの研究蓄積をもたらしている。本授業では、こうした研究成果を踏まえつつ、日本の「企業家」群像の諸活動を通じて、近代日本の経済発展について多面的に考察していきたい。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	経済社会政策コース 欧米経済史研究		本授業では、学部において、欧米経済史・国際経済史の単位を複数履修し、大学院での授業にフォローできる基礎学力があることを前提として、欧米経済史・国際経済史に大きな影響を与えたケイン&ホブキンス『ジェントルマン資本主義の帝国Ⅱ』を輪読し、その批判的討議を行う。20世紀の国際情勢を念頭に、同時期に、「大英帝国」が直面した危機と「帝国」解体の歴史を学び、その後も続くロンドンの国際金融センターとしての地位維持との関係性を学ぶ。また、同書を巡る各種、書評を読み、「ジェントルマン資本主義論」への賛否を理解し、有力な学説の意義と限界を理解する力を養う。	
専門科目	経済社会政策コース 時間論研究		現代のイギリス小説を分量を決めて、原書（英語）で読んで行きます。各回、「時間」について論じた物語論の代表的な先行研究を講師が紹介した上で、授業では小説中の「時間」描写について、受講の皆さんと議論します。なお、取り上げる小説については受講者全員に前もって読んできてもらいますが、毎回、発表者を1名決めて、あらずじや印象を受けた点について詳しく紹介してもらいます。研究対象としている Anita Brookner (1928-2016) の小説を読み進めて行きます。	
専門科目	経済社会政策コース アジア環境政策研究		発展途上国では、工業化過程の離陸段階では、環境保全のための政策的努力はしばしば無視され、キャッチアップを優先する産業政策は、汚染集約型化学工業を優先して推進されるために、社会資本では産業基盤を優先して、生活基盤を軽視する傾向にある。環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は、様々な公害・環境問題を引き起こした。一方、地球規模の環境問題の拡大に伴って、国際協力による緩和への道を探ることは人類共通の課題になりつつある。特に、地球温暖化問題に関する国際的取組みは、科学的知見の集積をふまえて、1980年代に国際政治問題化して以来、集約的に行なわれてきたが、発展途上国の義務に関しては、なかなか合意が得られない。今後、発展途上国、特にアジア地域が急速な経済発展に伴う二酸化炭素の排出量を急増させると予想されることから考えても、「持続的な開発を損なわない範囲」で、地球温暖化の抑制に向けて努力しなければならない。	
専門科目	経済社会政策コース 現代アジア経済		この授業では、東アジア・東南アジア諸国の経済のあり方について考える。最初に、アジアの経済発展に関する理論的枠組みを提示し、それに基づいて、アジアの発展の特色について議論する。次に、それぞれの国の経済に焦点を当てて、世界経済におけるアジアの台頭に関する様々な論点について検討する。その論点とは、経済成長における国家の役割や、グローバル経済への統合、企業の発展、社会福祉、経済危機やそれへの対応、経済改革などである。それらについて、歴史的視点および比較制度分析の視点を導入し、そして、いかにしてアジア経済が高い成長を実現したのか、他の地域と何が違うのかなどの理解を目的としながら、分析を行う。	
専門科目	経済社会政策コース 中国経済研究		改革開放後40数年、中国経済が大きな変貌を遂げた。計画経済から市場経済への体制移行を遂げたと共に、経済水準が大きく発展し、国民の生活水準も大幅に向上した。特にWTO加盟以後、中国経済がグローバル化の流れに乗り、世界経済との一体化がますます進展した。「世界の工場」であると同時に「世界の市場」への変身も遂げつつある様子を呈している。中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握したうえで、中国経済のかかえている課題を検討し、今後の中国経済の展望について考える。	
専門科目	経済社会政策コース 国際関係学研究		国際関係史に関する課題文献の輪読を行う。第二次世界大戦後の国際秩序において、冷戦や脱植民地化はどのような影響を及ぼしたのか、政治学や歴史学の観点から見識を深める機会としたい。冷戦に関する知見を体得するとともに、冷戦が現代に及ぼしている影響を考察できるようになることが本授業の目的である。授業に際しては、課題文献の報告者を決め、各回の報告者はレジュメを作成の上でプレゼンテーションを行う。高等学校程度の世界史の知識があることが望ましいが、必須ではない。課題文献は比較的ボリュームがあるので、興味関心と読書スピードを兼ね備えた受講生を歓迎する。	
専門科目	経済社会政策コース 政治理論研究		政治とはなにか。人間の生活において、政治という営みはどういう意味をもつのか、を平明に説明してゆく。政治を学問的に理解することをめざしますので、新聞紙面で学習できるようなことについて講義する予定はありません。政治家になれるとか、次はだれが総理大臣になるとか、次の選挙ではどの政党が勝つか、そのような知識を期待している人には向かない授業です。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	経済社会政策コース 行政法研究		日本の行政をめぐる状況は、一方では新自由主義の下で“小さな政府”論と、他方における“地方分権”という、二つの潮流のただ中にある。この講義では、こうした状況を踏まえながら、現代社会において重要な役割を果たしている行政とその法に関して考察する。複雑かつダイナミックな現代の社会における行政、行政法、行政法の基本原則、法治主義、行政組織法、行政作用法を吟味しながら、具体的な問題を素材にして地方自治と地方分権の在り方を考えていく。	
専門科目	経済社会政策コース 刑事法研究		刑事法に関する専門的知識および論理的思考力を身につけるため、刑法解釈論ないし近時の刑事立法に関する基礎的な検討を行う。それについて原理的な観点から考察を加えている文献及び関連判例を読み込むことになるが、具体的なテーマは受講生と相談のうえ決定する。講義は受講生による毎回の報告とそれに対する質疑が中心となり、教員からの一方的な講義は行わない。また、履修にあたっては刑事法に関する学部レベルの知識が前提となるため、受講者には相応の予習が求められる。	
専門科目	経済社会政策コース 文化心理学研究		人間は自分の個人的な価値観に基づいて、自分の個人的な利便性を追及するために、合理的な経済活動を行っており、社会的な圧力がなければ誰もこのような合理的な個人主義者になるという欧米的な考え方が、全ての文化経済に当てはまると思われてきた。社員はできるだけ自分の能力を発揮できる職場を求めたながら、自分の能力を雇用者に売っているというのが雇用関係の基本だとも主調される。一方では、日本・中国などアジア諸国では、先述した欧米合理個人主義に当てはまらない経済的システムが形成されてきた。近年の文化心理学という実験・社会心理学は、個人人間の独立性・価値観の独立性・合理性を欧米諸国の文化思想（神話）に過ぎないということを実証的に論じ始めた。本授業では、このような新しい社会心理学的な実験研究を紹介する。	
専門科目	経済社会政策コース 実証国際マクロ時系列分析		実証分析とはデータに基づいて現象を統計学的に分析する手法であり、経済学の分野でも活用されている。この手法を用いることによって、思い込み、主観には左右されず、客観性、頑健性がともにある結論を導き出すことが可能となる。現象を分析するにあたっては、経済理論に基づいて仮説(モデル)を立て、データを統計解析することによって、その仮説(モデル)の妥当性を検証する。ここでいうモデルとは、事象と事象のつながり(因果関係または相関関係)を表すものである。この講義では、演習形式でテキストの輪読を受講生の間で行って、実証分析の方法とその本質を理解する。さらに、マクロ経済データ、国際マクロ経済データ、実証分析それぞれの特性を理解するために、統計ソフト(R)を用いて実証分析を行い、授業内レポート、授業外(期末)レポートを作成する。	
専門科目	経済社会政策コース 国際観光政策		産業革命と大量輸送システムは私たちの社会を大きく変化させた。さらに、航空技術の発展は旅を容易にし、結果として観光は世界最大の産業の一つになった。国際観光はもはや都市部だけの問題ではない。いくつかの地方では、国際観光客が地元の人々に対して経済的、文化的に強い影響を及ぼしている。マストゥリズムが主流だった頃、観光客の多くはビーチリゾートやスキーリゾートなど人工的な地区に集中した。他方、エコツーリストやグリーン・ツーリストは時には地元の人々に対してより深い相互作用をもたらしている。本授業では、これらの社会的な変遷を視野に入れながら、観光に関する法律や政府機関、国際機関などの成り立ちや役割について学ぶ。	
専門科目	経済社会政策コース 現代会計論研究		本講義では、企業会計基準委員会(ASBJ)が公表している「討議資料財務会計の概念フレームワーク」における会計理論の詳細な検討を通じて、現代会計の理論的構造の理解を深めることを目的とする。また講義においては、アメリカ会計基準や国際財務報告基準における各概念フレームワークや、その論理的特徴を端的に表している個別会計基準も取り上げ、それぞれの比較検討を行いながら、日本基準における概念フレームワークの特徴をより丁寧に学習していく。	
専門科目	経済社会政策コース 税法研究 I		本講義の概要は、所得税法に関する基本原則及び課税所得計算のルールの概要について講義するほか、主要判例・裁判例を題材として具体的な事例に触れながら租税の位置づけや在り方を学習することである。そして、本講義の到達目標は、①職業会計人として必要な所得税法に関する知識を習得すること、②所得税法の重要な判例・裁判例を用いながら、所得税法に関する思考法・判断の視点を習得すること、③所得税法の学習を通じて、経済全体に興味・関心を持つと共に、問題解決を探る意欲を持つことである。なお、本講義は、国税庁から出向してきている実務家教員が担当する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門科目	経済社会政策コース 税法研究Ⅱ		本講義の概要は、法人税法に関する基本原則及び課税所得計算のルール of 概要について講義するほか、主要判例・裁判例を題材として具体的な事例に触れながら租税の位置づけや在り方を学習することである。そして、到達目標は、①職業会計人として必要な法人税法に関する知識を習得すること、②法人税法の重要な判例・裁判例を用いながら、法人税法に関する思考法・判断の視点を習得すること、③法人税法の学習を通じて、経済全体に興味・関心を持つと共に、問題解決を探る意欲を持つことである。なお、本授業は、国税庁から出向してきている実務家教員が担当する。	
専門科目	経済社会政策コース 民事法研究		この授業は、民法に関する判例・裁判例の検討を行うことを通じて、民法の理解を深めるとともに判例・裁判例の分析・検討を行う力を養うことを目的とするものである。具体的には、毎回輪番で受講者のうち1名が報告担当者を務め、報告担当者が自ら選んだ判例・裁判例について報告（その内容は、①事案の概要②判旨③先例・学説④検討から成る）を行い、その後受講者全員でディスカッションを行う、というスタイルで授業を行う。そして学期末に、各自が報告した判例・裁判例の中から一つを選び、レポート（判例評釈）を作成する。	
専門科目	経済社会政策コース 財産法研究		財産や取引について規律する基本的な法律である民法、その中でも特に財産法分野を深く学び、これによって社会のあり方について考えます。すなわち、民法が用意する様々な法制度はよりよい社会を実現するために定められているため、法制度の要件及び効果に関する知識を習得するだけでなく、法がどのような社会をよとし、実現を目指しているのかという、法制度の根幹をなしている考え方を学びます。 また、受講生の研究テーマに繋がりのある（あるいは関心のある）民法上の分野を学習・検討の対象とすることで、各自の研究に法という視点を取り込むことを目指します。	
専門科目	経済社会政策コース メディア法とメディア論		大学院の講義は、論文執筆を抱えている受講生の事情にかんがみ、受講生の問題関心に合わせて内容を調整する。特に、本講義の場合、いわゆるマスコミ論に重心を置くのか、それともマスコミ法に重心を置くのかで展開が異なってくる。もちろん、どちらであっても、もう一方への眼差しがなければ不十分であることは言うまでもないが、限られた時間で行うのであるから、受講生はそれぞれ自分の関心がどちらにあるのかを十分考慮して臨みたい。	
専門科目	経済社会政策コース 経済政策原理の研究		経済政策を捉える上で必要な経済理論について詳しく検討していく。とりわけ、資本主義経済を歴史的に相対化し、資本主義を歴史的に生じてきた社会形態のひとつとして位置づけるマルクス経済学の立場から現代資本主義を捉えることに重きを置く。本講義では、経済理論の専門的知識を修得することを目標とし、経済学の古典であるカール・マルクス『資本論』の輪読を行う。主に『資本論』第1巻をもとに、商品や貨幣、資本など資本主義の基礎的概念を捉えながら、19世紀の経済理論が21世紀の現代資本主義とどのように関連するのかについて検討していく。受講生には、事前に指定箇所を読み、レジュメの作成・報告をしてもらうため、講義への積極的な参加・発言を望む。ただし、状況により授業内容を変更する可能性がある。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
経済 社会 政策 コース	演習ⅠA(経済社会)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、政治学／経済学／経済史／観光／民事・法律といった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらおう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。 (4 木部 和昭) 日本経済史に関する研究について指導する。 (5 古賀 大介) 欧米経済史・国際経済史に関する研究について指導する。 (15 櫻庭 総) 刑事法学に関する研究について指導する。 (16 石 龍潭) 行政法学に関する研究について指導する。 (20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。 (9 陳 建平) 経済政策に関する研究について指導する。 (19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。 (1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。 (2 鍋山 祥子) 福祉社会学に関する研究について指導する。 (23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。 (3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。 (21 藤村 香予) 異文化コミュニケーション論・語用論に関する研究について指導する。 (22 正宗 聡) 現代英国小説における「時間」の描写)に関する研究について指導する (14 三間地 光宏) 民法学に関する研究について指導する。 (6 渡邊 幹雄) 政治思想に関する研究について指導する。 (37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。 (27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。 (36 小林 友則) 民事法学に関する研究について指導する。 (28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。 (38 諏訪 竜夫) 環境経済学に関する研究について指導する。 (25 野村 淳一) 計量経済学に関する研究について指導する。 (39 福井 昭吾) 計量経済学に関する研究について指導する。 (40 前田 直哉) 国際金融論に関する研究について指導する。 (44 八代 拓) 国際政治学に関する研究について指導する。 (26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。 (29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。 (47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。 (49 前原 ひとみ) 理論経済学に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目				

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	経 済 社 会 政 策 コ ー ス	演 習 I B ( 経 済 社 会 )	<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、政治学／経済学／経済史／観光／民事・法律といった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらい姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。 (4 木部 和昭) 日本経済史に関する研究について指導する。 (5 古賀 大介) 欧米経済史・国際経済史に関する研究について指導する。 (15 櫻庭 総) 刑事法学に関する研究について指導する。 (16 石 龍潭) 行政法学に関する研究について指導する。 (20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。 (9 陳 建平) 経済政策に関する研究について指導する。 (19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。 (1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。 (2 鍋山 祥子) 福祉社会学に関する研究について指導する。 (23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。 (3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。 (21 藤村 香子) 異文化コミュニケーション論・語用論に関する研究について指導する。 (22 正宗 聡) 現代英国小説における「時間」の描写に関する研究について指導する (14 三間地 光宏) 民法学に関する研究について指導する。 (6 渡邊 幹雄) 政治思想に関する研究について指導する。 (37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。 (27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。 (36 小林 友則) 民事法学に関する研究について指導する。 (28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。 (38 諏訪 竜夫) 環境経済学に関する研究について指導する。 (25 野村 淳一) 計量経済学に関する研究について指導する。 (39 福井 昭吾) 計量経済学に関する研究について指導する。 (40 前田 直哉) 国際金融論に関する研究について指導する。 (44 八代 拓) 国際政治学に関する研究について指導する。 (26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。 (29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。 (47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。 (49 前原 ひとみ) 理論経済学に関する研究について指導する。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門科目  経済社会 政策コー ス	演習ⅡA (経済社会)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、政治学／経済学／経済史／観光／民事・法律といった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらい姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。 (18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。 (4 木部 和昭) 日本経済史に関する研究について指導する。 (5 古賀 大介) 欧米経済史・国際経済史に関する研究について指導する。 (15 櫻庭 総) 刑事法学に関する研究について指導する。 (16 石 龍潭) 行政法学に関する研究について指導する。 (20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。 (9 陳 建平) 経済政策に関する研究について指導する。 (19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。 (1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。 (2 鍋山 祥子) 福祉社会学に関する研究について指導する。 (23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。 (3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。 (21 藤村 香予) 異文化コミュニケーション論・語用論に関する研究について指導する。 (22 正宗 聡) 現代英国小説における「時間」の描写)に関する研究について指導する (14 三間地 光宏) 民法学に関する研究について指導する。 (6 渡邊 幹雄) 政治思想に関する研究について指導する。 (37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。 (27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。 (36 小林 友則) 民事法学に関する研究について指導する。 (28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。 (38 諏訪 竜夫) 環境経済学に関する研究について指導する。 (25 野村 淳一) 計量経済学に関する研究について指導する。 (39 福井 昭吾) 計量経済学に関する研究について指導する。 (40 前田 直哉) 国際金融論に関する研究について指導する。 (44 八代 拓) 国際政治学に関する研究について指導する。 (26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。 (29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。 (47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。 (49 前原 ひとみ) 理論経済学に関する研究について指導する。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門科目  経済社会 政策コー ス	演習ⅡB (経済社会)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、政治学／経済学／経済史／観光／民事・法律といった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらおう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。 (18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。 (4 木部 和昭) 日本経済史に関する研究について指導する。 (5 古賀 大介) 欧米経済史・国際経済史に関する研究について指導する。 (15 櫻庭 総) 刑事法学に関する研究について指導する。 (16 石 龍潭) 行政法学に関する研究について指導する。 (20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。 (9 陳 建平) 経済政策に関する研究について指導する。 (19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。 (1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。 (2 鍋山 祥子) 福祉社会学に関する研究について指導する。 (23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。 (3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。 (21 藤村 香子) 異文化コミュニケーション論・語用論に関する研究について指導する。 (22 正宗 聡) 現代英国小説における「時間」の描写)に関する研究について指導する (14 三間地 光宏) 民法学に関する研究について指導する。 (6 渡邊 幹雄) 政治思想に関する研究について指導する。 (37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。 (27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。 (36 小林 友則) 民事法学に関する研究について指導する。 (28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。 (38 諏訪 竜夫) 環境経済学に関する研究について指導する。 (25 野村 淳一) 計量経済学に関する研究について指導する。 (39 福井 昭吾) 計量経済学に関する研究について指導する。 (40 前田 直哉) 国際金融論に関する研究について指導する。 (44 八代 拓) 国際政治学に関する研究について指導する。 (26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。 (29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。 (47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。 (49 前原 ひとみ) 理論経済学に関する研究について指導する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	経済社会政策コース 第二演習ⅠA (経済社会)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	経済社会政策コース 第二演習ⅠB (経済社会)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	経済社会政策コース 第二演習ⅡA (経済社会)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	経済社会政策コース 第二演習ⅡB (経済社会)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	公共管理コース Public Economics		This course provides a basis for the economic analysis of public policy issues. The objective is to learn current topics and methods in public economics, covering the reasons for government intervention in the market, the extent of that intervention, the response of economic agents (households and firms) to the government actions, income inequality, public goods, tax policy, budget deficits, and environmental protection. The course uses the tools of microeconomics and macroeconomics to analyze the role of public sector in the economy. このコースでは、公共政策を経済学でもって分析するための基礎を提供する。このコースにおける目的は、市場における政府による介入の理由、その介入の規模、政府の行動にたいする経済主体(家計と企業)の反応、所得不平等、公共財、租税政策、財政赤字および環境保護までをカバーしながら、公共経済学の現代トピックスとその方法を学ぶことである。経済における公的セクターの役割を分析するため、ミクロ経済学とマクロ経済学のツールを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 公共管理コース	Development Economics		<p>Development economics is the study of how developing countries can grow their economies and the economic mechanisms of countries in the Third World or Global South. The main focus of this course will be on the Nobel Prize Winner's literature on economics. In addition to this, the students are asked to give presentations on the characteristics, population, economy, industry, agriculture, international labour migration, education systems, etc. of their respective countries, and to consider which development economic theories can be adapted and what other measures are available (even the fashionable de-growth theory). Furthermore, they will read a series of papers from each country in turn.</p> <p>This has also referred to the microeconomics of development, which is also in vogue (e.g. RCT). Macroeconomics: the growth accounting; <math>GDP = \text{the contribution of labour} + \text{capital} + \text{TFP}</math> (the essence of logarithms and derivatives is understood), to technological innovation and technology transfer (including capital exports). I will also touch on major issues ranging from neoclassical political economy to (old and new) dependency theory (bureaucrats in developing countries are notably sympathetic to dependency theory), as well as the global informal economy and global inequality issues (vs. steady state theory and convergence theory).</p> <p>開発経済学とは発展途上国をいかに経済成長させるか、第三世界・グローバルサウスと呼ばれる国々の経済メカニズムを研究する学問である。本講義ではノーベル経済学受賞文献を主軸に据える。これに受講生各国の特徴・人口・経済・工業・農業・国際労働力移動・教育制度等に関して発表してもらい、各々でどの開発経済理論が適応可能か他の方策があるか等を検討する(流行りの脱成長でもいい)。更に各国の論稿を輪読する。これも流行りの開発のミクロ経済学にも言及してきた(RCT等)。マクロ経済学：成長会形式 <math>GDP = \text{労働} + \text{資本} + \text{TFP}</math> の貢献度(対数と微分のエッセンスが解かる)から、技術革新や技術移転(資本輸出を含む)に論及する。また新古典派政治経済学的から(新旧)従属理論(途上国の官僚は従属論への共感が目立つ)まで、更にグローバル・インフォーマル経済、グローバル格差問題(vs定常状態論・収斂論)等の大問題に触れたい。</p>	
専門科目 公共管理コース	Public Administration		<p>This course will cover basic concepts, theories, principles, and practices of public administration and management for students to develop their interest in public issues. Students will deepen their understanding of public administration and management, and learn practical applications to solve issues through the series of classes. Students will learn about the different roles and activities of public administration and management. Students will also be expected to share their ideas and opinions in the course's presentations and discussions. Moreover, students will be given lessons and learn from public administrative reform in Japan related to each topic.</p> <p>本講義では、受講生の公共的課題に対する関心を高めるために、公共管理と公共経営における基本的な概念、理論、原理、実践を取り上げる。受講生は、これらの授業を通じて、公共管理と公共経営に関する理解を深め、公共的課題の解決に向けた実践的な方策を考える機会となる。また、受講生は、公共管理と公共経営のさまざまな役割とその活動について学習するだけでなく、講義におけるプレゼンテーションとディスカッションを通して、自身のアイデアと意見を他の受講生に共有することが求められる。さらに、本講義における各テーマに関連した日本の行政改革の教訓などについても学ぶことができる。</p>	



授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理 コース  Public Finance		<p>This course offers an introduction to public finance at the graduate level. Students will engage with the subject through a rotational reading of the textbook, where each chapter is assigned to a different student for presentation. Through this approach, students understand the function and logic of public finance, and Japan's fiscal system. Additionally, the course provides a comparative overview of fiscal systems in some countries. Students are required to thoroughly study the textbook prior to each class, prepare a PowerPoint presentation on their assigned chapter, and deliver this presentation to the class. Following each presentation, a discussion will take place to further explore and deepen the understanding of the chapter's content. Depending on the course's progress and the number of students, there may be additional assignments, such as reading and summarizing academic papers designated by the instructor. Assessment will be based on the quality of presentations and the level of engagement during lectures, including how attentively students listen to their peers' presentations and their active participation in discussions.</p> <p>大学院初級レベルの財政学を学ぶ。テキストの輪読（章ごとに担当を決めて担当者が発表すること）を通して、財政の基本的な機能や論理、日本の財政制度について理解する。また、他国の財政制度についても概観する。履修者は事前にテキストの予習をし、自分が担当する章をパワーポイント資料にまとめ、発表を行なう。各人の発表後に、発表された章の内容について皆でディスカッションを行い、理解を深める。講義の進捗や受講者数次第ではテキストの担当箇所の発表に加え、講師によって指定された論文を読み、その論文の内容をまとめたものを報告してもらうこともある。成績評価の対象は、テキストの担当箇所の発表内容と講義における態度（他の履修者の発表をきちんと聞いているか、議論の際に積極的に参加しているかなど）とする。</p>	
専門科目	公共管理 コース  Program Evaluation		<p>プログラム評価として、ニーズの評価、プログラム理論の評価、プログラムプロセスの評価、アウトカムの評価、効率の評価がある。それぞれの概要について説明するとともに簡単なプログラム例を用いて具体的な評価のやり方やプレゼンのやり方について説明する。学生は自分が関心のあるプログラムを例としてとりあげ、それぞれのプログラムについて、プログラムの内容や、前述した5つの評価についてプレゼンを行い、その後、プログラムの内容や評価方法等に関して議論をする。</p>	
専門科目	公共管理 コース  International Economics		<p>This course titled "International Economics" covers the area listed below.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Multinational Corporations and Foreign Direct Investment</li> <li>2. Trade and Growth</li> <li>3. Trade, Development and the Environment</li> <li>4. Trade and Economic Integration</li> <li>5. WTO and Free Trade Agreement</li> <li>6. Globalization and Developing Economies</li> </ol> <p>This course attempts to highlight some of the topics and concepts in international trade and economic policy. It attempts to provide a tool how this all has an impact on people around the world, especially the developing economies. Students would have advanced knowledge about international trade and economic policy as an academic discipline.</p> <p>国際経済学のコースでは、以下の分野領域をカバーしています。 1 多国籍企業と海外直接投資、2 貿易と経済成長、3 貿易と開発、環境、4 貿易と経済統合、5 世界貿易機関WTOと自由貿易協定、6 グローバリゼーションと途上国 このコースでは、国際貿易と経済政策における重要論点と基礎概念を取り上げ、これらが世界中の人々、特に途上国の人々にどのような影響を与えているかを考えるための手段を提供します。履修学生は本コースをつうじて、学術分野における国際貿易と経済政策に関する高度な知識を習得することになります。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	公共 管理 コース  Administrative Law		<p>This course focuses on the study of the purposes and functions of administrative law. We will examine how public law manages the tension between legal values and the need for flexible governance. Through weekly discussions, students are expected to acquire the fundamental legal knowledge and understanding required in the implementation of public administration.</p> <p>この講義では、さまざまな行政法規の解釈適用を具体的に分析しつつ、行政法の体系的な目的や機能を理解します。途上国の行政において、法の目的を達成しながら柔軟なガバナンスを確保することが昨今ますます重視されており、先進国の経験を批判的に検討することが役立ちます。そこで、この講義では複数国の行政法についてアカデミックな文献を講読することに加えて、ニュースや新聞記事から抜粋した時事問題も扱い、全員で議論します。毎回のディスカッションを通じて、受講生は、行政の適切な実施に必要な法的知識を習得し、法的な問題解決手法を理解することが期待されます。</p>	
専門 科目	公共 管理 コース  Academic English		<p>履修生に自分自身の英吾を書いて修正してもらうチャンスを与える授業です。授業で執筆していただき、授業の最後にご提出の要約を担当教員が修正して変更案を示します。その過程で、①「I」や「This author」などの1人称も、受け身も使わず「This thesis argues」と論文自体を擬人化することによって客観性をアピールすること②life命などは、death死との対比に置いて理解される単語であるから、People strive for happiness in their lifeなどの表現の中のin their lifeは、人間は死んでから幸せになるように頑張らないので、不必要であり、極力使わないようにすること③theで総称することができるが、the computer is usefulはある特定のパソコンもパソコン全般を指すのでcomputers are usefulと複数形で総称すること④男性代表名詞he/hisなどを人間を指す言葉として使わず、複数形のthey/theirで人間を指すことなどを、アメリカ心理学会APAスタイルに従って助言する。</p>	
専門 科目	公共 管理 コース  Research Methodology		<p>レポートと論文の違い、研究の進め方、文献の読み方、リサーチエッセイの立て方、研究方法の選び方、分析の枠組みの重要性やその作り方、様々な分析方法（記述統計、無作為化実験法、回帰分析、因子分析、比較分析、共分散構造分析）について説明した後、アンケートの取り方について説明する。アンケートの取り方では、質問内容や質問数、アンケートの取り方（対面、郵送、電話等）、サンプリングのやり方、最低限必要なデータ数の決定、データシートの作り方について説明する。</p>	
専門 科目	公共 管理 コース  Mathematics for Economics		<p>Mathematics is essential in the field of economics, serving as a tool to analyze economic issues in real-life situations. The aim of this course is to help students acquire the necessary mathematical skills and knowledge needed to achieve a better performance in their economics studies. The content of this course mainly focuses on the application of linear equations, nonlinear equations, financial mathematics and differential calculus in economics.</p> <p>経済学において数学は欠かせないものであり、一つのツールとして現実の中の経済問題を分析することができます。この講座の目的は、学生が経済学の学習においてより良い成績を収めるために必要な数学的なスキルと知識を身につけることを支援することです。この講座の内容は、主に経済学における線形方程式、非線形方程式、金融数学、微分積分の応用に焦点を当てています。又、毎回講義の内容に合わせて練習問題を用意しており、授業中でこれらの練習問題を解くことによって、授業内容をより深く理解することや、授業目標をよりよく達成することができます。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公 共 管 理 コ ー ス  International Cooperation Studies		<p>After World War II, Japan made huge efforts to recover from the destruction of the war, and people in Japan have had the earnest desire to rejoin the international society and contribute to global prosperity. To realize this wish, the Government of Japan has taken the policy to establish friendly and close relations with all countries in the World as the main plank of our diplomacy. Furthermore, Japan started providing Official Development Assistance (ODA) toward developing countries from the early post-war years of recovery. At present, ODA has been always very important axis of Japan's international cooperation policy. Under these circumstances, understanding the history, policy and practice of Japan's ODA and international trend of development policies including nexus between ODA and other related avenues on international cooperation would be useful to get valuable insights into not only Japan's international cooperation policy but development policy management in the more globalized world. The professor in charge has been engaged in practical work and research at the Japan International Cooperation Agency for many years, and will develop classes from a practical and policy perspective based on that experience.</p> <p>第二次世界大戦後、日本は戦禍からの復興に多大な努力を重ね、国民は国際社会に復帰し、世界の繁栄に貢献したいという切実な願いを抱いてきた。この願いを実現するため、日本政府は、世界のすべての国との友好親密な関係を確立することを外交の主要な柱とする方針をとってきた。さらに、日本は戦後の復興初期から途上国に対する政府開発援助（ODA）を開始している。現在、ODAは常に日本の国際協力政策の非常に重要な軸となっている。このような状況において、日本の ODA の歴史、政策、実践、ODA と他の関連する国際協力手段との結びつきを含む開発政策の国際的動向を理解することは、日本の国際協力政策のみならず、日本の開発政策運営について貴重な洞察を得る上で有益であると考えられる。担当教授は国際協力機構で長年実務・研究に従事しており、その経験をもとに実践的・政策的観点から授業を展開する。</p>	
専 門 科 目	公 共 管 理 コ ー ス  Media and Society		<p>This course will analyze mass media and their impact on society. After outlining the historical development of the traditional mass media, the analysis will focus on the present characteristics of the most important media, their markets and relations to the receivers. Furthermore, comparing the traditional mass media with mass media elements of the Internet, we will analyze their diversification and globalization. The main objective of the course is to raise the students' level of media literacy by identifying the different "interests" of the mass media.</p> <p>このコースでは、マスメディアとその社会への影響を分析する。従来のマスメディアの歴史的発展を概説した後、最も重要なメディアの現在の特徴、その市場や受け手との関係に焦点を当てる。さらに、従来のマスメディアとインターネットのマスメディア要素を比較し、その多様化とグローバル化を分析する。このコースの主な目的は、マスメディアのさまざまな「利害」を特定することにより、学生のメディアリテラシー・レベルを高めることである。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理 コース  Southeast Asian Economy		<p>Southeast Asia has attracted renewed attention from the view points of economic development, regional cooperation and strategic location including the Indo-Pacific and Belt and Road Initiative. Southeast Asia consists of 11 diversified countries including the largest Muslim populated and third largest democracy Indonesia, the world's most efficient city state of Singapore, the socialist but dynamic economy of Vietnam, countries facing political difficulties and so forth.</p> <p>This course will examine the dynamism of this region from the political economy perspective including basic characteristics of the region, regional cooperation centered on ASEAN, comparative development of consisting member countries, experiences of selected countries and their relationship with Japan.</p> <p>経済発展、地域協力、そしてインド太平洋や一帯一路構想などの戦略的立地という観点から、改めて注目を集めた東南アジアである。東南アジアは、イスラム教徒人口が最大で民主主義国家としては第3位のインドネシア、世界で最も効率的な都市国家であるシンガポール、社会主義でありながらダイナミックな経済活動を展開し、政治的困難に直面しているベトナムなど、多様な11カ国から構成されている。</p> <p>本講義では、この地域の基本的な特徴、ASEANを中心とした地域協力、ASEAN加盟国の比較発展、各国における経験、日本との関係など、政治経済学の視点からこの地域のダイナミズムを考察する。</p>	
専門科目	公共管理 コース  Environmental Policy		<p>18世紀の産業革命以来、ヨーロッパを中心とした工業先進国は技術革新によって、工業生産性の向上を可能にし、驚異的な経済発展をもたらした。この産業革命は伝統的な自給自足の農業社会を、財貨に対する需要拡大を引き起こした工業化社会へと変換させ、人々に多大な富と豊かな生活様式を可能にした。しかし、環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は、様々な公害・環境問題を引き起こした。</p> <p>長い間世界中で様々な取り組みが行われてきたが、環境問題の解決にはまだまだほど遠い課題がある。本科目は、各々の国・地域の環境政策について、地球規模の環境問題の視点から考察することができ、環境政策の様々なキーワードと共に基礎的な知識を修得する。さらには地球規模の環境問題解決に向けた国際協力のあり方について学生が自分なりの視点で考え、判断出来るような姿勢・能力を養うことを目標にしている。</p>	
専門科目	公共管理 コース  Social Policy Studies		<p>In 2015 the United Nations adopted SDGs consisting of 17 goals. SDGs inherits the MDGs adopted in 2000 and its main goals are related to social policy and development. Today, both developing and developed countries are struggling to solve their social problems such as poverty and income disparity, education, medical care, gender discrimination, elderly care and so on.</p> <p>In this lecture, we will focus on Japan's social policy and development in the process of modernization from the Meiji era until today, describing its history and experiences and presenting how to apply Japanese experiences and lessons to developing countries. We also discuss about Japan's ODA for social sectors in the developing countries.</p> <p>2015年、国連は17の目標からなるSDGsを採択した。SDGsは、2000年に採択されたMDGsを継承し、社会政策と開発に関連する主要な目標を掲げている。現在、途上国、先進国を問わず、貧困や所得格差、教育、医療、男女差別、高齢者介護など、社会問題の解決に苦慮している。</p> <p>本講義では、明治から今日に至る近代化の過程における日本の社会政策と開発に焦点を当て、その歴史と経験を説明し、日本の経験と教訓を開発途上国にどのように適用するかを提示する。また、途上国の社会セクターに対する日本のODAについても議論する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理コース	Regional Economics	<p>In this class, students will study various theories and models related to regional economies and examine contemporary issues and sustainable development of regions, touching on regional policies and case studies of regional revitalization efforts.</p> <p>In each class, students will prepare a handout of literature, papers, and materials dealing with various theories, models, and case studies related to regional economies that they have collected based on their interests, and make presentations or raise issues. Afterwards, all participants will have a discussion about sustainable regional development based on the presenters' literature, papers, materials, presentations, and points of discussion.</p> <p>この授業では、地域経済に関連する諸理論・モデルを学び、地域政策や地域活性化の取り組み事例にも触れながら、地域の現代的課題と持続発展について検討する。</p> <p>毎回の授業では、受講生の関心に基づいて収集した地域経済に関する諸理論・モデルや事例を取り扱った文献や、論文、資料をまとめてハンドアウトを作成し、プレゼンテーションや論点提起を行ってもらおう。その後、発表者の文献、論文、資料やプレゼンテーション内容、論点に基づいて、受講者全員で持続的な地域の発展についてディスカッションを行う。</p>	
専門科目	公共管理コース	Public Debt Management	<p>Public Financial and Debt Management: Experience of developed countries demonstrates recent innovation of public financial and debt management. With donor's assistance, many developing countries have been conducting government policy reform through changing role and function of state, improvement of public agency performance, together with various expenditure controls. It is indispensable for government officials to have capacity to manage modern public finance. This class will focus on both the basic and advanced topics of public financial and debt management with various examples in many countries including Japan. Students are expected to have practical and modern techniques of public financial and debt management and to have capacity to apply them to each country. This class starts from basics of public management, to budget process (planning, budgeting, excusion, accounting, auditing), then to public debt management including medium term debt strategy.</p> <p>公共財政管理及び公的債務管理を扱う。先進国は近年、公共財政管理及び公的債務管理の改善を進めてきた。一方、多くの途上国も、様々な支出統制を続けながら、国家の役割と機能を転換するとともに、公的機関のパフォーマンスの改善を続けている。このような状況の中、政府職員にとって財政をマネジメントする現代的な手法を身に付けることは不可欠になっている。本講義では、公共財政管理と公的債務管理の基礎的トピックと応用的トピックの双方に焦点を当てる。日本を含む様々な国々の事例を取り上げて講義する。受講者は公共財政管理及び公的債務管理で実際に使われる現代的な技術を習得し、自国でそれを適用できるようになることが期待される。なお、本講義の構成は、公共管理の基礎から始まり、予算プロセス（計画、予算編成、執行、会計、監査など）に進み、最後に中期債務管理戦略を含む公的債務管理となる。</p>	
専門科目	公共管理コース	Cost Benefit Analysis	<p>This course is intended for a student with a basic understanding of elementary economics who wish to learn how to conduct a social cost-benefit analysis. The term social benefit-cost analysis refer to the appraisal of a private or public project from a public interest viewpoint. Our class concerns itself mainly with the economic benefits and costs of projects, although it touches on the question of economic impact. The questions addressed are whether the benefits of the project exceed the costs or not.</p> <p>このコースは、以下の基本を理解している学生を対象としています。初歩的な経済学における社会的費用便益分析の方法を学びたい人のための授業です。</p> <p>社会的便益-費用分析とは、民間または公共プロジェクトの評価を公益の観点から分析をします。このクラスは主に経済的利益とコストに関心があり、公益プロジェクトが経済的に社会にどのような影響を与えるかを学びます。経済性とはプロジェクトの利益がコストを上回るかどうかですが、当然利益とは何かが問題になります。その上でコストを社会が負担できるかが問題となります。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理コース  International Framework for Environmental Protection		<p>In this course, we scrutinize current global environmental crisis issues, focusing on air and water pollution as well as global warming, and study environmental problems using chemical formulas. When it comes to issues related to nuclear power plants and nuclear weapons, we delve into topics such as the Schrödinger equation to unravel why humanity still cannot control nuclear energy. We also contemplate the scientific mechanisms of climate change and pay closer attention to recent scientific data on climate, including oceanic and atmospheric circulation, to make them more relatable. As the target audience consists of students from developing countries, we consider how they can apply the Sustainable Development Goals (SDGs) in their own countries. As refugee issues and civil wars are part of their daily lives, we emphasize that these are not just theoretical concepts. While constantly updating the content of international conferences on environmental issues such as climate change, water environment, air pollution, desertification, and deforestation, we strive to provide the latest information. The United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) was created in 1992, and students are encouraged to voluntarily stay informed about the agreements made each year.</p> <p>本講義では現在の世界的な環境危機問題を吟味し、大気や水質汚染、地球温暖化に焦点を当て、化学式を用いて環境問題を学ぶ。原発や核兵器の問題に関しては、シュレジンガー方程式なども取り入れながら、なぜ人類は核をまだコントロールできないのかを紐解く。気候変動の科学的なメカニズムについても共に考え、海洋や大気循環など、最近の気候に関する科学データをもっと身近なものとして注意を払う。対象は発展途上国の学生であるため、SDGsを自国でどのように活用できるか考える。実際に難民問題や内戦は彼らの日常でもあるため、きれいごとではすまされない。毎年の気候変動や水環境、大気汚染、砂漠化、森林減少など環境に関する国際会議の内容を常にアップデートしながら、最新の情報を提供する。1992年に気候変動枠組条約が制定されてから、行われてきた国際会議は28回目になったが、毎年の取り決めについても自発的に内容を知るように努めるよう指導する。</p>	
専門科目	公共管理コース  Public Policy		<p>本授業は、受講者が十分な予備知識を持ち得ていないことを前提にして、政治学の観点から公共政策の基礎を学ぶ。前半では、公共政策の基礎概念やそのアプローチおよび日本を事例にしたいくつかの公共政策（教育、医療、福祉、交通等）を扱う。後半では受講生の出身国や地域における事例を扱い、演習形式を取り入れて発表およびディスカッションを中心にした内容で授業を進める。公共政策および政治学の基礎は、西洋的な価値観が原点となっているが、受講生の出身国や地域の文脈で捉え直すことを目指す。よって、受講生の積極的なコミットメントを求める。</p>	
専門科目	公共管理コース  Cultural Psychology of Administration		<p>We will look at how the basic theories of administration, management, evaluation, and planning are affected by the theories of cultural psychology. For example it is often assumed that effective personnel administration involves providing employees with choice of task that can be completed individually, defined linguistically, and evaluated meritocratically. Recent cultural psychology research has argued however that these assumptions are based in a Western educated, individualistic, rich, democratic world view that is not necessarily shared with, or appropriate in non-Western cultural contexts. We will critically examine these claims and consider ways in which public administration theory might be tweaked so as to be more appropriate in the cultures pertaining in the students culture.</p> <p>管理、経営、評価、計画の基本理論が文化心理学の理論によってどのような影響を受けるかを見ていきます。たとえば、効果的な人事管理には、個別に完了でき、言語的に定義され、能力主義的に評価できるタスクの選択肢を従業員に提供することが含まれるとよく考えられています。しかし、最近の文化心理学の研究では、これらの仮定は西洋の教育を受けた、個人主義的で豊かで民主的な世界観に基づいており、必ずしも非西洋の文化的文脈と共有されたり、適切ではなかったりすると主張しています。私たちはこれらの主張を批判的に検討し、学生文化に関連する文化においてより適切となるように行政理論を調整する方法を検討します。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公共 管 理 コ ー ス	Monetary Economics	<p>The global economy, which had been stagnant under the influence of COVID-19, has recently experienced high inflation rates as well as economic recovery, and the trends in monetary policy by central banks around the world are attracting a great deal of attention. As you know, "Money" is an important economic theme. This lecture aims to learn about the theories of Monetary Economics, which are the most important for understanding Money. You will learn a wide range of topics from basic theories such as "what is Monetary Policy" and "what is money" to financial regulations.</p> <p>In particular, about theories of monetary policy, the instruments and policy objectives of monetary policy have changed over time. It is important to know what is different between conventional and non-conventional monetary policy and what theories are behind them. The goal of this course is to enable students to keep an eye on the global economy based on the latest theories.</p> <p>COVID-19の影響下で停滞していた世界経済は、近年、景気の回復とともに高いインフレ率を経験し、各国の中央銀行による金融政策の動向に大きな注目が集まっています。「金融」が経済にとっていかに重要なテーマであるのかはみなさんをご存知のとおりです。この講義では、「金融」を理解する上で最も重要な金融の基礎理論について学習することを目的としています。「金融とは何か」、「貨幣とは何か」など基本的な理論から金融規制のあり方や金融政策の理論まで幅広く学んでもらいます。</p> <p>特に金融政策の理論については、金融政策の手段、政策目標などが時代とともに変化しています。伝統的な金融政策と非伝統的な金融政策はどこが違うのか、また、どのような理論が背景にあるのかを知っておくことは重要なことです。最新の理論をベースに世界経済の動向に目を向けられるようになることを目標とします。</p>	
専 門 科 目	公共 管 理 コ ー ス	Economic Policy	<p>This lecture will cover the Computable General Equilibrium (CGE) analysis, which is one of the methods for evaluating economic policies. By using CGE analysis, it is possible to estimate the impact of various policies, such as environmental policy, trade policy, and tax policy, on different countries. After teaching the basics of microeconomics and the fundamentals of general equilibrium models, the lecture will explain analysis methods using software like Excel and GAMS. The goal of the lecture is for each student to become capable of creating a simple CGE model and simulating it, after constructing the Social Accounting Matrix (SAM) for a country or region of their interest.</p> <p>この講義では、経済政策の評価手法の1つでもある応用一般均衡(CGE)分析を扱う。CGE分析を用いることで、環境政策、貿易政策、租税政策など様々な政策について、各国に与える影響を試算することができる。ミクロ経済学の初歩や一般均衡モデルの基本を教えた上で、ExcelやGAMSといったソフトウェアを用いた分析方法について解説していく。講義の目標は、学生各自が興味のある国や地域のSAM(社会会計行列)を作成した上で、簡単なCGEモデルを作成・シミュレーションできるようになることである。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理コース Tourism Policy		<p>In this class, students will learn about international organizations' and Japan's tourism policy. Development of air transportation has made travel easier and, as a result, tourism has become one of the largest industries in the world. International tourism is not an urban issue alone anymore. In some rural areas, international tourists have strong impacts towards local communities economically and culturally. When mass-tourism was dominant, many of tourists concentrated in artificial rural areas such as beach resorts and ski resorts. On the other hand, eco-tourists and green-tourists at times deeply interact with local communities, nowadays.</p> <p>この授業では、受講生は主に国際機関及び日本の観光政策について学ぶ。航空機の発達により移動が容易になったため、観光は世界で最大の産業の一つになった。国際観光はもはや大都市だけでなく、地方のコミュニティにおいても外国人観光客が経済的・文化的な影響を強く及ぼしている。マスツーリズムが主流だった時代では、遠隔地では観光客がビーチリゾートやスキーリゾートなどの人の手の加わった観光地に集中していた。しかし、現在のエコツーリズムやグリーンツーリズムの訪問者は、地域のコミュニティにより深く関与している。</p>	
専門科目	公共管理コース Strategic Management		<p>This course is designed to enable a thorough understanding of competitive strategy. Students will master the theoretical body of knowledge in the field of strategic management and consider a variety of empirical approaches used to research the competitive strategy process.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will understand basic concepts, theories, principles and practices of strategic management.</li> <li>2. Students will think strategically, evaluate strategic options and identify strategic issues for an organization.</li> <li>3. Students will be able to comment on various topics on strategic management.</li> </ol> <p>このコースは競争戦略を体系的に理解できるようにデザインされています。学生はストラテジック・マネジメントの理論的な知識体系を理解し、競争戦略プロセスの研究でおこなわれるさまざまな実証的アプローチを学習します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生はストラテジック・マネジメントの基礎的な概念、理論、ディシプリン、実践を習得します</li> <li>2. 学生は戦略的に考え、戦略的オプションを評価し、組織の戦略的課題を特定する能力を習得します</li> <li>3. 学生はストラテジック・マネジメントの様々なトピックにコメントする能力を習得します</li> </ol>	
専門科目	公共管理コース Industrial Policy		<p>There is a growing interest in industrial policies especially in the developing countries since the Global Financial Crisis (2008-2009). In the past, industrial policies in East Asian economies were of great interest due to rapid and successful industrialization in these economies. Recently, China is attracting much of the attention. The objective of the course is to introduce the fundamental concepts of industrial policy from economic theory and political economy perspectives with applications. A secondary objective of this course is the analysis of high growth in the East Asian region and its social/political economic determinants. We will first lay out the theoretical background and then proceed to the growth dynamics of the individual economies with a special emphasis on Japan. At the end of the course, the students are expected to have mastered the fundamental concepts of political economy and should be able to analyze industrial policies from the perspective of political economy and critically evaluate the major debates about the economic performance of industrializing economies in relation with the global economy.</p> <p>世界金融危機(2008-2009年)以降、発展途上国において、産業政策への関心が高まっている。かつては、東アジア経済における産業政策は、経済の急速な発展と工業化の進展によって高い注目を集めていた。そのなか、特に、中国への期待が高まりつつある。本講義の目的は、経済政策、及び、その理論を応用する視点を持つ政治経済学の観点から、産業政策の基本的な知識を解説することである。そしてもう一つの目的は、東アジア地域の高成長とその社会的及び政治経済的決定要因を分析することである。そのため、本講義では、理論的背景を明らかにする。また、日本に重点を置きながら、経済成長のダイナミクスを解明する。本講義を受講することによって、学生が、政治経済学の基本的知識を習得する。さらに、政治経済学の観点から産業政策を分析することができ、工業化する経済地域のパフォーマンスについてグローバル経済との関連性に関する議論を理解できる。</p>	



授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理コース Advanced Data Analysis		Data analysis has become increasingly important in the marketing field and in the public sector in recent years. This course covers the concept of quantitative data analytics. Teaching will be through a combination of lectures, and computer workshops in Media and Information Technology Center. The computer workshops will provide hands-on experience of the analysis of data and the application of the methods introduced in the class using SPSS. The course assumes no prior knowledge of SPSS. 近年マーケティング分野や公的部門でもデータ分析は重要になってきている。この授業では、数量データ分析のコンセプトを説明しています。授業は、配布教材による座学での講義と、メディア情報センターのデスクトップを使ったコンピューターワークショップの組み合わせによって行われます。コンピューターワークショップでは、SPSSを使用して、基本的なデータ分析の理論的な習得と合わせて実践的な授業を提供していきます。この授業では、SPSSソフトウェアを初めて使う学生を前提に進めていきます。	
専門科目	公共管理コース Advanced Public Administration Studies I		本科目は、修士1年次 (M1) の学生を対象とする。特に、外国人留学生と日本人学生が協働で学ぶ場を提供し、日本の公共行政、地方自治、公務員制度と人材育成等についての知識を得ると共に、JICAの開発大学院プログラムと連携しつつ、我が国の近代化のプロセスを理解するために、山口県内の幕末・明治維新以来の歴史遺産、産業遺産や県内の自治体、民間企業、研究・教育機関などを訪問し、それぞれの機関の役割と課題を学ぶことに主眼を置く。また、国内の政府機関、自治体、研究機関、民間企業、NGOの関係者などをゲストスピーカーとして招聘し、それぞれの組織での取組を紹介する。講義の最終段階では、受講生のプレゼンテーションとディベートを行う。	
専門科目	公共管理コース Advanced Public Administration Studies II		本科目は、修士2年次 (M2) の学生を対象とする。特に、外国人留学生と日本人学生が協働で学ぶ場を提供し、修士論文のテーマとの関連性を確保しつつ、日本と諸外国の公共行政、地方自治、ガバナンスなどをテーマとする。 特に、我が国のODA政策やJICAの国際協力事業との関連性を視野に、外国人研究者、JICA関係者などをゲストスピーカーとして招聘し、各自の外交経験に基づく話題を提供する。 講義の最終段階では、受講生のプレゼンテーションとディベートを行う。	
専門科目	公共管理コース Seminar I A		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じIA、IB、IIA、IIBの順に、下記の教員それぞれが個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、行政学/経済学/国際協力/観光などの研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリスタップと講読、文献のレビューを元にしたディスカッションを行ったり、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらい姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。  (18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。 (20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。 (19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。 (1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。 (8 西山 慶司) 行政学に関する研究について指導する。 (23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。 (3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。 (27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。 (28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。 (26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
			(29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。 (37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。 (41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する (42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。 (48 麻田 玲) 開発学、南アジア地域に関する研究について指導する。 (47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。	
専 門 科 目	公 共 管 理 コ ー ス	Seminar I B	修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じ I A、I B、II A、II Bの順に、下記の教員それぞれが個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、行政学／経済学／国際協力／観光などの研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリスタップと講読、文献のレビューを元にしたディスカッションを行ったり、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらい姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。  (18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。 (20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。 (19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。 (1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。 (8 西山 慶司) 行政学に関する研究について指導する。 (23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。 (3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。 (27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。 (28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。 (26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。  (29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。 (37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。 (41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する (42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。 (48 麻田 玲) 開発学、南アジア地域に関する研究について指導する。 (47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公 共 管 理 コ ー ス	Seminar II A (ThesisInstruction)	<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じIA、IB、II A、II Bの順に、下記の教員それぞれが個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、行政学／経済学／国際協力／観光などの研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元にしたディスカッションを行ったり、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。</p> <p>(20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。</p> <p>(19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(8 西山 慶司) 行政学に関する研究について指導する。</p> <p>(23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。</p> <p>(3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。</p> <p>(27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する</p> <p>(42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(48 麻田 玲) 開発学、南アジア地域に関する研究について指導する。</p> <p>(47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	公共管理コース Seminar II B (Thesis Instruction)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じ I A、I B、II A、II B の順に、下記の教員それぞれが個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、行政学／経済学／国際協力／観光などの研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリスタップと講読、文献のレビューを元にしたディスカッションを行ったり、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらい姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(18 朝水 宗彦) 観光や移住など人の移動に関する研究について指導する。</p> <p>(20 武本 Timothy) 観光・経営・教育・大衆文化などを対象にした文化の影響を考える文化心理学に関する研究について指導する。</p> <p>(19 陳 禮俊) 環境経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(1 寺地 伸二) 理論経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(8 西山 慶司) 行政学に関する研究について指導する。</p> <p>(23 濱島 清史) (東アジアの)社会政策論・労働経済論・Development Economicsに関する研究について指導する。</p> <p>(3 兵藤 隆) 金融経済に関する研究について指導する。</p> <p>(27 小嶋 寿史) ミクロ経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(28 齋藤 英智) 地域経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(26 山田 正雄) 理論経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(29 山本 勝也) 開発経済学、国際経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(37 加藤 真也) 観光経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する</p> <p>(42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。</p> <p>(48 麻田 玲) 開発学、南アジア地域に関する研究について指導する。</p> <p>(47 富田 愛優) 財政学に関する研究について指導する。</p>	
専門科目	中山間地マネジメントコース 流通システム研究		<p>現代の流通は日々変化し、ますます複雑化する様相を呈している。たとえば、大手小売業者の成長鈍化、卸売業者の統合、商社による流通資本の系列化、電子商取引の飛躍的な増加、流通の国際化、物流技術の発展など、近年でも大きな変化が見られる。本講義は、こうした多様で複雑な流通現象のなかでも小売商業分野の動向に焦点を当て、当該分野の教科書と代表的な研究書を輪読し、プレゼンテーションとディスカッションを通して理解を深める。</p>	
専門科目	中山間地マネジメントコース 国際経営研究		<p>たんなる輸出入を超えて海外に子会社を設けて事業を国際的に展開するようになることを多国籍化といい、この多国籍化によって生じる経営上の諸問題、例えば、本国親会社と海外子会社の関係、海外子会社内における人事管理や生産管理、多国籍化が受入国や本国の経済に及ぼす影響などについて論じているが国際経営論です。この講義では、古典的書物の解説を通して国際経営論の基本的問題意識と基礎的理論を学習した後に、この領域の最近の学術論文の輪読（各受講生の関心に従って論文を選択し、発表してもらいます）とディスカッションを通して、国際経営に関する最近の動向把握と次の研究課題の探索を行います。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	中山間地マネジメント 経営戦略研究		本講義では、経営戦略論の基礎と最新の研究動向に関する講義をおこなう。経営戦略論に関する基礎文献の輪読、理論と実践に関するディスカッションをおこなう。受講生は①経営戦略論の基礎的なディシプリン、理論、実践を正しく理解し、②企業の競争戦略を多角的に分析し、③企業の戦略的課題や新しいトピックに対して適切にコメントする能力を習得する。本講義では、受講者のベースを大切に、日本国内の基礎文献から必要に応じて国際ジャーナルの議論までを範囲とする。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 現代商品論研究		商品研究やマーケティング戦略論、経営戦略論などに関連する学術論文(著書、論文)などの輪読(理論構築や研究方法についての基礎的知識の習得、文献等の探し方研修などを含む)を行う。具体的には、商品の概念、商品分類、商品属性、製品計画(マーチャンダイジング)、価格政策、流通政策、経営戦略や戦略的マーケティング、消費者研究などについての基礎的文献を扱う。また、理論構築や研究方法については、論文等の輪読の中で議論するだけでなく、方法論等の基礎文献をも参考にしながら検討する。文献等の探し方を含めて、修士課程の学生として、最低限必要とされる学術論文読解力の習得を目指す。原則として、毎回、一定量の日本語文献を読んでおくこと(予習)およびプレゼンテーションが求められる。また、授業中は、質問等の発言、ディスカッションへの参加、小レポートの執筆などが必須である。	
専門科目	中山間地マネジメントコース リスクマネジメント研究		まずは日常生活で用いられる「危険」や「リスク」という言葉と、専門分野ごとに用いられるリスクの概念や捉え方の違いを押さえるところから始め、現代社会の様々な活動主体におけるリスクマネジメントを学ぶ。個人が自身の生活のために行うべきリスクマネジメントや組織が活動するにあたって必要となるリスクマネジメント、自治体や国家が国民生活および自身の組織維持のための公共政策におけるリスクマネジメントなど、受講者の研究対象にできる限り合わせた内容を取りあげる。その上で、リスクマネジメントの活用方法を受講生と共に議論をしながら考えていく。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 地域経済論研究		この授業では、地域経済に関連する諸理論・モデルを学び、地域政策や地域活性化の取り組み事例にも触れながら、地域の現代的課題と持続発展について検討する。 毎回の授業では、受講生の関心に基づいて収集した地域経済に関する諸理論・モデルや事例を取り扱った文献や論文、資料をまとめてハンドアウトを作成し、プレゼンテーションや論点提起を行ってもらおう。その後、発表者の文献、論文、資料やプレゼンテーション内容、論点に基づいて、受講者全員で持続的な地域の発展についてディスカッションを行う。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 観光経済研究		観光分野に関するイベントや政策の経済波及効果を推定するツールとしての地域間産業連関分析を中心に解説していく。具体的には、都道府県、市町村レベルの産業連関表の接続方法、地域間の移出入の推計方法を学んだ上で、地域間産業連関表を作成する方法について解説する。また、国と国の産業連関表を接続した国際産業連関表についての解説、跳ね返り効果の算出方法、さらに、産業連関分析の拡張であるSAM乗数分析や応用一般均衡(CGGE)分析についても解説を行っていく。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 地域社会福祉論研究		「地域」「福祉」「well-being」をキーワードにして、私たちの生活社会のあり方について考える。 人口減少が加速する地方で、住民が安心した豊かな暮らしを維持するためには、何が必要だろうか。 地域well-beingへのアプローチは、受講者それぞれの問題意識を優先したアプローチが可能であるが、そこで理解すべき社会的思考を身につける。 授業は、演習形式でおこなう。関連する文献を読み合わせ、担当がレジュメを元に報告し、全員で議論する。 また、ジェンダー・パースペクティブを有効な方法論として使用する。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 地域フードシステム研究		食のグローバル化と高付加価値化とが議論される中で、食料流通はそれら価値を「実現」する重要な役割を担っている。本講義はテキストの輪読から、①食料流通の機能と役割、②食料流通チャネルの仕組み、③食料流通を取り巻く環境変化と問題、④食に関するマーケティングの基礎知識と実際の取り組み、⑤食料流通の新たな展開など大企業主導によるフードシステムの現状と課題などを学んだ上で、今後地域の食料生産・流通がどのように展開すべきかについて考える。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門科目	中山間地 マネジメント コース  文化心理学研究		人間は自分の個人的な価値観に基づいて、自分の個人的な利便性を追及するために、合理的な経済活動を行っており、社会的な圧力がなければ誰もこのような合理的な個人主義者になるという欧米的な考え方が、全ての文化経済に当てはまると思われてきた。社員はできるだけ自分の能力を発揮できる職場を求めたながら、自分の能力を雇用者に売っているというのが雇用関係の基本だとも主調される。一方では、日本・中国などアジア諸国では、先述した欧米合理個人主義に当てはまらない経済的システムが形成されてきた。 近年の文化心理学という実験・社会心理学は、個人人間の独立性・価値観の独立性・合理性を欧米諸国の文化思想(神話)に過ぎないということを実証的に論じ始めた。本授業では、このような新しい社会心理学的な実験研究を紹介する。	
専門科目	中山間地 マネジメント コース  外国文献研究		本授業は、英語の読解力をつけながら、異文化と異文化コミュニケーションについての理解を深めていくことを目標としている。授業では、中級レベルの英語で書かれたヨーロッパの社会と文化についての読み物と時事的な内容の英文記事を読み、英語の語彙力と読解力を養っていく。また、異文化コミュニケーション論について書かれた原書を読み、各国での社会の多様性に応じたコミュニケーションのあり方と異文化コミュニケーションについての知識を深めていく。	
専門科目	中山間地 マネジメント コース  現代マーケティング研究		経済のサービス化、グローバル化やICTの進展、そして消費者のニーズの変化により、市場の様相が変わる。これらの変化に伴い、マーケティングの考え方も進化しているが、根本は変わらず、消費者ニーズに応える価値を提供することである。本講義では、具体的な事例を通じ、企業が直面する課題にどう向き合い、解決するかを理解する。また、最新のビジネス動向に注目し、現代企業の課題にどう対処するかに焦点を当て、実践的なマーケティング戦略を考える力を身につける。 本講義は、経済学・経営学専攻のディプロマ・ポリシーの「①高度な専門性と学識」のうち、「経営学等の領域における専門的知識の習得」の達成を目指し、マーケティング論の視点でアプローチする。授業を通じて、経営領域の専門知識を身に付け、プレゼンテーション・コミュニケーション能力、課題解決力、論理的思考力を養成し、同時にマーケティング知識やスキルを獲得し、それを用いて多様な社会的課題に対処する能力を育成する。	
専門科目	中山間地 マネジメント コース  経営数理システム研究		本授業は社会人、および研究科の大学院生を受講者を想定している。まず、統計学をテーマに据え、「統計的手法」を学ぶ。記述統計と推測統計の両方を学ぶ。その際に使用するソフトウェアは、Excel、及びSPSSである。本学の実習室にて授業を進める。また、さらに高度な知識と数学的思考方法を身に付けるために、英文の教科書を読み、さらに近年の論文に目を通す。試験は行わない。 ただし、状況により、授業や試験等の実施形態を変更する場合がある。	
専門科目	中山間地 マネジメント コース  経営数理計画研究		本授業は社会人、および研究科の大学院生を受講者として想定している。学内の演習室での実習形式の授業である。内容は、Excelを用いたデータ処理を中心とする。Excelの初歩から、WhatIf分析のゴールシーク、ソルバーによる数理計画法問題の解法にいたるまで、さまざまな問題を解くことで、数理最適化の理論も身に付くように配慮する。また、数式表現になれるように、数式の基礎知識も説明する。試験は行わない。 感染症等の状況により授業や実施形態を変更する場合がある。	
専門科目	中山間地 マネジメント コース  応用ゲーム理論(組織の経済学)研究		マイケル・ポーターの競争戦略論は経済学、特に産業組織論を基礎にしていることはよく知られている。それ以外に、現代経営学の中で重要な「取引費用」や「エージェンシー理論」などの概念・枠組みも経済学の中で誕生し、発展してきた。このように、経済学は現代の経営学に深く根付いているため、その理解は企業経営の分析に欠かせない。この授業は企業経営を分析する上で有用なマイクロ経済学の諸理論、具体的には、マイクロ経済学における企業の理論や市場の理論、ゲーム理論、取引費用理論、エージェンシー理論などについて解説し、議論する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	中山間地マネジメントコース 金融経済理論研究		COVID-19の影響下で停滞していた世界経済は、近年、景気の回復とともに高いインフレ率を経験し、各国の中央銀行による金融政策の動向に大きな注目が集まっています。「金融」が経済にとっていかに重要なテーマであるのかはみなさんご存知のとおりです。この講義では、「金融」を理解する上で最も重要な金融の基礎理論について学習することを目的としています。「金融とは何か」、「貨幣とは何か」など基本的な理論から金融規制のあり方や金融政策の理論まで幅広く学んでもらいます。特に金融政策の理論については、金融政策の手段、政策目標などが時代とともに変化しています。伝統的な金融政策と非伝統的な金融政策はどこが違うのか、また、どのような理論が背景にあるのかを知っておくことは重要なことです。最新の理論をベースに世界経済の動向に目を向けられるようになることを目標とします。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 社会政策・労働経済研究		修士課程レベルの東アジアの社会政策・労働経済研究を行なう。経済社会政策コースの基礎的な役割も担う。レジュメやパワーポイントの書き方はレポート・論文に繋がる。参考文献一覧と脚注は必須である。修論では先行研究サーベイとオリジナリティが求められるようになる。 これまで(厚労省のシンクタンク)労働政策研究研修機構の日本労働経済雑誌等を扱ってきた。例えば、新型コロナ禍に関する論文集等である。昨年度まで新型コロナ禍の国際シンポジウムを主催してきて、今年、共著を出版するので、その議論をするだろう。折角、経済学・経営学専攻に入るのだから、経済学のエッセンスもやろう。ミクロ経済学(例えば、実質賃金＝限界生産力)・マクロ経済学(成長会形式：GDP＝労働＋資本＋技術進歩の貢献度＊対数と微分の意義が解かる!)・マルクス経済学(資本論における搾取とは何か：労働力再生産費＝賃金を超える剰余価値を資本家が取ること)等である。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 中国経済研究		改革開放後40数年、中国経済が大きな変貌を遂げた。計画経済から市場経済への体制移行を遂げたと共に、経済水準が大きく発展し、国民の生活水準も大幅に向上した。特にWTO加盟以後、中国経済がグローバル化の流れに乗り、世界経済との一体化がますます進展した。「世界の工場」であると同時に「世界の市場」への変身も遂げつつある様相を呈している。中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握したうえ、中国経済のかかえている課題を検討し、今後の中国経済の展望について考える。	
専門科目	中山間地マネジメントコース 演習ⅠA(中山間地)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、経営/経営情報/会計/流通などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。 (10 有村 貞則) 経営学、特に国際経営に関する研究について指導する。 (12 渋谷 綾子) 数理最適化と統計学に関する研究について指導する (13 新祖 隆志郎) 会計学に関する研究について指導する。 (24 西尾 健) マーケティング学に関する研究について指導する。 (11 宮井 浩志) 食料・農業経営学、都市・農村社会学に関する研究について指導する。 (43 王 慧娟) 小売マーケティングに関する研究について指導する。 (32 岡田 隆子) 実証会計学に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。 (31 平野 哲也) 経営戦略に関する研究について指導する。 (34 藤田 健) 流通論に関する研究について指導する。 (35 柳田 卓爾) 商品学に関する研究について指導する。 (45 藤田 智丈) 管理会計学に関する研究について指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	中山間地 マネジメント コース  演習ⅠB(中山間地)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、経営／経営情報／会計／流通などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(10 有村 貞則) 経営学、特に国際経営に関する研究について指導する。 (12 渋谷 綾子) 数理最適化と統計学に関する研究について指導する (13 新祖 隆志郎) 会計学に関する研究について指導する。 (24 西尾 建) マーケティング学に関する研究について指導する。 (11 宮井 浩志) 食料・農業経営学、都市・農村社会学に関する研究について指導する。 (43 王 慧娟) 小売マーケティングに関する研究について指導する。 (32 岡田 隆子) 実証会計学に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。 (31 平野 哲也) 経営戦略に関する研究について指導する。 (34 藤田 健) 流通論に関する研究について指導する。 (35 柳田 卓爾) 商品学に関する研究について指導する。 (45 藤田 智丈) 管理会計学に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目	中山間地 マネジメント コース  演習ⅡA(中山間地)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、経営／経営情報／会計／流通などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(10 有村 貞則) 経営学、特に国際経営に関する研究について指導する。 (12 渋谷 綾子) 数理最適化と統計学に関する研究について指導する (13 新祖 隆志郎) 会計学に関する研究について指導する。 (24 西尾 建) マーケティング学に関する研究について指導する。 (11 宮井 浩志) 食料・農業経営学、都市・農村社会学に関する研究について指導する。 (43 王 慧娟) 小売マーケティングに関する研究について指導する。 (32 岡田 隆子) 実証会計学に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。 (31 平野 哲也) 経営戦略に関する研究について指導する。 (34 藤田 健) 流通論に関する研究について指導する。 (35 柳田 卓爾) 商品学に関する研究について指導する。 (45 藤田 智丈) 管理会計学に関する研究について指導する。</p>	



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	中山間地 マネジメント コース  演習ⅡB(中山間地)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、経営/経営情報/会計/流通などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(10 有村 貞則) 経営学、特に国際経営に関する研究について指導する。 (12 渋谷 綾子) 数理最適化と統計学に関する研究について指導する (13 新祖 隆志郎) 会計学に関する研究について指導する。 (24 西尾 建) マーケティング学に関する研究について指導する。 (11 宮井 浩志) 食料・農業経営学、都市・農村社会学に関する研究について指導する。 (43 王 慧娟) 小売マーケティングに関する研究について指導する。 (32 岡田 隆子) 実証会計学に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (42 高橋 美多) 国際経済学に関する研究について指導する。 (31 平野 哲也) 経営戦略に関する研究について指導する。 (34 藤田 健) 流通論に関する研究について指導する。 (35 柳田 卓爾) 商品学に関する研究について指導する。 (45 藤田 智丈) 管理会計学に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目	中山間地 マネジメント コース  第二演習ⅠA(中山間地)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p>	
専門 科目	中山間地 マネジメント コース  第二演習ⅠB(中山間地)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p>	
専門 科目	中山間地 マネジメント コース  第二演習ⅡA(中山間地)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	中山 間地 マネジ メント コー ス 第二演習 II B(中山間地)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をIA、IB、IIA、IIBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門 科目	医 療 コ ー ス 福 祉 経 営 医療福祉複合体経営研究		病院経営を担う病院事務長、及び障害者・高齢者施設の経営を担う福祉施設長として関わった経験から医療と福祉は不可分であり「医療福祉複合体経営」のメリット、及びデメリットを研究する。また異なる制度・法律の領域において如何に結合させていくかを経済の視点(社会保障)から論じていく。	
専門 科目	医 療 コ ー ス 福 祉 経 営 医療経済研究		テキストを使用し、輪読とディスカッションを行う。2024年度は、河口洋行著『医療の経済学 第4版』(日本評論社、2020年)をテキストとして使用する予定である。また他にも、受講生と話し合いながら適宜、介護をはじめとする福祉関連の書籍や論文を題材とする予定である。 医療や福祉に係る経済学の文献の輪読、ディスカッションを通じて、各自の修士論文テーマを経済学の視点からアプローチする方法を見出すことを、本科目では目標としている。	
専門 科目	医 療 コ ー ス 福 祉 経 営 医療保険制度研究		公的医療保険制度が形成されていく、歴史的・理論的背景や現代社会における同制度の必要性などについて、英語の文献を購読する形で進めていく。日本はもちろん諸外国の公的医療保険制度についても扱う。民間の医療保険よりも公的医療保険に重点をおいた内容となる。イギリスなどのように、税財源による公的医療保障制度を実施し、国民に医療サービスを提供している国についても、公的保険制度との比較を行うために講義で扱う。多様な医療保障制度の枠組みを理解した上で、時間が許せば民間医療保険と公的医療保険の関係性などについても触れていく予定である。	
専門 科目	医 療 コ ー ス 福 祉 経 営 医療制度研究		医療制度論を論ずるのは、医療が医療行為の問題だけでなく、国の経済システムに組み込まれており、国家経済から自由に医療システムが機能しているわけでもないことを理解するためである。国家予算の中で医療と福祉、そして周辺領域のための消費は天文学的な大きさで、国民ひとりひとりと無関係ではなく、無関心であることは無責任といえる。本講義では、我が国の医療制度が医療保障制度を通じて、その9割弱を租税と保険料でまかなっており、その効用も世界一と優れている中で、アメリカ経済の中では医療制度は日本と違い、無保険者も多く国民負担も大きく、効用少ない制度であることなど、日本の国民皆保険制度と共通でない事を理解し、医療制度が国民生活に与える影響も大きいことから、何よりもまず医療制度体の成り立ちを解説し、何が課題になっているかを理解し、医療問題の概要を把握するのに役立つことを期待する。	
専門 科目	医 療 コ ー ス 福 祉 経 営 中国医療システム研究		1978年からスタートした中国の改革開放は、経済が目覚ましい発展をもたらしただけでなく、社会医療の面でも多くの変化をもたらした。改革開放までの都市部の公費医療、労働保険医療及び農村部の農村合作医療保険は、改革開放からの30年余りの試行錯誤を経て、都市部の住民基本医療保険、従業員基本医療保険、農村部の新型農村合作医療保険に変貌した。この講義では、医療経済学の基本理論を理解した上で、中国の医療システムに関する文献等の研究を通じ、中国医療システムの歴史と現状を把握し、医療経済学の視点から、計量経済の手法を用いて、いかに現実的な医療(制度)問題を分析するのかを理解し、社会医療問題における分析手法を身につけることを目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	医療・ 福祉 経営 コース  医療原価管理研究		<p>伝統的原価計算、活動基準原価計算 (Activity Based Accounting; ABCと略称)、品質原価計算、Target Costing及びMFCA (Material Flow Cost Accounting)などの諸原価計算について学び、それらの諸技法の医療への適用可能性について検討する。</p> <p>まず伝統的原価計算に対するABCの優位性について学ぶ。次に、品質原価計算は企業活動のうち品質に関する原価 (品質原価) を取り出し、どの段階でどのような原価をかければ高品質の製品が作れるかを明らかにする原価計算である。Target Costingはそれまでの原価計算に基づく原価管理は主に大量生産期間 (原価改善と原価維持) に対して適用されるものだが、企画・設計段階 (原価企画) で将来原価の発生を予測することで原価の発生を管理しようというものである。最後のMFCAはドイツで開発された原価計算で、通常原価計算が良品 (市場に売り出される製品) の原価を計算することを目的としているのに対して、廃棄物などの市場価値のない製品の原価を計算することがその目的である。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉 経営 コース  医療簿記会計研究		<p>病院の財務諸表も企業会計の財務諸表も基本的な点では変わりはないが、特殊な勘定科目名を確認し、その勘定がどのような活動と結びついているかを学ぶ。厚生労働省医政局が作成を要請している病院会計準則を学び、貸借対照表原則・注解及び様式例、損益計算書原則・注解及び様式、キャッシュ・フロー計算書・注解及び様式例、付属明細表原則及び様式例の特徴を確認する。更に、病院の財務諸表から経営成績及び財政状態を読めるようにする。企業会計と病院会計の差を確認する。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉 経営 コース  社会福祉政策研究		<p>社会福祉政策を研究するということは、すなわち「人々の暮らし」について考えることである。暮らしにはさまざまな側面があるが、受講生の興味関心にしたがい、それぞれのポイントを定め、人間を中心に据えた政策のあり方を検討する。</p> <p>基盤となる学問体系は社会学であり、社会学的思考を身につけることも目的としている。</p> <p>授業は、演習形式でおこなう。関連する文献を読み合わせ、担当がレジュメを元に報告し、全員で議論する。</p> <p>また、ジェンダー・パースペクティブを有効な方法論として使用する。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉 経営 コース  社会政策・労働経済研究		<p>修士課程レベルの東アジアの社会政策・労働経済研究を行なう。経済社会政策コースの基盤的な役割も担う。レジュメやパワーポイントの書き方はレポート・論文に繋がる。参考文献一覧と脚注は必須である。修論では先行研究サーベイとオリジナリティが求められるようになる。</p> <p>これまで (厚労省のシンクタンク) 労働政策研究研修機構の日本労働経済雑誌等を扱ってきた。例えば、新型コロナ禍に関する論文集等である。昨年度まで新型コロナ禍の国際シンポジウムを主催してきて、今年、共著を出版するので、その議論をするだろう。折角、経済学・経営学専攻に入るのだから、経済学のエッセンスもやろう。ミクロ経済学 (例えば、実質賃金＝限界生産力)・マクロ経済学 (成長会形式: GDP＝労働＋資本＋技術進歩の貢献度＊対数と微分の意義が解かる!)・マルクス経済学 (資本論における搾取とは何か: 労働力再生産費＝賃金を超える剰余価値を資本家が取ること) 等である。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉 経営 コース  地域経済論研究		<p>この授業では、地域経済に関連する諸理論・モデルを学び、地域政策や地域活性化の取り組み事例にも触れながら、地域の現代的課題と持続発展について検討する。</p> <p>毎回の授業では、受講生の関心に基づいて収集した地域経済に関する諸理論・モデルや事例を取り扱った文献や、論文、資料をまとめてハンドアウトを作成し、プレゼンテーションや論点提起を行ってもらおう。その後、発表者の文献、論文、資料やプレゼンテーション内容、論点に基づいて、受講者全員で持続的な地域の発展についてディスカッションを行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	医療・ 福祉 経営 コース  医療・福祉施設の経営分析 研究		医療・福祉施設の経営分析研究とは、我が国が世界に関する高齢社会に到達しており、そのため社会を支える青壮年労働人口が減少し、社会保障制度を支える側の人口が減少して、過去日本が経験してきたような経済成長を前提とした社会保障の在り方が変革を余儀なくされている事実を理解することを前提とする。 そして、現在の社会保障制度を支える働き盛りの年齢層人口減少に伴い、国民がすでに作り上げてきた、現在までに拡大・充実してきた社会保障の水準を保ち続けることが困難になりつつあること、さらにそのため社会保障制度の内容を継続出来る策を論ずるものである。 そのうえ、今後の医療・福祉施設の内容において、人的資源から施設の内容、運営方針などを考慮し、社会保障の重要な役割を果たす医療・福祉施設の在り方についての見識を豊かにすることを目的とする。	
専門 科目	医療・福祉 経営 コース  医療・福祉施設の人的資源 管理研究		今日、医療・福祉の業界でも収益性が問われ、利益を上げることができず、生存できない病院や介護施設が見られます。この業界においても経営の重要性が認識されています。医療・福祉業界はいわゆる労働集約的な産業と区分され、病院や介護施設の経営においては人の管理(人的資源管理)が特に重要です。そこで、本講義は人的資源管理に関する理解を深めるための文献を輪読します。具体的には、ゲーム理論や取引費用理論、エージェンシー理論などを基礎としたミクロ経済学のアプローチで賃金や昇進、職務の配分、雇用区分や採用などの人事制度を分析する文献を取り上げる予定です。	
専門 科目	医療 コース 福祉 経営  医療・福祉法制度研究		大学院の講義は、論文執筆を抱えている受講生の事情にかんがみ、受講生の問題関心に合わせて内容を調整する。特に、本講義の場合、いわゆるマスコミ論に重心を置くのか、それともマスコミ法に重心を置くのかで展開が異なってくる。もちろん、どちらであっても、もう一方への眼差しがなければ不十分であることは言うまでもないが、限られた時間で行うのであるから、受講生はそれぞれ自分の関心がどちらにあるのかを十分考慮して臨みたい。	
専門 科目	医療・福祉 経営 コース  医療・福祉経営特別研究A		介護保険サービス事業経営(介護老人福祉施設、通所介護、居宅介護支援、短期入所生活介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護、訪問介護、訪問入浴介護)にて特養稼働率99%、離職率10%以下への改善、タイ国リハビリテーション、ヘルスケア事業の経験を踏まえながら、介護事業経営に関連する知識についての習得、様々な経営手法と介護事業の関係を理解し、そして介護経営の実例を通じ、その経営方法の基本解析や考察を行います。 介護事業経営に関わる基礎知識、介護保険制度の概要、マーケティング、人材マネジメント、経営戦略などの基礎知識、これに関連する実例を紹介します。グループディスカッションや発表を通じて問題解決力、自己表現力や論理的思考力を向上させます。	
専門 科目	医療・福祉 経営 コース  医療・福祉経営特別研究B		社会保障制度の基本を学び、その中でそれぞれの施設がどの様に変化してゆくことを求められているかを学びます。変化をする前に、それぞれの施設はどのような組織構造を持ち、その結果どのような問題が現在起きているかを概観します。組織経営には、組織構造・組織文化について経営者としてどの様を考えていくかが基本です。一般の病院や施設を参考に、望ましい組織構造を考えていきます。また、組織文化はどの様な手法で刷新できるかディスカッションをしていきたいと思えます。変化をするということをポジティブに受け入れ、それが歓喜に変わるような組織経営ができるヒントを得ることがこの授業の目的です。さらに医療福祉経営の中で、重要なことは技術職をいかに確保定着させるかです。技術職がいきいきと働けるような経営手法を生み出すための策をディスカッションします。講義は、実践の場で経営管理に携わった経験のある講師が担当します。	
専門 科目	医療・福祉 経営 コース  医療特別研究A		介護保険サービス事業経営について、外部の講師を招聘し、より実践的な手法を学びながら、各院生が執筆する修士論文の内容に応用していくことを目的としている。特に、日本における介護保険事業経営や人材マネジメント、マーケティング、そして海外への事業展開といった視点から、さまざまな経営手法と経営戦略について、ディスカッションを交えながら、授業ならびに研究指導を行っていく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	医療 コ ー ス 医療特別研究 B		医療・福祉施設の組織経営について、外部の講師を招聘し、より実践的な手法を学びながら、各院生が執筆する修士論文の内容に応用していくことを目的としている。特に、組織構造の成り立ちや組織文化の醸成、さらに組織で働く医療・福祉関連技術職の確保・養成といった視点から、現在の経営手法とその変革について、ディスカッションを交えながら、授業ならびに研究指導を行っていく。	
専門 科目	医療 コ ー ス 外国文献研究		本授業は、英語の読解力をつけながら、異文化と異文化コミュニケーションについての理解を深めていくことを目標としている。授業では、中級レベルの英語で書かれたヨーロッパの社会と文化についての読み物と時事的な内容の英文記事を読み、英語の語彙力と読解力を養っていく。また、異文化コミュニケーション論について書かれた原書を読み、各国での社会の多様性に応じたコミュニケーションのあり方と異文化コミュニケーションについての知識を深めていく。	
専門 科目	医療 コ ー ス 演習 I A (医療・福祉)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じ I A、I B、II A、II B の順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、医療経済学/医療経営学/社会保障論などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(51 岩本 晋) 医療・福祉管理学に関する研究について指導する。 (7 角田 由佳) 医療経済学、看護経済学に関する研究について指導する。 (52 中田 範夫) 医療経営に関する研究について指導する。 (41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (33 田畑 雄紀) 社会保障論に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目	医療 コ ー ス 演習 I B (医療・福祉)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じ I A、I B、II A、II B の順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、医療経済学/医療経営学/社会保障論などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(51 岩本 晋) 医療・福祉管理学に関する研究について指導する。 (7 角田 由佳) 医療経済学、看護経済学に関する研究について指導する。 (52 中田 範夫) 医療経営に関する研究について指導する。 (41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (33 田畑 雄紀) 社会保障論に関する研究について指導する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	医療・ 福祉経営 コース  演習ⅡA (医療・福祉)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、医療経済学／医療経営学／社会保障論などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(51 岩本 晋) 医療・福祉管理学に関する研究について指導する。 (7 角田 由佳) 医療経済学、看護経済学に関する研究について指導する。 (52 中田 範夫) 医療経営に関する研究について指導する。 (41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (33 田畑 雄紀) 社会保障論に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉経営 コース  演習ⅡB (医療・福祉)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、医療経済学／医療経営学／社会保障論などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p> <p>(51 岩本 晋) 医療・福祉管理学に関する研究について指導する。 (7 角田 由佳) 医療経済学、看護経済学に関する研究について指導する。 (52 中田 範夫) 医療経営に関する研究について指導する。 (41 袁 麗暉) 医療経済に関する研究について指導する。 (30 川村 一真) 人的資源管理論もしくは労働経済学に関する研究について指導する。 (33 田畑 雄紀) 社会保障論に関する研究について指導する。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉経営 コース  第二演習ⅠA (医療・福祉)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p>	
専門 科目	医療・ 福祉経営 コース  第二演習ⅠB (医療・福祉)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	医療・福祉経営コース 第二演習ⅡA (医療・福祉)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	医療・福祉経営コース 第二演習ⅡB (医療・福祉)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	税務コース 現代会計論研究		本講義では、企業会計基準委員会(ASBJ)が公表している「討議資料財務会計の概念フレームワーク」における会計理論の詳細な検討を通じて、現代会計の理論的構造の理解を深めることを目的とする。また講義においては、アメリカ会計基準や国際財務報告基準における各概念フレームワークや、その論理的特徴を端的に表している個別会計基準も取り上げ、それぞれの比較検討を行いながら、日本基準における概念フレームワークの特徴をより丁寧に学習していく。	
専門科目	税務コース 会計政策論研究		本講義では、財務報告の領域での会計基準形成・変更というマクロレベルでの会計政策と企業の会計方法選択というミクロレベルの二つの単位で会計政策決定プロセスについて概観する。前者の会計基準形成・変更については、概念フレームワークのような規範的な枠組みからどのように個別の会計基準が導出されるのか、あるいは各会計基準間の整合性が調整されていくのかを、主として疑似資料を時系列的に分析することで学習する。この過程で、テキストマイニングの基礎的な知識の習得を目指す。後者の企業レベルでの会計方法選択については、古典的なシグナリング理論やエージェンシー理論の考え方を理解した上で、どのような要因が会計方法選択の意思決定に影響を与えるかについて、財務データ分析を行うことで検討していく。これによって、初歩的な統計分析能力を習得することを目指す。	
専門科目	税務コース 実証会計研究		会計理論においては、財務会計情報に利害調整機能と意思決定支援機能という2つの役割を果たすことが期待されていると言われている。しかし、財務会計情報が現実にもそのような役割を果たしているのか、情報利用者にとって有用であるのか否かは、実際に確かめてみなければわからない。実証会計の役割は、現実の財務データや株価データを用いた検証を行うことによって、一般に言われている理論が本当に正しいのか否かを検証し、理論の正当性を裏付けることにある。そのような実証会計において用いられる初歩的な分析手法や、初期の代表的な実証研究の内容、実証研究のリサーチ・デザインを支える経済的理論、などについて学習し、実証会計の知見を養ってもらうことが、この講義の目的である。	
専門科目	税務コース 資本市場の財務情報の役割研究		本講義では、資本市場における株価形成等において、利益数値などの財務情報がどの程度貢献しているかについて検討する。講義の前半部分では、できるだけ数多くの代表的な先行研究に当たりながら、研究者がこれまでに①どのようなトピックで、②どのような仮説を導出し、③どのようなデータを利用して分析したかを概観していく。その後、実際に自分で財務データや株価データのダウンロードから検証結果のビジュアライゼーションまでの一連の流れを体験することを目指す。これによって、受講生は株価形成等のプライシングにおける説明力を財務数値の有用性判断の一つの基準としたときに、なぜ会計基準の変更が求められるのかを理解することが期待される。併せて、比較的大量の構造化されたデータを活用して今日的な統計的分析手法の実践力を高めることも期待される。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	税務コース	戦略的管理会計研究		管理会計の伝統的な課題は会計情報をいかに経営管理に役立てるかという点にあったが、近年ではより上位の経営戦略との結びつきが重要になっています。この授業では最初に伝統的な管理会計を確認した後、日本の製造業を支えた原価企画、戦略を経営管理に落とし込むためのBSC、無形資産の評価や管理、行政や病院といった非営利組織の管理、人間と会計の関係など、戦略との繋がりが重要な管理会計について学びます。そして実際の企業事例をもとに議論をし、戦略的な管理会計について分析、評価をできるようにすることを目指します。	
専門科目	税務コース	情報伝達と財務会計研究		財務諸表における収益・費用・資産・負債・純資産に着目して、それぞれの項目が財務諸表に与える影響を学ぶ。1. 収益；(1)売上高計上時点及び新収益認識基準のケーススタディ、(2)ホールディング会社における有価証券の時価評価差額を損益計算に算入問題、2. 費用；(1)市況価格変化に伴う在庫評価問題、(2)未消化年休の評価及びストック・オプション、(3)特別修繕引当金及び損失引当金、(4)長期金利の下落または上昇が社債・リース債務・退職給付債務・資産除去債務に与える影響、3. 資産；(1)減価償却方法の変更、(2)投資先の収益性をどこまで予測できるか貸付等不動産の減損処理、(3)何をもって企業結合の成果を評価するか開発費の資産性、(4)法人税法の前払である繰延税金資産の取崩、4. 負債；(1)最適資本構成問題、(2)債務の株式化、5. (1)資本金の大きさによる法人税法規定問題、(2)自社株買いおよび剰余金配当による株主還元。	
専門科目	税務コース	意思決定と財務会計研究		財務諸表から企業価値評価を考える。1. 財務諸表から経営成績、財政状態、営業活動・投資活動・財務活動を確認できるようにする。次いで、2. ROE分解、会計方針の比較、キャッシュ・フロー分析を通じて、グループ経営を分析する。更に、3. 資本コストを計算する。有利子負債コストを確認し、株主資本コストの推定を行い、企業に潜むリスクの顕在化及びその評価を検討する。そして、EVA（経済付加価値）の計算が出来るようにする。税引後営業利益から資本コストを差し引けるようにする。以上より、M&Aと企業価値最大化を議論できるようにする。	
専門科目	税務コース	民事法研究		この授業は、民法に関する判例・裁判例の検討を行うことを通じて、民法の理解を深めるとともに判例・裁判例の分析・検討を行う力を養うことを目的とするものである。具体的には、毎回輪番で受講者のうち1名が報告担当者を務め、報告担当者が自ら選んだ判例・裁判例について報告（その内容は、①事案の概要②判旨③先例・学説④検討から成る）を行い、その後受講者全員でディスカッションを行う、というスタイルで授業を行う。そして学期末に、各自が報告した判例・裁判例の中から一つを選び、レポート（判例評釈）を作成する。	
専門科目	税務コース	財産法研究		財産や取引について規律する基本的な法律である民法、その中でも特に財産法分野を深く学び、これによって社会のあり方について考えます。すなわち、民法が用意する様々な法制度はよりよい社会を実現するために定められているため、法制度の要件及び効果に関する知識を習得するだけでなく、法がどのような社会をよとし、実現を目指しているのかという、法制度の根幹をなしている考え方を学びます。 また、受講生の研究テーマに繋がりのある（あるいは関心のある）民法上の分野を学習・検討の対象とすることで、各自の研究に法という視点を取り込むことを目指します。	
専門科目	税務コース	外国文献研究		本授業は、英語の読解力をつけながら、異文化と異文化コミュニケーションについての理解を深めていくことを目標としている。授業では、中級レベルの英語で書かれたヨーロッパの社会と文化についての読み物と時事的な内容の英文記事を読み、英語の語彙力と読解力を養っていく。また、異文化コミュニケーション論について書かれた原書を読み、各国での社会の多様性に応じたコミュニケーションのあり方と異文化コミュニケーションについての知識を深めていく。	
専門科目	税務コース	経営数理システム研究		本授業は社会人、および研究科の大学院生の受講を想定している。まず、統計学をテーマに据え、「統計的手法」を学ぶ。記述統計と推測統計の両方を学ぶ。その際に使用するソフトウェアは、Excel、及びSPSSである。本学の実習室にて授業を進める。また、さらに高度な知識と数学的思考方法を身に付けるために、英文の教科書を読み、さらに近年の論文に目を通す。試験は行わない。 ただし、状況により、授業や試験等の実施形態を変更する場合がある。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	税務コース	経営数理計画研究		本授業は社会人、および研究科の大学院生の受講を想定している。まず、統計学をテーマに据え、「統計的手法」を学ぶ。記述統計と推測統計の両方を学ぶ。その際に使用するソフトウェアは、Excel、及びSPSSである。本学の実習室にて授業を進める。また、さらに高度な知識と数学的思考方法を身に付けるために、英文の教科書を読み、さらに近年の論文に目を通す。試験は行わない。 ただし、状況により、授業や試験等の実施形態を変更する可能性がある。	
専門科目	税務コース	応用ゲーム理論（組織の経済学）研究		マイケル・ポーターの競争戦略論は経済学、特に産業組織論を基礎にしていることはよく知られている。それ以外に、現代経営学の中で重要な「取引費用」や「エージェンシー理論」などの概念・枠組みも経済学の中で誕生し、発展してきた。このように、経済学は現代の経営学に深く根付いているため、その理解は企業経営の分析に欠かせない。この授業は企業経営を分析する上で有用なマイクロ経済学の諸理論、具体的には、マイクロ経済学における企業の理論や市場の理論、ゲーム理論、取引費用理論、エージェンシー理論などについて解説し、議論する。	
専門科目	税務コース	金融経済理論研究		COVID-19の影響下で停滞していた世界経済は、近年、景気の回復とともに高いインフレ率を経験し、各国の中央銀行による金融政策の動向に大きな注目が集まっています。「金融」が経済にとっていかに重要なテーマであるのかはみなさんもご存知のとおりです。この講義では、「金融」を理解する上で最も重要な金融の基礎理論について学習することを目的としています。「金融とは何か」、「貨幣とは何か」など基本的な理論から金融規制のあり方や金融政策の理論まで幅広く学んでもらいます。特に金融政策の理論については、金融政策の手段、政策目標などが時代とともに変化しています。伝統的な金融政策と非伝統的な金融政策はどこが違うのか、また、どのような理論が背景にあるのかを知っておくことは重要なことです。最新の理論をベースに世界経済の動向に目を向けられるようになることを目標とします。	
専門科目	税務コース	社会政策・労働経済研究		修士課程レベルの東アジアの社会政策・労働経済研究を行なう。経済社会政策コースの基盤的な役割も担う。レジュメやパワーポイントの書き方はレポート・論文に繋がる。参考文献一覧と脚注は必須である。修論では先行研究サーベイとオリジナリティが求められるようになる。 これまで(厚労省のシンクタンク)労働政策研究研修機構の日本労働経済雑誌等を扱ってきた。例えば、新型コロナ禍に関する論文集等である。昨年度まで新型コロナ禍の国際シンポジウムを主催してきて、今年、共著を出版するので、その議論をするだろう。折角、経済学・経営学専攻に入るのだから、経済学のエッセンスもやろう。マイクロ経済学(例えば、実質賃金＝限界生産力)・マクロ経済学(成長会形式：GDP＝労働＋資本＋技術進歩の貢献度＊対数と微分の意義が解かる！)・マルクス経済学(資本論における搾取とは何か：労働力再生産費＝賃金を超える剰余価値を資本家が取ること)等である。	
専門科目	税務コース	中国経済研究		改革開放後40数年、中国経済が大きな変貌を遂げた。計画経済から市場経済への体制移行を遂げたと共に、経済水準が大きく発展し、国民の生活水準も大幅に向上した。特にWTO加盟以後、中国経済がグローバル化の流れに乗り、世界経済との一体化がますます進展した。「世界の工場」であると同時に「世界の市場」への変身も遂げつつある様相を呈している。中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握したうえで、中国経済のかかえている課題を検討し、今後の中国経済の展望について考える。	
専門科目	税務コース	演習ⅠA(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、租税法／民事法／財産法などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらおう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	税務コース 演習ⅠB(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、租税法／民法／財産法などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	税務コース 演習ⅡA(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、租税法／民法／財産法などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	税務コース 演習ⅡB(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、2年間を通じⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、下記の教員が個別に担当する。この授業では、修士論文の完成に向けて、受講者自身が設定した修士論文の研究テーマを、租税法／民法／財産法などといった研究領域に位置づけ発展させていくことを目的とする。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	税務コース 第二演習ⅠA(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	税務コース 第二演習ⅠB(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	
専門科目	税務コース 第二演習ⅡA(税務)		修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員(指導教員)が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 経済学・経営学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
専門 科目	税務 コース  第二演習ⅡB (税務)		<p>修士論文の執筆に向けた演習形式の授業であり、演習を担当している教員（指導教員）が、受講者の研究テーマに応じて、受講生が見識を深め、より優れた論文が執筆できるようにと必要に応じ認めた場合、指導教員以外の教員が、自身の研究分野をもとに第二演習として、最大で2年間をⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBの順に、指導を行う。この授業では、修士論文の完成に向けた修士論文の研究テーマや、研究分野をもとに研究を展開させていく。具体的には、研究を展開させていくために重要だと思われる文献のリストアップと講読、文献のレビューを元に、研究テーマそのものの報告とディスカッションを行いながら、各自の研究を進展させる。そのため、積極的に報告を担当してもらう姿勢が必要となり、自身の意見を言語化しながら提示することが必要となる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科共通科目	研究者行動規範特論		研究者の使命は真理の探究にあり、公共の福祉と利益への貢献にある。研究者はいかなる学問領域にあっても個人の利益のみを追求してはならず、自らの立場を絶えず確認し、社会の付託に応えるために研究者としてのモラルから逸脱してはならない。研究者としての一般的な素養として必要な、研究者倫理、行動規範について学び、また責任ある研究行為、研究活動における不正行為について理解を深め、研究者として倫理的な判断力と行動力とを身につける。	
研究科共通科目	知的財産特論		本講義は、知的財産権の概要を事例に基づいて講述するとともに、実社会で見られる事例をもとに知財の観点から問題があるか（気づき）、法的に違法性があるか（見つける）、どのように対応したらよいか（見極める）等、知的財産の総合的な観点からの演習等を行う。また特許制度について詳しく解説すると共に、特許情報へのアクセスと調査・分析についても紹介し、受講者が行っている自身の研究テーマに関して特許情報の調査・分析を行う。論文情報だけでなく、特許情報を調べることは、受講者自身の大学院での研究活動にプラスになる。また研究倫理と知的財産の関係について考え、特に著作権法の観点からみた研究倫理について概説する。	
研究科共通科目	データサイエンス特論		多様なデータが大量に溢れる今日の社会において、データサイエンスの利活用は益々重要視されるようになってきている。データサイエンスは、多種多様なデータを集め、処理・分析することで、社会の諸課題を解決するための手法であり、現代社会において幅広く活用されている。本講義はデータサイエンスの応用力を養うことを目的とする。本講義では、社会の様々な分野におけるデータサイエンスの役割を踏まえつつ、データ分析に必要な知識、機械学習を含むデータサイエンスの手法およびその応用事例等について論じる。 （オムニバス方式/全8回） （11 葛崎偉/1回） データサイエンスの役割とデータ分析の基礎について講義する。 （12 野村厚志/2回） データ分析に用いる基本的な手法について講義する。 （8 中田 充/2回） コンピュータを用いたデータ分析について講義する。 （10 北本 卓也/3回） データ分析の手法に基づいた実践を通して、データサイエンスの応用について講義する。	オムニバス方式 ・共同

授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	プレゼンテーション特 論		<p>プレゼンとは何か、効果的なプレゼンの方法、プレゼン資料の作成法などの観点から解説する。プレゼンの意義や効果の理解をはじめ、過去の事例に学びながら効果的にプレゼンを進めるための技法を考察する。また、ビジュアルデザインの手法を取り入れたプレゼン資料の作成方法等を解説しつつ、IT技術のプレゼンへの活用法などを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (全教員2回)</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 各回の解説内容の紹介、解説する観 点の違い、および評価方法の 説明等</p> <p>第8回 総括まとめ (14 川崎 勝/2回) プレゼンテーションと聴衆1 プレゼンテーションと聴衆2 (43 小川 仁志/2回) プレゼンテーションの本質1 プレゼンテーションの本質2 (9 杉井 学/2回) プレゼン資料とIT機器 ビジュアルデザインを考慮した プレゼン資料作成</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
研究科 共通科目	キャリア教育		現代日本の雇用環境や経済・社会の変化とともに、大学院生の採用手法の実態と多様化の背景を解説します。また、個人にとっても社会にとっても重要なキャリアの理論と応用を学びます。受講生自身の就職活動とキャリア形成に役立つように、ワークをとりいれながら授業を進めていきます。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目	人間文化・社会創造概 説		<p>複雑で変化のいちじるしい現代社会のうちに問題や可能性を見だし、その背景要因や構造を明らかにし、問題を解決したり新しい価値や仕組みを創出したりするには、多様な専門分野間で連携し、その知を統合的に運用することが不可欠である。本講義では、共創科学専攻の系それぞれの視点と方法に触れ、それら多様なアプローチを駆使して、課題を発見し、分析し、課題解決や価値提案に至る道筋を学修する。本授業の構成はオリエンテーション(初回)、多文化共生系(5回)、表象文化・デザイン系(1回)、人間社会・環境系(2回)で、情報系を除く3分野の専門を網羅している。</p> <p>(3 有元光彦/1回) 人間文化・社会創造概説で学ぶべき知識・技能の概要説明(初回)、各教員の講義を踏まえたグループワークによる課題解決演習および総括。</p> <p>(19 小山 虎/1回) ロボット・AIに関する哲学的・倫理的課題について概説する。</p> <p>(21 山本 冨里/1回) 日本国内における日本語教育および外国語教育の現状について、複言語教育という観点からはどのような課題が設定されるのか、そこにどのようなアプローチがあり得るのかということについて学ぶ。</p> <p>(27 森 朋也/1回) 経済学の知見からグローバル経済のメカニズムについて、またその功罪について学習する。そのうえで、そのグローバル経済の下で、ローカルな地域社会は、どのような持続可能な発展の途を歩むべきかについて履修者とともに考えていく。</p> <p>(35 山根 由美恵/1回) 日本近現代文学を分析する意義について講義する。文学研究は解釈の多様性が特徴であり、それは柔軟な思考や多様性を認める価値観の形成に繋がる学びであることを解説する。</p> <p>(18 松原 幸恵/1回) 法学的見地から現代社会の課題を発見し、分析することを通じて、解決の方向性を探る。</p> <p>(32 原田 拓馬/1回) 人間文化・社会創造の根幹をなす教育という営みにおいて、あらゆる教育問題がいかに構築され、いかに解消されていくのかを理論と事例にもとづき解説する。</p> <p>(4 中野良寿/1回) “地域と現代アート”をテーマに、地質学や建築、地域コミュニティーと現代芸術など、2000年以降の地域資源の芸術的な活用などの事例を参考にしながら領域横断的なアートの可能性を講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	文明と宗教特論	本講義では、古代「メソポタミア文明」において作成されたさまざまな文学作品を読み解いていくことを通じて、人類最古の文明を作り上げた人々による神々への信仰や、彼らの信じた死後世界について考える。また、そのような思想がその後の歴史にいかなる影響を与えているかを学ぶと同時に、現代とも比較することにより、人類の普遍性を考察・理解することを目指す。	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	英語圏文化研究	通信技術の変革により、伝統的な政治・経済・地理的環境といった境界を横断する社会的ネットワークが創出され相互依存関係が不可逆的となった。このようなグローバル化の時代にあっても、上位の文化は自分とは異質な（そして大抵は下位にあるとみなす）文化を理解し受容していく際、その異質性を自分たちの尺度に合うように変容して消費していく。この異質文化の自文化への取り込み過程を文化翻訳と言うとすれば、この文化翻訳の一つである言語表現や映像表現を介して、ある文化の異質文化取り込みの特異性を分析することができる。本講義では、代表的な言語表現や映像表現を取り上げ、その中で英語圏文化が異質な文化をどのように切り取り変容していくのか、あるいはその異質性に沈黙してきたかを分析し、英語圏文化の特異性を歴史的社会的資料を参照しながら論理的に考察していく。	
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	教育思想史特論	本講義は、教育の諸問題についての思想的な洞察力を養うことを目的とする。レクチャーおよび受講者による課題文献の読解・議論を通じて、教育思想の系譜や重要な諸概念についての理解を深めるとともに、それらに関する最新の知見や論争にも触れつつ、教育哲学・教育思想史研究の思考様式と手法の修得を目指す。	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	人間教育学特論	教育学の知見を踏まえ、人間と教育の関係性の読み解き方を修得する。具体的に、子ども期にはじまる人間の発達過程、その発達を支える学校教育の社会的機能・課題、家庭教育の現代的役割、地域教育の今日的展開、職業文化の特質、さらに現代社会における教育問題に関して、特に質的・計量的データに基づき分析・考察する力を身に付ける。授業は、授業者による講義及び受講生による発表・討論で構成する。	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	高等教育特論	高等教育機関のひとつである大学は、12世紀ごろから存在している。長い歴史の中で大学は、独自の教育と運営を基本としながらも、国や市場といったさまざまな影響を受けながら、発展している。本講義では、高等教育の歴史と伝統、高等教育機関の教育と運営の制度の特徴、高等教育機関を取り巻く環境といった高等教育の概観を学修する。本講義を通じて、大学とは何か、大学で学ぶ意義は何か、といった点を受講者自身の言葉で説明できることを目指す。	講義18時間 演習12時間
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	ロボット哲学	ロボット・AIの発展および社会への浸透に伴って生じている哲学的・倫理的問題について概観することで、ロボット哲学の全体像を理解することを目指す。具体的には、以下の三点の習得を目指す。①「ロボット」や「AI」などの関連用語の正確な理解および必要な工学的・技術的知識の習得、②ロボット・AIが関わる工学的・技術的問題と倫理的問題、および哲学的問題の異同の理解、③現時点ないし近い将来に実際に生じることが見込まれる哲学的・倫理的問題と、将来的に生じる可能性がある問題の異同の理解。評価は、毎回の小テストおよびレポートによって与える。	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間文化創造プログラム 多文化共生コース	生態人類学特論		本授業は人間が自然とかかわりあう場面での文化的な多様性について理解することで、自然が関わる課題の解決に役立てることを目指す。具体的には、世界各地の湿潤熱帯地域におけるバナナの栽培と食文化を含む利用、流通について取り上げる。日本人が一般的に食べるバナナは大規模プランテーションで輸出用に栽培されているもので、北米やヨーロッパで食べられているものと同じ品種、同じ栽培法のバナナである。一方、熱帯地域で伝統的にバナナを栽培してきた人たちはそれとは異なった地域ごとに特徴的な品種や栽培法、食文化を維持している。そのようなバナナの多様性と地域の自然、歴史、文化、経済などと絡めて理解する。 まず、植物としてのバナナを理解し、続いて大規模プランテーションで栽培されるバナナ、さらにアジアやアフリカの各地域のバナナを取り上げる。最後にまとめとしてバナナの抱える課題を議論する。授業は講義形式で行う。	
人間文化創造プログラム 多文化共生コース	地域言語システム特論		地域言語（特に日本語諸方言）の音声・音韻、語彙、文法、談話等を体系的に観察・記述することによって、それらに潜む規則性や法則性を導き出していく。具体的には、まず地域言語の言語学的な特徴を概説することによって、言語の普遍性や個性を明らかにする。次に、それに基づき、言語の体系性（システム）について説明したうえで、現在までの言語・方言研究における課題を提示する。	
人間文化創造プログラム 多文化共生コース	日本語コミュニケーション特論		本講義では、談話分析の手法を通して日本語コミュニケーションの特性を学ぶとともに、日本語コミュニケーション研究の基礎知識を得ることを目的とする。具体的には、談話分析の研究手法について学んだ後、日本語の談話コーパスを談話分析の観点から分析した事例を参照しながら、日本語コミュニケーションの特性について学ぶ。談話コーパスは友人同士の雑談だけでなく、初対面の談話、職場の談話など、さまざまな場面における談話を扱い、場面に応じてコミュニケーションはどのように異なるのか、母語話者はどのようなストラテジーを用いコミュニケーションを円滑に進めているのかについて学ぶ。また、母語話者同士の談話だけでなく、日本語学習者（非母語話者）による日本語談話例も参照していく中で、日本語特有のコミュニケーションのあり方、日本語母語話者と日本語非母語話者による談話から国際社会における日本語コミュニケーションについて理解を深める。	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム 多文化共生コース	応用日本語学特論		本講義では、現代日本語を対象とした分析を通じ、言語教育への応用可能性を検討する。目標は、言語現象に対する深い理解と分析能力を獲得することである。講義では、特定の言語現象を決め、コーパスや内省などからデータを得たのち、既存の研究結果や理論に基づき、その言語現象の基本的性質を理解する。そこから、関連する構文との相互関係や既存の枠組みではとらえきれない現象の言語的性質を考察する。また、授業では、心理言語学的あるいは認知科学的な文献も講読していく予定である。これにより、現代日本語に関する認知的な性質を学び、多面的に理解を深めていく。講義の最後には、言語教育場面でどのように応用できるか、得られた知見をどのように言語教育場面へ活用するかを考えていく。	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム 多文化共生コース	複言語教育特論		本講義では、複言語使用、複言語主義、複文化主義などの概念の理解からはじめ、なぜ、特定の一言語の教育ばかりではなく「複言語レパートリーを育てる」複言語教育が必要なのかということについて講義する。また、複言語使用を分析する手法や、複言語教育の様々なアプローチについて講義する。そのうえで、受講者のそれぞれが関心を持つ具体的な環境において、どのように複言語使用状況を分析するか/どのように複言語教育が実現可能なのかということについて議論する。	



授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学部 共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	社会言語学特論	<p>本授業は、多文化共生の観点から、社会と言語の関係についての理解を深め、分析する力を身につけることを目標とする。また、日本語教育の観点から、異文化間のコミュニケーションにおいて問題となりうる現象に関して、社会言語学的に分析する力を身につけることを目標とする。</p> <p>前半では、社会言語学の成り立ちから、語用論、ポライトネス理論、談話分析、相互行為言語学といった関連分野も含めた理論的枠組みを理解するための講義を行う。</p> <p>後半では、実際に、謝罪や依頼などの言語行動や相づち、ターン交替などの相互行為に関して、日本語と韓国語や中国語といった外国語との多言語間の対照分析を行い、言語と社会の関係についての考察を深めるための演習形式の授業を行う。</p>	講義24時間 演習6時間
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	第二言語習得特論	<p>母語以外の言語を習得する第二言語習得は、多くの場合で十分な言語運用レベルに達する第一言語習得と異なり、最終的な言語運用レベルが十分に上がらない場合も多く個人差が大きい。学習者のうみだず学習者言語には共通点もあるが、相違点も多い。習得のメカニズムにどのような違いがあるのだろうか。</p> <p>これらの疑問について考えるため、本講義では、まず第二言語習得の理論の変遷をたどり、代表的な理論やモデルについての知識を得る。</p> <p>その上で、学習者言語に共通してみられる第二言語発達の特徴(習得順序や言語転移など)について理解を深めるとともに、環境、言語適性や動機付けといった個人差要因が習得に及ぼす影響について考えていく。</p>	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	日本文学特論(現代)	<p>本授業では、日本現代文学においてグローバル規模で評価されている、村上春樹、多和田葉子、小川洋子、村田沙耶香文学に関する講義を行う。日本現代文学作家の作品は、日本近代文学作品に比して、視点が先鋭的であったり、寓意的な表象がなされている場合が多く、それはグローバル規模の現代社会が抱えている複雑な諸問題を新しい視点から照射している。日本現代文学の最前線の作品に触れることで、現代社会を再考する視点の構築を目指す。</p>	
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	中国思想史特論(古代)	<p>中国思想史に関する幅広い知識を獲得することで専門的研究を深化・発展させる能力を培うための教材として、中唐時代の代表的な詩人・文章家であり、官僚でもあった柳宗元の詩と文章を取り上げて、彼の政治理念のありようを講じる。講義では、まず柳宗元の生涯の概要を解説し、彼の為政者としての挫折と著作活動との関係、彼の思想の内容と「古文」という表現形式との関係を押さえる。そのうえで、自然と人為とのあるべき関わり方についての彼の見方に着目しながら、当該時代の政治の在り方に対する彼の批判意識と柳宗元思想における理想的な統治の在り方を捉えていく。</p>	
人間文化創造プログラム	多文化共生コース	異文化間心理学特論	<p>本講義では、異文化間における対人関係の形成および文化移行に伴う心理的反応について学ぶとともに、研究目的にあった分析方法を選び、実際に分析する力を身につけることを目的とする。授業の前半では、異文化間における対人関係の形成についての基礎知識を学ぶ。具体的には1) 異文化の存在と影響への気づき、2) 異文化接触場面での反応と動態の理解、3) 異文化性に対処するための認知と行動、について、異文化学習モデルに即して段階的に学ぶ。基本的な知識を習得した後、異文化間教育や異文化間心理学で用いられる分析方法について、量的・質的・縦断・横断の様々な手法について学ぶ。授業の終盤では、いずれかの手法を選び、実施に分析を試みるという演習形式の授業を行う。</p>	
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	実践的現代アート特論	<p>主に第二次世界大戦後(1945年以後)の現代美術を概説し、作家研究を行う。また演習としての作品制作を行うが1990年代以降の現代アート作品を参照し美術表現の可能性を模索する。成果物としての作品の展示、あるいは展示プランのプレゼンテーションを行う。</p>	演習20時間 講義10時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	彫刻文化特論		東アジアに関する文化的彫刻の歴史や製作技法、文化財復元研究について講義する。日本の仏像研究を中心に、現代彫刻に至る様々な彫刻作品を分析することによりそれらを育んだ地域社会の特性や文化的背景を明らかにし、将来的に適切かつ効果的な社会における彫刻の存在意義とその役割について学習する。	演習18時間 講義12時間
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	表象文化特論		いま私たちはさまざまな表象文化に囲まれている。近代以降、メディアの発達もあり大衆音楽や映画といったかたちで急激に増大してきた私たちへのその関与は、今世紀に入り、とりわけインターネットを介することで速度と量の観点から圧倒的な影響を及ぼす時代になったといえる。いまや表象文化は、単に文化芸術領域における表現や事象といった位相のみに限らず、私たちの身体や精神が世界をどのように捉えるのか、その仕方をも左右し、それどころか、そうした仕方そのものが表象文化ともなりつつある。この講義では、そうした現状を踏まえながら、大衆音楽や映画を中心とした表象文化におけるイメージ生成の次第を詳細に検討する。	講義20時間 演習10時間
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	工芸文化特論		日本の工芸の歴史や地域性を学習し、今日的な課題を考察・理解する。主に木工芸・漆芸に関して、それらを育んだ地域社会の特性や文化的背景を明らかにし、素材、技術・技法を幅広く実践的に学習するとともに、新たな応用美術表現の可能性を追求する。また現代の工芸に求められる、広がりのある共有できる視点を見出すことを目的として、欧米のデザイン・工芸作品についても概説し、作品研究を行う。	演習20時間 講義10時間
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	歌唱表現特論		声楽的な歌唱法を一つの軸とし、歌唱表現へのアプローチを身体、楽理、テキスト、表出する空間やメディアと様々な側面から理解を深め、歌唱に潜む多層性に迫る。 予定では、以下のテーマを取り上げる。 ・ 声楽的発声法の歴史～西洋音楽とそれに伴う歌唱法の変遷～ ・ 歌唱における身体～歌唱時の身体的基本的動作について～ ・ 重なり合う声～ハーモニーを作るとはどのような現象か～ ・ 歌唱における楽譜やテキストの読解 ・ 演技を伴った歌唱～演奏における感情表現とは～ ・ 空間と歌唱～空間によって異なる歌唱表現～ ・ メディアと歌唱～メディアによって異なる歌唱表現～	講義15時間 演習15時間
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	インタラクシオンデザイン特論		(概要) 多様化する社会において、人間が接するシステムは日々複雑化している。そのため、「人間と人間」「人間と人工物」「人間と環境」のインタラクシオンに関わる理論、設計、モデル、技術、評価に関する研究は重要性が高まっている。本特論は前半の調査・分析と後半のインタラクシオンデザインに分けて、演習形式でインタラクシオンの探求を行う。前半は実社会におけるインタラクシオンに着目して調査を行う。後半は調査結果に基づく分析から得られたインタラクシオンの理論やモデルを特定し、プロトタイプを製作して実社会に対するインタラクシオンをデザインする。 (インタラクシオン分析/前半) 既存の都市、建築、コミュニティ、デジタルサービスなどの人間、人工物、環境によって構成される複雑なシステムを選択して調査を行う。文献調査だけでなく、ユーザエクスペリエンス (UX) やフィールド調査など具体的な人間、人工物、環境のインタラクシオンが調査できる対象を選択する。調査結果に基づきインタラクシオンの分析・考察を行いインタラクシオンモデルの特定を行う。 (インタラクシオンデザイン/後半) 分析から得られたモデルに基づき、新たなコンテキストに対するインタラクシオンデザインを行う。デザイン案はコンセプトだけでなく、プロトタイプによる検証を行い、想定するユーザーや顧客に対する妥当性確認を行う。	演習25時間 講義5時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間文化創造プログラム	表象文化・デザインコース	インクルーシブデザイン特論		本科目は、デザインの実践を通して、社会における課題発見と解決の応用力を身につけることを目的とする。インクルーシブデザインは、社会的な環境やサービスなどから排除された人々を、デザインプロセスに取り込み、多様な当事者と共に課題を発見しながら解決策を創出することで社会的包摂を目指すデザインである。本科目では、入門的な位置付けの国際総合科学部開講科目「インクルーシブデザイン」を発展させ、当事者とともにデザインした成果の評価検証も含めた実践的なデザインプロジェクト形式で行う。	
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	データ情報表現法特論		本講義では、標準化されたデータ情報の視覚伝達と形状形成のための技術や手法について学ぶ。 前段としてデータビジュアライゼーションやインフォグラフィックスについて事例分析やソフトウェア活用によって基本技術を理解する。 後段においては実践応用として実空間内における物体や周囲環境を深度センサー等の計測機器や写真測量、画像認識等の処理によってデジタルデータとして取得し、標本・可視化する理論と技術について学ぶ。 次いで、それらの成果を利活用するための実践計画について検討・策定し、デジタルアート、デジタルアーカイブ、デジタルアプリケーション、メタバースコンテンツ等として応用するための技術や法的課題について理解を深め提示技術を習得する。	講義20時間 演習10時間
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	データベース特論		データサイエンスの基盤となるデータベース技術について学習する。 まず、データベース管理システムのコネクションや必要性について理解する。次に、SQLや表計算ソフトの演習を通して、定型的なデータを管理する技術について学習する。さらに、非定型のデータを管理する技術について学習する。その後、Python等のプログラミング言語から大量のデータを扱うプログラミングについて学習する。上記の学習を通して、社会の課題をデータベース技術を活用して解決するために必要な理論および技術を習得する。	講義18時間 演習12時間
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	データ解析情報学特論		社会に蓄積する大量の情報（ビッグデータ）に重要な知見が埋められていることを認識し、データドリブンな解析手法や活用方法を学ぶ。具体的には、ネットワーク通信情報や生物遺伝子情報などの文字列ビッグデータを対象としてその構造や解析手法を論ずる。また、Webデータや電子メールの文字列情報から特徴抽出を行い、ベイズ推定や機械学習を応用することで新しい知見を得る方法などについても解説する。その後、データの扱い方（成型方法や変換方法）、解析方法の選択、重要情報の抽出などの一連の解析技術と、データ解析に必要な計算機システムの構築についても解説し、ハードおよびソフトの両側面でデータ解析技術を修得する。	講義15時間 演習15時間
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	数理モデル構成特論		計算機の能力向上とともに、自然や社会のありようを数式で表現して研究・分析に応用する「数理モデル」が注目されてきている。この数理モデルの構築には、数学的な知識を必要とするが、いったん数式として表現できたモデルは、組み合わせるとより複雑な現象をコンピュータ上で再現させることが可能であり、応用範囲は広い。例えば、昨今の新型コロナウイルス感染症の流行においても、数理モデルを使った感染予測が感染対策に活用されている。このように、数理モデルの応用範囲は広く、工学や物理学、電子回路、機械工学にとどまらず生物、気象や社会経済にも及び、これからの更に広まっていくことが期待されている。そこで本講義では、データ分析で使われる数理的モデルをいくつか取り上げ、人文社会系の学生向けになるべく平易な解説を行う。	講義24時間 演習6時間
人間社会創造プログラム	データ理解・活用コース	デジタル情報モデル特論		モノのインターネット（IoT）や人工知能（AI）に代表されるデジタル社会の実現に向けて、人間中心の情報システムの整備が益々重要となっている。本講義は情報システムの構築に必要なシステムのモデル化・解析の知識を習得することを目的とする。本講義では、グラフやペトリネットを含むネット理論を解説し、ネット理論に基づいた情報システムのモデリング方法および関連のアルゴリズムによるシステムの解析法等について論じる。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間社会創造プログラム データ理解・活用コース	画像データ活用特論		人間と社会の活動や環境を捉えた画像データを入手しコンピュータで処理することが容易となりつつある。本講義では、画像処理・コンピュータビジョンの計算機アルゴリズムや視覚情報処理の数理モデルとそれを実現するために必要な基本的なプログラミングについて講義する。その後、受講生が興味を持っている課題に対する画像データの活用法を探り、実画像データを代表的な手法・ソフトウェアを用いて解析することにより、課題解決への可能性を議論する。	講義15時間 演習15時間
人間社会創造プログラム データ理解・活用コース	情報処理特論		本授業では、情報処理学の中でも特に教育工学における人工知能(AI)の役割を理解し、実際の学習支援やデータ分析への応用スキルを習得することを目的とする。AIが教育環境でどのように利用されているか、また、これらの技術が学習体験をどのように変革しているかなどを探索する。具体的には、パーソナライズされた学習支援、学習データ分析など、教育分野におけるAIの貢献について学び、さらに生成AIを用いる際の留意点について議論する。	講義15時間 演習15時間
人間社会創造プログラム データ理解・活用コース	テキストマイニング特論		ビッグデータからの情報分析は、情報量が増大している近年において需要が大きくなっており、特にテキストの分析は人間の行動や感情を反映した重要なデータとして注目されている。テキストマイニングとはデータマイニングのうち、テキストを対象とする技術である。テキストでは、構造化されたデータとは異なり同じ内容が様々な言語表現として表れるため、必要な情報を抽出することが必要になる。この授業ではテキストの解析に必要な自然言語処理を中心としたテキストマイニングで用いられる技術の解説と、実際のデータを用いた演習を通じて分析・考察を行うことで、産業・学術問わず応用できる実践的な能力を養うことを目指す。	講義15時間 演習15時間
人間社会創造プログラム 人間社会・環境コース	メディアシステム特論		この講義ではまず、従来のマスメディア(新聞、雑誌、ラジオ、テレビ)の近代社会におけるシステム化を解説する。特に社会、文化、政治、経済等がメディアの発達に与える影響に焦点を絞る。それに続いて、メディアインフラとしてのインターネットに目を向けて、その特性を確認した上、デジタル・メディア(ストーリーミング、サービス、SNS等)の特徴を解説する。最後に、受講生とのディスカッションで、デジタル時代における従来のマスメディアとデジタル・メディアの「競争」と「シナジー」の要素について議論し、メディアと社会の相互的な影響を分析する。	講義20時間 演習10時間
人間社会創造プログラム 人間社会・環境コース	科学技術社会論特論		大学院で「科学技術社会論(Science and Technology Studies)」をはじめ本格的に学ぶ受講生を対象に、最初の5回程度で本分野の概要を講義する(この期間に並行して、受講生は、演習で取り扱うテーマと講読する論文を決定する)。その後の10回は、受講生が選択した、以下のような科学技術社会論の主要テーマに関する最新の研究論文を演習形式で講読し、その内容の批判的検討を行う。テーマ例: ストロングプログラム(科学知識の社会学)、社会構築主義、アクター・ネットワーク理論、フェミニズム認識論、実験室研究、論争研究、標準化と客観性、科学のレトリック、科学の専門性と公共性、科学の政治経済学。	
人間社会創造プログラム 人間社会・環境コース	環境経済学特論		本講義では、経済学的な視点で環境問題を捉えることを目的とする。まず、環境問題(外部費用)を所与とした場合の社会の望ましい状態を理論的に理解する。そのうえで、様々な環境問題のタイプに対して誰が費用を負担すべきか(費用負担原則)を考える。また、便益と費用をベースとしたインセンティブの考え方を理解し、汚染等の不適正行為を引き起こすインセンティブ構造を分析する。これらの考え方に基づいて、昨今の国内外で起きている環境問題の解決策を議論する。なお、前提として、受講生は環境問題の実態を各種資料から丁寧にサーベイし、その構造を分析・説明することが求められる。	講義15時間 演習15時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	エネルギー環境特論	21世紀における人類の最大関心事である地球環境問題を解決するためには、高度なエネルギー環境技術の絶え間ない革新が必要であるとともに、その推進役となるべき科学技術者の育成や、支援役となる一般市民の教養獲得に対応した、資源・エネルギー問題を含むエネルギー環境への理解促進が求められています。本授業では、次世代を担う(推進役または支援役となる)大学院生対象に、身近な人間社会生活における電気・エネルギー・環境(放射線、SDGs、カーボンニュートラル、STEAM教育を含む)に関する基礎・応用学習並びにそれらに関連した簡単な演示実験・参加実験を通して、地球環境やエネルギー資源など地球規模の問題、地球温暖化を防ぐために私たちができること(生活の中での省エネルギーの取り組み)、災害時におけるエネルギーの確保等について学びます。	講義20時間 演習10時間
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	健康環境学特論	現代の健康に関する課題は、疾病・けがの予防や治療といった従来の形にとどまらず、人それぞれが自身の状況・状態の中で「より良い社会生活を送るための何か」が求められている。本授業は、人が生涯を健康で豊かに生きがいをもって過ごすことができるための環境のあり方について学ぶ。授業形態は講義を主とする。人の乳幼児から高齢者に至るライフステージの健康環境、特に女性を取り巻く環境が健康に及ぼす影響について、心理・行動の特徴も含めて考察する。そしてそこに生じている問題を抽出、その課題を分析・総合し、適切な対応や理想的な環境のあり方、さらに将来に向けて実現すべき健康支援の方向性を探索するなどの問題解決能力を養うことを目標とする。	
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	自然環境特論	自然環境は人々の生活と密接にかかわっており、多くの生物との相互作用やその理解が不可欠である。本講義では、自然環境のうち、特に気候、植生およびそれらの形成過程を含めた概要を学ぶ。また、定量的に自然を捉えるための基礎となる数値解析、モデル構築などを含めたデータに基づいた自然環境の変化やなどを理解する。	
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	住環境学特論	少子・高齢化の進展や自然災害の激甚化、インフラの老朽化と更新問題、住まい方・暮らし方の多様化、ICT技術の進展など、社会情勢は急速な変化を続けている。誰もが安心・快適に住み続けられる持続可能な住環境をどのようにして実現するのか。本講義では、現代社会における住環境問題を多面的・多角的に把握するとともに、地域の住まいや暮らし、まちづくりに関わる計画技術や多様な団体や組織による取り組みについて詳述する。そして、今後の都市計画やライフスタイルのあり方について探求する。	
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	地域コミュニティ政策特論	地域政策や開発において、企業や行政機構だけではなく、地域(ローカル)コミュニティも重要なアクターの一つである。本講義では、地域社会の一主体としてのローカル・コミュニティに着目する。講義では、近代社会において支配的なシステムである市場メカニズムや国家統治に触れながらも、その限界について考える。その後、それらのシステムを補完する地域コミュニティの役割について学ぶ。そして、政策として、どのようなアプローチがありうるかを履修者と共に議論したい。	講義15時間 演習15時間
人間社会創造プログラム	人間社会・環境コース	現代法特論	現代社会における様々な法的問題を、個別・具体的なテーマに則して、多角的視野から専門的に考察する。主要な方法として、文献講義と判例研究があるが、文献講義においては、統一的なテーマについて多面的なアプローチの仕方を学び、判例研究では、現実の法的トラブルについてどのような解決方法が望ましいかを探る。(目標) 法的知識を習得し、現代社会の様々な問題を法との関わりにおいて理解することを通じてリーガル・マインド(法的思考力)を養う。	講義15時間 演習15時間

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
人間 社会 創造 プログラム	人間社会・環境コース  人間環境科学特論	/	本講義の環境とは、the surroundings (個人を取り巻くもの) である。これは自然環境や人間社会、都市や町といった全てを飲み込む概念でありながら、しかし一方で極めて個人的な身の回りの物に焦点を当てることもできる。この人間の現象にとって不可分な要素である環境について、それが具体的にどのような主題・問題の中で扱われるのかを学んでいく。また、講義参加者各自の問題関心に引きつけながら、個人とそれを取り巻く環境とが引き起こす相互浸透作用(transaction)という理論的な視野から、具体現象を見ていくためのフィールド学習を行う。その上で、それらフィールドで得られる情報(データ)に対してどのような科学的アプローチができるのかを学び、実務に活用できる知識として身に着けることを目指す。	
人間 社会 創造 プログラム	人間社会・環境コース  教育社会学特論	/	不登校、いじめ問題や教育格差の問題等のように、教育と社会との現代的な結びつきの中でさまざまな問題が生じている。社会はグローバル化、IT化の進展等、急速に変化し、複雑化しており、それに対応することも教育の重要課題となっている。さらに、高等教育は、中等教育以下で生じている教育問題も背景としながら、高大接続や大学入試、大学教育のあり方等、問題領域が拡大している。本講義では、複雑化、多様化し、グローバル化する現代教育の諸相を、理論的・実証的に解明する。具体的には、子どもたちの進路選択について社会学的な概念を用いてとらえ、関連する研究枠組、制度・政策、支援活動、当事者の活動等を学ぶことを通して、教育機会の不平等や、教育と社会移動の関連等について考察する。	
人間 社会 創造 プログラム	人間社会・環境コース  実践人類学特論	/	目的：本講義では、日本の高等教育機関における障害学生修学支援を中心に、「障害」や「支援」の文化的側面に目を向けるとともに、支援実施上のポイントを議論することで、現代社会における支援上の課題と対応の可能性を把握することを目的とする。 概要：具体的には、「障害」という概念の文化的側面に注目し、関連文献を参照しながら「障害」への文化的対応が多様であるという点とともに、「支援」の範囲や必要性の判断もまた、文化的価値観に裏付けられた行為であり得ることを確認する。そのうえで、支援実践に際してのマネジメントやコーディネートのポイントを障害者支援の現場での実践例をもとに議論したい。特に高等教育機関での障害等のある学生への修学支援の実施状況を概観しながら、近年の支援ニーズの増加・多様化といった動向への対応の可能性を検討したい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学研究科 共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 課題解決科目	課題解決特論		<p>指導教員のもとで、専門領域または関連領域に関する論文の書き方等の成果の公開に関連する知識・技能を修得する。</p> <p>(30 山本孟) 先行研究を読んだ上で、学生の問題・課題意識に応じて、楔形文字粘土板文書史料の読解を指導する。 (1 藤本幸伸) 英語圏文化に関する歴史的社会的資料をレビューしつつ、文化翻訳の視点を使って英語圏文化の特異性を分析できるようにする。 (31 田中智輝) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育思想史および教育哲学に関する文献・論文等をレビューする。 (32 原田拓馬) 研究関心に基づき収集した教育学・社会学の文献・論文等をレビューできるように指導する。 (33 藤本正己) 高等教育学に関わる文献や論文のレビューを行い、論文をはじめとした成果の公開に必要な知識・技能を修得する。 (19 小山虎) 学生が自らの関心にもとづき収集した主に哲学・倫理学およびロボット・AI関連の先行研究をレビューする。 (2 北西功一) 院生が自らの関心に基づき、生態人類学に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。 (3 有元光彦) 地域言語の言語学・地域社会・言語教育における課題を受講生各自が設定し、自らの調査・研究によって解決方法を探索していく。 (20 永井涼子) 日本語コミュニケーションの中でも応用言語学、特に語用論や談話分析を用いた文献・論文および談話コーパス等を参考にしながら指導する。 (34 難波えみ) 学生が関心を持つ特定の言語事象の文献を分野を問わず広く収集し、既存の知見の限界を把握する。それに基づき、今後の研究対象となる事項の問いの立て方およびその解決手段を指導する。 (21 山本冴里) 学生が、自らの問題意識にもとづいて収集した、複言語使用・複言語教育関連の文献をレビューし、どのような課題に対して、どのような手法が用いられているのか、ということを検討できるよう指導する。必要に応じて、学生が予備調査を実施できるよう指導する。 (22 宮永愛子) 社会言語学や日本語教育の関連テーマの文献を整理し、これまでの研究蓄積を把握したうえで、当該分野の研究に必要な分析手法を学ぶ。 (41 川崎千枝見) 講読で得た知見をもとに、自らの分析観点を設定し公開済みコーパスを用いて分析を行う。 (35 山根由美恵) 日本近現代文学に関する文献・論文を講読し、必要な基本的な知識と研究の視点を身につける。 (23 南部英彦) 中国思想史に関わる文献・論文の精読と論評を通して、学生が中国思想史研究に必要な読解力と分析力を身につけ、自身の研究課題を適切に設定できるよう指導を行う。 (36 中野祥子) 異文化間心理学に関する論文を学生自ら収集してもらい、それらをレビューし、研究デザインを読み解きながら当該研究に必要な分析手法を学ぶ。自らの問いに適した分析法が選べるよう指導する。 (4 中野良寿) 現代アートの事例や現代美術に関する先行研究を例にして、美術理論についての可能性を探り、作品テーマに沿ったリサーチを行う。 (5 上原一明) 実技を通して彫刻に関する技術や技法を研究し、先行事例を例にして論文指導する。 (6 堀家敬嗣) 学生が主体的に触れた様々な表象文化的事象について、必要な先行研究を各自で収集のうえ、そこでの議論を踏まえつつ事象を分析する。 (24 平川和明) 工芸分野における今日的課題に関する先行研究を例にして指導する。また学生が自ら関心にもとづいた作品研究をおこなう。 (37 白岩洵) 学生の関心に基づき、声楽を中心とした歌唱における文献や論文のレビューを行う。また必要に応じて実技を通じた作品研究も行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			<p>(25 坂口和敏) 学生自身の関心に基づき収集したデザイン理論の文献・論文等をレビューする。必要に応じてフィールドや課題設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(38 富本浩一郎) インクルーシブデザイン、人間中心デザインの実践的なプロジェクトを通して、具体的な方法やスキル習得について指導する。</p> <p>(7 熊谷武洋) 情報可視化に関する先行研究を参照し、応用例を検討しながら研究準備を指導する。</p> <p>(8 中田充) 情報システム及びデータ収集・分析に関する関連研究を調査・分析し、データに基づいた問題解決を図るための知見・技能を修得する。</p> <p>(9 杉井学) 情報科学的な手法を用いた解析に関する先行研究を例にして指導する。</p> <p>(10 北本卓也) 数式・数値に関する処理とその活用に関する論文を通じて、研究に必要な視点と方法について指導する。</p> <p>(11 葛崎偉) 情報システムに関するモデリング技術や分析手法を用いて具体的なシステム問題を解決する実践的な演習を行う。</p> <p>(12 野村厚志) 画像解析や視覚の情報処理とその活用に関する先行研究を例にして、論文執筆や研究成果公表のための知識・技能を修得する。</p> <p>(26 村井礼) 学習支援やデータ分析などにおけるAIの活用に関する研究を例にして、具体的な問題解決を図る技能を修得する。</p> <p>(39 岩野摩耶) 学生が自らの研究課題に関連する分野の文献、資料を幅広く講読しレビューするとともに、データ収集のための調査設計と実施法について指導する。</p> <p>(13 LOEHR MARC) 学生がマスメディア研究関連の論文を講読し、質的に比較・評価できる方法を学習する。</p> <p>(14 川崎勝) 院生が自らのテーマに基づき、科学技術論に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。</p> <p>(15 阿部新) 環境経済学の近年の論文のサーベイから、研究の社会的意義、学術的意義について指導する。</p> <p>(42 重松宏武) 興味を持った身の回りのエネルギー・物理現象に関する小実験を行い、得られたデータをもとにデータ分析、統計処理、グラフ・図形化等の技能を習得する。</p> <p>(16 上田真寿美) 健康と環境に関する論文執筆の基本的流れを指導、習得させる。</p> <p>(17 柴田勝) 生物学でのデータの取り扱い、まとめ方、表し方を通して、学術論文に関する取扱い、成果公開について学修する。</p> <p>(45 西尾幸一郎) 研究関心に基づき収集した住環境学の文献・論文等をレビューできるよう指導する。</p> <p>(27 森朋也) 分析手法としての質的分析と量的分析のそれぞれの特徴と違いを理解した上で、自身の研究課題を探求する上で必要な分析手法を学ぶ。</p> <p>(18 松原幸恵) 法学関連の先行研究を例にして、論文を書くための技能を習得できるよう指導する。</p> <p>(40 杉野弘明) 人と環境の間に学生それぞれが見出す関心事や課題に基づき、関連する理論や手法に関わる文献レビューを行い、先行研究に倣った手法について理解を深める。</p> <p>(28 林寛子) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育社会学関連の文献・論文等をレビューする。必要に応じて社会調査や課題の設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(29 岡田菜穂子) 障害学生支援や障害と文化に関する先行研究を中心に参照しながら、これまでの研究手法や研究成果を検証することで、研究計画につなげるべく指導する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学研究科 共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 課題解決科目	課題解決能力特別演習		<p>指導教員のもとで、専門領域または関連領域に関する論文の書き方等の成果の公開に関連する知識・技能を修得する。</p> <p>(30 山本孟) 先行研究を読んだ上で、学生の問題・課題意識に応じて、楔形文字粘土板文書史料の読解を指導する。 (1 藤本幸伸) 英語圏文化に関する歴史的社会的資料をレビューしつつ、文化翻訳の視点を使って英語圏文化の特異性を分析できるようにする。 (31 田中智輝) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育思想史および教育哲学に関する文献・論文等をレビューする。 (32 原田拓馬) 研究関心に基づき収集した教育学・社会学の文献・論文等をレビューできるよう指導する。 (33 藤本正己) 高等教育学に関わる文献や論文のレビューを行い、論文をはじめとした成果の公開に必要な知識・技能を修得する。 (19 小山虎) 学生が自らの関心にもとづき収集した主に哲学・倫理学およびロボット・AI関連の先行研究をレビューする。 (2 北西功一) 院生が自らの関心に基づき、生態人類学に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。 (3 有元光彦) 地域言語の言語学・地域社会・言語教育における課題を受講生各自が設定し、自らの調査・研究によって解決方法を探索していく。 (20 永井涼子) 日本語コミュニケーションの中でも応用言語学、特に語用論や談話分析を用いた文献・論文および談話コーパス等を参考にしながら指導する。 (34 難波えみ) 学生が関心を持つ特定の言語事象の文献を分野を問わず広く収集し、既存の知見の限界を把握する。それに基づき、今後の研究対象となる事項の問いの立て方およびその解決手段を指導する。 (21 山本冴里) 学生が、自らの問題意識にもとづいて収集した、複言語使用・複言語教育関連の文献をレビューし、どのような課題に対して、どのような手法が用いられているのか、ということを検討できるよう指導する。必要に応じて、学生が予備調査を実施できるよう指導する。 (22 宮永愛子) 社会言語学や日本語教育の関連テーマの文献を整理し、これまでの研究蓄積を把握したうえで、当該分野の研究に必要な分析手法を学ぶ。 (41 川崎千枝見) 講読で得た知見をもとに、自らの分析観点を設定し公開済みコーパスを用いて分析を行う。 (35 山根由美恵) 日本近現代文学に関する文献・論文を講読し、必要な基本的な知識と研究の視点を身につける。 (23 南部英彦) 中国思想史に関わる文献・論文の精読と論評を通して、学生が中国思想史研究に必要な読解力と分析力を身につけ、自身の研究課題を適切に設定できるよう指導を行う。 (36 中野祥子) 異文化間心理学に関する論文を学生自ら収集してもらい、それらをレビューし、研究デザインを読み解きながら当該研究に必要な分析手法を学ぶ。自らの問いに適した分析法が選べるよう指導する。 (4 中野良寿) 現代アートの事例や現代美術に関する先行研究を例にして、美術理論についての可能性を探り、作品テーマに沿ったリサーチを行う。 (5 上原一明) 実技を通して彫刻に関する技術や技法を研究し、先行事例を例にして論文指導する。 (6 堀家敬嗣) 学生が主体的に触れた様々な表象文化的事象について、必要な先行研究を各自で収集のうえ、そこでの議論を踏まえつつ事象を分析する。 (24 平川和明) 工芸分野における今日的課題に関する先行研究を例にして指導する。また学生が自ら関心にもとづいた作品研究をおこなう。 (37 白岩洵) 学生の関心に基づき、声楽を中心とした歌唱における文献や論文のレビューを行う。また必要に応じて実技を通じた作品研究も行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			<p>(25 坂口和敏) 学生自身の関心に基づき収集したデザイン理論の文献・論文等をレビューする。必要に応じてフィールドや課題設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(38 富本浩一郎) インクルーシブデザイン、人間中心デザインの実践的なプロジェクトを通して、具体的な方法やスキル習得について指導する。</p> <p>(7 熊谷武洋) 情報可視化に関する先行研究を参照し、応用例を検討しながら研究準備を指導する。</p> <p>(8 中田充) 情報システム及びデータ収集・分析に関する関連研究を調査・分析し、データに基づいた問題解決を図るための知見・技能を修得する。</p> <p>(9 杉井学) 情報科学的な手法を用いた解析に関する先行研究を例にして指導する。</p> <p>(10 北本卓也) 数式・数値に関する処理とその活用に関する論文を通じて、研究に必要な視点と方法について指導する。</p> <p>(11 葛崎偉) 情報システムに関するモデリング技術や分析手法を用いて具体的なシステム問題を解決する実践的な演習を行う。</p> <p>(12 野村厚志) 画像解析や視覚の情報処理とその活用に関する先行研究を例にして、論文執筆や研究成果公表のための知識・技能を修得する。</p> <p>(26 村井礼) 学習支援やデータ分析などにおけるAIの活用に関する研究を例にして、具体的な問題解決を図る技能を修得する。</p> <p>(39 岩野摩耶) 学生が自らの研究課題に関連する分野の文献、資料を幅広く講読しレビューするとともに、データ収集のための調査設計と実施法について指導する。</p> <p>(13 LOEHR MARC) 学生がマスメディア研究関連の論文を講読し、質的に比較・評価できる方法を学習する。</p> <p>(14 川崎勝) 院生が自らのテーマに基づき、科学技術論に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。</p> <p>(15 阿部新) 環境経済学の近年の論文のサーベイから、研究の社会的意義、学術的意義について指導する。</p> <p>(42 重松宏武) 興味を持った身の回りのエネルギー・物理現象に関する小実験を行い、得られたデータをもとにデータ分析、統計処理、グラフ・図形化等の技能を習得する。</p> <p>(16 上田真寿美) 健康と環境に関する論文執筆の基本的流れを指導、習得させる。</p> <p>(17 柴田勝) 生物学でのデータの取り扱い、まとめ方、表し方を通して、学術論文に関する取扱い、成果公開について学修する。</p> <p>(45 西尾幸一郎) 研究関心に基づき収集した住環境学の文献・論文等をレビューできるよう指導する。</p> <p>(27 森朋也) 分析手法としての質的分析と量的分析のそれぞれの特徴と違いを理解した上で、自身の研究課題を探索する上で必要な分析手法を学ぶ。</p> <p>(18 松原幸恵) 法学関連の先行研究を例にして、論文を書くための技能を習得できるよう指導する。</p> <p>(40 杉野弘明) 人と環境の間に学生それぞれが見出す関心事や課題に基づき、関連する理論や手法に関わる文献レビューを行い、先行研究に倣った手法について理解を深める。</p> <p>(28 林寛子) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育社会学関連の文献・論文等をレビューする。必要に応じて社会調査や課題の設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(29 岡田菜穂子) 障害学生支援や障害と文化に関する先行研究を中心に参照しながら、これまでの研究手法や研究成果を検証することで、研究計画につなげるべく指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学研究科 共創科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目 課題解決科目	課題解決演習前期		<p>指導教員のもとで、専門領域または関連領域に関する論文の書き方等の成果の公開に関連する知識・技能を修得する。</p> <p>(30 山本孟) 先行研究を読んだ上で、学生の問題・課題意識に応じて、楔形文字粘土板文書史料の読解を指導する。 (1 藤本幸伸) 英語圏文化に関する歴史的社会的資料をレビューしつつ、文化翻訳の視点を使って英語圏文化の特異性を分析できるようにする。 (31 田中智輝) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育思想史および教育哲学に関する文献・論文等をレビューする。 (32 原田拓馬) 研究関心に基づき収集した教育学・社会学の文献・論文等をレビューできるように指導する。 (33 藤本正己) 高等教育学に関わる文献や論文のレビューを行い、論文をはじめとした成果の公開に必要な知識・技能を修得する。 (19 小山虎) 学生が自らの関心にもとづき収集した主に哲学・倫理学およびロボット・AI関連の先行研究をレビューする。 (2 北西功一) 院生が自らの関心に基づき、生態人類学に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。 (3 有元光彦) 地域言語の言語学・地域社会・言語教育における課題を受講生各自が設定し、自らの調査・研究によって解決方法を探索していく。 (20 永井涼子) 日本語コミュニケーションの中でも応用言語学、特に語用論や談話分析を用いた文献・論文および談話コーパス等を参考にしながら指導する。 (34 難波えみ) 学生が関心を持つ特定の言語事象の文献を分野を問わず広く収集し、既存の知見の限界を把握する。それに基づき、今後の研究対象となる事項の問いの立て方およびその解決手段を指導する。 (21 山本冴里) 学生が、自らの問題意識にもとづいて収集した、複言語使用・複言語教育関連の文献をレビューし、どのような課題に対して、どのような手法が用いられているのか、ということを検討できるよう指導する。必要に応じて、学生が予備調査を実施できるよう指導する。 (22 宮永愛子) 社会言語学や日本語教育の関連テーマの文献を整理し、これまでの研究蓄積を把握したうえで、当該分野の研究に必要な分析手法を学ぶ。 (41 川崎千枝見) 講読で得た知見をもとに、自らの分析観点を設定し公開済みコーパスを用いて分析を行う。 (35 山根由美恵) 日本近現代文学に関する文献・論文を講読し、必要な基本的な知識と研究の視点を身につける。 (23 南部英彦) 中国思想史に関わる文献・論文の精読と論評を通して、学生が中国思想史研究に必要な読解力と分析力を身につけ、自身の研究課題を適切に設定できるよう指導を行う。 (36 中野祥子) 異文化間心理学に関する論文を学生自ら収集してもらい、それらをレビューし、研究デザインを読み解きながら当該研究に必要な分析手法を学ぶ。自らの問いに適した分析法が選べるよう指導する。 (4 中野良寿) 現代アートの事例や現代美術に関する先行研究を例にして、美術理論についての可能性を探り、作品テーマに沿ったリサーチを行う。 (5 上原一明) 実技を通して彫刻に関する技術や技法を研究し、先行事例を例にして論文指導する。 (6 堀家敬嗣) 学生が主体的に触れた様々な表象文化的事象について、必要な先行研究を各自で収集のうえ、そこでの議論を踏まえつつ事象を分析する。 (24 平川和明) 工芸分野における今日的課題に関する先行研究を例にして指導する。また学生が自ら関心にもとづいた作品研究をおこなう。 (37 白岩洵) 学生の関心に基づき、声楽を中心とした歌唱における文献や論文のレビューを行う。また必要に応じて実技を通じた作品研究も行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			<p>(25 坂口和敏) 学生自身の関心に基づき収集したデザイン理論の文献・論文等をレビューする。必要に応じてフィールドや課題設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(38 富本浩一郎) インクルーシブデザイン、人間中心デザインの実践的なプロジェクトを通して、具体的な方法やスキル習得について指導する。</p> <p>(7 熊谷武洋) 情報可視化に関する先行研究を参照し、応用例を検討しながら研究準備を指導する。</p> <p>(8 中田充) 情報システム及びデータ収集・分析に関する関連研究を調査・分析し、データに基づいた問題解決を図るための知見・技能を修得する。</p> <p>(9 杉井学) 情報科学的な手法を用いた解析に関する先行研究を例にして指導する。</p> <p>(10 北本卓也) 数式・数値に関する処理とその活用に関する論文を通じて、研究に必要な視点と方法について指導する。</p> <p>(11 葛崎偉) 情報システムに関するモデリング技術や分析手法を用いて具体的なシステム問題を解決する実践的な演習を行う。</p> <p>(12 野村厚志) 画像解析や視覚の情報処理とその活用に関する先行研究を例にして、論文執筆や研究成果公表のための知識・技能を修得する。</p> <p>(26 村井礼) 学習支援やデータ分析などにおけるAIの活用に関する研究を例にして、具体的な問題解決を図る技能を修得する。</p> <p>(39 岩野摩耶) 学生が自らの研究課題に関連する分野の文献、資料を幅広く講読しレビューするとともに、データ収集のための調査設計と実施法について指導する。</p> <p>(13 LOEHR MARC) 学生がマスメディア研究関連の論文を講読し、質的に比較・評価できる方法を学習する。</p> <p>(14 川崎勝) 院生が自らのテーマに基づき、科学技術論に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。</p> <p>(15 阿部新) 環境経済学の近年の論文のサーベイから、研究の社会的意義、学術的意義について指導する。</p> <p>(42 重松宏武) 興味を持った身の回りのエネルギー・物理現象に関する小実験を行い、得られたデータをもとにデータ分析、統計処理、グラフ・図形化等の技能を習得する。</p> <p>(16 上田真寿美) 健康と環境に関する論文執筆の基本的流れを指導、習得させる。</p> <p>(17 柴田勝) 生物学でのデータの取り扱い、まとめ方、表し方を通して、学術論文に関する取扱い、成果公開について学修する。</p> <p>(45 西尾幸一郎) 研究関心に基づき収集した住環境学の文献・論文等をレビューできるよう指導する。</p> <p>(27 森朋也) 分析手法としての質的分析と量的分析のそれぞれの特徴と違いを理解した上で、自身の研究課題を探索する上で必要な分析手法を学ぶ。</p> <p>(18 松原幸恵) 法学関連の先行研究を例にして、論文を書くための技能を習得できるよう指導する。</p> <p>(40 杉野弘明) 人と環境の間に学生それぞれが見出す関心事や課題に基づき、関連する理論や手法に関わる文献レビューを行い、先行研究に倣った手法について理解を深める。</p> <p>(28 林寛子) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育社会学関連の文献・論文等をレビューする。必要に応じて社会調査や課題の設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(29 岡田菜穂子) 障害学生支援や障害と文化に関する先行研究を中心に参照しながら、これまでの研究手法や研究成果を検証することで、研究計画につなげるべく指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会科学研究科 共創科学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	課題解決研究後期		<p>指導教員のもとで、専門領域または関連領域に関する論文の書き方等の成果の公開に関連する知識・技能を修得する。</p> <p>(30 山本孟) 先行研究を読んだ上で、学生の問題・課題意識に応じて、楔形文字粘土板文書史料の読解を指導する。 (1 藤本幸伸) 英語圏文化に関する歴史的社会的資料をレビューしつつ、文化翻訳の視点を使って英語圏文化の特異性を分析できるようにする。 (31 田中智輝) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育思想史および教育哲学に関する文献・論文等をレビューする。 (32 原田拓馬) 研究関心に基づき収集した教育学・社会学の文献・論文等をレビューできるように指導する。 (33 藤本正己) 高等教育学に関わる文献や論文のレビューを行い、論文をはじめとした成果の公開に必要な知識・技能を修得する。 (19 小山虎) 学生が自らの関心にもとづき収集した主に哲学・倫理学およびロボット・AI関連の先行研究をレビューする。 (2 北西功一) 院生が自らの関心に基づき、生態人類学に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。 (3 有元光彦) 地域言語の言語学・地域社会・言語教育における課題を受講生各自が設定し、自らの調査・研究によって解決方法を探索していく。 (20 永井涼子) 日本語コミュニケーションの中でも応用言語学、特に語用論や談話分析を用いた文献・論文および談話コーパス等を参考にしながら指導する。 (34 難波えみ) 学生が関心を持つ特定の言語事象の文献を分野を問わず広く収集し、既存の知見の限界を把握する。それに基づき、今後の研究対象となる事項の問いの立て方およびその解決手段を指導する。 (21 山本冴里) 学生が、自らの問題意識にもとづいて収集した、複言語使用・複言語教育関連の文献をレビューし、どのような課題に対して、どのような手法が用いられているのか、ということを検討できるよう指導する。必要に応じて、学生が予備調査を実施できるよう指導する。 (22 宮永愛子) 社会言語学や日本語教育の関連テーマの文献を整理し、これまでの研究蓄積を把握したうえで、当該分野の研究に必要な分析手法を学ぶ。 (41 川崎千枝見) 講読で得た知見をもとに、自らの分析観点を設定し公開済みコーパスを用いて分析を行う。 (35 山根由美恵) 日本近現代文学に関する文献・論文を講読し、必要な基本的な知識と研究の視点を身につける。 (23 南部英彦) 中国思想史に関わる文献・論文の精読と論評を通して、学生が中国思想史研究に必要な読解力と分析力を身につけ、自身の研究課題を適切に設定できるよう指導を行う。 (36 中野祥子) 異文化間心理学に関する論文を学生自ら収集してもらい、それらをレビューし、研究デザインを読み解きながら当該研究に必要な分析手法を学ぶ。自らの問いに適した分析法が選べるよう指導する。 (4 中野良寿) 現代アートの事例や現代美術に関する先行研究を例にして、美術理論についての可能性を探り、作品テーマに沿ったリサーチを行う。 (5 上原一明) 実技を通して彫刻に関する技術や技法を研究し、先行事例を例にして論文指導する。 (6 堀家敬嗣) 学生が主体的に触れた様々な表象文化的事象について、必要な先行研究を各自で収集のうえ、そこでの議論を踏まえつつ事象を分析する。 (24 平川和明) 工芸分野における今日的課題に関する先行研究を例にして指導する。また学生が自ら関心にもとづいた作品研究をおこなう。 (37 白岩洵) 学生の関心に基づき、声楽を中心とした歌唱における文献や論文のレビューを行う。また必要に応じて実技を通じた作品研究も行う。</p>	

**授 業 科 目 の 概 要**

(人間社会科学研究科 共創科学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			<p>(25 坂口和敏) 学生自身の関心に基づき収集したデザイン理論の文献・論文等をレビューする。必要に応じてフィールドや課題設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(38 富本浩一郎) インクルーシブデザイン、人間中心デザインの実践的なプロジェクトを通して、具体的な方法やスキル習得について指導する。</p> <p>(7 熊谷武洋) 情報可視化に関する先行研究を参照し、応用例を検討しながら研究準備を指導する。</p> <p>(8 中田充) 情報システム及びデータ収集・分析に関する関連研究を調査・分析し、データに基づいた問題解決を図るための知見・技能を修得する。</p> <p>(9 杉井学) 情報科学的な手法を用いた解析に関する先行研究を例にして指導する。</p> <p>(10 北本卓也) 数式・数値に関する処理とその活用に関する論文を通じて、研究に必要な視点と方法について指導する。</p> <p>(11 葛崎偉) 情報システムに関するモデリング技術や分析手法を用いて具体的なシステム問題を解決する実践的な演習を行う。</p> <p>(12 野村厚志) 画像解析や視覚の情報処理とその活用に関する先行研究を例にして、論文執筆や研究成果公表のための知識・技能を修得する。</p> <p>(26 村井礼) 学習支援やデータ分析などにおけるAIの活用に関する研究を例にして、具体的な問題解決を図る技能を修得する。</p> <p>(39 岩野摩耶) 学生が自らの研究課題に関連する分野の文献、資料を幅広く講読しレビューするとともに、データ収集のための調査設計と実施法について指導する。</p> <p>(13 LOEHR MARC) 学生がマスメディア研究関連の論文を講読し、質的に比較・評価できる方法を学習する。</p> <p>(14 川崎勝) 院生が自らのテーマに基づき、科学技術論に関わる文献を集めてレビューするとともに、課題の設定のために必要な予備的調査の設計と実施を指導する。</p> <p>(15 阿部新) 環境経済学の近年の論文のサーベイから、研究の社会的意義、学術的意義について指導する。</p> <p>(42 重松宏武) 興味を持った身の回りのエネルギー・物理現象に関する小実験を行い、得られたデータをもとにデータ分析、統計処理、グラフ・図形化等の技能を習得する。</p> <p>(16 上田真寿美) 健康と環境に関する論文執筆の基本的流れを指導、習得させる。</p> <p>(17 柴田勝) 生物学でのデータの取り扱い、まとめ方、表し方を通して、学術論文に関する取扱い、成果公開について学修する。</p> <p>(45 西尾幸一郎) 研究関心に基づき収集した住環境学の文献・論文等をレビューできるよう指導する。</p> <p>(27 森朋也) 分析手法としての質的分析と量的分析のそれぞれの特徴と違いを理解した上で、自身の研究課題を探索する上で必要な分析手法を学ぶ。</p> <p>(18 松原幸恵) 法学関連の先行研究を例にして、論文を書くための技能を習得できるよう指導する。</p> <p>(40 杉野弘明) 人と環境の間に学生それぞれが見出す関心事や課題に基づき、関連する理論や手法に関わる文献レビューを行い、先行研究に倣った手法について理解を深める。</p> <p>(28 林寛子) 学生が自らの関心にもとづき収集した教育社会学関連の文献・論文等をレビューする。必要に応じて社会調査や課題の設定に必要な予備調査を実施するよう指導する。</p> <p>(29 岡田菜穂子) 障害学生支援や障害と文化に関する先行研究を中心に参照しながら、これまでの研究手法や研究成果を検証することで、研究計画につなげるべく指導する。</p>	